

緑の募金

事業報告集

令和5年度



公益社団法人 国土緑化推進機構

緑の募金 事業報告集

令和5年度

公益社団法人 国土緑化推進機構

目次

- (注) 1. 本報告集に掲載した事業は、令和4年7月から令和5年6月までに事業決定した直接事業及び公募事業である。
2. 最左欄は交付決定番号、() 地名は事業実施都道府県等である。
3. 交付決定番号の区分の説明
- SC 直接事業(森林整備)／東震災 SC 東日本大震災復興事業(森林整備)／SDGs SDGs 貢献事業(森林整備)／S 公募事業(森林整備)
- RC 直接事業(緑化推進)／東震災 RC 東日本大震災復興事業(緑化推進)／台風災 RC 令和元年台風災害復興事業(緑化推進)／令元台災 RC 令和元年台風災害復興事業(緑化推進)／令2豪災 RC 令和2年豪雨災害復興事業(緑化推進)／R 公募事業(緑化推進)
- KC 直接事業(国際協力)／K 公募事業(国際協力)
- Z 公募事業(次世代の森づくりを担う人材育成事業：森林整備)
- T 特別公募事業(スギ等森林の有効活用支援事業：森林整備)
- 子R 公募事業(子どもたちの未来の森づくり事業：緑化推進)
- 学R 直接事業(学校環境緑化モデル事業：緑化推進)

森林の整備

04SC-01	木下沢溪谷冒険の森保全活動と環境教育(東京都)	10
04SC-02	富士山緑の募金の森造成事業(静岡県)	11
04SC-03	「大阪府ENEOS友好の森」森林整備事業(大阪府)	12
04SC-04	湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業(神奈川県)	13
04SC-05	南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業(神奈川県)	14
04SC-06	トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全事業(埼玉県、東京都)	15
04SC-07	玖珠町ふれあいの森づくり事業(大分県)	16
04SC-08	さいたまの森林づくり支援事業(埼玉県)	17
04SC-09	多様性を高めるモデルフォレストづくり「フォレスト21さがみの森」(神奈川県)	18
04SC-10	協働によるSDGsの森づくり事業(宮城県)	19
04SC-11	「キリン千歳水源の森」整備の森づくり(北海道)	20
04SC-12	「安曇野エア・ウォーターの森」森林整備事業(長野県)	21
04SC-13	「赤西溪谷・水源の森」保全事業(兵庫県)	22
04SC-14	日本曹達グループの森づくり事業(新潟県)	23
04SC-16	木曾川・やおつ水源の森づくり活動(岐阜県)	24
04東震災SC-01	松川浦海岸防災林(相馬市大洲国有林)の再生に向けた活動(福島県)	25
04東震災SC-02	山武市蓮沼殿下海岸林の植栽事業(千葉県)	26
04東震災SC-03	「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業(宮城県)	27
04東震災SC-04	3.11復活の森づくり～千葉県山武市蓮沼殿下海岸林再生事業(下草刈り)～(千葉県)	28
04東震災SC-05	3.11復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業(下草刈り)～(千葉県)	29
04SDGs-01	佐渡いやしの杜づくり(新潟県)	30
04SDGs-02	世界文化遺産ブレアビヒア寺院地域の森創り(カンボジア王国)	31
04S-01	北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動(岩手県)	32
04S-02	行者の滝周辺「癒しの森」創造植樹(宮城県)	33
04S-03	被災地若者と地元里山の未来を創る(宮城県)	34
04S-04	くりこま絆の森植樹プロジェクト(宮城県)	35
04S-05	ナラ枯れ被害により荒廃した旧薪炭林の再生整備(福島県)	36
04S-06	里山保全整備事業(茨城県)	37
04S-07	市民による里山の共生と持続保全の実践(茨城県)	38
04S-08	ちば里山 都市近郊の集える憩いの森づくり(千葉県)	39
04S-09	高田松原再生整備事業(岩手県)	40
04S-10	秩父市久那上ノ山及びその周辺山林の整備と保全事業(埼玉県)	41
04S-11	千葉県山武市蓮沼殿下海岸防災林の再生事業(千葉県)	42
04S-12	富士山南麓の森林復元と環境教育活動(静岡県)	43
04S-13	広葉樹の植樹及びシカの食害防止柵設置事業(東京都)	44

04S-14	都市近郊の新しい里山づくり（東京都）	45
04S-15	北浅川上流地区の森にホタルを飛ばそう！（東京都）	46
04S-16	「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業（山梨県）	47
04S-17	相模湖若者の森づくり、知足の森整備活動（神奈川県、東京都）	48
04S-18	親子が安心して遊べる「フーのきの森」整備事業（新潟県）	49
04S-19	丹波山みんなの森づくり・防災事業（山梨県）	50
04S-21	里山林保全及び自然に親しむ活動（三重県）	51
04S-22	都市と山村の交流による森林整備と薪作り活動（三重県）	52
04S-23	地域性苗木の育苗（滋賀県）	53
04S-24	里山整備事業（兵庫県）	54
04S-26	わくわく再生！冒険の森（奈良県）	55
04S-27	景観と防災に考慮した「えがおの森」づくり（福岡県）	56
04S-28	養蜂から見える癒しの森里山再生活動（熊本県）	57
04S-29	番所鼻海岸防災林保全活動（鹿児島県）	58

緑化の推進

04RC-02	倶知安町げんきの森 森づくり実践・教養講座（北海道）	60
04RC-03	緑のまなび事業 備前市立香登小学校緑化環境整備事業（岡山県）	61
04東震災RC-01	「森と海を結ぶ・絆の森林づくりプロジェクト」事業（宮城県）	62
04東震災RC-02	「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業（宮城県）	63
04令2豪災RC-01	小流域を単位とする災害に強い森づくり（熊本県）	64
04令2豪災RC-02	令和2年7月熊本豪雨復興支援事業（熊本県）	65
04R-01	間伐材の有効活用と森づくり調査報告事業（北海道）	66
04R-02	持続可能な（カーボンニュートラル）地域づくりプロジェクト（北海道）	67
04R-03	第51回市民植樹祭（北海道）	68
04R-04	植林地と白神自然学校遊々の森の除間伐材の伐採・再利用事業（青森県）	69
04R-05	ソメイヨシノ枯れ枝及びテング巢病の枝除去。歩きにくい探勝路等の整備（福島県）	70
04R-06	「全国緑化行事発祥の地」の整備とフォーラムの開催（茨城県）	71
04R-07	渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業（栃木県）	72
04R-08	ヤマアジサイの森の清掃活動とボランティア育成講座（群馬県）	73
04R-09	みんなの森づくりプロジェクト（山梨県）	74
04R-10	屋久島のいのちの森づくり植樹祭（鹿児島県）	75
04R-11	国民参加による災害に強いめぐりの森づくり（神奈川県）	76
04R-12	猿投山北西山麓の環境林整備（愛知県）	77
04R-13	グリーンペイOSAKA海岸防災森を創る活動（大阪府）	78
04R-14	丹波平松の森づくり（兵庫県）	79
04R-15	おおつか里山桜並木回廊事業（島根県）	80
04R-16	荒廃竹林を伐採整備し緑豊かな森の再生事業（香川県）	81
04R-17	創造と想像の森づくりプロジェクト（福岡県）	82
04R-18	こども達につなぐ阿蘇の緑と森環境整備事業（熊本県）	83
04R-19	花の咲く上浦づくり事業（大分県）	84
04R-20	片ヶ瀬さくらの杜公園づくり（大分県）	85
04R-21	森林に学ぶ！～森林と人の深いつながり～（鹿児島県）	86

国際協力

04KC-01	島嶼国フィジーにおける防災に向けた緑化と環境教育（フィジー）	88
04KC-02	地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業（マリ）	89
04KC-03	カンボジア国コンポンチャム州における 持続可能な森林管理を目指した植林事業（フェーズ4）（カンボジア）	90
04KC-04	2022年度 緑の国際ボランティア研修（カンボジア）	91
04KC-05	インドネシア・マドゥラ島 水保全に向けた緑化と環境教育の推進（インドネシア）	92
04KC-06	地球温暖化防止と日中友好の森づくり（中国）	93
04K-01	エチオピア・ラリベラでの養蜂業拡大を目指した市民参加型緑化事業（エチオピア）	94

04K-02	アンデスの学校菜園を守る植林と緑の交流（エクアドル）	95
04K-03	モンゴル南部のゴビ砂漠緑化と環境保全事業（モンゴル）	96
04K-04	カンボジア国東部の里山再生を目指した緑化推進事業（フェーズ2）（カンボジア）	97
04K-05	ラオス国における「村民の森」保全促進事業（ラオス）	98
04K-06	キリマンジャロ山麓緑化及び社会生活林形成事業（タンザニア）	99
04K-07	正藍旗における地域密着型生態林再生事業（中国）	100
04K-08	ジャカルタ湾岸 マングローブ林再生プロジェクト（インドネシア）	101
04K-10	パレスチナ・ラマッラー県農村の公共地への植樹事業（パレスチナ）	102
04K-11	バングラデシュ国テクナフ半島の住民による森林再生（バングラデシュ）	103
04K-12	中央カリマンタン国立公園周辺地域の環境保全事業（インドネシア）	104
04K-13	パンチカール市 地域住民とともに森づくり（ネパール）	105
04K-14	中国内モンゴ・ホルチン砂漠の砂漠化防止活動（中国）	106
04K-15	ミャンマーの持続可能な森づくり事業（ミャンマー）	107
04K-16	温泉水の利用による燃料木の温室育苗と植林（タジキスタン）	108
04K-17	フィリピン沿岸部の自然再生のための植林事業（フィリピン）	109
04K-18	ポリビア森林火災撲滅の為に人材養成強化（ポリビア）	110
04K-19	ベンゲット州におけるアグロフォレストリー推進事業（フィリピン）	111
04K-20	マダガスカルでの土砂流失防止の植林事業（マダガスカル）	112
04K-21	ネパール・シンドバルチョーク郡における コーヒー育苗と栽培による環境保全（ネパール）	113
04K-22	持続的なコーヒー生産のための水・森林保全（東ティモール）	114
04K-23	ミャンマーにおける若者主導の森づくり事業（ミャンマー）	115

次世代の森づくりを担う人材育成事業

04Z-01	「里山の四季」育成体験事業（福島県）	118
04Z-02	『創』美しいもり!!プロジェクト（群馬県、東京都）	119
04Z-03	森林ボランティア青年リーダー養成講座（森林・里山ボランティア入門講座） （東京都、京都府、兵庫県、香川県、徳島県）	120
04Z-04	人工林の生物多様性保全活動のモデル化（千葉県）	121
04Z-05	気候変動対策!土地本来の森づくり体験教育（東京都）	122
04Z-06	都市の里山資源の活用推進事業（神奈川県）	123
04Z-07	次世代環境リーダー育成 森林ワークキャンプ （青森県、福島県、栃木県、東京都、三重県、大阪府、高知県）	124
04Z-08	若者達が多世代を繋ぐ持続可能な里山再生事業（神奈川県）	125
04Z-09	森と生きるキャリア研修 in 佐渡島（新潟県）	126
04Z-10	大学生による森林・竹林整備（京都府）	127
04Z-12	次世代と共につくる里山と菊炭の未来2022（大阪府）	128
04Z-13	森づくりを目指す若きリーダー養成事業（鳥取県、徳島県、高知県）	129

スギ等森林の有効活用支援事業

04T-01	森の笠地蔵プロジェクト2022（岩手県）	132
04T-02	わたしたちの里山保全活動（千葉県）	133
04T-03	世田谷・川場上下連携の森林活性化事業 第Ⅲ期（群馬県）	134
04T-04	みんなで集う多様で豊かな森づくり活動（東京都）	135
04T-05	市民参加による森林づくり「山と緑の協力隊」（長野県、滋賀県）	136
04T-06	自伐型森林整備支援事業（愛知県）	137
04T-07	間伐整備活動で取組む三河湾の生態系の保全（愛知県）	138
04T-08	地域性苗木による花粉の少ない森林づくり（滋賀県）	139
04T-09	災害に強く脱炭素社会に貢献する森林づくり（島根県）	140

子どもたちの未来の森づくり事業

04子R-01	こまおかの森 げんきづくり事業（北海道）	142
04子R-02	写万部山麓緑化事業～海とつながる木育基地（北海道）	143

04子R-03	「ふるさと復興の森づくり@厚真町」事業（北海道）	144
04子R-04	こどもたちとつなぐ未来の森プロジェクト（青森県）	145
04子R-05	学校林をず〜っと守ろうプロジェクト（岩手県）	146
04子R-06	SDGsキッズ海岸防災未来の森づくり事業（宮城県）	147
04子R-07	「七ツ森里山環境学習林」子供たちの森づくり整備事業（宮城県）	148
04子R-08	ふるさとの風景づくり植樹祭（福島県）	149
04子R-09	子ども達の未来の森づくり（茨城県）	150
04子R-10	子ども参加の里山体験活動（茨城県）	151
04子R-11	「キノコの森」の整備と活用（群馬県）	152
04子R-12	「森のがっこう」里山再生と木の活用事業（千葉県）	153
04子R-13	森の中で、凶太い人間になろう（千葉県）	154
04子R-14	みんなで育てるキョロ口の森（新潟県）	155
04子R-15	子どもたちの未来の森づくり事業（石川県）	156
04子R-16	とうみ子どもがまんなかプロジェクト（長野県）	157
04子R-17	親子でできる〜森林づくりワークキャンプ（長野県）	158
04子R-18	名勝「金尾滝」周辺の「森の学び」整備事業（岐阜県）	159
04子R-19	「希望の森」環境整備で育む地域の絆事業（静岡県）	160
04子R-20	あさくら里山の保全・活用事業（愛知県）	161
04子R-21	六栗西山ふれあいの森整備事業 その2（愛知県）	162
04子R-22	どんぐり交流会の山づくり その3（愛知県）	163
04子R-23	廃校のシンボルツリー再生と校庭緑化活動（三重県）	164
04子R-24	比叡平生生き物観察拠点整備事業（滋賀県）	165
04子R-25	みんなでつくるドングリの森（鳥取県）	166
04子R-26	柿木地域にみんなの集う森を作ろう！（鳥根県）	167
04子R-27	みんなで育てよう伊部つながりの森の整備事業（岡山県）	168
04子R-28	里山の遊び場のフィールド整備（広島県）	169
04子R-29	みんなでつくる森の秘密基地（広島県）	170
04子R-30	みんなで遊ぶ森作り（熊本県）	171
04子R-31	炭作りを通じた循環型環境学習（熊本県）	172
04子R-32	鬼神野神社の杜づくり植樹体験イベント（宮崎県）	173
04子R-33	馬事公苑子どもの森づくり活動（鹿児島県）	174

学校環境緑化モデル事業

04学R-01	学校環境緑化モデル事業（北海道）	176
04学R-02	五感を通して自然体験できるグラウンド散策道の環境整備（青森県）	177
04学R-03	滝沢中央小 環境緑化モデル事業（岩手県）	178
04学R-04	学校環境緑化モデル事業（岩手県）	179
04学R-05	創立150周年記念 佐倉河小学校 緑の森事業（岩手県）	180
04学R-06	「くろしお学習園」緑化事業（宮城県）	181
04学R-07	桜華の宝石箱ゆめファーム（宮城県）	182
04学R-08	「南の園」緑化整備事業（秋田県）	183
04学R-09	学校環境緑化モデル事業（山形県）	184
04学R-10	シンボルツリーけやき元気緑化事業（福島県）	185
04学R-11	七郷グリーン大作戦（茨城県）	186
04学R-12	村松小ビオトープ活性化事業（茨城県）	187
04学R-13	学校環境緑化モデル事業（栃木県）	188
04学R-14	学校環境緑化モデル事業（栃木県）	189
04学R-15	平井小グリーン大作戦（群馬県）	190
04学R-16	今宿小学校 わたしたちの森事業（埼玉県）	191
04学R-17	ビオトープの整備（千葉県）	192
04学R-18	ビオトープ池整備工事（東京都）	193
04学R-19	「ホタルの森・ウォーターパーク」事業（神奈川県）	194

04学R-20	南小三浦メダカのビオトープ（神奈川県）	195
04学R-21	花いっぱい、笑顔いっぱい運動（神奈川県）	196
04学R-22	中央小学校みんなの森事業（富山県）	197
04学R-23	学習の森整備事業（富山県）	198
04学R-24	南郷小学校前庭緑化整備事業（石川県）	199
04学R-25	あらかこの森事業（石川県）	200
04学R-26	鳴鹿小環境美化推進事業（福井県）	201
04学R-27	敷島小グリーンいっぱいプロジェクト（山梨県）	202
04学R-28	やちだも150周年プロジェクト（長野県）	203
04学R-29	創立150周年緑化事業（長野県）	204
04学R-30	開校150周年記念「かしの木よ永遠に」事業（岐阜県）	205
04学R-31	東明小学校敷地内樹木剪定事業（岐阜県）	206
04学R-32	北小創立50周年記念プロジェクト（静岡県）	207
04学R-33	わくわくの森 ドキドキの池 保全プロジェクト（静岡県）	208
04学R-34	どんぐりの森改造計画（静岡県）	209
04学R-35	スマイル花壇をつくろう（静岡県）	210
04学R-36	十四山西部小学校みんなのおま森事業（愛知県）	211
04学R-37	フナビオの森再生プロジェクト（愛知県）	212
04学R-38	緑に親しめる学校づくり事業（愛知県）	213
04学R-39	川崎小学校フレンドリー緑化事業（三重県）	214
04学R-40	塩浜小学校みつけたの森事業（三重県）	215
04学R-41	学校正門前の緑化による環境整備（京都府）	216
04学R-42	孔舎衛東小学校 ビオトープ「光の里」改修事業（大阪府）	217
04学R-43	みどりっこトープ事業（大阪府）	218
04学R-44	美園小学校 みんなの森事業（大阪府）	219
04学R-45	学校環境緑化モデル事業（兵庫県）	220
04学R-46	緑いっぱい笑顔いっぱい金橋ガーデン（奈良県）	221
04学R-47	木の実いっぱい蝶々たくさん、みんな大好き和歌浦小学校（和歌山県）	222
04学R-48	太田っ子の森のプロジェクト（和歌山県）	223
04学R-49	岩美西小学校子どもの森整備事業（鳥取県）	224
04学R-50	社小学校みんなの森事業（鳥取県）	225
04学R-51	吉田小ビオトープ整備事業（島根県）	226
04学R-52	ふれあいの森再生事業（島根県）	227
04学R-53	創立50周年記念事業なかまの森修繕事業（岡山県）	228
04学R-54	学校環境緑化モデル事業（岡山県）	229
04学R-55	「常石ガーデン」緑化事業（広島県）	230
04学R-56	藤の花いきいき再生プロジェクト（山口県）	231
04学R-57	学校環境緑化モデル事業（山口県）	232
04学R-58	蝶の舞う道を作ろう（徳島県）	233
04学R-59	環境教育フィールド整備（学校ビオトープ作り）（香川県）	234
04学R-60	学校環境緑化モデル事業（ビオトープの整備）（香川県）	235
04学R-61	ふるさと緑化事業（愛媛県）	236
04学R-62	翠校開校150周年記念緑化事業（愛媛県）	237
04学R-63	木に親しむ事業（高知県）	238
04学R-64	大津小学校中庭整備事業（高知県）	239
04学R-65	ふれあい花壇緑化事業（福岡県）	240
04学R-66	水源の森事業（福岡県）	241
04学R-67	みんなの森事業（福岡県）	242
04学R-68	学校環境緑化モデル事業（佐賀県）	243
04学R-69	観察林「とんとん山」遊歩道整備（長崎県）	244
04学R-70	「緑と水と生き物広場」の緑化事業（熊本県）	245
04学R-71	校庭の樹木となかよしプロジェクト（熊本県）	246

04学R-72	東っ子学びの森づくり活動（大分県）	247
04学R-73	岡富小学校「きぼうの森」事業（宮崎県）	248
04学R-74	加納小たんけんの森再生事業（宮崎県）	249
04学R-75	「友情の森」再生プロジェクト事業（鹿児島県）	250
04学R-76	羽月小学校児童会緑化事業（鹿児島県）	251
04学R-77	学校環境の緑化を通じて環境教育を推進する（沖縄県）	252

令和2・3年度事業

02SDGs-02	砂漠緑化&肺炎症状を緩和する漢方薬栽培（中国）	254
02台風災RC-03	「わくわくの森」復興支援活動（千葉県）	255
03SC-10	企業との協働による「高梁美しい森」森林整備事業（岡山県）	256
03SC-13	和木町協働の森づくり事業（山口県）	257
03SDGs-03	住民参加の山水回復とレジリエンスの向上（神奈川県）	258
03SDGs-04	“豊かな里山”松沢湿原周辺の保全と回復（新潟県）	259
03SDGs-05	キャンプ場再生プロジェクト（奈良県）	260
03SDGs-06	炭焼き体験を通じた里山の資源循環を学ぶ場づくり（千葉県）	261
03S-19	ナラ枯れを越える!都会の荒れ森一掃事業（東京都）	262
03S-25	ふるさとの森を取り戻せ!松毛川「千年の森」再生プロジェクト（静岡県）	263
03S-29	三田高平ふるさとの森づくり（兵庫県）	264
03S-31	国境を越えたSDGs 六甲の森・里山づくり（大阪府、兵庫県）	265
03S-35	わくわくの森大作戦（広島県）	266
03S-37	みんなのいこいの森づくり（沖縄県）	267
03RC-04	地域における園庭・裏山整備等モデル事業（長野県）	268
03元台風災RC-01	長野県令和元年東日本台風被害の復興支援事業（長野県）	269
03R-01	森・子どもたちの元気づくり・再生プロジェクト（北海道）	270
03R-06	馬と歩く瞑想と森林浴を行う新しい森づくり（岩手県）	271
03Z-10	未来へつなぐ「悠久の森」（京都府）	272
03子R-07	「つなげよう!どんぐりの森2021」プロジェクト（秋田県）	273
03子R-11	田人林業体験フィールド活動事業（福島県）	274
03子R-20	未来の子どもと森×SDGs×FSCを学ぶ（東京都）	275
03子R-44	糸島・未来の森づくり事業（福岡県）	276
03子R-45	みんなで遊ぶ森作り（熊本県）	277
03子R-47	こどものための森づくりと自然観察会事業（宮崎県）	278
03子R-49	ひとりひとりが守り、つなげる緑の里山（鹿児島県）	279

令和4年度	中央事業実施状況一覧	280
-------	------------	-----

持続可能な開発目標

Sustainable Development Goals

エスディーゼーズ

SDGs

エスディーゼーズ

持続可能な開発目標 (SDGs) は、貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。



目標1 **貧困をなくすこと**



目標2 **飢餓をなくすこと**



目標3 **健康であること**



目標4 **質の高い教育**



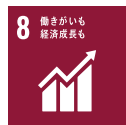
目標5 **ジェンダーの平等**



目標6 **清潔な水と衛生**



目標7 **再生可能エネルギー**



目標8 **適切な良い仕事と
経済成長**



目標9 **新しい技術とインフラ**



目標10 **不平等を減らすこと**



目標11 **持続可能なまちと
地域社会**



目標12 **責任を持って生産し、
消費すること**



目標13 **気候変動への対策**



目標14 **海のいのちを守ること**



目標15 **陸のいのちを守ること**



目標16 **平和で公正な社会**



目標17 **目標のために
協力すること**

森林の整備



木下沢溪谷冒険の森保全活動と環境教育

東京都八王子市



事業概要

東京都八王子市裏高尾町にある木下沢下流域の森林を対象に、市民の憩いの場、レクリエーションの場、多くの生物が生息する場として利活用できる森林にしていくことを目的として、次のような活動を行っている。①歩道・遊歩道、ふれあい広場等の整備、②間伐、風倒木の処理・植樹等の森林整備、③裏高尾・木下沢溪谷連絡会議と連携した情報の共有、④自然とふれあい自然を知る行事の企画・提供、⑤イベント参加者による生物多様性に即した環境づくりの実施と学習。

事業成果

新しい拠点・整備エリアの周辺生物調査や認知向上に向けたガイドブックの配布も継続して行った。活動によりメンバーのコミュニケーションは活性化した。イベント実施における指導者や協力スタッフの担当制が機能するように

なり、結果、初回参加者や親子の満足度の高い植樹や間伐を含めたプログラムが実施できるようになった。今までの定例活動日に加え臨時の親子体験会を3回、自主作業を3回実施し、参加者は対前年比で4割ほど増えた。自然体験を希求する都市住民に開かれた活動をという思いで、各種安全対策をした上でプログラムを展開できたことは大きな成果と考えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・普通では体験できない活動ができてうれしい。(リピート参加者)
- ・森の整備をしてみたい。(リピート参加者)

参加者の声

- ・サワガニ御殿を作ったのが楽しかった。(小学生)
- ・木を植えたのが楽しかった。(小学生)
- ・雪の滑り台が楽しかった。(小学生)



植樹



下刈り



間伐



水生昆虫観察

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：140本
 下刈面積：0.2ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：0.4ha
 作業道整備：400m
 生物調査：10回
 イベント：15回

参加者数

都内：506人
 都外：102人
 計：608人

樹種

オニグルミ、トチノキ、ヤマグリ、コナラ、エノキ、ヤマザクラ、イタヤカエデ

富士山緑の募金の森造成事業

静岡県富士宮市



事業概要

平成8年9月の台風7号は、富士山南東斜面に風倒木など甚大な被害を与えた。本被害箇所の復旧を目的に開始された事業であり、国土緑化推進機構が提唱する「国民参加の森林づくり活動」の場として多くの森林ボランティア団体に呼びかけ、今日まで実行委員会方式で緑の募金中央事業として実施している。

事業成果

平成12年度より植栽したヒノキ人工林エリア(16.85ha)の計画的な請負(富士森林組合)による保育間伐を今年度初めて実施した。また、植生調査等を継続するとともに、定期的に巡視等を実施した。

事業をよく知る関係者の声

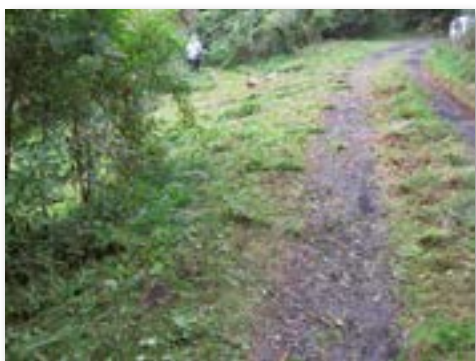
- ・台風被害跡地への植栽開始から20年が経過し、ヒノキ林、広葉樹林ともに順調に生育しているものの、一部、シカによる森林被害が見られる。



毎木調査



間伐



下刈り後



ツル切り

実績とりまとめ

作業内容
 間伐面積：3.01ha
 保全巡視：3,100m
参加者数
 県内：58人
 計：58人

「大阪府ENEOS友好の森」森林整備事業

大阪府太子町



事業概要

手入れが行き届いていない私有林（スギ・ヒノキ）の間伐作業を行う。その際、専門家の指導を受け、安全面に留意しながらENEOS(株)社員が協力し合い、間伐の方法、道具の扱い方を覚える。また、森林を手入れする意義を学び、同時に子ども向けに間伐材を用いた木工教室で健全な森林の育成の意義を学んでもらう。

事業成果

意識して国産材を消費することが、日本の山を健全に保つことに繋がるという意識を持っていただけた。子どもたちにも国産材を意識して使うことが重要ということを伝えることができたと感じている。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナの影響もあり、ほぼ2年ぶりの開催であったが、事故・怪我等も無く、間伐体験、木工体験を実施できた。参加された方々は、それぞれ良い体験になったのではないかと。(40代指導員)

参加者の声

- ・3年ぶりの活動だったが、非常に素晴らしい活動だった。木工教室も貯金箱以外のアイテムも増え、工夫をさせていただき感謝。また開催されることを願っている。
- ・子どもたちもとても楽しんでいて、他の参加者の家族とも親交を深めることができ、とても良い機会だった。
- ・子どものアクティビティーを設けていただくなど、家族持ちにとって、とても貴重な体験をさせていただいた。



伐倒する木にロープをかける



間伐体験



巣箱づくり



参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容
間伐面積：0.7ha
参加者数
府内：72人
計：72人

湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県湯河原町



事業概要

湯河原町の協力を得て進める(株)日本触媒・湯河原万葉の森は、下流には町の浄水場があり重要な水源林である。そのため、水源林として下層植生の豊かな水源涵養機能の高い森林づくりを目指すとともに、生物多様性など森林の様々な働きへの理解を深める体験活動を行うものである。主な活動は、間伐、水源整備、自然観察会等。また、この事業は企業のCSR活動を行うために、企業の要望に沿う形で活動内容等を計画している。

事業成果

3年ぶりに社員が(株)日本触媒・万葉の森に来る活動ができた。3年ぶりの活動ということもあり、初めて森に来た社員をターゲットに森の紹介・自然観察を行って、リフレッシュできたとお声を頂戴した。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林整備活動は継続性が求められる。湯河原万葉の森は針葉樹人工林が主な植生で、作業が単調になる傾向があるため、企業様の要望を伺いながら活動内容を検討したい。当面は、開所記念に植樹した少花粉スギの枝打ちや間伐などの保育作業と、2年目に植栽したクヌギ・コナラの森に苗床で育成中の実生の苗を植栽して、広葉樹の森にしていきたい。(森林インストラクター)

参加者の声

- ・都会の喧騒の中で日常を過ごしている私にとって、木々に囲まれ、舗装のない道を探索した今回の活動は、忘れていた童心を思い出すかのような体験となり、自然の素晴らしさを再認識することができた。



枝打ち作業



リースづくり



自然観察



活動に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

クリスマスリースづくり：1回

自然観察会：1回

参加者数

計：37人

南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業

神奈川県南足柄市



事業概要

緑の募金に協力する住友三井オートサービス(株)の森づくり体験活動が円滑に推進し充実した成果を上げるため、当財団の森林づくり活動に係わる蓄積したノウハウを活かし、活動計画の作成、それに基づく森林整備や環境整備、森づくり活動の指導などを行う。今年度は事務局によるベンチづくりと社員が集まり林内整備や間伐作業を行った。

事業成果

新たな試みとしてCO₂吸収量の算出方法をミニ講座で行い、今後徐々にこの森全体のCO₂吸収量を図っていくことを定番作業としていくこととした。また、二人挽きノコギリの体験をしてもらったところ好評で毎回の定番作業となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・5年続いてきた活動は、毎回活動の打合せを行っている。今後とも企業事務局または参加者から感想、課題、今後の希望などを聞き取って、要望に沿う形でメニュー提案を行っていきたい。また、今年度より開始したCO₂吸収の森林調査活動は、昼休みに行ったミニ講座から発展したものであり、参加企業のCSRの志向にもマッチしているため今後も継続的に調査を実施したい。(森林インストラクター)

参加者の声

- ・カマを使った作業は初めてだった。下刈りが完了した所が開けてきれいになった姿を見て達成感を感じた。また参加できたらと思う。



間伐作業



森林調査



チェーンソーアート



活動に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

- 間伐面積：0.01ha
- 林内整理：0.05ha
- 森林調査：0.04ha
- 記念コースターづくり：1回
- ノベルティ作成：1回
- ベンチづくり：1基

参加者数

計：117人

トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全事業

埼玉県所沢市、入間市、東京都東村山市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町



事業概要

生物多様性保全を行うため里山環境を再生し、この様な活動を普及し、経済・人員の支援に繋げ、持続的な里山管理を目指す。主な活動は以下のとおり。①里山管理ボランティア「何かし隊」、地域の協力団体を中心とした里山管理作業。各団体の自立に向けた基盤整備として、作業道具の購入、貸出しなど。②危険・支障木等の処理を職員または外部委託にて処理。より自前での作業ができるよう、ツリークライミングによる伐採講習を職員が受講。③新たなボランティアとそのグループ確保のためのトトロのふるさと基金の活動の理解と普及啓発活動。④裸地化の土地は、所沢市、地域の学生とともにアカマツの植樹活動を実施。⑤ナラ枯れによる森林の荒廃を防ぐため、トラスト地全域の定期状況調査を行い、トラップなどを使った対策と将来的なナラ枯れ対策として萌芽更新伐採作業。⑥新たに取得した森については、適切な管理作業を行うため、生物調査の結果を元に管理方針・計画を作成。生物調査に伴って必要

になる機材を購入し、調査技能向上のための講習会に参加。

事業成果

良好な資材等の購入により安全に活動を継続。レベルアップしたツリークライミングによる伐採講習の受講で、技術的なステップアップもできている。また、様々な活動より、さらに新たなボランティアの協力と新規トラスト地取得へと繋がるお話も得ることができている。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動には、管理作業用の道具やその手入れや修繕が欠かせない。市民が自然の価値を感じながら森に関与、手入れしていくためにも必要な事業。(当基金理事50代)

参加者の声

- ・活動は都市化の進んだ現代の日本社会の中で、自然との共存を実現するための知恵と技術を実体験を通して身に付けることができる貴重な機会。(何かし隊男性)



「何かし隊」による下刈り



ナラ枯れ対策用トラップのメンテナンス



ツリークライミング・樹上枝払い講習受講



樹木調査

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha
 植付本数：22本
 下刈面積：7.2ha
 除伐面積：7.7ha
 間伐面積：7.7ha
 ナラ枯れ調査：96回
 看板修理・作成：3基
 萌芽更新伐採、危険木伐採ほか

参加者数

計：916人

樹種

アカマツ

玖珠町ふれあいの森づくり事業

大分県玖珠町



事業概要

多くの町民並びにENEOS(株)社員ボランティアの参加を募り、大分玖珠地域の里山に生物多様に富む豊かな生態系と美しい景観を創出し、人と森との共生する文化の創造に資する。

事業成果

コロナ感染予防のため、ボランティア活動は実施できなかったが、活動地域を健全な山林として維持するための森林整備はできた。



下刈り



原木管理



防獣ネット補修



ツバキを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：7本
 下刈面積：2.98ha
 原木起し・伏せ込み：200本
 シイタケ駒打：3,000駒
 防獣ネット補修ほか：120m
 肥料散布：5kg

樹種

ツバキ

さいたまの森林づくり支援事業

埼玉県越生町、ときがわ町、三芳町、小川町、桶川市、さいたま市



事業概要

県内において森林ボランティア体験事業（植樹、間伐、下刈り）を実施する企業や学校等に対し、安全に活動できるよう支援・指導する。これにより地球温暖化防止のための森林整備が進み、国民参加の森林づくり運動に寄与することを目的とする。

事業成果

今年度は、企業の森林ボランティア体験を含め、学校等の体験学習の森林活動（植樹、間伐、下刈り作業等）の支援・指導を実施し、参加者が森林に親しみながら森林の循環利用や森林の多面的機能について学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・都市部の企業がボランティア体験により森林整備活動を行うことは、森林にふれあう機会が少なくなっている昨今、参加者に森林の大切さを知ってもらう良い機会である。また、コロナ禍で学校生活に制限が続く中、小学生が自然の中で体を動かしながら森林作業を体験することは、森林に興味を持つきっかけとなったのではないかと思う。（埼玉県緑化推進 関係者）

参加者の声

- ・雑木林は、300年以上も続く循環型農業の手助けの一部を担っていることに感激している。来年も元気に参加したい。（参加者）
- ・植樹したヤマザクラに花が咲くのがとても楽しみ。（小学生）



間伐



植栽



企業の森林ボランティア体験



活動に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：15本
 下刈面積：1.6ha
 除伐面積：3.3ha
 間伐面積：5.3ha
 森林調査：2.0ha
 落葉掃き、コースターづくり

参加者数

県内：322人
 県外：66人
 計：388人

樹種

ヤマザクラ

多様性を高めるモデルフォレストづくり「フォレスト21さがみの森」

神奈川県相模原市



事業概要

森と人の関係を再構築し森づくりの輪を拡げ、持続可能な社会の基盤となる生態系豊かな森をつくりながら、活用する事業の展開を目指す。本事業を市民参加によるモデルとして発信し、国内における放置人工林をはじめとした森林への関心離れへの解決に結びつけたい。主な活動は、①生物多様性や地域の環境に配慮した森づくり活動、災害に強い森づくりの推進、②健全な森づくりのための知識・技術のスキルアップ、③初心者や子ども向けの森林環境教育や、森林サービス産業の創出に向けた活動、④森林環境の中で心身をリフレッシュできる活動など。

事業成果

「人工林の多様性を高める森づくり」を実践していくため、

ナラ枯れ林での間伐・補植、ナラ枯れ被害拡大防止のための防止テープ貼り作業、土壌流失を防ぎ表土の草を育てる土留め、獣害対策ネットの設置などを行い、より多様性のある森林へと着実に進めることができた。

事業をよく知る関係者の声

・ナラ枯れ対策に注力されたおかげで、数本の大木の倒木を防げた。今後も安全には配慮した形で、ナラ枯れや獣害対策に力を入れてほしい。(森林管理署森林官)

参加者の声

・かなり細い道を上ったので若干怖かったが、良い景色とフィールドだった。間伐などできれいに整えられて、木は生き生きしていた。染物イベントも楽しめた。(50代男性)



ナラ枯れ対策



道づくり



植樹地の下刈り



枝打ち

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha
 植付本数：50本
 下刈面積：0.4ha
 除伐面積：1.0ha
 間伐面積：0.01ha
 枝打ち本数：246本
 獣害対策：5回
 ナラ枯れ対策：3回
 道づくり、キノコづくり、染物体験

参加者数

県内：128人
 県外：184人
 計：312人

樹種

コナラ、モミジ、クヌギ

協働によるSDGsの森づくり事業

宮城県利府町



事業概要

コロナ禍により自然体験の機会が減少しているため、企業等との協働により安心して活動できる森を整備し自然体験を普及することを目的として、ENEOS(株)とともに整備活動を行うだけでなく、県内の親子や小学生、県外の中校生に対する自然体験イベントを開催した。また、地域ボランティアの充実を図るため森づくり講習会を実施した。

事業成果

ここ数年停滞していた学校参加による森づくりイベントの件数が、コロナ禍前と遜色がない程増えた。また天候にも恵まれ、協力企業ボランティアによる作業イベントは予定どおり実施できたことで、延べ1,000名以上のボランティアとともに、整備作業を行えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・作業やイベントを通して、コロナ禍で久しく会えていなかったボランティアにも会えるようになってうれしかった。(50代ボランティア)
- ・枯損木処理も大切だが、夏の暑さを避けたり、風通しを良くしたりするために植樹地の枝打ちや間伐も積極的に実施していく必要があると思った。(70代ボランティア)

参加者の声

- ・子どもたちが楽しめるようにいろいろな活動が準備されていて良かった。自然観察は大人でも勉強になることが多かった。(親子ボランティア保護者女性)
- ・自分で切った木を杖とかにしたのが楽しかった。(小学生ボランティア男子)
- ・今年は予定どおり活動ができ、自分たちが植えた木の成長をより感じる事ができた。(協力企業ボランティア男性)



植樹



活動に参加したみなさん



枯損木処理



遊歩道整備

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.2ha
 植付本数：246本
 樹勢回復：103本
 下刈面積：3.1ha
 除伐面積：3.0ha
 間伐面積：0.3ha
 森林資源活用：3回
 クラフト体験11回
 遊歩道整備：95m
 イベント・チェーンソー研修ほか

参加者数

県内：1,001人
 県外：63人
 計：1,064人

樹種

クルメツツジ、ヒノキ、オオシマザクラ、カラタチ、キブシ、サンショウほか

「キリン千歳水源の森」整備の森づくり

北海道千歳市



事業概要

平成19年に北海道森林管理局石狩森林管理署管内国有林に設定された「キリン千歳水源の森(法人の森)」を整備するための活動として、枝打ち、ツル切り、除伐作業を実施した。

事業成果

参加したキリンビール(株)社員は、枝打ち作業によって林分が随分明るくなったことに満足している様子であった。植栽木が大きくなり、除伐作業はかかり木になることが予想され、社員の手鋸による作業は中止し、専門業者に委託した。結果、安全に除伐作業を実施することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・整備対象のアカエゾマツ造林地の植栽木は、活動当初(平

成18年)の樹齢は20～23年であった。それから17年生育した林分は、胸高直径も樹高も大きくなり、10年前に枝打ち、除伐した林分も暗くなってきて林床に樹木の更新が少なく草本類の侵入が少ない。混み合っ腐れが入っている植栽木も見られるようになってきている。これまで整備してきた林分の間伐と未整備林分の早期整備が生物多様性の観点からも必要ではないかと考えられる。(林業技士会会員＝樹木医)

参加者の声

- ・参加社員の中に枝打ち作業を初めて体験する者が何名かいたが、枝打ちの目的を理解し、手鋸作業に真剣に取り組んでいた。また、作業終了後、林内作業道に絨毯のように生えているシダについて、当会がシダの種類ごとに名札をつけて説明したところ全員が感嘆していた。



枝打ち作業



コケ類の名札をつけて説明



除伐作業



参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.04ha

枝打面積：0.06ha

参加者数

道内：40人

計：40人

「安曇野エア・ウォーターの森」森林整備事業

長野県安曇野市



事業概要

エア・ウォーター(株)は関連事業地が安曇野市にあるため、市内での森林保全に貢献していきたいと考えていた。そこで、市役所と森づくり協定を締結。5年計画の2年目となる事業では主に以下の活動を実施。①下刈り／1年目に植栽したエリアの苗木周りの雑草の刈り取り。②伐採・地拵え／3年目に植栽するエリアの伐採と地拵えを実施。エア・ウォーターの従業員による実施が1回。専門業者による重機使用によるものが1回。

事業成果

更新時期にあるカラマツ林の伐採と地拵えを行えたことで、次年度の植栽の実施につなげることができた。地元自治体との合意形成もさらに円滑となり、地域の緑化支援の

一助となっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年も30名を超えるボランティアと活動を行えたことは、とても有意義なことだと思う。(行政職員)
- ・順調に生育しているミズナラを見ると、活動地に適した樹種を選択していると実感できる。(林業士)

参加者の声

- ・1年目に植栽した苗木の大半がきちんと根付き、成長している様子を見ることができ、活動の達成感が高まった。(ボランティア参加者)
- ・今回は伐採作業に参加。植えたり刈ったり、多様な作業メニューが楽しい。



下刈り作業地



エア・ウォーターの従業員による伐採・地拵え



専門業者によるアカマツ伐採・地拵え



参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：0.3ha

除伐面積：0.4ha

参加者数

県内：38人

県外：3人

計：41人

「赤西溪谷・水源の森」保全事業

兵庫県宍粟市



事業概要

兵庫県宍粟市の「赤西溪谷」において森林整備などを行うことにより、環境林、水源涵養林を保全するとともに、併せて自然保護、生物多様性について理解を深める。これまで企業及び森林管理署と協働して15年間活動を行ってきたが、今年度より(特非)ひょうご森の倶楽部単独で活動を継続することになり、以下の活動を実施した。①令和5年4月に会員12名で現地を訪問。雪害の影響などの現状確認と整備、自然観察を実施。②令和5年8月に会員6名で現地を訪問。企業による活動地跡の原状復帰状況を確認。③令和5年10月に会員と家族、その他環境団体が参加し、「赤西溪谷ツアー」の自然観察を実施。ツアーに先立ち現地林道の通行支障物の除去を実施。

事業成果

コロナ禍前の令和元年以来4年ぶりの「赤西溪谷ツアー」を実施。参加者は生物多様性と環境保全の重要性について

理解を深めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・弊社が植樹したエドヒガンが順調に生育し、花を咲かせるのも遠くなさそうとの報告を受けたことが大変うれしい。今後も弊社の分まで水源の森とエドヒガンを見守っていただきたい。赤西溪谷での経験を活かして、会社としての成長にもつなげていきたい。(前年度まで参加の企業担当者40代女性)

参加者の声

- ・初めて訪れた赤西溪谷は、新しい出会いもあり、たたら場、森林鉄道などの歴史や、巨木の先代杉に感動。山野草の花の季節、秋の紅葉、川の生き物観察も楽しそうで、機会があれば再訪したい。(ツアー参加者60代女性)
- ・溪谷の美しい景色や、六甲付近ではあまり見られない植物が多く、感動した。最後にオスジカが見送ってくれ、最高の一日となった。(ツアー参加者60代男性)



遊歩道の倒木処理



2016年植樹地の状況確認



赤西溪谷ツアー自然観察



赤西溪谷ツアーに参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

現地確認・整備作業：3回
自然観察：2回

参加者数

県内：42人
計：42人

日本曹達グループの森づくり事業

新潟県上越市



事業概要

日本曹達グループ起業の地である新潟県上越地域の「くわどり市民の森」内で、地域に貢献するため、新潟県民・上越市民に親しまれる森づくりを実施する。本年度は、森林整備（除伐、下刈り）と植樹を実施した。

事業成果

森林整備とモミジ20本、ウワミズザクラ30本を植樹した。

事業をよく知る関係者の声

- ・上越市や公園指定管理者からの要請に応え、森林整備を推進することができ、とてもありがたい。

参加者の声

- ・技術や経験を通じて地域に貢献できて良かった。（日本曹達グループの森づくり推進協議会の構成員）



除伐



下刈り



モミジ、ウワミズザクラを植樹



支柱を立てる

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha

植付本数：61本

下刈面積：0.2ha

除伐面積：0.9ha

樹種

モミジ、ウワミズザクラ

木曾川・やおつ水源の森づくり活動

岐阜県八百津町



事業概要

目的は、木曾川流域に生活する住民に潤いと安らぎを与える自然豊かな水源の森を整備し、水源涵養機能を充実するとともに、森林生態系や生物多様性について学ぶことである。主な活動は以下のとおり。名古屋駅前高層ビル群や奥三河の山々が一望できる海拔500mの高原を会場とし、下流域にて生産活動を行うキリンビール(株)名古屋工場の従業員と家族や流域に生活する地域住民及び地元住民が協力し合い、サクラの間伐、地域内の遊歩道の補修作業、下刈りなどの活動を行うとともに、間伐材を利用した箸づくり体験などを実施している。

事業成果

今年度もキリンビール(株)名古屋工場からのボランティア参加の交流を含めた整備事業は中止したが、春秋に地元ボランティア団体、一般ボランティアによる下刈り作業を実

施した。夏と秋に業務委託による下刈りを実施し、水源の森の保全、整備を行った。11月には、サクラの木の勉強会を実施し、知識、技術を身に付けてもらった。

事業をよく知る関係者の声

- ・年2回の環境整備活動とサクラの勉強会を実施することができて良かった。事業を継続していくことが大切であるため、小規模でも引き続いて事業を実施したい。(50代男性)

参加者の声

- ・前日までの悪天候によって1回目の作業は実施できるか心配があったが、当日には天気が回復して予定どおり作業ができて良かった。下刈り作業が終了し、きれいになった水源の森へたくさんの方に来てもらいサクラの花の時期や緑いっぱい自然を肌で感じてほしい。(60代男性)



下刈り



下刈り作業に参加したみなさん



サクラの勉強会



サクラの勉強会に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：8ha
サクラの勉強会

参加者数

県内：134人
計：134人

松川浦海岸防災林（相馬市大洲国有林）の再生に向けた活動

福島県相馬市



事業概要

目的は、東日本大震災により被災した海岸防災林を再生すること。主な活動は以下のとおり。①盛土された海岸防災林の区画にクロマツの植樹を行う。②植樹したクロマツの健全な成長を実現するために下刈り・除草等を行う。

事業成果

平成28年から植樹した3区画で伸びていた雑草の下刈り・除草を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナの感染状況が心配されたが、日帰りバスも密にな

らないようにすること等の対応を行った。

参加者の声

- ・東北の復興に役立つことができた。次の世代のためにクロマツの成長を期待したい。
- ・根が張った下草があり、マツも生育が大変。白い砂と緑の松川浦海岸が戻るのが楽しみ。
- ・震災が発生したのは参加した学生が小学生の頃。記憶・感覚が少し曖昧になっている部分があったが、今回の参加により被災状況を実感し東北支援への思いと活動の重要性を共有することができた。



クロマツ周辺の下刈り



クロマツの成長の様子



下刈りに参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.43ha

参加者数

県内：12人

県外：26人

計：38人

山武市蓮沼殿下海岸林の植栽事業

千葉県山武市



事業概要

津波被害によって失われた海岸林の機能回復を目指し、企業及び市民ボランティアの連携・協力による植林を実施。また、植林の前に枯損木の伐採と敷均し、地拵えを行った。

①植林：0.4haに4,000本の植林。樹種は千葉県指定の抵抗性クロマツ。②地拵え：津波の塩害等により立ち枯れてしまっている木々を伐採・破碎・敷均し、地拵えを行い、植林ができる環境を整備。

事業成果

蓮沼殿下海岸林での新しいエリアに着手した。SDGs、ESGといった企業の外部環境に即した募金活動との連動によって事業を進めていくことができたことは、新しい時代の森林ボランティアモデルと思われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・2012年の最初の植林からボランティアへの対応をしてい



1日で植える2,000本の抵抗性クロマツ



植樹箇所を支柱を設置



ていねいに植樹



参加者が力をあわせて植樹達成

るが、参加者にきちんとした作業をしてもらっている。初めて参加される方にとってはハードルが高い作業量かと心配することもあるが、植えきっているので、達成感を提供できていると思う。

- ・10年続けられていることが素晴らしい。初期に植えた苗木の成長がうれしい。

参加者の声

- ・社員からも非常に好評で、参加して良かった！との声をたくさん受けている。また、子どもたちにとっても植樹は、記憶に残る経験になったのではないかと思う。(企業担当者)
- ・植林活動は非常に楽しく、あっという間の2,000本の植林だった。下刈りもぜひ参加させていただければと考えている。(企業担当者)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.4ha
植付本数：4,000本
枯損木の伐採、敷均し、地拵え：0.4ha

参加者数

県内：46人
県外：118人
計：164人

樹種

抵抗性クロマツ

「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業

宮城県岩沼市、仙台市



事業概要

東日本大震災により壊滅的な被害を受けた仙台市沿岸域の海岸防災林の再生に向けて、地域住民等との協働により保育活動を行いながら、失った「みどり」の重要性やその働き等への理解と関心を深めてもらう。そして、海岸防災林再生に対する気運の醸成と、「みどりの文化」の普及啓発を図る。

事業成果

子どもたちや生徒、企業の参加を促すことに力点を置いた。子どもたちが夢中になって楽しく元気に草取りやツル取りに励む姿は印象的であった。活動に全面的に協力をいただいた団体が創意工夫を凝らして、被災地の自然環境の回復状況の観察やビーチコーミングなどの体験学習を行ってくれたこともあり、引率教員からは「充実した活動」との感想と来年度も引き続き活動したいとの要望をいただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・校外学習前に、防災林が、震災の津波で流されてしまったことを学習していた子どもたちは、新しく植樹されている防災林を見て「すごい!またあの時のように戻ってきている」と話していた。子どもたちは自分たちも力になりたいと一生懸命除草活動に取り組み、「また絶対来たい!」と話していた。荒浜との繋がりが生まれうれしく感じた。今後の防災学習に力が入りそうで、貴重な体験に感謝している。(小学校5学年担任)

参加者の声

- ・防災林を育てるには手間と時間がかかる。雑草抜きなどをして防災林を大きく丈夫に育てたい。(小学生高学年)
- ・1年1年の成長の大切さとその成長を50年続けて初めて大きな防災林になることの大変さを知り自然の偉大さを感じた。(40代女性)



仙台大学付属明成高校3年生ほかによる海岸防災林保育活動



一般公募による親子で海岸防災林保育活動



次代を担うボーイスカウト・企業協働の海岸防災林保育活動



次代へつなげよう海岸防災林再生に向けた県民協働の保育活動

実績とりまとめ

作業内容

保育面積：2.18ha
イベント：5回

参加者数

県内：427人
計：427人

3.11 復活の森づくり～千葉県山武市蓮沼殿下海岸林再生事業(下草刈り)～

千葉県山武市



事業概要

津波被害によって失われた海岸林の機能回復を目指し、地元と都市の住民、企業ボランティアとの連携・協力による市民参加型の森林整備事業を行った。活動は、千葉県山武市蓮沼殿下海岸防災林における津波被害林の再生として、以下2つのエリア、合計2.4haを対象に下刈りを実施した。

エリア1：2011年から14年計画で2022年春の植林で新規植林を終え、2025年まで下刈り等の保育を継続(面積2ha)。

エリア2：2023年春の新規植林後に、下刈りを実施(面積0.4ha)。

事業成果

蓮沼殿下海岸林での新しいエリアに着手した。SDGs、ESGといった企業の外部環境に即した募金活動との連動によって事業を進めていくことができたことは、新しい時代の森

林ボランティアモデルと思われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・雨不足による焼けや地下水の上昇により苗木の根腐れが一部、散見されている。自然事象であるので仕方ない面があるものの、面積が広がるようであれば、ラクウショウやヤナギなどの水に強い樹種の補植も検討していく必要がある。(樹木医)

参加者の声

- ・下刈りはとても大変である。しかし、ビフォーアフターが明確なこともあり、達成感の面から考えるとまた参加したくなるプログラムである。(企業担当者)
- ・コロナ禍で思うようにボランティア参加ができなかったが、久しぶりに参加できた。暑かったがあっという間の3時間であった。(企業担当者)



下刈り



みんなで守る海岸防災林



下刈り前



下刈り完了

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：4.8ha

参加者数

県内：88人

県外：222人

計：310人

3.11 復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸林再生事業(下刈り)～

千葉県一宮町



事業概要

オリンピック終了後の海岸林造成の早期達成のため、2022年4月に植栽したエリアの下刈りを実施。

下刈りエリア：8m四方の竹簀(64㎡)・150区画、9,600㎡に植栽した7,350本の苗木の生育を図るため、海岸林所有者の千葉県の森づくり計画に応じて2度刈りで実施(6月～7月上旬に1回、8月下旬に1回)。下刈りの総面積は、1.92ha。竹簀外周の下刈りも実施。

事業成果

夏の早い時期に1回目の下刈りを実施したことで、雑草と苗木の成長の競争が生まれ、苗木の成長度合いを高めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植栽の翌年の苗木としては、十分すぎる生育状況だと思われる。
- ・ていねいに植え付けているので、下刈り作業もていねいに行うことで、海岸林の公益的機能の向上に繋がっていく。
- ・来年の下刈り時期も、今年度同様に6月からスタートさせていくのが好ましいと思われる。

参加者の声

- ・自分たちで植えた苗木の成長を確認できると、とてもうれしく思う。暑い時期の取り組みになるので大変だが、また来年も参加しようと思う。



下刈り



参加したみなさん



下刈り前



下刈り後

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：1.92ha

参加者数

県内：56人

計：56人

佐渡いやしの杜づくり

新潟県佐渡市



事業概要

佐渡の2地区①赤泊地区（榎の木、五所神社、法乗坊のエドヒガン）、②金井地区（ゆずる公園）の森の生物多様性（神社の天然記念物の御神木や境内の植生、古榎木、水芭蕉・雪割草・カタクリ・原生林・放置林など）と伝統文化を保全することを目的とする。同時に子どもや市民・障がい者・高齢者・社会的弱者が森での活動に主体的に参加しやすい環境をつくるボランティア活動を実施した。

事業成果

資源活用の拡大で、150kgのカヤの実を活用できた。「森のようちえん・学校」、「障がい者の職業訓練」の活動拠点の整備が進んだ。農林福連携モデルの構築が進み、2つの障がい者支援団体と連携できた。ワークショップや少人数研修などで、林業専門家などが指導者として、ボランティアを育成した。

事業をよく知る関係者の声

- ・障がいを持つ青年たちは、大変楽しみにして参加しており、自尊心や自信、作業能力も高まった。ASDなどの障がいを持つ青年の協調性も高まった。精神・体力面で大きな効果を感じたので、研修の日数を増やしていただきたい。（就労支援施設チャレンジド立野 代表）
- ・他団体や、新潟など佐渡島島外の指導者との協働は、今までの視点や切り口とは異なる障がい者支援のあり方を考え、トライすることができた。林業などの専門家と自分たちのような障がい者支援が協働することの可能性は大きいと思う。（就労支援施設あんの家職員）

参加者の声

- ・就労支援施設では体験できない様々な研修を体験でき、やりがいもあり、楽しかった。（障がいを持つ青年）
- ・体を使って力一杯働いたので、ストレスが発散でき、ポジティブに考えることができるようになり、夜ぐっすり眠ることができるようになった。（心の病を持つ青年）



環境改善勉強会



環境改善ワークショップ



参加したみなさん



飲み水を沢から取水するための環境整備

実績とりまとめ

作業内容

樹勢回復：4本
 下刈面積：6.2ha
 除伐面積：2.1ha
 間伐面積：0.8ha
 薪・炭づくり、竹林整備：0.9ha
 森の学校、環境整備

参加者数

県内：317人
 県外：55人
 計：372人

世界文化遺産プレアビヒア寺院地域の森創り

カンボジア王国・プレアビヒア州エコビレッジ地区



事業概要

カンボジア国内の過去の内戦や2013年まで続いた隣国タイとの国境紛争により荒廃したプレアビヒア寺院地域の森林回復を通じて、世界遺産を保全し観光を担う地域再生を行う。主な活動は以下のとおり。①「美しい森」植樹チーム（現地住民代表、現地生徒代表、日本ボランティアを含む）の活動支援、②地域植樹祭の開催と1,000本の植樹実施（住民、学生、行政代表の参加）、③2,000本の植樹活動実施、④通年の養生管理実施（住民による除草、乾季の給水活動、成長記録作成）、⑤維持管理研修会の開催。

事業成果

住民、学生、行政の参加者とともに、公共用地（エコパーク及びパゴダ用地、幹線道路沿線）に3,000本の木を植樹できた。学校やパゴダ区域は子どもたちの通学路にも隣接しており、子どもたちは活動を通じて樹木の成長を観察し、環境回復の経験が得られた。今後も継続した植樹を計画して

おり、地域の重要な活動となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・維持管理（下刈り、乾季の給水活動など）は、2カ月に1回の頻度で開催が必要だが、対象面積が4haもあり多くの住民の参加が必須。特に雨季（6～10月）は雑草の成長が早く少人数での実施は労力が不足する。パゴダ管理チームとの共同も検討課題。（30代政府職員）
- ・植樹は、地域一体となって共同して実施するのが望ましい。（40代パゴダチーム代表）

参加者の声

- ・みんなと参加できて良かった。木が育った時が楽しみ。（中学生）
- ・エコパークだけでなく家の周りも木を植えて大きくしたい。（30代農家の住民）
- ・大人も子どもも役所も警察も一緒にできたのが良い。今後も積極的に参加したい。（30代住民）



植樹際の様子



コキ、メンガ、ケランジイを植樹



下刈り作業



維持管理の勉強会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4ha
植付本数：3,000本
下刈面積：4ha
除伐面積：4ha
勉強会：1回

参加者数

国内：299人
国外：5人
計：304人

樹種

コキ、メンガ、ケランジイ

北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動

岩手県八幡平市



事業概要

目的は、旧松尾鉦山跡地における緑の再生を目指し、かつて実施した植樹後の苗を定着させ、次の樹種への遷移を促すために育樹を行うこと。主な活動は以下のとおり。①2016～2017年度に実施した植樹苗(アキグミ)の剪定、追肥、枯損苗(ナナカマド、ハウチワカエデなど)に対する補植(ミズナラなど)を実施。②団体参加の高校生に事前学習として森林の役割やその保全の意義について伝え、活動協力への意欲を高める。

事業成果

コロナ禍前の参加者数に近い状態で活動を実施でき、過去に植えた1,100本を予定どおり育樹できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・団体参加者には、育樹活動の手引きを記したしおりの配布のほか、現地において作業グループのリーダーに対する作業手順の説明をしており、作業のコツを手際良く理解できるという点において評判が良い。今後はリーダーだけでなく、より多くの参加者にも現地での適時助言ができる体制を整えたい。

参加者の声

- ・団体参加の高校教諭から、剪定バサミなど刃物の扱いについて、教諭向けに事前に実物を使って助言させていたことに対して、評価をいただいた。



育樹



補植



育樹作業の指導



記念写真

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.32ha
 植付本数：220本
 樹勢回復：1,100本
 下刈面積：0.3ha

参加者数

県内：131人
 県外：560人
 計：691人

樹種

ミズナラ、アキグミ

行者の滝周辺「癒しの森」創造植樹

宮城県栗原市



事業概要

名所の「業者の滝」近くに荒涼とした残土置き場がある。この残土置き場を草木の茂る場所にし、人々が憩いの場所として立ち寄りれる「癒しの森」を作る。主な活動は、下刈り、植樹、保育作業、イノシシ被害防止対策、排水路整備作業などである。

事業成果

イノシシ対策をキラキラテープやタケのバリアで行ったことにより、イノシシの被害が激減した。地元の協力者の知恵が功をなしたと思われる。また、排水路が毎年雨の影響で浅くなるので、掘り下げる作業が必要であり、今年度もさらに排水路を増やしたことで水害から苗を守ることや

イノシシ対策にもなった。また、水路を増やし排水を良くしたことで追加の植樹も行い、翌年に苗の活着も確認できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・わざわざ仙台から作業に来てくれることに感謝。地元でももっと協力したい。(栗原市長)

参加者の声

- ・何度か参加しているが、参加の度に下刈り面積が増えているので驚いている。
- ・機械で下刈り作業を行っているが、広すぎてなかなか刈りきれない。
- ・植樹した苗が育つのが楽しみだ。



下刈り



育樹



参加したみなさん



キラキラテープでイノシシ対策

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.4ha
 植付本数：360本
 下刈り面積：2.4ha
 排水路整備
 イノシシ対策

参加者数

県内：125人
 県外： 2人
 計：127人

樹種

ミズナラ、ヤマザクラ

被災地若者と地元里山の未来を創る

宮城県南三陸町



事業概要

東日本大震災の被災地で タケの侵入や高齢者が多く手入れができない荒れた里山の再生と未来に向けての森を作るため、地元若者や子どもたち、県外からのボランティアなどと一緒に、以下の活動を実施。①放置竹林の伐採。②タケノコの収穫が毎年できるように竹林を整備。③カブト虫やクワガタを採取できるような森を作るための植樹活動。

事業成果

県外ボランティアが多く参加してくれたことで、放置竹林の整備ができた。また、地域の方々に参加してくれることにより、持続可能な里山管理ができた。さらに、スポーツ広場「平成の森」の一角に、昆虫の溢れる場所も準備できた。今後も地域の方々と管理を続け、さらに放置竹林や休

耕田などの活用も含めて活動を続ける。

事業をよく知る関係者の声

- ・震災から12年経って関係人口が減って行く今、このような活動を続けてもらえることは、今後の地域での関係人口を増やす取り組みとして大変重要なことである。(地域産直店館長)

参加者の声

- ・震災が発生した地域だからでなく、今後このような地域が増えてくる。これからもこの地域との関わりを続けていきながら、他地域でも同じような取り組みができるよう、ここでの経験を活かしたい。(ボランティア参加関東大学生)



下刈り



竹林整備



植樹



タケノコ堀体験

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：32本
 下刈面積：1.6ha
 除伐面積：0.8ha
 間伐面積：0.42ha
 放置竹林整備
 作業路整備
 地拵え、整地作業
 昆虫の森植樹祭
 タケノコ収穫

参加者数

県内：23人
 県外：41人
 計：64人

樹種

ヤナギ類、オニイタヤ、コナラ

くりこま絆の森植樹プロジェクト

宮城県栗原市



事業概要

2008年岩手・宮城内陸地震で被災した栗駒山の生態系回復のためのプロジェクト。土石流による埋没跡地への植樹、その後の保育等の育林活動を通じて、森を復元し、地域住民の繋がりも再構築していく。

事業成果

今後の成長が一番効率良い10年間の育苗を終えた大苗を残し半分の面積に完植することができ、植付自体は、一旦終わることができた。今後は苗の成長を見守りつつ、地域と連携し、必要に応じた保育（下刈り、補植）や間伐等を実地に行いつつ、健康な森を目指して育林を続ける。

参加者の声

- ・種を拾ってから10年が経ち、関東ではとくに若い林に成長している頃なのに、いかに過酷な条件の現場であったかが改めて想像できる。（苗を種からある程度の大きさになるまで東京で育てていたボランティア）
- ・雨の中、ツルハシを使ってもほとんど掘れないほどの固く転圧された土地だったが、それから思うと、苗が残るようになってきた。（初年度に植樹した方たち）
- ・全体が茶色かった現場が、ようやく部分的に緑色に変わってきたことがうれしい。長かった。（10年携わってきた方）



溝掘りと畝立ての作業



大苗の搬入



植樹に使用する大苗と堆肥



植樹の準備完了

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.0ha
 植付本数：600本
 下刈面積：1.5ha

参加者数

県内：120人
 県外：20人
 計：140人

樹種

コハウチワカエデ、ミズナラ、トチノキ、クリ、サクラ

ナラ枯れ被害により荒廃した旧薪炭林の再生整備

福島県いわき市



事業概要

市街地近くの旧薪炭林を市民の参加により再生し、各種自然体験活動のフィールドとして活用できる場となるよう、数年をかけてクヌギの苗を植樹している。

事業成果

植樹を毎年継続することで、森林が保全され豊かな森になっていくことを参加者が実感していた。

事業をよく知る関係者の声

- ・薪炭林にするには長期計画が必要のため、今後も継続することが大事である。継続した参加者に加え、新たな参加者を増やしていきたい。

参加者の声

- ・植樹祭に参加するのが楽しみです。(毎年参加の親子)



森林整備指導



大径化したナラ枯れ被害木の伐採



植樹の様子



植樹祭に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：100本
 森林整備指導：3回
 伐木処理：6回
 大径木伐採：2回

参加者数

県内：57人
 計：57人

樹種

クヌギ

里山保全整備事業

茨城県古河市



事業概要

フィールドである稲宮の森は、コナラ・クヌギの広葉樹が主体の平地林である。今、県内において大発生している害虫被害による立枯れ木が当会のフィールドにおいても発生しており、健全な樹木にも被害がおよぶ恐れや、立枯れによる倒木等により人的被害の危険性もある。そのため、被害樹木の伐採・搬出と伐採跡地に里山の景観向上を図ることを目的にソメイヨシノの植林を実施する。里山の景観向上によって、市民が里山とふれあう機会が増え、里山への関心が高まることが自然環境保全啓発に繋がる。

事業成果

伐採跡地の花木の植林により、開花時期には市民の入山も多くみられ、身近なふるさとの里山を保全する認識が高まり、地球温暖化防止に繋がる自然環境保全啓発になって

きた。また、石油・ガス・電気等の料金高騰などにより、薪ストーブの利用が多くなってきた。その薪ストーブの燃料として、伐採材の薪材としての活用が高まってきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・以前はごみ山としてとらえられ、市民は里山への関心が無くなり荒廃の一途を辿っていたが、里山の保全活動により、里山での保全整備活動や花見観賞、現在では市民の散歩コースに活用されている。

参加者の声

- ・保全整備された里山に「ふれあう」ことができた。(市民参加者)
- ・市民参加の観察会の実施などにより里山とのふれあいが多くなってきた。(市民参加者)



下刈り



害虫被害材の有効活用(薪ストーブの燃料)



害虫被害樹木調査体験



秋季の里山観察会で「森の中のコンサート」

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：50本
 下刈面積：2.5ha
 除伐面積：0.5ha
 森林資源活用：5 m³
 秋季観察会
 春季観察会

参加者数

県内：685人
 計：685人

樹種

ソメイヨシノ

市民による里山の共生と持続保全の実践

茨城県土浦市



事業概要

平成27年～令和3年に「里山さわやか隊」が中心となり整備した11haの雑木林の保全のため、持続的な維持管理を目指し、実施体制の整備及び実践を通して得られる保全技術の確立を行う。主な活動は以下のとおり。①伐採、下刈り、落ち葉かき、②倒竹した竹林等の整備、③カシノナガキクイムシによる被害木の除去。

事業成果

多様性のある森にするため、伐採、下刈り、落ち葉かきを継続して行い、林床植物等が生えてくる条件が整いつつある。また、倒竹した竹林の整備を実施、カシノナガキクイムシによる被害木の除去を行えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・毎月の月例観察会実施に当たっては、参加者の安全管理に気を付けないといけないが、さわやか隊が定期的に広

い範囲の下刈りを実施してくれるお陰で小さな子どもも安全に動植物の観察ができています。(教育部会担当理事)

- ・去年の秋にさわやか隊が伐った木が、萌芽更新していたのでうれしかった。(ナラ枯れ対策調査隊の小学生)
- ・下刈りをしていただき、活動がしやすい。いつもありがとうございます。(ナラ枯れ対策調査隊の保護者)

参加者の声

- ・里山の林で年々生産されるバイオマス、伐採木の会員等への利用が広まっていくことが、里山管理の力になると感じている。(参加者)
- ・落ち葉かきをしたら、林床にキンランやギンランの花が咲くようになってうれしい。(大学生)
- ・溝さらいをした小川にカワニナやタニシがたくさん生息するようになり、ホタルが飛ぶようになるのではないかと期待している。(大学生)
- ・竹の伐採をして竹林拡大を防いでいる。(学生活動支援者)



下刈り



落ち葉かき



伐倒した木の片づけ



竹林整備に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：11.4ha
伐倒本数：22本
保全活動：25回

参加者数

県内：178人
県外：100人
計：278人

ちば里山 都市近郊の集える憩いの森づくり

千葉県千葉市



事業概要

大規模開発で残された放置林の土中環境を基に環境改善を進める。①タケ類を適切に伐採して竹炭をつくり、土中環境改善に利用。②崖地、道路の土中環境に、竹炭や枝を利用して空気と水の通り道をつくり、排水でなく大地に浸透させる。③近隣住民に、ごみ捨て、産廃物放置、森の環境再生などに目を向けてもらうようにする。

事業成果

環境改善された、昔の風景のような崖を見ながら、苗木を育てて、水やりをして、緑の豊かな森にしていく気持ち

が参加者に生まれてきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・奥深い里山の改善と共通する内容が、都市近郊の里山にも十分活用できる。基礎的な土中環境のレクチャーを作業前にできて良い。今後は、改善変化しているところを中心に、見られると良いと思う。

参加者の声

- ・環境改善された場所の、木漏れ日の空間、苗木の成長が楽しみ。



竹ステージ



竹炭



参加者のみなさん



森林整備

実績とりまとめ

作業内容

植栽本数：20本
マウンド造り：6カ所
竹炭づくり：18袋

参加者数

県内：51人
県外：10人
計：61人

樹種

コナラ、クリ、ヤマザクラほか

高田松原再生整備事業

岩手県陸前高田市



事業概要

東日本大震災で壊滅的な被害にあった名勝・高田松原（岩手県陸前高田市）。2017年以降は地元NPO団体が中心となりクロマツの植樹も始められている。植えられたクロマツの苗の背丈ほどの雑草も生い茂っているため、マツの生育など維持管理を目的として、除草活動を行う。

事業成果

クロマツ植樹地の除草活動に併せて震災の様子を学び次世代に語り継ぐことを目的として、地元ガイドと市内の震災遺構を巡り、震災当時の状況や今の復興の様子を学ぶ防災学習も行った。

新型コロナウイルスの影響で、参加者の人数は少なくし

たものの、予定していた活動を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナの影響で、除草活動に参加してもらえるボランティアの数が大幅に減ってしまった。県内の学生を中心に少しずつ増えてきているとはいえ、なかなか手が回らない状況だったため、こうして除草作業に加わってくれるのは本当にありがたい。(地元NPO)

参加者の声

- ・震災以降、東北のことは気になっていた。ボランティア活動で参加してみようと思い、今回参加できた。作業だけでなく、震災のことや復興のことなどいろいろと知ることができて良かった。(40代女性)



防災学習



海岸林についての指導



除草作業



参加者のみなさん

実績とりまとめ

作業内容
除草：0.1ha

参加者数
県内：12人
県外：7人
計：19人

秩父市久那上ノ山及びその周辺山林の整備と保全事業

埼玉県秩父市



事業概要

かつて田畑だった土地に植えられたスギ・ヒノキが放置され、侵入木・侵入竹等で藪化している森林を整備し、明るい森をつくとともに、ホタルの生息できる里森を目指す。主な活動は以下のとおり。①毎月2回の定例活動。②スギ林(湿地)の林床整理、他のスギ林の除伐、ヒノキ林の枝打ち、下刈り。③「ホタルの沢」の整備とホタルの幼虫を放流。④竹藪の除伐地で「親子植樹会」の実施。⑤地域物産まつりで柚子胡椒・銀杏販売を行い地域住民と会員との交流と協力関係を深める。⑥自然観察、シイタケづくりの試行、山菜狩りなどを実施。⑦雑木林の100㎡2カ所を除伐し遷移調査及び他山林を含めての植生調査を継続。

事業成果

新たな対象地ヒノキ林の枝打ち、下刈りを進めている。ホダ木植菌体験の実施、「くんなまつり」(地域物産交流まつり)の参加で地域住民との交流協力関係が前進している。

事業をよく知る関係者の声

- ・作業拠点の作業小屋は、資機材の保管や休憩場所となっており、会員やイベント参加者のコミュニケーションの場にもなっている。活動の成果は少しずつ出ている。今後も里山林の整備と保全に期待が持てる活動となっている。(70代森林インストラクター)

参加者の声

- ・今年2月、シイタケのホダ木18本に植えた種菌400が初めて傘を实らせる秋が来る。皆で作った柚子胡椒は酒の肴を実に美味しくしてくれる。こんな”美味しい”作業と、樹木の除伐や間伐、下刈りは欠かせない。必ずしも歓迎ではなかったと言う地主さんたちが、今では地元の祭りの常連として会員を心待ちにしてくれる。その証は山小屋の目の前の雑木林が、奥深くまで太陽光を迎え入れるようになったことだと思う。息の長い活動に期待する。(会員)



下刈り



柚子胡椒作り



植樹体験



親子植樹会に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：20本
 除伐面積：0.5ha
 イベント(親子植樹会、里山観察会、竹鉢づくり、柚子胡椒づくり、くんなまつり参加、竹炭焼・観賞炭、ホタルの沢づくり、シイタケづくり)

参加者数

県内：6人
 県外：150人
 計：156人

樹種

ヤマザクラ、カツラ、ヤマボウシ

千葉県山武市蓮沼殿下海岸防災林の再生事業

千葉県山武市



事業概要

津波被害からの減災や大雨による土砂流出の予防と国民の森づくりへの関心喚起から参加機会の創出を目指し、津波被害林で、以下の森林整備事業を実施。

- ・千葉県山武市(海岸防災林)下刈り(植栽エリア4ha)

事業成果

新型コロナウイルス感染症による影響によって、市民のボランティア離れが顕在化されている中、当活動においては、これまでの参加者の基盤があり、円滑な活動進捗とな

った。

事業をよく知る関係者の声

- ・苗木の根付きも良く、海岸林再生の成功モデルといえるのではないか。(樹木医)

参加者の声

- ・苗木の成長が目視できるので、とても励みになる。
- ・暑い夏の風物詩として、自分の中では下刈りに参加している。



下刈り作業中



鎌で丁寧に刈る



下刈り作業開始時。植樹されたクロマツが草に覆われている



下刈り作業後

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：4.0ha

参加者数

県内：60人

県外：81人

計：141人

富士山南麓の森林復元と環境教育活動

静岡県富士市



事業概要

静岡森林管理署との協定に基づき、富士山南麓の国有林におけるヒノキ人工林跡地を広葉樹天然林に復元する活動。広葉樹林への遷移を進めるための天然林構成樹種の補植、維持管理、保育活動を実施。季節に応じて春期に補植、夏期に下刈り・ツル切り・低木類の刈払い等、秋期に種子採取、通年の保育作業として苗木の育成、土壌保全等を行う。補植に使用するために天然林から種子や山取苗を採取、苗木を育成する。同時に自然での活動体験や富士山の自然を観察する機会を設けて生き物、生態系・森の成り立ちに関する知識を深め、環境教育の効果を合わせて持った活動にすることを目標としている。

事業成果

毎年入れ替わる学生に、現地で取り組む貴重な体験をしてもらっている。卒業後、社会人ボランティアとして参加する方もいて、継続性と新規性が保てていると考えている。

毎年、新しい企業等からの問い合わせもあり、各主体の事情にあわせて参加していただけるよう、今後も柔軟に対応して継続的な活動参加、協力関係を構築していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナの影響で活動の企画に難しい面があるが、屋外での活動を継続して行っていることで、状況に応じた活動が計画しやすく、組合員に広く声をかけて希望に応じて参加してもらえるので、進めやすい。(自主活動として参加している労働組合本部の担当者)

参加者の声

- ・学校のレポート作成のため参加したが、実地でいろいろな話を聞くことができ参考になった。(大学生)
- ・子どもの体験学習に良いと思い参加したが、家族全員で楽しく活動でき、新鮮な体験だった。(社員ボランティア)
- ・会社の社会貢献事業提案に参考になる体験となった。(会社員50代女性)



自然観察会



参加したみなさん



育成苗の仮植え



種子採取

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：350本
 下刈面積：0.6ha
 自然観察会：5回
 種子採取、種子の調整・育苗
 ほか

参加者数

県内：19人
 県外：188人
 計：207人

樹種

広葉樹20種

広葉樹の植樹及びシカの食害防止柵設置事業

東京都八王子市



事業概要

目的は、広葉樹と針葉樹が混在する豊かな森に誘導するための森林整備。主な活動は以下のとおり。①令和4年秋に107本の植栽とシカの食害対策としてツリーシェルターを設置。②令和5年春に160本の植栽とシカの食害対策として防獣ネットとツリーシェルターを設置。

事業成果

令和4年秋と令和5年春には、ツリーシェルターを施したことにより、植樹した苗木はシカの食害から守られている。防獣ネットは、地面との隙間から小動物が紛れ込む

スクがある。

事業をよく知る関係者の声

- ・傾斜のある植栽地に関して、防獣ネットの設置は困難を伴う。ツリーシェルターは苗木1本毎に取り付ける必要があり、工数がかさむがシカ等の食害から守るには有効と考えられる。

参加者の声

- ・森の多様性のために10種類ほどの樹木が植樹されている。一見すると枝の切れ端と思うほどだったが、この木がやがて大きな木になるか考えると、感慨深いものがある。



植栽



苗木にツリーシェルターを被せる



防獣ネットを設置



植樹祭に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
植付本数：267本
下刈面積：0.3ha

参加者数

計：370人

樹種

ヤマボウシ、クヌギ、エノキ、コナラ、イタヤカエデ、イロハモミジ、オオモミジ、ヤマザクラ、カツラ、ミズキ、ケヤキ、クリ、トチノキ

都市近郊の新しい里山づくり

東京都八王子市



事業概要

東京都八王子市の清水入り緑地は、タケとササに覆われ、照葉樹林が繁茂して暗く、ほとんど人が入らない森だった。地域の人が森林浴などで入りやすく、親しみのある明るい森にするため、4年前からタケの伐採とササの除去の活動をしている。コロナの影響で活動を縮小していた時期もあったが、今年は、地域住民とともにタケの伐採跡地に広葉樹の苗を植樹した。

事業成果

伐採したタケで、ベンチやテーブルを作り緑地内に設置し、一部は学生たちが中心となり『キャンドルリバー』の催しに使われた。伐倒木の整理やササ刈りには、呼びかけにより、地域住民が毎回必要な人数が集まってくれた。植樹祭にも老若男女、子どもたちが丁度良い人数で参加してくれて盛り上がった。来年も植樹祭をする予定地があるため苗床の再構築も実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・何よりも緑地が明るくなり、中に入ってみようと思う気になった。
- ・近隣の小学校の先生と、綺麗になった清水入り緑地を環境教育のフィールドとして使おうと話している。
- ・土、日曜日に散歩をすると、森を手入れされている姿が見え、大変な仕事をしていただいていると頭が下がる。

参加者の声

- ・時々参加であったが、適度に汗をかき、環境保全活動に参加でき、充実した時間を過ごせた。
- ・子供食堂に来る生徒を連れて参加したが、子どもたちがとても生き生きとしてくれていたのが、うれしかった。
- ・遠くから森林整備に参加してくれる人も多く、八王子市民としては地元が頑張り、市当局とも良く話して、今後の持続可能な運営システムをどう作るか、考えなくてはいけないと思った。



竹材で製作したベンチの設置



伐採した木の整理



植樹



植樹祭に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：80本
 下刈面積：5ha
 間伐面積：1ha
 竹材によるベンチ製作

参加者数

都内：270人
 都外：60人
 計：330人

樹種

広葉樹

北浅川上流地区の森にホテルを飛ばそう!

東京都八王子市



事業概要

目的は、森林内の土壌改善を通じて沢を復活させ、森全体を健全化させるとともに、水源涵養機能を高めながら生物多様性の高い豊かな森を創出する。主な活動は、①沢の流れを停滞させている箇所(枝や土砂等)の除去、②沢周辺の法面で表土が流出しやすくなっている箇所に、枝葉を利用して小規模な土留めを施工、③炭や有機物を活用した土壌改善、④溝や穴を掘ることでの大地の呼吸口づくり、⑤活動エリアの危険木等の伐採等。

事業成果

沢の水の流れと、その両側の法面の環境改善について、地形を観察して地下水の動きなども考慮しながら並行して造作をした。その結果、沢の水量が増え、6月には本流(北浅川)周辺からホテルが数頭飛来し、産卵しているのを確認

することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ホテルの会の基本造作である森林の土中環境改善作業により、カシノナガキクイムシのマスアタックを受けたコナラの大木47本の枯死率をゼロに抑えたことは評価できるが、科学的なエビデンスがない以上、行政に働きかけたり、自分たちのフィールドで試すこともできないのが非常に残念。(西多摩自然フォーラム会長)

参加者の声

- ・「あっ、山の中をどんどん綺麗にしていくって、ホント、こういうことなんだな」と、一つひとつに喜びを感じながら、久しぶりにいろいろな体験をさせて頂いた。(一般参加70代女性)



「水を動かす講座」座学の様子



沢の整備



ナラ枯れ対策_森林の土中環境改善作業



森林資源活用(林内落枝利用炭化)

実績とりまとめ

作業内容
 樹勢回復：47本
 森林資源活用：2 m³
参加者数
 都内：147人
 都外：41人
 計：188人

「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業

山梨県道志村



事業概要

目的は、未来を担う次世代のために、森林が有する多面的機能の向上や地球温暖化防止対策、国土保全などへの具体的な行動の取り組み案として、「山の学校」を継続、開校することである。主な活動は、水源林保全を体験学習する宿泊型・日帰り型「山の学校」の開校。水源地保全学習をはじめ、間伐体験や上下流域の交流、川上地域食材の採集と調理体験等を実施。

事業成果

今年度は日帰り型「山の学校」を合計3回実施することができた。参加者の層や範囲も以前より広がり、子どもだけでなく大人の参加者も増えた。プログラムは、間伐体験のほか、植樹の体験を組み込んだことにより、山を形成する樹木の成長過程を身近に感じることができ、それにより環境保全に対する興味や、山を育むことが簡単ではないこと

などを実感してもらえたように感じる。体験終了後の感想シートには、山の保全に関する意欲的な意見が多く寄せられていた。

事業をよく知る関係者の声

- ・大人も興味が湧く内容なので、感染症がさらに落ち着きを見せた頃には対象を拡大し、体験時間を長く取ることのできる宿泊型「山の学校」開校を希望する。今後は、感染症との兼ね合いを調整することを課題として事業を推進していただきたい。(参加希望団体)

参加者の声

- ・今度は「山の学校」で山の中をきれいにしてみたい。(参加者児童)
- ・木を伐ることが山や水のためになるとは知らなかった。他にも知らないことがたくさんあると思うので知りたいと思った。(参加者大人)



植樹体験



参加者みんなで小径木運び



枝落とし体験



大径木間伐

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：6本
山の学校：3回
植樹体験、体験木工、間伐体験
ほか

参加者数

県内：65人
計：65人

樹種

スギ

相模湖若者の森づくり、知足の森整備活動

神奈川県相模原市、東京都小金井市、江東区



事業概要

主たる活動地の長福寺や檀家さん所有林、新規にお寺脇を流れる沢沿い下流の森、小手澤の森の整備活動も開始した。同地に早生樹であるセンダンを植樹し、成長のモニタリングや同地域から採取したタネから苗を作り再造林できるように準備を進めた。また、相模原市SDGs担当課、小中学校に加え東京学芸大とも連携を深め、間伐材を直接加工できるデジタルファブリケーションにも挑戦し、木育、製作活動を行った。

事業成果

定例活動は毎回10～20名の若者で、小金井市の事業も受け入れることになり、普段とは違う参加者が参加。製材乾燥した製作物で地域へ寄付を行うまでになっている。センダンの取り組みも進み、今後土砂崩れの区画などに植樹するために苗を育てている。

事業をよく知る関係者の声

- ・中学生のみなさんはパソコン上での作画に慣れているので、作画ツールはほとんど自力で使いこなしている。つまずきがちなのは、木目の向きと刃の当たり方のアナログの木工についての知識だと思うが、こちらも一度経験すればすぐに身につくので、私は多くを教えずにヒントを出すだけで見守るくらいがちょうど良いと思っている。(デジタル木工を指導してくださった講師の先生)

参加者の声

- ・間伐はクラウドファンディングで支援していただいた方と一緒にいった。参加者の方たちと交代で木を少しずつ伐っていき、チルホールを使って周りの木に引っかからずに倒せて良かった。いつもはロープで引っ張らないといけないのでうまく伐れてうれしかった。丸太を軽トラックに乗せる時は、重くて運ぶのが大変だった。(中学3年生男子)



センダンの苗づくり



間伐作業に参加したみなさん



ShopBotで作ったロッカー内整理棚



積み木イベント

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：50本
 間伐面積：2ha
 木工イベント、積み木イベントほか

参加者数

県内：120人
 県外：480人
 計：600人

樹種

センダン

親子が安心して遊べる「フーのきの森」整備事業

新潟県魚沼市



事業概要

目的は、「絵本の家ゆきぼうし」設立から30年近く経ち、管理が行き届いていない森や老朽化が進む設備を、利用する親子が今後も安心して楽しめる場所として残していけるようにすること。主な活動は以下のとおり。①下刈りなどの森の整備と、森の資源を用いたワークショップ、②森の入り口の階段周りの整備（足元が滑ることの防止、親子が手を繋いで行き来できる道幅の確保）、③植樹による森の保全と関わりの醸成。

事業成果

森の入口の階段の間口が広がり、視界が開け、行き来がしやすくなったことにより、利用者が森へ行きやすくなった。また、森の資源を用いたガーランド作りのワークショ

ップや、植樹により、自然とふれあう楽しさや、森との関係性を深めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森へのアクセスや上からの見通しが良くなり、より活用しやすくなった。県外からの小中学生の教育旅行時のウォークラリーや、大人がのんびりとした時間を過ごすトリートの会場としても今後活用していけそうだ。(魚沼市観光協会)

参加者の声

- ・普段、なかなか機会のない植樹に、子どもと一緒に携わることができて、良い経験になった。手書きのプレートも付けたので、今後も成長を見守って行きたい。(植樹イベント参加者、30代女性と未就学児)



階段工事



ガーランド完成品



植樹会



植樹会に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1 ha
 植付本数：39本
 下刈面積：1 ha
 除伐面積：0.2ha
 森林体験、階段整備、植樹会ほか

参加者数

県内：29人
 計：29人

樹種

サクラ、クリ、イタヤカエデ、
 ジューンベリー、アジサイ、
 サルビア

丹波山みんなの森づくり・防災事業

山梨県丹波山村



事業概要

事業の実施場所は急峻な箇所やがれ場があり、崩れる恐れがあるため、どのような整備をするべきか専門家の意見を取り入れながら、住民、企業が連携して防災の森づくりを行う。また、体験を通じた森の利活用や生業づくりを目指す。主な活動は以下のとおり。①1年目の現状評価及び森林全体の整備・活用方針を具体化する全体デザインの検討、②遊歩道の改修計画の策定・実施、③防災を目的とした森林整備、④枝葉を活用した精油の抽出等に関する勉強会、⑤間伐材を活用した木製品製作ワークショップ。

事業成果

役場、村民、外部からの移住者、ボランティア参加者の意識や活動が協力した活動へと進化していった。特に企業の環境活動としての森林整備活動への理解が深まり、資源の活用が進んだ。樹木の枝葉を使い、アロマオイルや除菌

剤の製造なども行われている。同時に環境保全、地域活性化などを真剣に考えた活動、積極的なボランティア活動となり、苗木が枯れたなどの理由から放置されたネット改修や、荒れて水の通り道となった登山道などの整備も実施された。その活動では、森が荒れ、土砂崩れの要因になりそうなメカニズムを知ると同時に、その補修を行うなど、参加者の学びも多かった。

事業をよく知る関係者の声

- ・訪れていただき、真摯に作業にも取り組んでいただき、今は感謝している。(地元村民)
- ・捨てる以外なかった枝葉を資源として活用できることを学んだ。(地元林業家)

参加者の声

- ・参加するごとに地元の方たちとお話ができ、森の循環や役割が理解できた。(企業参加者)



下見・打合せ



座学



除伐



参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.8ha
森林資源活用：約2㎡
歩道整備：400m

参加者数

県内：30人
県外：65人
計：95人

里山林保全及び自然に親しむ活動

三重県いなべ市



事業概要

目的は、豊かな自然に親しみ、放置された里山林を保全し、間伐材を燃料として利用する。主な活動は以下のとおり。①講師を交えて野鳥・樹木観察を楽しみながら里山を散策し、里山工作遊びを実施した。②針葉樹林の間伐の実施。いなべ市市民活動センターと連携して森林保全啓発を図った。③炭焼き技術の継承、薪作りを実施した。

事業成果

炭焼き作業を公開し、市民が興味関心を抱いた。森林空間に光が差し下層植物が育っている。間伐材を利用して生

産した薪を地元のキャンプ場に提供できた。自然に親しむ活動は好評で継続して取り組んでいく。

事業をよく知る関係者の声

- ・事業場所として、木育の森に加えて周辺の区有林も間伐作業を実施してきた。作業状況を知る地区役員には森林空間が明るくなり喜んでいただいているが、一般市民はまだ関心が薄いのが課題である。

参加者の声

- ・ヒノキ間伐材を使ったコースターや木箱作り、早春の樹木に触れる親子の姿は嬉嬉としていて、好評であった。



里山工作遊びイベントで木箱作り



薪作り



炭焼き作業



間伐作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha
 植付本数：10本
 下刈面積：0.3ha
 間伐面積：0.5ha
 イベント：2回
 木炭生産：270kg
 薪生産：4m³

参加者数

計：55人

樹種

モミジ

都市と山村の交流による森林整備と薪作り活動

三重県津市



事業概要

目的は、所有者の高齢化等から手入れ不足となっている雑木林の間伐と間伐材の活用を通して都市と山村の交流を巻き起こし、都市住民のボランティアとともに地域の山林の整備を行うことである。主な活動は以下のとおり。①作業地近くまでの林道の整備、②林分までの作業道の整備、③間伐、④玉切り・運び出し、⑤薪割り・火おこし体験。

事業成果

森林所有者との交渉を経て、継続して森林整備活動をさせてもらえるフィールドが見つかり、下刈り・間伐・薪作りの活動ができた。チェーンソー講習を受講し、一緒に活動していくコアスタッフも3名見つかり、来年度以降も活動を継続できる見通しが立った。

事業をよく知る関係者の声

- ・高齢で足を怪我してしまった上、薪を使う機会が減ってきたため、所有林へ足が遠のいていた。若者に活用していただけるならありがたい。ぜひ、活動を続けていって欲しい。(森林所有者)

参加者の声

- ・親子で薪割り体験をする機会をいただき、うれしかった。デジタルで様々なシーンを擬似体験ができる今の時勢で、五感をフル活用して体験できた薪割りの時間は、親としても充実した楽しい時間となった。特に、息子たちは初体験なこともあり、苦戦しながらの薪割りではあったが、彼らが懸命に取り組む姿や、思いのほか、根気があることを発見できて新しい一面を知ることができた。自然とふれあえる貴重な体験であり、学びとなることも多い時間だったと感じる。(親子薪割り体験参加者30代女性)



作業道の倒木処理



丸太運び出し



参加者のみなさん



薪割り体験

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：0.1ha
 間伐面積：0.5ha
 森林資源活用：3.0㎡
 玉切り：1.5㎡
 薪割り：1.5㎡
 作業道整備

参加者数

県内：48人
 県外：3人
 計：51人

地域性苗木の育苗

滋賀県高島市



事業概要

目的は、地域の遺伝子資源を守り、地域性苗木の育苗と山への植樹を通して、生態系機能の備わった多種共存の森林を再生するものである。主な活動内容は以下のとおり。①地域の山の木から種を採取した「地域性苗木の育苗」、②自然に忠実な森作りを行うための「森林の現況調査」。

事業成果

休耕田に育苗する圃場を整備し、苗木の準備が進んでいる。活動を各新聞社、メディア、ラジオ等に取り上げられ認知度が上がり、市外、他府県からも参加があった。森林の現状に問題意識を抱き、自分の手で何かしたいという自発的なメンバーが増えたことは、大きな成果である。

事業をよく知る関係者の声

・各回の活動内容が全体の活動に対してどのような位置づけなのかを示すことができれば良い。(林業従事者)。

- ・親子連れ対象のハイキング、生杉近辺の山歩きなど、山の現状を学べる環境教育や啓発活動にも力を入れていてはどうか。(森林組合員)
- ・地元の小中学校とタイアップし、地域の人々の参加を促すことで地域に根差した活動を目指すと良い。(森林インストラクター会員)

参加者の声

- ・活動を通して、今まで点と点だったものが繋がり、自分が生きている世界がぐっと広がった。この体験は、宝物。(30代女性)
- ・森歩きで下層木の種類の少なさと、倒れた木々たちの谷の風景に衝撃を受けた。自然とヒトの共生を考えるきっかけになった。(40代女性)
- ・現場を歩くとシカの食害の大きさを感じた。自分の住む地域でも同じようなことになっていることに気づいた。森が自然な形で残るよう、森が森らしく存続できるようにできることをしたい。(30代男性)



種拾い



圃場の周りに防獣ネット設置



ナナカマドの鉢上げ



圃場に並ぶ苗

実績とりまとめ

作業内容

圃場整備：外周100m
種子採取：3回
育苗作業：6回
森林調査：2回

参加者数

県内：135人
県外：18人
計：153人

里山整備事業

兵庫県加東市



事業概要

当地域では農業・林業が衰退し、過疎化が進んでいる。里山地域の森林活動を通じて、地域の活性化に貢献することや温暖化の要因であるCO₂の吸収、森林資源生育、野生生物の生存エリア確保と植物の生育、災害発生防止、生物多様性維持などを目的とする。主な活動は以下のとおり。①下刈り、枯木・形状不良木除伐、②雑木除伐、スギ・ヒノキの間伐、③生物調査、④他団体、フリースクールとの交流会など。

事業成果

本年度は前年実施分より隣接の森林整備を実施。スギ、ヒノキの間伐よりも繁茂した雑木、雑草の下刈り、倒木、雑木除伐、形状不良木除伐が主たる活動であった。今回の森林整備により森林機能の回復により、地域活性化に寄与で

きれば良いと考える。間伐材の有効利用先をさがしている。

事業をよく知る関係者の声

- ・かつては、地域住民と寺を中心にしたコミュニティが守られていたが、高齢化と過疎化が進み、活性が失われているため、森の整備、PR活動により外部からの市民、地域住民との交流が進めば良いと考えている。(寺関係者)

参加者の声

- ・多様な生物の出会い、花・自然観賞機会が増えれば、PR活動の原資になる。今後の展開増になるのではないか。(生物調査参加者)
- ・生徒たちと自然とのふれあいにより学校生活の多様化に協力いただきありがとうございます。今後も継続していきたい。(フリースクール関係者)



「里山整備事業」看板設置



生物多様性グループとの交流



フリースクール生徒との除伐作業



参加したフリースクールのみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.5ha
 樹勢回復：7,000本
 下刈面積：2.5ha
 除伐面積：2.5ha
 除伐本数：6,000本
 間伐面積：2.5ha
 間伐本数：500本
 階段・通路整備：10m
 生物調査、交流会ほか

参加者数

県内：197人
 計：197人

樹種

スギ、ヒノキ、広葉樹

わくわく再生! 冒険の森

奈良県奈良市



事業概要

矢田山遊びの森自然公園内の冒険の森エリアの再生事業として、森林内の整備を行い、子どもたちが安心して遊べるフィールドへ復活させる。今回整備する場所は、以前から、地滑りやナラ枯れ、風倒木の影響で、立入禁止措置が取られた地域である。主な活動は、ナラ枯れ木、風倒木等の危険木を取り除く作業。

事業成果

風倒木や枯損木、足元は篠竹で覆われ、容易に入れない場所であったが、整備で危険な状況を取り除くことができ、立入禁止が解除できた。篠竹等を刈り取り、明るく、遠くまで見通すことができるようになり、遊歩道整備によって、子どもが気軽に入ることのできる場となった。また、整備によりアサギマダラが好む、フジバカマの群生地が見つか

った。今後アサギマダラの観察会等を実施したい。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林整備により立入禁止が解除になり、森の幼稚園の子どもたちの活動場所が増えたことはうれしい。しかし、ササがすぐ繁殖することから、定期的に草刈り等を行っていくことが必要である。(奈良県関係者)
- ・樹名板を設置していただいて自然観察が楽しみ。(森の幼稚園保護者)

参加者の声

- ・最初、森林に入ったときは、藪の世界でどうなることかと思ったが、作業を進めるごとに明るくなって行くことがやりがいに繋がった。(70代男性)
- ・遊歩道の段差解消のため、自然に配慮した階段ができて良かった。(60代男性)



森林整備



植樹



ナラ枯れ大径木伐採



階段設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：14本
 下刈面積：1.3ha
 除伐本数：56本
 遊歩道整備：120m
 自然観察会：1回
 たたき染体験：1回
 樹名札設置：15枚
 階段設置：1カ所
 藤袴群生地整備：500㎡

参加者数

県内：133人
 県外：12人
 計：145人

樹種

イチイガシ、ヤマザクラ

景観と防災に考慮した「えがおの森」づくり

福岡県八女市



事業概要

目的は、地域の交流施設に隣接するスギ林を、都市住民と地域住民の連携によって景観と防災に配慮した広葉樹の森林に整備することである。主な活動は以下のとおり。①スギ伐採跡地の地拵え、②都市住民と地域住民による植樹イベント。

事業成果

対象地は枯損木が目立ち、台風の度に道路に倒木が発生していたが、本事業により大学専門家の助言を得ながら地域住民らと植栽計画を立案し、伐採跡地に低木の常緑樹、高木の落葉樹、間に紅葉を楽しめる樹種を計355本植栽することができた。地域の交流施設に隣接した区画であり、地域住民と都市住民が連携して取り組んでいることが内外から

も分かりやすく、今後も交流連携の場となることが期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・倒木や冬季の路面凍結の原因となっていた場所が、明るく景観の良い森に生まれ変わることを期待している。地元住民だけではなかなか実施できなかったと思う。(70代農家、地元住民)

参加者の声

- ・予想以上に険しい斜面だったので不安があったが、やりはじめるとすごいスピードで作業が進んだ。楽しかった。また来たい。(20代男性)
- ・クヌギは20年くらいで大きくなると聞いたのでまた見に来たい。(小学生)



「えがお」で植樹



植樹地



設置した看板



広葉樹の植樹に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.12ha
植付本数：355本
地拵え：0.12ha

参加者数

県内：42人
計：42人

樹種

クヌギ、ホウノキ、コブシ、
エゴノキ、イロハモミジ、西
洋シャクナゲ、サカキ

養蜂から見える癒しの森里山再生活動

熊本県八代市



事業概要

目的は、里山に新たな息吹を吹き込むため、花木・広葉樹等蜜源を植樹・育成し、様々な世代の人が集い学習・体験ができる癒しの森を目指すことである。主な活動は以下のとおり。①除草・除伐作業、②植樹会、③除伐した木材を利用した巣箱づくり・シイタケ駒打ち体験、④森にある材料を利用したリースづくり、⑤ミツバチ研修会。

事業成果

幅広い年齢層の地元の方が関心を持ち、防獣ネット張り・植樹・シイタケ駒打ち・蜜箱の設置やミツバチ研修等の活動に参加してくれた。植樹に参加した20代の方が「次の活動はいつなのか」と楽しみにしてくれる。少しではあるが、「がくゆうの森」の認知度が上がったと思う。

事業をよく知る関係者の声

- ・森の整備は継続が大切である。しかし、作業は重労働で、慣れない機械の取扱いには十分な注意が必要だ。安全に作業活動するためには、勉強会などで知識を持ち、安全第一で行う。若い世代の方に参加してもらえるように周知する方法を模索する必要がある。

参加者の声

- ・植樹は初めての体験だったが楽しかった。森の中は心地良かった。(20代夫婦)
- ・森の中の散歩は楽しかった。(小学生)
- ・足場が不安定なところもあるので、長靴は必要だと思った。(70代女性)
- ・活動の後の森の中での食事は美味しかった。(50代女性)



植樹



ミツバチ研修会



シイタケ駒打ち



リース、巣箱づくりに参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

- 植付面積：0.1ha
- 植付本数：64本
- 下刈面積：0.05ha
- 除草作業：1.0ha
- 森のきこり体験：1回
- ミツバチ巣箱製作：1回
- リースづくり体験：1回
- 植樹用の穴掘り：2回
- 防獣用の杭とネット張り：2回
- シイタケ駒打ち：1回
- ミツバチ研修会：1回
- エビネラン観賞会：1回

参加者数

- 県内：72人
- 計：72人

樹種

- ソメイヨシノ、イロハモミジ、カエデ、イチョウ、センダン、クヌギ、ケヤキ、キンモクセイ、ヤマボウシ、コブシ

番所鼻海岸防災林保全活動

鹿児島県南九州市



事業概要

南九州市番所鼻海岸防災林の機能強化を図るため、以下の活動を行った。①侵入竹、ツルの除伐・除去作業。②作業で生じたギャップに植樹。③保健保安林としての機能増進を図るため歩道開設と地域産のスギを使用した木製遊具の作製・設置。

事業成果

活動に新たな地域団体の参加があった。このような民間の動きに呼応して南九州市の方でも活動を支援するような事業の取り組みが計画された。

事業をよく知る関係者の声

・緑の募金事業の助成でこのような活動ができて大変ありがたいが、市の方でも側面からこの活動を応援していきたい。(南九州市)

参加者の声

・地域にとって大切な防災林であり、観光地でもある森林がみんなの力で整備されていくことは、我々の会の目的と完全に一致しており、大変うれしい。(颯娃おこそ会長)



丸太遊具で遊ぶ子どもたち



防風垣製作



植樹を実施



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：180本
 下刈面積：0.2ha
 除伐面積：0.2ha
 歩道整備：44.5m
 防風垣製作：12m
 丸太遊具、リス道づくり

参加者数

県内：84人
 計：84人

樹種

モチノキ、ヤマモモ、ヤブニツケイ、ウバメガシほか

緑化の推進



倶知安町げんきの森 森づくり実践・教養講座

北海道倶知安町



事業概要

「百年かけての森づくり」をテーマに、地域の森を次世代へ引き継ぐために、地域の人々の参加による森づくり活動と幼稚園児によるキノコの植菌体験学習を含む森づくり実践講座をげんきの森で実施するとともに、森づくりのための人づくり活動として専門家・学識者等を招いての森づくり教養講座を積雪期に倶知安風土館で実施する。

事業成果

平成3年からの100年計画で現在30年目となるが、継続されていることに大きな成果や意味があるものと考えられ

る。助成制度を活用させていただいたおかげで、さらなる森づくり活動における幅と参加の広がりが得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・まだまだ百年の森の活動が地域の人々に知られていない。今以上の普及・啓発が必要ではないか。100年活動が続いたらこの森は地域の大きな宝物となるだろう。

参加者の声

- ・初めて枝打ちを体験した。木を育てるためにたくさんの方が尽力されていることを知り、大いに感謝している。また機会があれば参加したい。(札幌からの参加者)



幼稚園児のキノコ植菌体験



雪害防除のための枝打ち作業（集合写真）



馬搬実演、馬ぞり体験



森づくり教養講座の開催

実績とりまとめ

作業内容

間伐及び枝払い、
玉切り集積面積：1.2ha
間伐材の馬搬：
400m(片道)×10回程度
100年かけての森づくり：
7回

森づくり教養講座：4回
幼稚園による「百年の森」
の間伐材を使ったキノコ
の植菌体験：1回
環境にやさしい伝統的な
森づくりを学ぼう馬との
ふれあい体験：1回

参加者数

道内：368人
計：368人

緑のまなび事業 備前市立香登小学校緑化環境整備事業

岡山県備前市



事業概要

令和6年の岡山県での第74回全国植樹祭開催と学校創立150周年を記念して、子どもたちが安心・安全な学習活動が実施できるよう、学校内の樹木の環境整備を行うことを目的とする。主な活動は以下のとおり。①運動場の巨樹・老樹になった樹木の剪定、②学校中庭での記念植樹及び完成式典の開催。

事業成果

運動場周辺の樹木が多く、危険の優先度を勘案して実施した。巨樹・老樹など大木の剪定は、ボランティアでは作業が困難であり、また、予算も必要なことから整備が遅れている。運動場周辺の巨樹・老樹が剪定され、子どもたち

が安心して活動できるようになった。また、記念植樹として学校中庭にハナミズキを植栽した。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校の緑化環境整備を児童に説明することができ、また、花の咲く樹木を児童が記念に植えることで、すべての児童に緑への関心をもってもらえると思う。(先生)

参加者の声

- ・保護者等ではできなかった大木がきれいになって、学校も明るくなり、子どもも安心して遊べるようになり良かった。(保護者)
- ・少年隊の活動が学校の整備にも繋がり、これからも緑の大切さを体験させたい。(指導者)



運動場のサクラ剪定



大木の剪定



ハナミズキを記念植樹



完成式典

実績とりまとめ

作業内容

樹木剪定：サクラ、エノキ、アラカシ
記念植樹：ハナミズキ

「森と海を結ぶ・絆の森林づくりプロジェクト」事業

宮城県東松島市



事業概要

令和3年全国豊かな海づくり大会において東日本大震災からの復興を遂げた「みやぎの豊かな海」を県内外へ発信。加えて、令和7年全国育樹祭の本県開催が決定したことにより、森林の大切さや、復旧した海岸防災林の姿を通じて、震災の教訓を広く全国へ発信できる機会ができた。これらの大会を契機に、森と海、そして人々の絆をさらに深めていくため、沿岸養殖漁業の盛んな東松島市の浜市漁港に隣接し、東日本大震災の津波により被災した海岸防災林の再生を図り、水産業の環境改善を目指した森と海の関係者らが協働で植樹活動を実施した。

事業成果

毎年、異なる地域において、林業と漁業との関係者による協働での植樹活動を行うことで、より広く「森と海」の関わり、森も海も豊かにする森林づくりや海岸防災林の意義を関係者へ伝えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・県行政においても「みやぎ森と海の交流促進事業」として、沿岸域での森と海との協働活動を推進しており、連携することで相乗効果が期待される事業である。今後も「宮城県水産林政部」における水産サイドと林政サイドとの協働プロジェクトを推進するツールとして、取り組んでいきたい。(県水産林業政策室長)

参加者の声

- ・海岸防災林の役割を果たせるよう、元気いっぱいになってほしい。(60代漁業関係者)
- ・すくすく育って大きくなってもらい、塩害や津波などから生活を守ってもらいたい。(50代漁協運営委員)
- ・今後も林業と漁業の関係者による協働での植樹活動を促進することで、地域の観光資源でもある豊かな森と海を育み、その保全に努めていきたい。(50代自治体職員)



抵抗性クロマツの手入れ



抵抗性クロマツを植樹



植樹祭に参加したみなさん



植樹祭標柱を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
植付本数：303本

参加者数

県内：55人
計：55人

樹種

抵抗性クロマツ、ヤマザクラ

「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業

宮城県登米市、南三陸町



事業概要

緑とのふれあい等を通して、沿岸被害住民と山村住民の交流を図りながら、東日本大震災からの復興を誓うとともに森林づくりの重要性を普及する。

事業成果

登米市において、南三陸町の被災住民を招いて森林体験や震災語り部による交流会を実施できた。「市民参加の新たな森林づくり」植樹祭(登米市)では、小学校において、コロナとインフルエンザが流行したことから、高齢の南三陸町の被災住民との接触を回避するため、交流活動は行わず、分離開催として実施した。「海に見える命の森」植樹祭(南三陸町)では、登米市からの参加者との交流も行われ、参加者相互に心が和み、楽しいひと時を過ごすことができた。被災地住民参加者からは、コロナが明けて、外出する機会が増えつつある中で、このような、野外活動は貴重な取り組み

みであり、さらなる継続を望む声が大きかった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年交流活動の開催がインフルエンザの流行により、分離開催となったが、参加された被災者の方々に喜んでいただけたことが何よりである。来年は、交流活動ができるよう期待したい。(50代登米市担当課長)

参加者の声

- ・私たちが植えた苗木が立派に育って欲しい。(小学生女子)
- ・いろいろな動物たちが住める緑豊かな森になってほしい。(小学生男子)
- ・山に来て人と話し合えて交流を深められた。自然の中での森林体験で心を癒やされた。(70代女性)
- ・地元の森林イベントに参加し、国土緑化や森林の大切さを知り、頑張る気持ちの後押しとなった。今後もこのようなイベントを続けてほしい。(70代女性)



交流会で草木染めと震災語り部を実施(登米市)



「市民参加の新たな森林づくり」植樹祭(登米市)



どんぐりの播種活動(登米市)



「海に見える命の森」でツツジを植樹(南三陸町)

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1,030本
播種活動、森林体験、防災交流

参加者数

県内：160人
計：160人

樹種

カラマツ、スギ、ヤマツツジ

小支流流域を単位とする災害に強い森づくり

熊本県水上村



事業概要

斜面地の土砂崩れ及びそれに付随する倒木の発生を防ぐ植樹技法のモデルを「小支流流域」を単位として創り出す。活動は、〈鉾ノ尾地区〉①令和2年球磨川豪雨や台風等による土砂崩壊斜面地の現況調査。②「支流流域区分図」の作成。③縦断面図を作成し、刈払い・地拵え等の作業方法を検討。④現地での標高の計測・マーキングを行い、作業量と現地調達資材を検討。⑤地拵え・植樹を実施、ほか必要な整備。〈笹ノ尾頭地区〉①対象地の等高線を基準線とする植樹計画。②植樹対象地を小規模に区分し、昨年までの実績を基に区分ごとに名前を付与、植樹。③トイレ・休憩小屋整備予定地の刈払い、整備体制の組立。④湧水が貯留している場所へ稲の苗を試植、ほか必要な整備。

事業成果

昨年度の植樹活動に参加した高校、大学等の教官・学生の参加があり、この関係を持続する基礎固めが一步前進し

た。技術面は、急傾斜地を対象として試みた「等高線を基準線とする植樹計画技法（現地調査法、作図法等）」は、南稜高校の教師や林業実務経験者からの共感を得て、現地での試行が可能となった。この方法で参加者の作業分担、作業効率、斜面移動時の安全性・安心感の確保等に有効であることが実感でき、今後の作業計画を組み立てやすくなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回の活動は教員・生徒ともに貴重な経験となった。土砂崩れ防止効果の観察が今後重要だと思う。(高校教諭)
- ・自分が植えた苗木が獣害にあっけしめまい悔しいが、何ができるかみんなで答えを見いだしたい。(小学校教諭)。

参加者の声

- ・この急斜面地での作業は、「生態系全体、環境の連鎖的仕組み」に気づき、考えるのに適している。(ジャーナリスト)
- ・植える苗木に、タケの名札（樹種と植えた人の名前を書く）を付けるのはとても良い。目印になる。(60代女性)



サクラの樹勢回復補助（鉾ノ尾地区）



等高線を確認し植樹（鉾ノ尾地区）



植樹と名札付け（笹ノ尾頭地区）



等高線に沿った地拵えと植樹（笹ノ尾頭地区）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.8ha
 植付本数：262本
 樹勢回復：8本
 下刈面積：3.7ha
 除伐面積：1.1ha
 間伐面積：0.7ha
 作業道：400m
 森林資源活用：
 シイタケ栽培のホダ木

参加者数

県内：86人
 県外：7人
 計：93人

樹種

クヌギ、マテバシイ、スダジイ、カエデ、カワツザクラ、アカシアほか

令和2年7月熊本豪雨復興支援事業

熊本県八代市、水俣市、津奈木町、球磨村



事業概要

令和2年7月熊本豪雨による被災地域の復興を支援するため、緑化及び間伐材を使った木製品（木製のプランター、ベンチ、木製遊具など）を提供する。これにより、豪雨の記憶を後世に残すとともに、地域住民や子どもたちの共同生活の充実を図り、緑の大切さや木のぬくもりを感じてもらう。

事業成果

令和4年度は、保育園等に木製プランター14個、ベンチ14台、積み木セット5個、丸太5本、切株100個を提供し、緑や木材による潤いを被災者に届けることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新しく建て直した保育園には遊具等も少ないため、園児がたいへん喜んでた。(保育園園長)
- ・子どもの遊び場を充実させる上で木製品の提供は有意義である。(町教育委員会主幹)

参加者の声

- ・園児たちが楽しそうに遊んでいる様子を見ることができた。
- ・木製プランターに植物を植えて、少しでも児童の心が和むことを期待している。



積み木セット



園児に積み木セットを贈呈



小学校に提供された木製プランター



児童公園に提供されたベンチ

実績とりまとめ

作業内容

プランター：14個
ベンチ：14台
積み木：5セット
丸太：5本
切株：100個

参加者数

県内：75人
計：75人

間伐材の有効活用と森づくり調査報告事業

北海道富良野市



事業概要

ネイチャーポジティブ、TNFD、30by30など、2030年までに生物多様性の損失に歯止めをかけて回復軌道に乗せることが国際目標に掲げられる昨今において、森づくり活動は欠かせない事業となっている。森づくり活動+間伐材利用等の様々なイベントを通して、「森への理解」を深めるとともに、他地域への先駆的事例となるよう、以下のような活動を行う。①子どもたちを森に誘う「へそ森クラブ」活動を実施する。②元ゴルフ場跡地のフィールドに自分たちの手で穴を掘って木を植える。③森づくり活動の重要なフェーズである間伐の意味を知り、実際に間伐を行う。④企業を巻き込んだ森づくりイベントを実施する。

事業成果

富良野市の観光客受け入れ政策として「ワーケーション実証助成事業」を実施し、その助成を受ける条件として、「市内で環境活動に参加する」という項目を導入していただく

たおかげで、個人の植樹参加者数が増えた。今後も、「富良野に来たら木を植えて帰ろう」を合言葉に、植樹体験を日常化していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・フィールド調査（水の流れ、植栽データ）をしっかり行い、計画的に植樹することをお勧めする。
- ・コロナ禍が明けて外国人観光客が戻ってくる可能性が高いので、英語対応ができるとう良い。

参加者の声

- ・自然の中で同じ空気を吸えて素晴らしい機会になった。ご準備、ご指導いただき心より感謝したい。（日ハムファイターズ担当者、50代男性）
- ・それぞれに皆が、いろいろな想いを胸に抱き、それぞれのハチドリが、行動を起こすことを期待している。（森づくりイベント参加企業トップ、60代男性）



小学生39人による植樹風景



中学生237人による植樹風景



高校192人による植樹風景



プロ野球チーム後援会45人による植樹風景

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.2ha
植付本数：2,115本

樹種

アカエゾマツ、ミズナラ、トドマツ、ヤチダモ、ヤマモミジほか

持続可能な（カーボンニュートラル）地域づくりプロジェクト

北海道弟子屈町



事業概要

事業実施場所である弟子屈は、ひがし北海道有数の観光地である。その主流はドライブ観光であり、自動車による長期移動によって排出されるCO₂（年間推定630万kg）を植樹（1本14kg）によってニュートラル化することをテーマに、植樹祭及び住民・子どもたち向けの学習会（木育教室）を開催する。

事業成果

前年度までは、そららの森プロジェクトとして、今年からはカーボンニュートラルをテーマに12年目となり、毎年どんぐりやクルミの実を苗畑に蒔き、成長した苗を移植するというサイクルを繰り返し、次へと繋がる活動を行っている。植樹範囲も年々広がってきており、参加者も地

域住民や子どもたち、障がい者、観光客らを含めて延べ540人を超え、森づくりの夢は順調に進んでいる。

事業をよく知る関係者の声

- ・2年ほど前よりコロナの状況により開催が不安であったが、無事開催できて良かった。
- ・次年度からは過去に植えた苗木のメンテナンスも含め、たくさんの方の団体に参加してもらいたい。

参加者の声

- ・天候にも恵まれ、気持ちよく植樹ができた。(30代男性)
- ・去年植えた木がちゃんと育っていてうれしかった。(20代男性)
- ・友だちと参加した。貴重な経験ができた。(40代女性)



植樹風景



植樹には子どもたちも参加



植樹後の集合写真



植え付ける苗

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.7ha
植付本数：320本

参加者数

道内：50人
計：50人

樹種

カラマツ、ヤマモミジ、ドロノキ、アカエゾマツ

第51回市民植樹祭

北海道苫小牧市



事業概要

昭和46年の当会発足時は、苫小牧市が発展していく中で、自然環境の厳しさもあり街路樹が育ちにくく、緑が少ない町であったため苫小牧市民への緑化啓発の一つとして市民植樹祭が開始された。それ以来毎年行っており、令和4年度で51回目を迎えた。(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)

事業成果

会が創設されてからこれまでに、市民植樹祭などで4万8,658本の樹木を市内(公園や市有林など)に植樹した。緑が少なかった苫小牧市であったが、現在では北海道内の主要市の人口に対する街路樹本数は2位となっており、市民への緑化啓発が進んでいると考えている。

毎年開催することで、市民に緑化への関心を身近に感じ

てもらえた。また、シカによる食害を踏まえリュウキュウツツジを植栽した。リュウキュウツツジの葉には毛が生えているためシカが避けるとのこと。今回植栽した経過を観察することで、他の食害を受けている場所の植栽にも応用できると考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍で人数制限をしておの開催となったが、申し込みは定員を満了し、市民の関心の高さを感じた。(50代男性)

参加者の声

- ・苗木が大きくなって花を咲かせるのが待ち遠しい。未来の子どもたちに緑を残す取り組みを今後も続けたい。(50代男性)
- ・しっかり根をつけてきれいに咲いてほしい。(70代女性)



植樹祭開会式



苫小牧市長、企業社長ほかによる植樹



市民による植樹の様子



植樹された木々

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.03ha

植付本数：150本

参加者数

道内：50人

計：50人

樹種

リュウキュウツツジ

植林地と白神自然学校遊々の森の除間伐材の伐採・再利用事業

青森県鱒ヶ沢町



事業概要

白神自然学校遊々の森で広葉樹のブナを植えるために、除間伐作業をし、樹木の間を空け、樹間を広くすることで、太陽を森に入れる山の手入れを行う。除間伐した木材は製材所に運び、板に加工する。これらの実作業から森への理解を深め、木材がどのように山から搬出されて、加工されて利用されるかを学ぶ。

事業成果

令和4年8月に鱒ヶ沢町は線状降水帯の豪雨による災害が発生し、遊々の森に入ることが容易でなく、津軽森林管理署と連携し、令和5年度に入り、林道の倒木や土砂崩れの箇所土砂の撤去を行い、ようやく除間伐作業を実施することができた。除間伐した木材は鱒ヶ沢町の製材所に運び、タルキや自然学校の平板や雪囲い用の材にした。また、大学生12名が林業現場の機械化の学習や、植林地の苗木周辺の下刈り体験を行い、これらの実体験から森を理解し、木

材がどのように山から搬出されて、加工・利用されていくかを学ぶことができた。これはSDGsの「15.陸の豊かさも守ろう」にあたる。間伐を行い森の再生、循環を体験することで、林業の手入れの大切さを学んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・かかり木が多く、安全性について注意をして作業をしてもらいたいという状況であった。また、除伐材を奥から道路端にウインチで集材し、2tトラックに乗せ、運搬することができた。(森林管理署担当官)

参加者の声

- ・林業現場がイメージしていたものより、機械化されていることに驚いた。また、チェーンソーで伐倒している男性が若い人で、林業もこういう人達で行われていることを初めて知った。また、植林作業は一瞬だが、下刈り作業が5年間ぐらい続くと聞いて、そういう作業が大変だと思った。(大学生)



大学生の下刈り体験



大学生の除伐体験



大学生の林業現場視察



製材したスギの加工品

実績とりまとめ

作業内容
 下刈り面積：0.5ha
 除間伐面積：0.6ha

参加者数
 県内：15人
 県外：22人
 計：37人

ソメイヨシノ枯れ枝及びテング巣病の枝除去。歩きにくい探勝路等の整備

福島県喜多方市



事業概要

雄国山麓の自然保護・保全を図り、地域と連携し、資源を活用しながら地域の発展に寄与することを活動の目的とする。本事業による主な活動は次のとおり。①青少年の自然体験や環境学習のフィールドとして安全で快適な歩道整備・観察路の安全対策として砂利敷き、②市民の憩いの場・森林公園の桜の枯れ枝・テング巣病の除去作業、③子どものための樹木観察林の造成、④森のわんぱく自然塾の開催

事業成果

探勝路の整備として草刈りを行った。石もあり危険があったが、安全作業が確保され、砂利を敷いて歩きやすい歩道ができた。桜老木は枯れ木の伐倒、枯れ枝や病気感染枝

の除去作業を行った。樹木観察林予定地では植生調査や除伐作業を行った。また、親子が参加する、わんぱく自然塾を開催することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ボランティアでよく頑張っていることへの理解はあるが、そのことへの評価はこれからである。行政からの支援をいただけるよう強く働きかけを行っていく。

参加者の声

- ・わんぱく自然塾に参加した子どもたちも新しく整備された歩道を歩き感動していた。自然観察林の整備作業では今後の展開に夢を膨らませている。今後が楽しみ。



森林整備（草刈り）



枝の整枝作業を行う前の桜老木



わんぱく自然塾



トレッキング

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.6ha
 除伐面積：0.2ha
 森のわんぱく自然塾、トレッキング

参加者数

県内：43人
 計：43人

「全国緑化行事発祥の地」の整備とフォーラムの開催

茨城県桜川市・筑波山林内



事業概要

桜川市から入山する筑波山中腹部には「全国緑化行事発祥の地」という林業遺産にも登録される重要な場所がある。当時の林業関係者が疲弊する日本の山林を憂い、第1回目の植樹祭が行われた地であり、現在の全国植樹祭へと継承されている。現状は、伐採適期を迎えながら以前植えられた針葉樹が放置されている山林が多い。現地の整備作業と同時にフォーラムを開催し、緑環境の重要性を啓発することを目的とする。

事業成果

午前、「発祥の地」石碑前の斜面が崩れかかっており、周囲にある風倒木を移動して、丸太階段を3段設置した。参加者全員で協力し、土留めの杭づくりなども行い、予定時間内に終了した。大変重要な場所で節目の作業ができた。

午後、桜川市真壁伝承館まかべホールにてフォーラムを開催。緑の安全保障会議ーいのちを守る緑の樹々と題し

て、6人のパネリストが登壇し、森、植樹、水、教育などの様々な方面から、問題提起や意見交換が行われた。約90年前に植樹の重要性を提唱、実践した先人の知恵と想いを、令和の時代に新たな形での植樹を提唱し、「発祥の地」の重要性を啓発できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・午前中の「発祥の地」での整備作業：風倒木を使用しての丸太階段づくりは、非常に良かった。(午後の登壇者の一人/この感想は多かった。)
- ・午後のフォーラムで森に関わる様々なことが聞けて良かった。(桜川市教育委員会関係者)

参加者の声

- ・「発祥の地」での整備作業：有意義な場所で、汗を流す作業で非常に面白かったし、非日常の活動が良かった。参加しないと見られない石碑なので、参加して本当に良かった。(参加申請フォームから参加した人)



風倒木を移動し階段材料として使用



崩れかかった斜面に階段づくり



完成した石碑前の階段



フォーラムの開催

実績とりまとめ

作業内容
山林整備、フォーラムの開催

参加者数
県内：99人
県外：27人
計：126人

渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業

栃木県日光市足尾町



事業概要

銅山の煙害で荒廃した足尾の山々に木を植え、緑したたる森に還すとともに、自然環境を大切にすることを育むことを目的とする。主な活動は以下のとおり。①小学校等の体験植樹及びボランティア募集による植樹会の開催、②植樹後の下刈り等の管理作業、③荒れている植樹予定地の地盤改良工事。当会スタッフで作業し、技術的・体力的に困難な場合は外部委託する。

事業成果

今年度は6,482人が参加し、1万2,672本の苗木を植えた。これまで27年間では21万人が28万本を植えた。植樹活動へは栃木県内の企業の参加が増え、助成による取り組みのPRによりその後の管理作業への参加も得られるようになった。植樹は初めてだという人も多量中、木柵で階段状に整備し黒土を入れる地盤改良工事を行ったことで、安全に円滑に

植樹をすることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナにも負けずに活動を常々と続けられている。この間、木柵と黒土による土壌改良で、苗木が良く育つ研究実践も進み、毎月の作業デーや夏の草刈デーの取り組みと相まって、その成果は一段と進んでいる。一本一本の苗木に「足尾に緑を、渡良瀬に清流を」の願いを込めて植樹に取り組み、公害の原点足尾からの脱却を目指し頑張っていきたい。(元参議院議員、70代会員)

参加者の声

- ・想像していたよりも大きな規模で行われていて驚いた。大きく育った木があり、活動の歴史を感じた。(10代)
- ・毎年大勢の方の努力と協力で植樹ができることに感謝。少しずつ緑の森が広がり感無量。植えた木が大きくなり、昔の足尾に戻る日を楽しみに、来年も来たい。(70代)



春の植樹デー
(国による山腹工施工地にボランティアを募り植樹)



春の植樹デー(地盤改良を行った箇所を実施)



体験植樹
(植樹作業の前に紙芝居を使って歴史や植え方を説明)



体験植樹(毎年関東一円の多くの小学校が修学旅行の一環で訪れる)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.1ha
植付本数：1万2,672本
下刈面積：0.5ha

参加者数

県内：2,738人
県外：3,744人
計：6,482人

樹種

コナラ、クヌギほか

ヤマアジサイの森の清掃活動とボランティア育成講座

群馬県高崎市倉淵町



事業概要

森の活動をするボランティアが高齢化して、後継者の育成が必要になったため、高齢者でも参加できるボランティア活動を考え、ボランティア育成講座を行う。内容は次のとおり。①バスを借りて森までの足を確保し町からの参加者を増やす。②作業を楽に行えるようにするため粉砕機を借りて、刈り取った枝を粉砕して森に返す。③高齢であり動きが参加したいという問い合わせを受けて、いろいろな方が参加できるようにするため荷物番などの仕事をお願いして参加いただく。④大学生や中学生・小学生など若い世代の参加者に、森の活動で使う道具の使い方を指導する。

事業成果

今年度の成果としては大学に参加を呼び掛けたところ多くの参加があり、森の活動をする若い世代のボランティアを募ることができた。また、当会の若い会員の活躍もあり、

若い世代の活動となった。この活動を行うことにより、少しずつ地元地域にヤマアジサイの保護活動が浸透してきた。今後は地元の活動参加者を増やしたい。また、地元の学校にも積極的に声をかけていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・関係団体等からは、応援したい活動なので日程が合えば参加したい、と伺っている。当会は、土曜日を活動日としているので、イベントの日程も土曜日になるが、他の団体も活動日が土曜日なので活動日を検討することも考えたい。

参加者の声

- ・森の活動に初めて参加して、楽しい体験だった。(学生)
- ・森のボランティアの大切さがわかったように思う。(大学生)
- ・僕が将来活動を引っ張ります。(小学生)
- ・森に来て気分転換になり楽しかった。(一般)



参加者集合写真



枝を集めて、粉砕機にかける



粉砕したチップを森に撒く



森の見学

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1.0ha

参加者数
県内：30人
計：30人

みんなの森づくりプロジェクト

山梨県大月市猿橋町周辺の里山



事業概要

本事業の拠点「みんなの家」周辺は、高齢化が進み森林整備ができる人たちがいないため、手つかずの森林が多く残っている。地域の森林を守るとともに、都市部では体験することのできない森林での活動を通して自然との共生や重要性に気づくことを目的として活動を実施する。主な活動は以下のとおり。①幼児を対象としたキャンプ、②幼児を対象にしたデイキャンプ、③当法人ボランティアスタッフが行う森林整備、④家族を対象としたデイキャンプ。

事業成果

近隣住民は自給自足の暮らしを実践しながら自然（里山、動物）と日常的に共生しており、本事業を通して自然の偉大さや自然と共生することの大切さに気付くことができた。近隣住民の方たちには、野菜収穫、里山探検、クラフトなどのアクティビティにもご協力いただき、様々な場面でも学び合う関係性が築けている。近隣住民の方たちから

地域の課題について伺い、また、地域の里山や自然を今後どのようにしていきたいのか具体的なアイデアをいただいた。そのアイデアを少しでも実現できるようスタッフで議論を重ね、森林整備を重ねることで地域の景観をより良くしたり、里山を開墾して畑を拡大したりと「みんなの家」周辺の環境をより良くできていると感じる。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動当初よりも古民家も周辺の山もきれいになっている。猪や野良猫も地域から減っていて、私たちも暮らしやすくなった。(地元住民、70代男性)

参加者の声

- ・昔は当たり前にあった空き地とか裏山が都市部の子どもたちには身近でなくなってしまったからこそ、こういった場所は価値があると思う。これからも活動に参加して協力したい。(ボランティアスタッフ、50代男性)



自然遊び



周辺の里山



参加した子どもたちの集合写真



みんなの家の周辺

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：5.0ha

間伐面積：2.0ha

参加者数

県外：96人

計：96人

屋久島いのちの森づくり植樹祭

鹿児島県屋久島町



事業概要

生命の源泉である森林の重要性について、植樹や間伐作業後に感じたことを書道の一字で表現することでより深く理解し、啓発することを目的とする。主な活動は、土壌の薄い狭隘地や浜辺などでの植樹、清掃。屋久島ではこれまで3回にわたり地元産苗木を植えた。また、環境書道展行事として森の重要性を伝えるミニフォーラムを開催する。

事業成果

①子どもたちが真剣に植樹する姿に家族も触発され、森林の重要性と植樹の楽しさを子どもと共有、②温暖化防止に向け、自分たちでできること、貢献できるものがあることを実感、③植樹作業を通じて、緑の募金について理解を深めた。

地元の連絡協議会の協力もあり、大雨の中でも無事に植樹を終えられた。コロナ禍で準備期間が少なく、また悪天候で説明が十分なされたとはいえず、雨対策の必要性を実感した。今回は東京都内の子どもが参加したが、地元児童との連携もできればと思う。

環境書道展では、会場入り口正面に屋久島植樹祭の写真パネルや、子どもたちが植樹作業などの後に感想や印象を一字書きしたものを掲示し、来場者に森の重要性を啓発することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹は植えるだけにとどまらず、長期的な見守り、管理が必要。管理体制を明確にし、植樹地の成長を見守ることも必要ではないか。(植樹指導担当者)。



ウミガメ保護の森づくり。森をつくることで車のライトから産卵のウミガメを守ることが目的



海辺に地元の木・ホルトノキを植栽



屋久島での体験を漢字一字で表現



環境書道展「いのちの木」では子どもたちが植樹作業後の一字書きを展示

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：120本
下刈面積：60㎡

参加者数

県内：3人
県外：22人
計：25人

樹種

ホルトノキ

国民参加による災害に強いめぐりの森づくり

神奈川県横須賀市・湘南国際村町



事業概要

三浦半島の中央に位置し、水源林として源流から支流の水質を保ち、トウキョウサンショウウオも生息していた神奈川県有地「湘南国際村めぐりの森」は、現在、バブル期に開発された跡地として荒廃しており、標高220～300mのなだらかな丘陵地帯でありながらススキやメドハギなどの河川の植生のような貧栄養な景観が続く。当該地にて2009年より神奈川県のコア事業として、植樹による土地本来の森の再生を実践する。

事業成果

本年度は、コロナ禍の人数制限の下、春と秋の定例植樹事業開催時の2日間とスピノフ植樹祭にて、649名が来場し、990㎡へ5,580本の潜在自然植生種を植樹し、植樹累計本数7万5,382本・2.15haの緑化に繋がった。

また、当法人のホームページが、(一社)全国林業改良普及協会主催の第56回林業関係広報コンクールにて、ホームページ部門の奨励賞を受賞した。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹する樹木の種類がとて多く、落葉樹なども含まれていて、地域特性や立地など、多くのことを考慮されているのがよく分かった。また、成長段階が見えるのもとても良い。(植樹祭来賓)

参加者の声

- ・いろいろな木々を植え、共生の森を築く大切さを教授いただいた。(60代)
- ・混植密植の植樹方法なども大変勉強になった。(30代)
- ・潜在自然植生理論の、その土地に元々あった植物を植える大切さを学んだ。(20代)



植樹祭。植樹の様子



植樹祭。混植・密植方式(宮脇方式)で実施



植樹祭での集合写真



植樹地(2022年植栽)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.0ha
 植付本数：5,580本
 下刈面積：1.02ha
 森林資源活用：120㎡

参加者数

県内：260人
 県外：389人
 計：649人

樹種

土地本来の自生の樹種

猿投山北西山麓の環境林整備

愛知県瀬戸市山路町、白坂町



事業概要

猿投山北西山麓において、健全で活力ある人工林の育成と環境林としての機能を向上させることを目的とする。活動内容として、「県有林やまじの森」、「日本山岳会所有地」、「東大演習林」において放置された人工林の間伐を行う。雑木林では定期的に除伐し、保健保安林として機能維持させる。併せて自然観察道の笹刈り・除伐・道路保全を行い、近隣住民・ハイカー・登山者などに森の恵みを楽しむことができるよう整備する。せと環境塾・なごや環境大学において一般応募者に森の手入れを体験してもらい、森の機能について学び、併せてSDGsについての教育を行う。

事業成果

人工林及び雑木林において当初の計画どおり作業終了することができた。また、自然観察道も笹刈り・除伐を行い、アジサイやヤマザクラ、ミツバツツジといった花咲く樹々

や落葉広葉樹の森として保全することができた。

幼稚園児を対象に実施した“森の探検隊”では間伐材を利用した遊具などで森に親んでもらった。イベントとして瀬戸市が主催している「せと環境塾」において、新たに「炭作り」も認定講座に認められ、行き場のない間伐材を有効活用しながら森に興味を持ってもらう動機付けとした。

事業をよく知る関係者の声

- ・瀬戸市環境課に届いた市民の声として、「観察道がきれいに草刈りしてある」、「植物のなまえを教えてもらえる」など生物多様性のある森に整備している活動に対してお褒めの言葉をいただいている。

参加者の声

- ・森の中で汗をかきながら作業することで、「ストレス」解消でき、森が「良くなっていく」姿をみると生きがいを感じる、体が動く間は続けていきたい。(会員)



森の手入れ体験



歩道わきの除伐



せと環境塾（花炭作り体験）



森の探検隊（記念撮影）

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.6ha
 間伐面積：0.5ha
 自然観察道整備：2.0km
 作業道整備：2.5km

参加者数

県内：777人
 計：777人

グリーンベイ OSAKA 海岸防災森を創る活動

大阪府堺市



事業概要

本事業の目的は、南海トラフ地震による大震災が予想される現在、継続した植樹活動を続け、海岸防災森を作ることである。東日本大震災の際に、海岸防災林が津波の第一波の衝撃波を確実に減衰したことが報告されており、本事業で造成しているグリーンベイ防災林も、堺市の津波浸水想定地域への津波の到達を遅らせる効果が期待される。

事業成果

2022年11月の植樹会では、事前にハンマーナイフによる除草を2,500㎡行い、アキニレ、ウバメガシ、エノキ、エゴノキなど14種類、各26本、合計364本を植樹した。2023年6月には草刈り会を行った。参加者はどちらも70名ほどであった。これまで5m四方の中心部に14本の苗木を植樹する混播方式という方法を用いているので、一定の空間を確保することで、間伐をしなくても木の成長が進んでいる。当初に植樹した苗木は10m超まで大きく育ってきている。久

しぶりの参加者の感想に、森になっていることへの驚きがある。参加者が毎年コツコツ植樹する活動の大切さを共有できるようになったかと思われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・グループで参加したリピーターの40代の男性は、「除草作業についてはかなりきつめだったが、その分やりがいは感じられ、前回植えた苗木の成長を見るのがうれしく感じるようになった」と、また、今後の課題を聞くと、「よく考え、練られている活動だと思います」と評価している。

参加者の声

- ・家族でたのしく参加させていただいた。…第1回の植樹以来13～14年ぶりくらいの参加だったが、立派な森になっていて驚いた。(40代女性)
- ・堺市の工場地帯に森ができるとは思ってもいなかったの、子どもと一緒に参加すれば良かったと感じた。(30代男性)



植樹活動での集合写真



5m四方の中心部に14本の苗木を植樹する混播方式で植樹



植樹が終わりに近づいた現場



草刈りと植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.5ha
植付本数：364本

参加者数

府内：70人
計：70人

樹種

アキニレ、ウバメガシほか14種

丹波平松の森づくり

兵庫県明石市、丹波市、宍粟市、姫路市



事業概要

住みよい丹波の住みよい地域で安全安心の森づくりのため、丹波市春日町平松区の森林愛好会と一体となり、ドングリを拾い、ドングリから苗木を育て、ドングリ植樹を通して地域の交流を図り、魅力ある森づくりを推進する活動を実践する。

事業成果

平成13年～令和元年までは揖保川流域を植樹地とし、毎年500～1,500本のドングリを植樹してきた。昨年からは丹波市春日町平松区という新天地での植樹活動をはじめ、昨年は200本、今年は160本の植樹を行った。新型コロナウイルスによる規制も緩和される中、丹波市春日町平松地区の住民や株主(会では1株500円の寄付で株主を募り、活動費に充ててい

る)と、ドングリの植樹を通して交流を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナの影響もあり、以前に比べ植樹会等のイベント参加者が減少している。今後は丹波市とより連携を深めつつ活動認知を広めていきたい。

参加者の声

- ・ドングリ拾いは、公園内で拾うので気軽に参加できる。植樹会は、遠方であるとともに山の中になるため、かなり気合を入れての参加になる。しかし、丹波平松地区の皆さまの暖かいおもてなしにふれることができ、その地区特産の物も購入できたため、気合をいれた甲斐があった。(会社員、40代)



植樹イベントでの集合写真



植樹の様子



植樹地整備事業(下刈り作業)



公園で拾ったドングリから苗を育てる

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：160本

参加者数
県内：170人
計：170人

樹種
クヌギ

おおつか里山桜並木回廊事業

島根県松江市



事業概要

約60年前に溜池完工を期して植林された桜が、現在は枯渇雑木林と化している。本事業で桜並木を復元することを目的とする。植樹した桜の苗木の健全な生育環境管理や、溜池右岸部の里山区域を地域住民の新たなコミュニケーションの拠点となる環境整備を行う。

本事業を事業創成期の仕上げの年度と位置づけ、事業目的を達成するため、①桜の苗木の年間を通じた病虫害防止作業、②肥培管理・草刈り作業、③地域住民が四季を通じて豊かな心を育むのにふさわしい里山環境整備（ツツジ、モミジ等の低灌木の植栽）に着手する。

事業成果

本事業着手に先立ち行った現地調査により、溜池堤体部に雑木等が密生しており、防災上の問題が大きいことが判明。当地は現在、島根県のハザードマップに記載されているが、現地調査が発端となり、溜池改修計画を促進する一

助となった。

雑木等の伐採作業の遅れから、令和4年4、5月になって植樹した桜の苗木がそれ以前に植樹した桜の苗木に比較して、活着率が悪く、成長不良となる事態となったため、急遽補植作業を実施した。一方で、四季を通じて地域住民が楽しめる里山環境整備として植樹したツツジ、モミジが正常に活着し、令和5年4月末にはツツジの一斉開花の景観が得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・少人数の高齢者中心の事業活動は限界で、植樹区域の今後の管理作業は早急に次世代へバトンタッチすべく努力すべき。

参加者の声

- ・子どもの頃、溜池周辺で遊んだ風景、満開の桜の元で家族・親戚で楽しんだ宴会が思い出される。往年の里山景観が復元されることを期待している。



桜の苗木の植樹参加者



植樹場所のオーガーによる穴掘り作業



桜の苗木根元の草刈り作業



昨秋植樹のツツジの開花状況

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.6ha
植付本数：386本

参加者数

県内：61人
計：61人

樹種

ツツジ、サクラ、モミジ、クヌギほか

荒廃竹林を伐採整備し緑豊かな森の再生事業

香川県丸亀市川西町



事業概要

ごみの投棄場所となっていた荒廃した竹林を整備し、多くの皆様の憩いの場所づくりと更には青少年の環境学習の場づくりとすることを目的とする。荒れた竹林とバラやかずらの雑木を伐採して、中央部にクスノキをはじめとする高木群と周囲には四季折々に咲く苗木を植樹、更に荒れた土地のガレキを撤去して花崗土を投入しての整地を行う。

事業成果

森林の中央部にあった雑木と竹林を整備した関係で南北140mに及ぶ森の再生場所の全貌が見え、美しい森の公園作りの形が整ってきた。東隣を通るウォーキングコースを歩く人たちが立ち寄ってくれることも多くなり、更に地域の皆さんの憩いの場所として活用され始めている。

事業をよく知る関係者の声

・土器川沿いの風景の美観を向上させ、地域の憩いの場と

しての再生だけでなく、環境保全やまちづくりの好事例として今後ますます注目される事業だと思う。地域の方たちが目的達成のために一つのことに取り組む姿勢、そして行動力は見習っていききたい。地域の皆様がいつでも立寄りいつまでも愛される公園になることを願っている。(隣接するショッピングセンター店長)

参加者の声

- ・女性8名で雑木林から始まり、草抜きや苗木の植樹そして水やりなど女性でもできる作業に参加し、今では季節ごとに咲く花を見ると心が和み、小鳥のさえずりとともに心が癒される。これからも自然を大切に见守っていききたい。(女性メンバー・60代)
- ・令和2年以来取り組み、仲間たちとともに流した汗は見事に天然の美となり、訪れる人たちを和ませてくれる。参加して良かった！これからもやるぞ！これが実感。(70代男性)



荒れた土地のガレキを撤去して拡張地の整備



花崗土を投入して植樹準備作業



小学生が参加した植樹作業



植樹作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2ha
植付本数：100本
下刈面積：5ha
除伐面積：2ha
間伐面積：1.5ha

参加者数

県内：198人
計：198人

樹種

クスノキほか

創造と想像の森づくりプロジェクト

福岡県古賀市



事業概要

木々の緑と水と芸術品にあふれる空間で子どもたちの心身の健全育成を目指すことを目的とする。主な活動は次のとおり。①小学校内に樹木12種・40本を植樹。見学通路やテーブル・イスを設置することで、休み時間や下校時に見に行ったり、座って絵を描いたり眺めたりして感受性を養える空間とする。②緑に包まれた「新しい居場所」の憩いの場とし、自然の中で（アルミ彫像を配置、見て・触れて感性を磨き）想像力と創造力を学び受ける場として、生徒・保護者のみならず校区内住民や広く市民や他県・学校にも紹介し、類似事業の他への展開も目指す。

事業成果

彫像作成者遺族と話をし、了解を得ながら作業を開始した。各種植樹やテーブル作成など初めてのことだらけであったが、少しずつ校庭がにぎやかになり、通路作成・テーブル・イスの設置により第一段階は概ね予定どおりの完成・

景観とすることができた。今後既存樹木へのツリーデッキ作成や井戸掘り～観察池の復興を計画。コミュニティ役員・歴代PTA役員や一般参加者など多数の協力で植樹と環境づくりができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・市長と教育長、学校長の了解を得て活動開始したが、実作業が遅れてしまった。（メンバー）
- ・歴代PTA役員中心のグループラインの募集で参加。作業は楽しかった。（歴代会長）

参加者の声

- ・早く樹々が大きくなって、第3校舎教室が木陰となれば子どもたちも喜ぶと思う。（教頭先生）
- ・樹木も楽しめるようにいろいろな種類を植えた。フェンス側に植えたサクラ6本も登下校や通行人の目を楽しませることだろう。（40代女性）



校庭での準備作業



彫像搬入



登下校路の脇にサクラを植樹



お披露目会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.04ha
植付本数：40本
下刈面積：0.04ha

参加者数

県内：30人
計：30人

樹種

サクラ、カエデほか

子ども達につなぐ阿蘇の緑と森環境整備事業

熊本県阿蘇市



事業概要

子どもたちが阿蘇の自然とふれあい、緑化推進と生物多様性の大切さを学びながら、森の保全活動を行うことを目的とする。主な活動は以下のとおり。①植物とふれあう遊びと学びの観察会（ネイチャーゲームを取り入れた活動）、②植樹及び自生している樹木等への二次元コード付き名板プレート設置、③「学びの森」での植樹活動。

事業成果

本事業を実施することで、現在、保育園で進めている「学びの森」計画において、具体的な事業展開することができた。子どもたちが自然への関心を持つことで創造性が育まれ、森林と環境との関わりなどを知ることなど、成長する上で自然体験がとても重要であることを、園児・保護者・関係者へ伝えることができた。また、参加した園児・保護者の方々の「心の変化」や「気づき」を感じることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・二次元コードを名板プレートに記載することで、大学教授指導の詳しい内容の表記が可能となり、専門的な薬効や用途・食べ方などの提案ができた。反省点として、山野の植物は花や実のなる時期も違うため、設置したタイミングでは、何も生育していない場所に見えることもあった。二次元コード利用での子どもや大人用プレートの活用法は多岐にわたり、発展の可能性は大きいと考えている。（観察会指導者）

参加者の声

- ・ネイチャーゲームで散策や遊びながら自由に学べる機会ができた。プレートがあれば再確認できるので学ぶ機会が増えた。（園児保護者）
- ・遊歩道近辺に、このように多くの有用植物があることを初めて知った。（園児保護者）



植物とふれあう遊びと学びの観察会



観察会の集合写真



植樹の様子



樹木等へ二次元コード付き名板を設置
(階段脇の四角のプレートが名板)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4 ha
植付本数：30本
名板設置、観察会

参加者数

県内：24人
計：24人

樹種

クロモジ

花の咲く上浦づくり事業

大分県佐伯市上浦地区



事業概要

廃校により未利用地となった学校のグラウンドを活用し、地域の交流拠点づくりと花木を活かした観光拠点づくりを目的に、地元小中学校の児童・生徒及び地域住民による植樹会を開催し、住民の手で観光地づくり、地域の交流拠点づくりを行う。

事業成果

未利用地を活用してジャカランダやカワツザクラ等の花木を植樹することにより、地域間の繋がり、住民相互のふれあい、地域コミュニティの再構築に繋がった。また、景観や環境が良くなり地域の美化や交流人口増加に向けた基盤整備に大きく寄与するものと期待できる。

これまで植樹してきた花木も季節ごとに花を咲かせ、将来の地域活性化に向け明るい展望を感じている。今後更なる充実を目指すべく、数年をかけて「花の咲く上浦づくりと

観光振興事業」を進め、多くの人で賑わう交流の場とした。また、ソフトイベント（ドックラン、オートキャンプ、サイクルツーリズムなど）を行うことで集客を図り、多くの方に利用してもらいたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・小中学校廃校後、地域が寂しく、賑わいを失っていたが、公園整備のおかげで地域が明るくなった感じを受ける。(地元区長)
- ・地域住民の憩いの場、交流人口の増加、地域の活性化の手段として活用することを期待する。(市長)

参加者の声

- ・開花が楽しみ。
- ・寂しかった場所に賑わいが出た。
- ・地域が明るくなって、うれしい。
- ・またお弁当持って来たい。



植樹会準備（客土搬入）



小中合同植樹会（植樹の様子）



地区植樹会（植樹の様子）



植樹会（集合写真）

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：257本

参加者数

県内：120人

計：120人

樹種

カワツザクラ、ジャカランダ、ソメイヨシノ、ツツジ、常緑樹ほか

片ヶ瀬さくらの杜公園づくり

大分県竹田市



事業概要

耕作放棄地にサクラ・ツバキを植えることで景観を良くし、地区民の絆を強くすることを目的とする。また、イノシシにより通行道路が掘られ、通行が困難になっている箇所について、安全な通行を確保できるようにする。

事業成果

- ①耕作放棄地にサクラ・ツバキを植樹することで、景観が良くなった。
- ②地区民の絆を深めることができた。
- ③小学生の参加が1名であったが、楽しそうに参加した。

事業をよく知る関係者の声

・取り組みに意義は感じるが、今後の管理が大変だろう。(当

地区在住の現場近くの方、工事を請け負った方、活動参加者)

・斜面での作業はきつかったけれど、これから5年後が楽しみである。コンサートには必ず来たい。(事業の参加者)

参加者の声

- ・とても楽しかった。また参加したい。(小学生)
- ・素晴らしい取り組みであるが、地区の方の参加が少ないのが残念。(参加者)
- ・大学教授の的確な教示があって素晴らしい。(参加者)
- ・あと5年したら素晴らしい公園になるだろう。(取材した新聞記者)



造成工事前の市道



重機による坂道の作成作業



サクラの木を植えた所



造成した杜に関する情報看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha

植付本数：65本

参加者数

県内：37人

計：37人

樹種

サクラ、ツバキほか

森林に学ぶ! ~森林と人の深いつながり~

鹿児島県始良市、霧島県、薩摩川内市、さつま町



事業概要

人の豊かな暮らしは、森林のもたらす恩恵や大切な働きによって支えられていることを次の事業の実施によって伝える。①林間学校、②海と森の繋がりでの学習、③ヒラタケ、キクラゲの栽培、④森の恵みを体験(タケノコ掘り体験と竹クラフト)、⑤竹パルプの製紙過程、⑥森林が作り出す豊かな水と水力発電を学ぶ。

事業成果

①林間学校で、木工体験として、木製プランターを作成し、花の苗を植栽した。また、木や竹を使って間伐材などの利活用を学んだ。②海と森の繋がりでの学習として、垂水海潟漁港では森林が豊かなら豊かな漁港が育つ、海は森の恋人であるなどの話を伺った。③エノキの大木を伐倒して、ヒラタケ、キクラゲを栽培し、今後の事業へ繋げるために学習会を行った。④タケノコ掘り体験と竹クラフトでは一輪挿しの作成と健康たけふみの作成を行った。⑤竹から生

まれる竹パルプの製紙過程を学んだ。⑥森林が作り出す豊かな水による水力発電を学ぶため鶴田ダムの見学と学習を行った。森林と人との深い繋がりを事業名として、親子参加型の林間学校では散策などを通じ森林との繋がりができた。森林と水の関係も理解してもらえた。

事業をよく知る関係者の声

- ・海と森の繋がりでの学習で漁港の豊かさを紹介してもらったのはありがたい。(漁協参事)
- ・バスツアーでは、車内での森の話が少ないようである。工夫することが必要ではないか。(バス乗務員)

参加者の声

- ・盛り沢山の企画で、非日常的なことを経験できて、親子ともども楽しめた。(林間学校参加者・40代女性)
- ・今まで考える機会がなかった、地球環境を守ることはとても大切だと思う。“森は海の恋人”が素敵。お互いできることは助け合ってほしい。(参加者・70代女性)



林間学校の木工体験でプランターづくり



エノキの大木にヒラタケ菌を植菌



竹クラフトでは「健康たけふみ」を制作



竹林整備

実績とりまとめ

作業内容
 下刈面積：0.6ha
 竹ベンチづくり、クラフト体験、昆虫観察、バスツアーほか

参加者数
 県内：196人
 計：196人

國際協力



島嶼国フィジーにおける防災に向けた緑化と環境教育

フィジー・ビチレブ島ナンドロガ・ナボサ県、ナイタシリ県、ラ県



事業概要

気候変動や自然環境の劣化等により、自然災害による被害が深刻化するフィジー・ビチレブ島において、レジリエンスの高い地域づくりを目指し、地域の環境保全と環境意識の促進を図るため、植林活動及び実践的な環境教育を実施する。主な活動は以下のとおり。学校及び周辺地域における植林・環境教育活動、育苗活動、マングローブ植林、パイロット的海岸林植栽。

事業成果

コミュニティでの植林活動に子どもたちを招き、子どもたちが住民とともに環境保全に関わる機会をできるだけ多く設けた。また、モモタマナの植栽については、種を採取しての育苗が順調にできており、育てた苗木を使った植林を進めている。また、沿岸地域のレジリエンスと緑化に関する会議やワークショップをレンジャーが多く所属する国立砂丘公園にて開くなど、防災・減災、そしてそのための緑化に関する意識啓発に努めた。コロナ禍が落ち着いたことで、エコキャンプも4年ぶりに再開。5校から子ども

ちや教員を招き、各校での活動について報告しあうとともに、植林や有機農業、3R運動 (Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル)) など、身近なところからできる環境保全についての講義や実習を行った。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちに植林の大切さを説きながら、啓発とともに環境保全を進めるこの活動は非常に効果的だ。植林だけでなく、その後の管理についてもその大切さを伝えながら、巡回指導をしているところも評価できる。(林業省林業局長)

参加者の声

- 活動に参加したことで、たくさんの恵みをくれる木々や自然に対して、感謝の気持ちを持つようになった。卒業後も木の重要性について学んだことを忘れず、さらに環境についての勉強を続けていきたい。学校や地域に恩返しができるように、これからも植林活動などの環境保全に積極的に関わっていきたい。(生徒)



マングローブ植樹 (ナコロトゥブ ラ県)



コミュニティでの植林 (マブア地区)



学校植林



5つの学校が参加したエコキャンプ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10.52ha

植付本数：7,961本

参加者数

フィジー：837人

計：837人

樹種

モモタマナ、マホガニー、レインツリー、チーク、シトラス、カヴィカ、ココナツ、マングローブ等

地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業(マリ)

マリ・クリコロ州ファナ地域



事業概要

目的は、人々の生活に密接に関わるアフリカの「里山」に対して、住民自らの手で苗木を植え育て、将来的に育てた木を利用していくことで、「里山」を再生・保護し、さらに住民の生活を安定させることである。主な活動は以下のとおり。①住民による里山の再生（苗木配布による住民の小さな林作り、植林ワークショップ）、②里山再生モデルの実践（長年里山再生に取り組んできた実践者が近隣の村人に知識・経験を共有しながら、里山再生の実践活動を広げる）、③試験地での植生回復技術及び栽培技術の開発（荒廃地の植生回復、有用在来種の育成・生育促進など）。

事業成果

今年度は24カ所の村・学校に合わせて苗木8,390本を配布して、住民の小さな林作りと学校林の育成を進めた。ある小学校の学校林は、地域の学校推進センター（CAP）から学校林コンクールで最優秀賞として表彰された。里山再生の

実践では、19名の候補者の中から5カ村5名の新実践者を選抜し、苗畑を設置した。地域の里山再生を担う牽引者として、先輩実践者たちとともに育てていく。試験地Cにおいて、有用在来種の直播は非常によく発芽した。

事業をよく知る関係者の声

- ・木は命である。生徒のために教育の現場に学校林の育成を支援してくれたことは大変忘れがたいものである。（小学校校長）

参加者の声

- ・昨年の研修で接木技術を学んだおかげで、農園の自生種に改良種を接ぎ木することができた。改良種をさらに増やして、市場にも出荷していきたい。（村人・新実践者）
- ・父が村長だった頃から、サヘルの森は村に支援をしてきてくれた。木を育てることは非常に重要だという父の遺志を継いで、村で木を育てていきたい。（村人・候補者）



学校林。金網を設置する支柱の内側に植栽



里山再生実践。自身で育苗した苗木を植栽



先輩実践者の里山を訪問し、技術・経験を交流



試験地C。直播したチャンガラの実生に石のマルチを施す

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：8,390本

参加者数

マリ：2,239人

計：2,239人

樹種

ユーカリ、バオバブ、シャカトウ、カシューナットノキ、カイセドラ

カンボジア国コンポンチャム州における持続可能な森林管理を目指した植林事業(フェーズ4)

カンボジア・コンポンチャム州



事業概要

カンボジア国コンポンチャム州は森林密度が非常に低上に、洪水や干ばつ等の気候変動による影響に対して非常に脆弱な地域であり、貧困な地域住民にとってはこれらの災害の緩和は喫緊の課題である。森林の増加によりこれらの災害による影響の緩和や住民の生計向上が期待されており、本事業では、急速な森林減少と劣化に伴い生物多様性の減少が進む同地域において、地域住民の生活に深く根付いている寺院及び小学校を軸に、持続可能な森林管理を目指した植林事業を実施する。併せて、植林や森林保全の重要性に関する理解の向上を目指したワークショップも実施する。また、持続可能な森林管理に関する地域住民の知識・技術の向上と環境・森林保全の啓発活動を行う。

事業成果

チャムカールー地区の小学校と寺院にて植林活動を無事

に実施することができた。モニタリング活動の結果、2022年7月に植林した苗木の生存率は小学校で50%、寺院では50%であった。小学校では児童による水やりが定期的に実践されていたことから生存している苗木は非常に良い状態であったが、児童がサッカーで遊ぶことが多く、教員らによって一部に防護柵を設置したものの、防ぎきれなかった。寺院ではウシによる食害が主な理由であった。

事業をよく知る関係者の声

- ・環境保全に係るこうした活動をもっと増やしていくことが重要だと思う。(コミュニン評議会、70代男性)。

参加者の声

- ・どんな樹種が減少していて、絶滅傾向になるのか知りたい。そして、今後ももっと植林活動をしていきたい(19歳僧侶)



小学校での植林活動で記念撮影



小学校での補植活動



寺院での補植活動。植穴を掘る



寺院での補植活動

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.7ha
 植付本数：5,200本
 補植面積：0.14ha
 補植本数：200本
 ワークショップ：4回
 森林管理に関する研修：4回

参加者数

カンボジア：127人
 計：127人

樹種

ケランジィ、オオミカリン、タキアン

2022年度 緑の国際ボランティア研修(カンボジア)

カンボジア・プノンペン、コンポンチャム州



事業概要

研修員が国際緑化活動の重要性や緑の募金が果たす役割について理解を深めることを目的とする。主な活動は以下のとおりである。①カンボジア国における森林保全ならびに森林利用についての理解促進（講義・視察）、②国際緑化活動の必要性や緑の募金の果たす重要な役割についての理解促進（講義・視察）、③NGO（環境修復保全機構）が取り組む植林活動地の視察、④地域住民と協働での植林体験、⑤地域住民との意見交換と交流活動、⑥研修成果の発表会。

事業成果

コンポンチャム州の植林活動地を訪問し、現地住民との交流、協働での植林体験活動、農村調査活動等を通して、現地の人々の緑化活動への関心の向上、相互理解の深化を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・村人は植林活動に積極的に参加してきたが、本研修のように日本人のボランティアと協働しての活動や交流があると、村人の植林活動への関心がさらに高まり、今後の植林活動にも好影響があるだろう。ぜひまた研修で村を訪問して欲しい。（研修を受け入れた Wat Chas 村村長）

参加者の声

- ・研修員から次の声寄せられた。「緑の募金で植林に取り組むNGOの活動をしっかりと理解することができた」、「私の今後の将来設計を大きく左右する有意義な時間になり、参加できてとても良かった」、「現地における森林保全に関する課題や現状を知ることができたため、日本でさらに学びを深め、解決に向けて実際に行動を起こしていきたい」、「私は海外で働くこと、地球温暖化の解決に興味があり、今回研修に参加できたことでよりさらにその気持ちが強くなった」等。



地域住民と協働での植林活動（灌水）



地域住民と協働での植林活動



カンボジア王立農業大学での研修成果発表会



修了書授与式後の記念撮影

実績とりまとめ

作業内容

補植本数：50本

参加者数

日本：12人

カンボジア：16人

計：28人

樹種

緑化樹種（在来樹種）

インドネシア・マドゥラ島 水保全に向けた緑化と環境教育の推進

インドネシア・東ジャワ州スメネプ県、パメカサン県



事業概要

乾季には深刻な水不足、雨季には洪水等の被害が多発している当地において、水保全に向けた植林活動と持続的な環境保全活動を促進するため、環境教育・啓発活動を実施する。主な活動は次のとおり。「まちの森」における植林活動、学校における植林活動・環境教育活動・水保全学習、マングロープの植林活動、雨水貯蔵設備設置、各校代表児童生徒・教員を対象にしたエコセミナー。

事業成果

今年度は活動に参加している計25校の敷地及び市内の合計2.2haの土地で、陸上樹種及びマングロープ種を7,677本植林した。前年度に引き続き、乾季における水源確保を目的として、雨水貯水設備を2校にそれぞれ2基(5,300ℓ・2,300ℓ)を設置した。これにより、各校において植林活動が促進されるとともに、食堂や教室前に設置された手洗い場にも安定して水を供給することが可能となり、学校内の衛生面

が向上した。手洗い後の使用済みの水を学校菜園や魚の飼育活動に再利用する等、付随的な活動も展開されるようになった。コロナ禍による規制は撤廃され、環境セミナーや学校菜園での実習、校外に植林した木々の管理活動や行政機関と協働での植林活動等を再開することが可能になった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ごみ処分場で実施している植林活動では、景観美化の観点からも素晴らしく、また子どもたちが植林を行いながら、ごみの問題についても学ぶことができている。一方、場所柄、木々の成長を阻害する要因もあるため、行政面でも管理方法の改善などで対処していく必要性を感じている。(50代・環境事務所職員)

参加者の声

- ・植林や菜園活動に参加することが特に楽しく、あまり関心が持てなかった植林や農業が好きになった。これからはオイスカ調整員からたくさん勉強したい。(高校生徒)



中学校にて清掃活動と植林活動を実施



活動で育てた木々が順調に成長し良い環境をもたらしている(中学校)



雨水貯水設備の完成式(小学校)



児童生徒や教員の代表を集めたエコセミナーを実施

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.21ha
植付本数：7,677本

参加者数

インドネシア：4,582人
計：4,582人

樹種

マダガスカルアーモンド、マホガニー、アルバシア、ヤシ類、イペ、マンゴー、マングロープ等

地球温暖化防止と日中友好の森づくり

中国・内モンゴルエジンホロ旗



事業概要

植樹した苗木の生育を目的として、内モンゴル自治区エジンホロ旗林業局ホロ林場の協力の下、日常的な維持管理の活動を実施する。具体的な作業として、枝打ち、自然発火による森林火災防止策として下刈り、火災の延焼を防ぐための防火帯作りや、火災防止を呼び掛けるのぼり旗の設置などを行う。また、家畜の放牧、モグラやネズミ、ウサギなどの小動物による食害の被害対策としての定期的な見回り巡回も行う。

事業成果

2008年~2017年までに植林した苗は約90%以上が活着するなど順調に生育している。初年度に植えた苗は5m以上にまで成長している。また、維持管理をお願いしている内

モンゴル自治区・エジンホロ旗林業局とは現地への訪問時に懇親を深めるとともに、また地元小学校への訪問を通じての交流事業も実施している。今年度は昨年度に続き新型コロナウイルスの影響もあり、日本側から中国への訪問はかなわなかったが、当センターの中国事務所を通じて、定期的に林業局と連絡を取り合い、植林場所の様子や維持管理の作業内容を伝えてもらい、日本側の協力企業側にも情報共有することができている。

事業をよく知る関係者の声

- ・2008年からスタートした本事業の植林地では、木々が立派に成長し、緑豊かな森に変化してきている。今年度は日本から来てもらうことはできなかったが、「日中友好の森」で、また皆さんと会えるのを楽しみにしている。(エジンホロ旗林業局)



生育状況



下刈り



防火帯づくり



防火対策としてのぼり設置

実績とりまとめ

作業内容

植林した苗木の維持管理として、水やり・下刈り等の作業や巡回活動

参加者数

中国：16人
計：16人

エチオピア・ラリベラでの養蜂業拡大を目指した市民参加型緑化事業

エチオピア・ラリベラ



事業概要

ラリベラ市は養蜂業を推進しているが、花蜜の採れる樹木の不足から量産できない。養蜂を志す市民等とともに、アカシア、野生イチジク、コルディア、ドドネアなど蜂の好む花木を植えていく。①シマノ農園で10万本の苗木の生産を行う。②6～9月の雨季に市民に苗木を配布して自宅周りの屋敷林として植林してもらおう。③苗畑に必要な堆肥の生産を行う。

事業成果

本年度は14種類14万4,131本の苗木を生産した。種は10種購入、4種は自家採種した。1年間の作業が始まる前に、2日間にわたり、専門家が畝の作り方、種の撒き方、苗の作り方などを指導し、45畝で苗木を生産した。また、川の水を苗畑に引き込むために、80mの水路を造成した。水路

は雨季の増水で毎年破壊され作り直す必要がある。生産した苗木のうち6万2,490本は農業局に渡され、ラリベラの山地の緑化に使われた。8万1,641本はコミュニティ、ホテル、学校などに配布され、市民により植林された。

事業をよく知る関係者の声

ラリベラ市から今年も感謝状が届いている。また国内のNGOを表彰するアビシニア国際賞協会から賞にノミネートされた。

参加者の声

行政区と連携しながら活動を行っており、苗畑の労働者は毎回行政区の推薦を受けたものを採用している。こうして苗木づくりの技術が若い世代に継承されている。行政区からは活動の継続をお願いされている。



シマノ農園苗木作り



苗の搬出準備



本数を数え、いよいよ苗の搬出



予約した市民への苗木配布

実績とりまとめ

作業内容

苗木づくり：

14種類14万4,131本

アンデスの学校菜園を守る植林と緑の交流

エクアドル・カヤンベ市ロテドス地区、サンパブロウルコ地区



事業概要

エクアドル、アンデス高地2校の小学校の学校菜園を、強風と寒さから守り、安定した学校給食の提供のための植林と、日本とエクアドルの子どもたちの絵画を通じた交流を実施する。2校の小学校敷地内で生徒の親、生徒が参加し、3,000本の苗木の植林、その後の育成作業を行うために、作業に使用する工具を購入する。日本(埼玉県飯能市)とエクアドル(カヤンベ市・植林実施校)の子どもたちが参加する絵画教室の開催と、飯能市でのその時の絵の絵画展を開催する。

事業成果

2校の生徒、保護者、教師合計約600名が植林とその後の育成作業に参加し、合計3,000本の植林を行った。飯能市で開催した絵画教室には30名の子どもたちが参加し、現地でも2回の絵画教室に50名の子どもたちが参加し、緑の自然

環境をテーマに絵画教室が開催された。3月には、飯能市で現地の子ども50枚、飯能の子ども20枚の交流絵画展を1週間開催した。期間中約300名が来場し、自然環境保護を通じた両国の交流に貢献した。会場で同時に「緑の募金」活動を実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校は高地にあり、風が強い。この事業は教師や生徒自らが学校を守るために役立ち、環境問題を学ぶ役割も果たしている。(現地事業責任者)

参加者の声

- ・活動を通して木々は酸素を生み出し空気をきれいにし、土壌を豊かにし、土砂崩れなどを防いでくれるということなどたくさんを学んだ。また、信頼、協力を学ぶことができ、先生方の助けも重要だった。今後他の学校でもやっていってほしい。(生徒)



購入した苗木(グスタボアドルフオベッケル校)



植林作業(グスタボアドルフオベッケル校)



絵画教室(グスタボアドルフオベッケル校)



日本(飯能市)とエクアドルの子どもたちの作品を展示した絵画展

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3,000本
防風林長さ：約900m

参加者数

ケニヤ：600人
日本：30人
計：630人

樹種

エニシダ、ギンバイカ、シナノキ、アラヤネス、プママキ、セピージャ

モンゴル南部のゴビ砂漠緑化と環境保全事業

モンゴル・ウムヌゴビ県



事業概要

モンゴル南部のゴビ砂漠地域において、砂漠化防止のために、対象地域並びに学校で、住民参加での砂漠緑化のための植林活動、6つの学校敷地内の植林活動・環境教育活動、環境セミナーの実施を主な活動とする。

事業成果

ウムヌゴビ県ダルンザドガド市内の砂漠化防止のための緑化を目的に、地域住民とともに2,600本を1.24haに植樹することができた。そして、持続可能な保全活動を続けるために、植林対象地の住民を対象の環境セミナーを172人に実施し、砂漠化防止のための環境保全の意義や植林技術向上に努めた。学校では、6つの学校敷地内に600本の植林と、併せて、環境意識の向上を目的に環境教育活動も実施した。また、地元のダルンザドガド市の行政とともに取り組むことで、地域住民への事業の啓発に努めることができた。

環境セミナーなども通じて、地域住民と繋がり、連携し

て取り組みを進めることができたので、引き続き植林後の管理活動を継続できるようにフォローを続けていく。

事業をよく知る関係者の声

- ・この地域の子どもたちにとって砂漠化は大きな課題であるが、知識と実践を通じて学ぶ本事業はとても意義があると感じた。今後もこの取り組みに参画していきたい。(ダルンザドガド市5番学校校長)

参加者の声

- ・子どもの頃から比べても砂漠化が進んでいることを心配してきた。砂漠化を少しでも遅らせるため、今回のような植林活動はとても重要なので、参加できてうれしく思っている。(ダルンザドガド市住民)
- ・環境セミナーを受講して、環境保全や砂漠緑化に関しての専門的な知識を学ぶことができとても有意義だった。その後、実際に植林活動に参加できたことも良い経験となった。(ブルガン村住民)



植林活動の様子 (ダルンザドガド市)



植林には大勢の市民が参加 (ダルンザドガド市)



住民向けの環境セミナーの様子



ダルンザドガド市25番学校での植林の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.24ha
植付本数：3,200本

参加者数

モンゴル：1,024人

樹種

ザグ、シベリアニレ、グミ、タマリクス

カンボジア国東部の里山再生を目指した緑化推進事業(フェーズ2)

カンボジア・モンドルキリ州、クラチェ州



事業概要

収奪的な森林開発により森林減少・劣化が進むカンボジア国東部において、人と自然が共生できる里山の再生を目指して活動する。

本事業は3年計画の1年目となる。3年間の事業終了後には地域全体で自立的に緑化が推進されることを目指して、森林管理住民グループ、地方行政機関、小学校、寺院と連携して、①里山再生を目指した植林、②持続可能な森林管理に関する知識・技術力の向上を図る研修、③里山再生の重要性を啓発するワークショップ、④適切な森林管理に必要な知識・技術と森林と里山再生の重要性を記したパンフレットの配付を行う。

事業成果

森林破壊が著しいカンボジア国東部の2つの州で植林活動を実施することができた。非常に多くの住民が積極的に参加し、研修やワークショップの中で、森林保全の重要性

に関するパンフレットを配付するとともに、持続可能な管理についての知識や関心を高められた。

クラチェ州では2校、モンドルキリ州では3校にて活動を実施し、5,600本(40ha)の植林活動を実施することができた。また、本年度は、生存率が良かった学校に果樹を贈呈するという手法を取り入れた。結果は期待どおりではなかったものの、多くの児童たちが苗木のお世話する機会を創出できたとともに、アンケート結果からも植林活動が重要だという認識を持っていることが伺い知ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちのために植林活動を実施してくれてありがとうございます。(保護者)

参加者の声

- ・ERECON(環境修復保全機構)のようなNGOにもっと植林活動を広げてほしい。(村長)



小学校での植林活動



小学校での植林活動



小学校での補植活動



小学校で植樹活動についてのアンケート実施

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4.0ha
 植付本数：5,600本
 補植面積：0.16ha
 補植本数：230本

参加者数

カンボジア：283人

樹種

メンガ、ケランジ、ビルマシタン、タキアン

ラオス国における「村民の森」保全促進事業

ラオス・ビエンチャン県ファイパモン村



事業概要

森林劣化が懸念されるラオス国において、森林機能の向上と山村の所得機会の創出を目指し、集落の森や学校林など「村民の森」における植林等の取り組みを支援し、住民による地域森林の持続的な保全・利用の促進を図ることを目的としており、協働で植樹行事等を行う。

事業成果

ビエンチャン県ファイパモン村の村有林において、日本からの公募ボランティアと地域住民、児童生徒、周辺の行政機関、大学に呼びかけて、210名が参加し、協働による植樹行事を行った。また、児童生徒などを対象に森林講座を行ったほか、村民の森における除間伐材や森林産物を利用した地域産品の開発に向けたセミナーを開催した。これら

活動を効果的に進めるため、森林局及びラオス大学等と連携した技術交流を実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・日本のボランティアによる森づくり支援は、地域住民に育林意欲を喚起するために貴重である。(森林局副局長)
- ・森づくりや森林産物の利用に関して議論できて参考になった。(ラオス大学教授)
- ・子どもたちに森林保全の大切さを教えるいい機会になった。(ファイパモン村長)

参加者の声

- ・郷土の樹種を沢山植えたので、将来どんな森になるのか楽しみ。(地元高校生)
- ・植えた苗木は自分たちが責任をもって育てる。(地元住民)



10年生のビルマカリンのもと、セミナー参加者と記念撮影



森林への理解を深めるワークショップを開催



ラオス国の森林局訪問



ファイパモン村の村有林で村民とともに植樹行事を実施

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.03ha
 植付本数：3,333本
 地拵面積：3.03ha
 歩道作設：3.0km
 森林講座：1回
 森林セミナー：3回

参加者数

日本：167人
 ラオス：198人
 計：365人

樹種

ビルマカリン、シタン、チーク、ノタフォーベ、トンキンチク、メンガ、クラカス、フタバガキ類

キリマンジャロ山麓緑化及び社会生活林形成事業

タンザニア・キリマンジャロ州モシ県



事業概要

過去100年間に約3割の森林を失ったとされる東アフリカ・タンザニアの世界遺産キリマンジャロ山において、「荒廃裸地緑化」、「社会生活林形成」による森林再生活動を行う。主な活動は以下のとおり。①山麓村での苗畑グループの立ち上げ、苗畑開設、②地元環境NGOによる苗畑グループの定期巡回指導実施、③森林に沿う村々と森林保全のための連携体制構築、④山麓村、地域住民参加のもと、劣化土壌に強い樹種による「荒廃裸地緑化」植林及び蜜源樹を主力とした「社会生活林形成」植林に取り組む。

事業成果

キリマンジャロ山全体で進む森林劣化に対しては、村々が地域横断で連携して森林保全に取り組む体制づくりが欠かせない。本事業により、複数村を繋ぐネットワーク形成の端緒を築けた（来年度以降も継続）。多村連携により実施された植林も、今後のキリマンジャロ山における森林保全

の方向性を示せた。また植林では、蜜源樹を含む多目的樹への山麓住民の強いニーズが確認でき、今後の地域主体による森林保全・再生活動を考える上での知見を得た。

事業をよく知る関係者の声

- ・だんだん雨が降らなくなり、苗木が枯れただけでなく、生活水にすら困るようになってきた。森を守らないと、これからどうなるか心配。みんなで力を合わせて植林することがとても大切だ。(40代、苗畑メンバー)
- ・今後各村の持ち回りで毎年植林地を決め、植林を確実に広げていく必要があるだろう。(50代、村長)

参加者の声

- ・木がないと土もなくなってしまう。そういう場所での植林は大変だが、やらないとますます悪くなるばかりだ。(植林参加者、20代男性)
- ・学校のみんで苗木運びを手伝った。早く木が大きくなって周りが緑になるとうれしい。(植林参加者、小学生女子)



元NGOと植林協力について話し合い



指導員による苗畑グループの指導風景



マリンガ村荒廃裸地植林 総勢280人が参加



ロレ村社会林形成植林 総勢約300人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：6ha
植付本数：1万本
苗畑指導：10回
山麓村会議：17回

参加者数

タンザニア：798人

樹種

カリアンドラ、ムクマリ、キンボウジュ、クロトン、ハゴロモノキ、パトウラムツ

正藍旗における地域密着型生態林再生事業

中国・内モンゴル自治区シリングル盟正藍旗ホンシャンドーク沙地



事業概要

当地モンゴル族が中心となり設立されたボランティア組織「正藍旗博日嘎思公益緑化協会」協力の下、地域に根付いた生態林を再生し、砂漠化防止と緑化、事業自立化を目指す。以下4項目を中心に取り組む。①急速に進行する当地の砂漠化を、低木類を中心とした植栽で防止する。②在来種を中心に植栽することで、植生を回復させ生態林を再生する。③植栽した苗木から挿し木や種子を得ることで緑化資材の自給化を図り、自立化した事業へと移行する。④地域住民及び現地団体と共同で事業を進め、緑化活動に対する技術及び意識の向上を図る。

事業成果

本事業では在来低木種で尚かつ住民の生活に結びつく樹種を選択して植栽することで、現地の要望に沿う形で砂漠化地域の緑化を進めてきた。これまでの成果を目の当たりにし、近隣住民の緑化活動に対する意欲が向上している。ま

た、前年度作業に参加したことで、技術的にも向上が見られた。近隣住民の中には自宅周辺に苗木を自ら植栽するなど、より緑を身近なものとして捉え始めている。

事業をよく知る関係者の声

- ・植栽作業時はもちろんのこと、年間通して管理方法や防護柵補修作業の指導など細やかなアドバイスに感謝している。地球緑化クラブの現地スタッフも砂漠地帯出身ということもあり、近隣住民も親近感があり大変良いコミュニケーションが取れていると感じている。(協会担当者)

参加者の声

- ・昨年も植林作業に参加したが、作業を行った地域では確実に緑が増えている。自分たちが植えた苗木が順調に生育している姿を目にすることは今後の励みになる。緑を増やすことは不可能と思っていたこの地に、徐々に緑が広がっている姿を見ることができ、大変うれしく思っている。(近隣住民植林作業参加者 40代男性)



金網防護柵設置作業 (ホンシャンドーク沙地)



在来低木苗



在来低木種植栽作業



植栽作業に参加した現地の方々

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4ha
植付本数：2万5,200株
金網防護柵：600m

参加者数

中国： 159人
現地スタッフ： 50人
計： 209人

樹種

黄柳、旱柳、在来低木種

ジャカルタ湾岸 マングローブ林再生プロジェクト

インドネシア・西ジャワ州ブカシ県ムアラ・ゲンボン郡パンタイ・バハギア村



事業概要

ジャカルタ西部湾岸地域におけるマングローブ林の回復事業。エビ養殖池においてシルボフィッシュアリー形式*の森林回復を目的とし、オオバヒルギの植林を実施する。

植林事業により将来的に自然生態系の回復が見込まれ、天然のエビ・カニなどの漁業資源の回復が期待できることから、森林回復活動と地域住民の生計向上効果の両立を目指す。また、地域住民に対して環境教育を行い、社会林業の重要性を啓発する。 *造林と漁業を組み合わせた手法

事業成果

- ・事業実施地における優先種であるオオバヒルギの植林。
- ・計8haのエビ養殖池において、2×1m間隔の植付を行い、計2万本の植林を実施。
- ・植付に際しては、地域住民の要望に基づき、海岸浸食の被害が発生している地点に防護林として線状に植林し、

浸食による養殖池の流亡を防ぐ工夫を行った。

事業をよく知る関係者の声

現地を管轄する林業公社職員からは、①予定どおりの植林を実施、②地域住民の参加で植林が実現、③地域の森林回復活動のモデルとなりえること、などの観点から大きな評価を得ることができた。また、環境林業省が新規に始めている社会林業プログラムの趣旨とも合致することから、環境林業省への成果報告なども勧められている。

参加者の声

- ・事業参加者は地元の漁民であり、マングローブ林が回復することに伴ってエビ・カニなどの漁業資源が増加することに大きな期待を抱いている。実際に過去に植林を行った地域では天然の漁業資源が復元され、その漁獲により収入向上に繋がっている。今後も自助努力を通じて森林回復に努めたい。(植林実施地域住民)



活着率を高めるために育苗開始から6カ月ほどの苗木を使用



苗木をエビ養殖池に運ぶ



苗木が流亡しないように添え木に苗を縛る



エビ養殖池と植林活動との共存を図るため、エビ養殖池の畔部分に植

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8ha
植付本数：2万本

参加者数

インドネシア：94人

樹種

オオバヒルギ

パレスチナ・ラマッラー県農村の公共地への植樹事業

パレスチナ・ラマッラー県



事業概要

不法投棄されたゴミなどで荒れた放棄地に植樹して、地域の人々の憩いの場として再生することを目標とする。主な活動は、以下のとおり。①放棄地のごみの撤去及び地ならし、②放棄地の周りに土砂崩れ、転落防止及び動物による食害防止のためのテラスとフェンスの設置、③植樹のための穴掘り、苗やコンポストの調達、④地域住民と植樹会の実施、⑤点滴灌漑設備の設置、⑥苗の生育状況のモニタリング及び農業専門家による栽培技術支援。

事業成果

放棄地を公園として再生し、事業後も地域の人々の憩いの場とすることが目的であった。植樹した苗の成長状況によるが2024年2月に一般開放を予定した。地域の人々から公園活用のアイデアが挙がっている。追加の植樹や、ベンチやゴミ箱の設置なども議論されており、地域の人々が中心となって憩いの場を作り上げていくことが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・周辺の村を含めて、この地域には家族が余暇を過ごせるような公共空間がなかった。ラマッラー県の中心地には公園などがあるが、イスラエルによる占領のため移動が制限されており、気軽に行くことができない。そのため、地域内での憩いの場が切望されていた。(村長、60代男性)

参加者の声

- ・学校の子どもたちを連れて、地域のゴミ問題や植樹の取り組みは初めてだった。公園として開放されたら、子どもたちを連れてきて、ここで環境問題や地域についての授業を行いたい。(学校教諭、30代男性)
- ・果樹をたくさん植えたので、果物狩りのイベントを行ったり、村の女性組合が果物を加工したいなど、村の住民から様々なアイデアが挙がっているので、公園のオープンが楽しみだ。(村議会メンバー、50代女性)



環境整備前の植樹地



植樹会。チームワークよく植えていく



植え付け作業が終わってから、みんなで記念撮影



定植状況視察指導

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
植付本数：135本
放棄地の整備：0.3ha

参加者数

パレスチナ：35人

樹種

イナゴマメ、ブドウ、イチジク、レモン、プラム、アプリコット、パッションフルーツ

バングラデシュ国テクナフ半島の住民による森林再生

バングラデシュ・テクナフ半島



事業概要

ミャンマーからのロヒンギャ難民の増加による難民キャンプ造成等により急激に森林破壊が進んだテクナフ半島で、住民の主体的参加・管理による植林を促し、「持続可能な森林」を再生する。当該地域は漁業で生計を立てている住民が多く、森林伐採は将来的な漁業資源にも影響を与え、住民の収入が悪化する恐れも考えられる。テクナフ半島のうち、特に森林伐採が進んでいるエリアは、難民の居住空間になっているため、植林を行うことはできないことから、地域内の学校やモスクなどの公共施設などで植林活動を行う。

事業成果

地元住民を対象に5つの管理グループを結成した。バングラデシュはイスラム教徒が多いため、女性が家の外の活動に参加する事が少ないが、本グループは女性も巻き込んだ。各グループに対し植林の重要性やその手法などに関するワークショップを開催した。また、植林と今後の植林に

向けた苗床の整備・育苗を行い、植林木の管理が各グループを中心とした生徒や住民によって、現在も継続的に行われている。普及啓発活動として「世界環境デー」を記念して開催したイベントに、生徒、教師、住民が参加し、植林や環境問題について広く知る機会となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・多くの住民を巻き込み植林活動を行うことができた。また、事業地の学校で広く環境問題について学び、その対策として木の重要性を理解したことは、植林木の今後の管理等の面からも効果がある。(林野専門家)

参加者の声

- ・様々な会議、意識向上集会、ディスカッションを通じて、森林、海、その他の天然資源の重要性について学んだことで、植えられた苗木の価値が分かり、熱心に管理などに取り組もうと思った。(生徒)



植林する苗木を持つ地元住民



植林した木の様子



道路わきでの植林の様子



世界環境デーイベントの様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：3.41ha
植付本数：9,000本
苗床整備：0.16ha
世界環境デーイベント：1回

参加者数

バングラデシュ：1,500人

樹種

マホガニー、メデミア・アルガン（食用ヤシ）、カマバアカシア、オリーブ、ココナッツなど

中央カリマンタン国立公園周辺地域の環境保全事業

インドネシア・中央カリマンタン西コタワリンギン県クマイ町



事業概要

開発で焼失した森を再生させるため、村の公園づくりを通して森の再生を行い、国立公園近隣住民の環境保全の意識向上と生計の向上を図る。主な活動は次のとおり。環境保全を目的として、村の有志によるオランウータンの棲む森の公園造りを3年前から始め、国立公園に隣接するエコパーク内のバッファゾーンに植樹を行う。また、村の有志の協力により、村の小中学校1校で郊外授業による環境教育活動を行う。授業内容は当該地域で活躍する世界的オランウータンの研究者、ブルーテ博士を取り上げ地域の偉人について学べる教材を作り、生徒たちが将来を考えるきっかけとする。

事業成果

前年度に比べ1,000本多く植樹を行うことができた。コロナの影響が弱まり、公園計画を実行し始めることができた。

昨年からはじめた宮脇メソッドによる植樹方法を踏襲し、加えて植樹時に苗木に栄養剤を添加する策を行った。これにより苗木の生存率と成長を増すことを期待している。

事業をよく知る関係者の声

村の小、中学生がなかなか訪れることができない、村から10kmほど上流のキャンプリーキーで校外学習を行うことができ、村の教師の複数人から感謝の言葉があった。また、今回の環境教育の題材も名前は知っているが、詳しいことは知らないでいる地域で活動する偉人を取り上げた題材が良かったという意見が出ていた。

参加者の声

村の小、中学生でもなかなか訪れる機会のない場所での校外学習だったため、生徒たちはみな楽しそうだった。オランウータンのフィーディング見学では食い入るように観察をしていた。



植付は小中学校の環境教育活動として行った



オランウータンの棲む森の公園造りとして小中学生が植付を行った



在来種を植え付けた



在来種の植付を行った現場

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.018ha

植付本数：1,800本

参加者数

インドネシア：70人

樹種

在来種

パンチカール市 地域住民とともに森づくり

ネパール・カブレパランチョーク郡パンチカール市



事業概要

パンチカール市の共有林、土砂崩落地域、学校などで地域の緑化推進、土砂崩落防止のために、住民と地元グループが中心となり市行政と協議して、植林を行う。また共有林管理のために、用水路の整備を実施する。植林後の木々は、住民と地元グループが中心となり、管理を行う。学校では、環境教育及び木の育成に必要な堆肥作りの研修を実施。学校周辺に植えた木々は、生徒たちが管理を行う。

事業成果

従来、ネパールの森林の活用の減少とともに、地域の森林管理グループの活動が弱体化してきている。今年度、コミュニティフォレストユーザーグループが中心となって動き、共有林の整備を実施したことで、改めて地域のグループが共有林を守っていく意識が高まった。学校では植林を実施して、施肥するための堆肥作りもしたことで、生徒たちが木の育成に責任を持って関わるようになってきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・剥き出しだった土地の緑化が植林によって進み、今後景観もよくなっていくだろう。貯水池や用水路が整備され、森林が潤うようになった。メンバー間のモチベーションも上がり、互いに協力し合う姿勢ができてきた。活動への参加率も増加してきている。今後、モチベーションを持続させていくのが課題である。(コミュニティフォレストユーザーグループ代表)

参加者の声

- ・学校内の木の世話、雑草取り、施肥、水やりなどを大事にしていこうと思った。(環境教育講座参加の学生)
- ・地域の環境課題が理解できた。(環境教育講座参加の学生)
- ・学生グループを作り、学校内の自然環境を良くしていくために、取り組むことにした。(環境教育講座参加の学生)
- ・堆肥を購入しなくても、自分たちで作れば、森林管理に有効であることがわかった。(堆肥作り研修の参加者)



ジャンボテ共有林での植樹活動



共有林の植林に伴う貯水池の整備



コンポスト作り研修



ガネシュ小中学校にて環境教育

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.34ha
 植付本数：1,560本
 整地：7日間
 掘削作業：20日間
 支柱設置作業：24日間
 環境教育講座：4回
 堆肥作り研修：1回

参加者数

ネパール：727人

樹種

ヒマラヤサクラ、シナモン、フトモモ、ジャカラランダなど

中国内蒙古・ホルチン砂漠の砂漠化防止活動

中国・内蒙古自治区通遼市



事業概要

過放牧や過開墾等の人為的な経済活動により急速に砂漠化が進行した中国・ホルチン砂漠の植生の復元及び地元住民の自立支援を目的として、以下①~④の緑化・砂漠化防止活動を行う。①通遼市庫倫旗アオルン地区の荒漠地150haを封柵し、マツ・ポプラ・ニンティアオ・黄ヤナギを植栽して植生の回復を図る。②井戸を掘削し、灌水機材も準備して植栽した苗木の灌水を実施する。③ニンティアオの種を播種し、植被率の向上を促進する。④ポプラの草取りを実施して活着率を向上させる。

事業成果

植栽したポプラ、ニンティアオの活着率は68%、64%で、成果は良好。マツは、夏季植栽のため9月中旬時点では98%の活着率。ニンティアオも順調に発芽・成長をしている。一部前年度から継続した参加者には、作業チームのリー

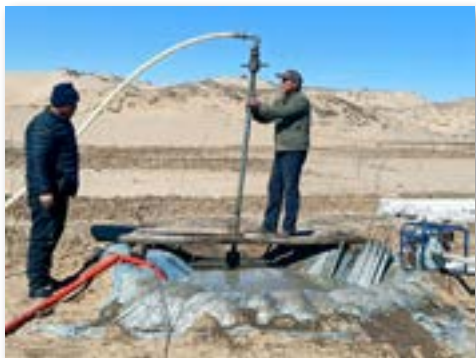
ダー的役割を担ってもらい、住民間での情報共有や意見交換の活性化に努めた。

事業をよく知る関係者の声

- ・昨年植栽した苗木が少しずつ成長して緑が回復したのは、しっかり灌水や草刈りなどの管理がされているからだと思う。今年も継続して植栽している大量のニンティアオが砂の固定を進め、ニンティアオ飼料が大量に生産されるようになると、住民の緑化地に対する興味関心も格段に進む。(庫倫旗ガボウ牧場・副場長)

参加者の声

- ・緑化地は普段の畑仕事では行かない砂丘の奥にあり、作業時に初めて足を運んだが、昨年植栽した苗木が成長しているのを見て、スゴイと思った。実際に緑化作業を自分で体験するのは、話で聞くだけより思い入れが強くなると思う。(ガボウ新村村民)



水圧で井戸を掘削中



家畜などから樹木を守るため柵を設置



ポプラ植栽作業。大型トラクターで掘った溝にさらにスコップで穴を掘り植栽



昨年度に播種したニンティアオが見事に活着。今年は播種量を5倍に増やした

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：37.8ha
 植付本数：51万7,000本
 播種面積：84ha
 (ニンティアオ1,000kg播種)

参加者数

中国：464人
 計：464人

樹種

ポプラ、ニンティアオ本、黄ヤナギ、マツ

ミャンマーの持続可能な森づくり事業

ミャンマー・ヤンゴン地方域タイチータウンシップ



事業概要

森林の劣化・減少が著しいミャンマーで、地域の人々が持続的に利用可能な森林を造成するため、竹の有用種を植林することが目的である。主な活動は以下のとおり。①現地共同事業者 (MRBEA) との事業計画調整、②機械・器具の調達及び搬入、③地域住民への協力依頼と地拵えなど環境整備、④苗木の準備、⑤MRBEA 及び地域住民による植付・管理継続、⑥MRBEA、地域住民、当会スタッフ、クラフト品生産者による植林交流会、⑦日本での広報と募金活動。

事業成果

クラフト品等に利用可能な竹の有用種 2 種の植林を実施し、4 ha の竹林を造成した。植林された竹は 3、4 年後には十分に生育し、植林地周辺の竹製品生産地で利用される。現地の人々が利用可能な竹林の造成、木材代替資源である竹の活用促進、地域住民の安定的な収入創出によって、持続可能な森づくりに寄与した。

植林地では、MRBEA、地域住民、当会スタッフ、クラフト品生産者、計 39 名で植林交流会を実施することで、事業

参加者が森林保全や資源管理について意識する機会を醸成することができた。さらに同活動を、ミャンマーでは MRBEA のウェブサイトで、日本では当会ウェブサイトやチラシで、一般社会へ発信することで、植林の普及促進と環境意識の啓発に寄与した。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域住民を含め様々な参加者が竹植林活動を通じ、森林の保全や資源管理について改めて考えを深める良い機会となった。また、汎用性の高い種を選んで植林することで、地域住民が適切に竹林の管理を行いながら、同時に地域住民の安定的収入が見込める今回の事業は、ミャンマー社会にとって非常に重要なものであり、支援いただいた皆様に感謝したい。(現地共同事業者)

参加者の声

- ・竹林は生活に欠かせない資源であり、植林を通じて環境保全について学べる機会は貴重。(参加者・40代男性)
- ・たくさんの人たちとともに汗を流し、植林後には達成感を味わうことができた。また、森林保全に貢献できたと思うとうれしい。(参加者・30代女性)



竹有用種の植林のための整地



植林交流会



植林交流会全景



植林交流会参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4ha
植付本数：1,800本
植林交流会：1回

参加者数

ミャンマー：59人
計：59人

樹種

タケ 2 種 (現地名カルウェ・ワ、現地名ティヨ・ワ)

温泉水の利用による燃料木の温室育苗と植林

タジキスタン・アリチュール及びゾング



事業概要

ソビエト崩壊後のパミールのエネルギー危機を持続可能な方法で解決する方法の一つとして、テレスケンという天然の燃料木の造成と植林を提案。①パミールの中核都市アリチュールに10haに及ぶテレスケンの生態観察と保護区を兼ねてフェンスで囲った区域を設置する。ここではできるだけ自然のままのテレスケンの造成を試みる。②温泉水の熱エネルギーが得やすいゾングにて、温室を構築する。

事業成果

①アリチュールでは10haのテレスケンの保護区に、氷河の融水を灌漑し、周囲にフェンスを施し人畜の影響を排除したため、数か月の灌漑によってテレスケンを含む自然植生の更新がみられた。②ゾングに建設した全天候型の温室は冬季外気温がマイナス25℃になっても、温室の内部温度は10℃を保ち、冬季でも作物やテレスケンの栽培が可能であることが証明された。地域住民の喜びは言葉に言い表

ない。全天候型の温室の成果に感動し、自分の村でも全天候型の温室を建設してほしいと願っている。

事業をよく知る関係者の声

World Food Program (国連の機関WFP) は、温泉水の熱エネルギーを利用した温室の設置構想は非常に画期的とし、活動の継続を期待している。これが日本のボランティア基金が支援していることに多くの人々が感動している。パミール生物研究所の所長及びテレスケンの研究者に対して重要な情報の提供がなされ、共同研究が締結された。

参加者の声

- ・温泉水の熱エネルギーを利用した全天候型の温室の建設を多くの村人が期待している。厳冬期にも作物が収穫できるこのシステムは画期的で、厳冬期の野菜不足に大いに貢献する。温泉水を利用した温室農業という新しい職種が生まれるのではないか。(高校教師)



テレスケン保護区の設定、穴掘り



氷河からの融水を導いたテレスケンの保護区



テレスケンの天然更新に成功



全天候型温室の現地見学会

実績とりまとめ

作業内容

保護観察区面積：10ha
保護観察区の人畜の進入防止柵

樹種

テレスケン

フィリピン沿岸部の自然再生のための植林事業

フィリピン・西ネグロス州 サンエンリケ郡タバオ・ベイベイ村



事業概要

浸食される沿岸部の住民の生命と財産を守り、生態系が保全され漁獲高が回復することを目的として、マングローブを植林することである。主な活動内容は以下のとおり。①沿岸部に2万本(2ha)のマングローブの苗(ボガロン)を植林、②地域住民による定期的な沿岸の清掃活動、③高校の生徒を対象とした環境教育の実施、④当団体のスタッフによる住民団体のメンバーへの技術指導。

事業成果

沿岸部の植林活動として、ボガロンの苗木2万本(2ha)を住民団体のメンバー、現地の学生等(計9回、延べ310名参加)して行った。沿岸部での清掃活動は、住民の意識の変化が大きかった。活動前は、沿岸は多くのゴミで溢れかえていた。清掃活動を始めることにより、ゴミのポイ捨てなどの環境問題について考えるきっかけとなり、活動に対

して、より熱心に取り組むようになった。清掃活動は計10回実施し、延べ293名参加した。活動前と比べ、沿岸はとてもきれいになっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・台風や強い波などの影響を直に受ける場所のため、植林活動がかなり難しかった。そのため、2年目は植林をする時期をずらすなど、工夫して行いたい。(現地コーディネーター)

参加者の声

- ・植林や清掃活動を通して、視野が広がった。地道な努力が必要だが、近い将来、成果が現れることを期待する。(現地住民団体のメンバー)
- ・植林や清掃活動は、自分たちのコミュニティに良い環境の変化をもたらした。(現地住民団体のメンバー)



植林活動の様子(満潮になる前に植えていく)



環境教育の実施(スタッフがパンフレット使って活動等説明)



環境教育の実施(レクチャー後、植林活動を実施)



清掃活動の様子(干潮になると大量のプラスチックゴミがあるのがよくわかる)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2ha
植付本数：2万本

参加者数

フィリピン：615人
計：615人

樹種

ボガロン

ボリビア森林火災撲滅の為の人材養成強化

ボリビア・サンタクルス県



事業概要

各自治体における森林保全と森林火災予防管理における人員を強化し、熱帯雨林再生と焼き畑農業の適切な管理としてのアグロフォレストリー農業の推進に資する苗場の整備と育苗を地域住民やボランティアで持続的に運営することを目的とする。

主な活動は、焼き畑から農業を変革するために育苗技術指導とアグロフォレストリーセミナー、植林を実施する。

事業成果

県の森林管理局や、市の環境課などが協力してくれ、苗木運搬や食事提供、住民への連絡などの協力体制ができてきている。また、高校生ボランティアや2市で高校生の授業の一環としてアグロフォレストリーの講習会を行った。

消防ボランティアは自立（技術の継続）に向かっており、県などから継続的な消火道具などの支援を受けることができてきている。

事業をよく知る関係者の声

- ・この地域で森林関係の支援の協力機関は少なく、国際協力機関はDIFARのみ。今後も息の長い支援を期待したい。(UMNI県の森林管理局)
- ・3年目の圃場で野菜が採れはじめ、植林した木も大きくなりバナナの収穫も間近。(デモ圃場持ち主)
- ・もっと他の地域にも支援してほしい。
- ・将来間伐材利用や伐採もできる樹種を選んでほしい。

参加者の声

- ・アグロフォレストリーを経験した。夢があると思った。焼き畑をするのは良くない。(高校生)
- ・年々、川の氾濫がひどくなり被害地域も増える一方で木を植える行為と支援してくれることに感謝。(バドデイエソ村住民)
- ・苗木を支援するのは自立に向かう重要な支援。今後も技術移転などで継続してほしい。(キルシージャ村市長)



植林エリアを柵で囲う村人たち



学校での植林



種採取の様子



苗木場建設の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.6ha
植付本数：3,000本
下刈面積：2.2ha
講習会：4回

参加者数

県内：131人
県外：12人
計：143人

樹種

果樹、タヒボ、セドロ、ハルカ、アカシア、モジェ、クルパウ、マラングアイ、ティツパ

ベンゲット州におけるアグロフォレストリー推進事業

フィリピン・ベンゲット州マンカヤン町、トゥブライ町



事業概要

ルソン島北部の重要な水源地であるにもかかわらず、森林の農地への転換が急激に進む山岳地方において、アグロフォレストリーによるコーヒーの植樹を推進する。事業地ではコーヒー栽培がブームで、良質な苗木が不足し、収穫期を迎えても期待した収穫が得られず、せっかく植えた木を抜いてしまうケースがある。また、マーケットも混乱気味である。環境に配慮して栽培されたコーヒーへの認証付与効果によってアグロフォレストリーによる植樹を広めるために、苗場と栽培地の認証申請のための準備を行う。

事業成果

コーヒー栽培ブームで苗木の入手が難しく、昨年の植樹はできなかったが、今年は1万本のコーヒーの苗木を、マンカヤン町の先住民に配布して植樹してもらった。雨季の始まりとともに受益者たちは大変熱心に植樹を行った。事業で苗木を分け植樹方法を伝えるだけでなく、収穫物の加

工や商品としてのコーヒーの品質までトレーニングに取り入れたことで、受益者は具体的にアグロフォレストリーによる植樹の経済的、社会的、環境的なメリットを実感でき、植樹に対するさらなる意欲の向上に繋がった。

事業をよく知る関係者の声

- ・パンデミックにより、私たちは自然の免疫力を上げるために、ビタミン、栄養価の高い食料を生産できる健康的な環境を維持することが必要なことを実感した。今回の事業地は、いま最も急激に森林が破壊されている場所だ。農薬を大量に散布する野菜栽培に代わるアグロフォレストリーによるコーヒー栽培に、一部の農家がシフトしてくれることだろう。(有機農家リーダー)

参加者の声

- ・苗木の質や育成の方法、さらに収穫や加工の方法が、飲料としてのコーヒーの味や香りに影響があるなど思いもよらなかった。(コーヒーの品質講習会に参加した農家)



アラビカ・コーヒー苗木場



植樹の様子



GAP 認証講習会



GAP 講習講習会 - コーヒーの品質について研修

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1万本
GAP認証取得を目的としたアグロフォレストリ栽培地の整備

参加者数

フィリピン：30人
計：30人

樹種

アラビカ・コーヒー

マダガスカルでの土砂流失防止の植林事業

マダガスカル・アンボヒダヴァ村アンパリヒツオカトラ コミューンなど



事業概要

アンボヒダヴァ村では、サイクロンが来ると必ず田畑や家屋に土砂が流れ込む被害が生じる。この村において、土砂災害を防止することを目的とした環境修復活動を行う。

事業成果

参加者のほとんどが、サイクロンが来ると必ず田畑や家屋に土砂が流れ込む被害にあったことがある。この経験が、植樹への参加を促していたことは毎年の住民へのインタビューで分かった。

今年は草原を整備し、以下の樹木を植樹した。アカシア (*Acacia・mongue*) 6,000本、ユーカリ (*Eucalyptus*) 9,000本、ピナス・パツラ (*Pinus/patula*) 500本、である。例年に倣い、前者2種は傾斜が比較的緩やかな平地に植樹し、後者の1種はやや急斜面に植樹した。これらの植樹サイトはアンボヒダヴァ村の5つのエリア (commune) に、計10haの中に植樹した。肥料は購入したが、農具は他の村から貸し出し

を受けた。参加したおよそ1,500人の住民は専門家から植樹の指導を受け、植樹した。村人はともに作業する楽しみを徐々に享受し、それを実感しつつある。継続することが植樹の大切さに対する意識を変化させた。

事業をよく知る関係者の声

住民たちの声として、①サイクロンが来ても川の水が田畑に入らなくなった。②暖を取る木が近くにあるという実感、と言う声があった。住民は極めて貧しく、素足の人たちがほとんど。暖を取る木材が近くにあるのは、彼らにとって、生きるに欠かせないものなのかと考えさせられた。今後は、守るべき森林と暖を共有できる林の区分などもコミュニティ全体で考えたい。

参加者の声

- ・自然の風景が良くなった。(小学5年生男子)
- ・緑の景色が見られ、健康にもいいように感じる。(小学5年生男子)



アンパリヒツオカトラ村の地形



植樹予定の苗床



指導を受けながらの植樹



植樹を終えて

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10ha

植付本数：1万5,500本

参加者数

マダガスカル：約1,500人

他：1人

計：約1,501人

樹種

ユーカリ、アカシア、ピナス

ネパール・シンドパルチョーク郡におけるコーヒー育苗と栽培による環境保全

ネパール・バグマティ州シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村10地区



事業概要

産業がない地域においてコーヒー植樹により、産業づくりと持続可能な環境保全活動を実施することを目的とする。対象地は地震で崩壊した環境の復興を行うために複数年植林を実施してきた。しかし植林のみを多エリアで実施することは保全維持を行う上で限界があるため、換金作物にもなる地域的に新しい作物のコーヒーを選んだ。

事業成果

3世代にわたり実をつける有機コーヒー地域となることで、安定した収入を得るとともに、継続的に環境保全の実践を行うことに繋がる。このような方法が地域住民の関心をひきつけ、コーヒー農家としてチャレンジすることを目指す人たちが前年度より増加した。また1本でも植えて様子をみることを希望する人たちが急増し、育苗した苗を積極的に配布した。

主な活動として、コーヒー植樹を継続的に実施するため

に、日本人専門家がコーヒー育苗と育成方法の講習会を希望する農家に指導し、1,532本植樹。地域のコーヒーモデルファームづくりを行い、1万株の育苗の実践と700本(内300本購入、400本は昨年育苗)の植樹に加えて、コーヒーの木への直射日光を避けるための日陰樹1,000本を植樹した。

事業をよく知る関係者の声

- ・はじめて植樹するものに対しての育成方法が1回では十分に理解されていなかったが2年目の実施で理解度が上がったこと、関心度が上がったことが見回り訪問をしてわかった。コーヒーの新産地として期待できるとともに地形より植樹は不可欠な地域であるので、更に実施する人たちが増えることを期待する。(日本人専門家)

参加者の声

- ・植える方法が重要であることがわかり、60cm四方の穴を掘って一本ずつ丁寧に植えた。成長が楽しみだ。(参加者)



車が入らない地域へのコーヒー苗の配布



植樹を行う前の穴掘り作業



コーヒー植樹の様子



日本人専門家による講習

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：15.6ha
 植付本数：3,232本
 整地作業、モデル農園づくりほか

参加者数

ネパール：132人
 計：132人

樹種

コーヒー、カスタノブシス、サンヘンブ、クベバパイパー、ユーカリ

持続的なコーヒー生産のための水・森林保全

東ティモール・エルメラ県レテフォホ郡ドゥクライ村ハトゥレテ集落、コルコリ集落



事業概要

地域住民と協力して森林緑化を推進し、水源涵養機能の回復を図ると同時に、住民の主な収入源であるコーヒーの生産量や品質の持続可能な管理に向けた啓発活動を行う。コーヒーアグロフォレストリー専門家によるワークショップの実施、苗床の設置と育苗指導、森林管理を主な活動内容とし、森林の健全性と水源の保護に寄与する。

事業成果

地域の住民はこれまでほぼ手付かずの自然の中で生活していたが、本事業を通じて自然環境を自分たちで守る重要性に気づき、保全意識が向上した。地域では植民地時代からコーヒー生産が盛んであり、コーヒーのシェードツリーは当時持ち込まれた高木一種に固定されてきた。しかし、本事業を通じてコーヒーに好影響を与える多様な木々が存在し、豊かな森によってコーヒーの品質が向上することを住民に広めることができた。多様な樹木を植えることで森林

再生及び保全に対する理解が深まった。

弊団体スタッフは全員が事業地であるレテフォホ出身であり、本事業を通じてアグロフォレストリーや森林保全について意欲的に学び、ワークショップ後には自主的に来年度の新植に向けた苗木づくりを始め、指導対象であるコーヒー生産者への栽培指導を通じて、森林保全やアグロフォレストリーの重要性を知ってもらうことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・とても有意義なワークショップで、住民にとっても理解しやすい内容だった。参加者が今回教わったことを実践することに期待している。(レテフォホ郡農業普及員)

参加者の声

- ・森林保全がどうして必要か、アグロフォレストリーとは、など新しい考え方を知ることができた。ピースウィンズ・ジャパンが教えてくれた簡単な土壌改良をやってみた。どう土が変わっていくか楽しみ。(コーヒー生産者)



コーヒーアグロフォレストリー専門家によるワークショップ。右が講師、左が通訳のピースウィンズスタッフ



苗床の設置と育苗指導。苗床での育苗指導



剪定・土壌改良ワークショップ



混作用作物とシェードツリー苗木の配布

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4ha
 植付本数：3,910本
 樹勢回復：230本
 下刈面積：41ha
 間伐面積：0.23ha
 アグロフォレストリー
 ワークショップ：6回
 剪定・土壌改良
 ワークショップ：2回
 苗床設営：2回

参加者数

(ワークショップ、苗床設営)

東ティモール：281人
 計：281人

樹種

モクマオウ、アカシア、オレンジ、ターメリック、シウガ

ミャンマーにおける若者主導の森づくり事業

ミャンマー・シャン州、ホッポンタウンシップ、ナンパーキ地域5村



事業概要

持続的な緑化のために、緑化活動を主導する若者リーダー育成と緑化基金創出による緑化推進及び伐採を減らす仕組みづくりを行う。主な活動は以下のとおり。①緑化が継続する仕組みの構築：緑化委員会組織、若者リーダーの育成を実施。②植林実施：モデルファーム、水源、畑周囲に合計5,400本の植林実施。③研修の実施：環境保全研修、堆肥作製研修、苗作り研修を実施。④苗作り：次年の植林に向けた1万6,000本の苗作り、育苗施設の整備（ナーサリー、給水施設）を実施。⑤薪伐採の削減指導：少量の薪で調理可能なかまどの配布（300個）、リーダーによる植林の必要性の指導・研修を実施。

事業成果

事業地付近で少数民族同士の衝突があったため、若者が国外へ逃亡してしまった。そのため、前年度までに実施した若者を中心とする活動はできなかったが、40~50代の篤農

家を中心となり、自らの畑でAF農法を実践する人が現れた。共同農園で植林を実施することで、地域の人々へ視覚的に訴えることができるモデルファームができた。かまどの配布で、薪のための伐採が3分の1程度に減少した。

事業をよく知る関係者の声

- ・植林樹種の選定によって、地域の人々にとって価値がなかった森が大きな価値を持つ森になる。本事業のようにチークを植えたり、換金作物でもあるコーヒーを植えたりすることで森の価値を高め、みんなで保全できるようにしていきたい。（事業実施村の村長）

参加者の声

- ・薪が少なくなり、毎日長時間探さないと薪の確保が大変なので、少しの薪で調理ができるかまどが非常に役に立った。（かまどを配布した村の村人）
- ・家具材や果樹など、少しでも将来役に立つ木を植えていきたい。（植林に参加した村の人）



モデルファームのための堆肥小屋建設の様子



環境保全研修の様子



アグロフォレストリーのためのヤシ植付



かまど配布の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：8.8ha
植付本数：5,400本

参加者数

ミャンマー：185人
計：185人

樹種

チーク、アカシア、ネジレフ
サマメ、セイロン鉄木、ミサ
キノハナ、ヤシ

次世代の森づくりを担う 人材育成事業



「里山の四季」育成体験事業

福島県小野町



事業概要

子どもたち、学生、子どもを持つ親世代に対して地域の自然環境の大切さを体験してもらうため、四季を通じての森林作業と山の恵みを舌で感じてもらうことを目的としている。主な活動は以下のとおり。①夏：植樹した木々に追肥作業、ブルーベリー収穫、米粉のパン作り。②秋：雑木の伐採、玉切り、コースター作り、栗拾い、キノコの収穫体験とキノコの判定会、栗ご飯とキノコ汁作り。③冬：薪割り、キノコの植菌作業、薪を燃料としてもち米をふかして餅つき体験・餅の試食、福島復興を応援する新しい八重桜の品種「はるか」の植樹。④春：植樹した苗木の周りの下刈り作業、山菜の収穫と天ぷら作り、そば打ち体験。

事業成果

将来的に花や実のなる木々を植樹したことにより、里山の恵みを体験できる公園にしたいと考えようになった。これからも別の季節で咲く花木の植樹を継続していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・四季を通しての事業は新しいと感じた。(他団体の理事)
- ・コロナ禍を脱しないと人を集められない。(事務局)

参加者の声

- ・とにかく楽しかった。みんなで一緒に作るお昼ご飯は特に美味しかった。
- ・四季の山を体験できて良かった。
- ・植樹した「はるか」の花が咲くことを楽しみにしている。



新しい八重桜の品種「はるか」を植樹



ブルーベリーの収穫（「里山の四季」夏）



栗ご飯作り（「里山の四季」秋）



薪割り体験（「里山の四季」冬）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2ha
 植付本数：40本
 樹勢回復：100本
 下刈面積：2ha
 間伐面積：0.5ha
 「里山の四季」育成体験：7回

参加者数

県内：302人
 計：302人

樹種

サクラ

『創』美しいもり!!プロジェクト

群馬県みどり市、前橋市、高崎市、東京都世田谷区



事業概要

若いインフルエンサー・大学生など次世代を担う若者向けに、SDGs目標達成のためのプログラム開発及び社会実験を行い、SDGs活動や映像創作を通して将来の森林（もり・やま・しんりん）づくりのリーダー育成を目指す。また、創作された映像を基に、「美しいもりが、人・環境・豊かさの調和のとれた地域が創生・再生された社会=SDGsが達成された社会に寄与する」ことを前提とした問題意識の共有、実績の共有、自分ごと化を進めるためのブラッシュアップを行う。

事業成果

参加者創作映像からは、「人と森」、「人と自然」、「人と環境」が調和した未来を映像化した人も多く、これは実際に現場で「生業」として森林と関わる人との交流によるイノベーション、また、SDGs活動の成果であると考えている。また、ブラッシュアップに当たっては、人（ボランティア活動を行

う）との繋がりの強化や、森との繋がりの強化という点では参加いただいた皆さんがそれぞれ一歩踏み出すことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・研修を通して講師陣と参加者の良い関係が築けたこと、特に林業を生業としている講師陣との交流は参加者に非常に良い影響があったと思う。また、去年の経験者サポート参加者のおかげでよりスムーズに事業を実施できた。（主催者）

参加者の声

- ・映像制作、チェーンソーなどやること全てが初めての経験で、内容が充実していて参加した3日間がすごく早く感じた。動画編集も言葉選びが難しく長い時間いろいろと考えて、最後に「美しいもり」とはについて伝わるように言葉を選んでいく工程が楽しく勉強になった。（参加者）



現地研修。チェーンソー体験研修



現地研修。映像制作を通して美しいもりづくりを探求



現地研修。創作映像の発表



美しいもりと次世代の森づくり、美しさがつむぐ未来のカタチをテーマに基調講演とディスカッションを開催

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：20～30本（移植）
研修内容：

SDGsを深く理解するための映像制作、SDGs講義、美しいもり、SDGsへの理解と発信

参加者数

県内：81人
県外：181人
計：262人

森林ボランティア青年リーダー養成講座(森林・里山ボランティア入門講座)

東京都青梅市、奥多摩町、京都府亀岡市、兵庫県宍粟市、香川県さぬき市、丸亀市、まんのう町、徳島県三好市他



事業概要

体験から一歩進んで、森林ボランティア活動に継続して関わる若き担い手を育てることを目的とする。主な活動は、東京、関西、四国3カ所での18歳～40歳代を対象とした講座の実施で、それぞれ5回連続の講座を実施する。

第1回：オリエンテーション、レクチャーなど、第2回～第4回：道具の使い方、間伐など人工林の整備、雑木林の整備、竹林整備など、第5回：振り返りなど

事業成果

東京では23期(23年)、関西では15期(15年)、四国では5期(5年)にわたって講座を実施しており、これまでに548名が参加した。卒業生達は東京では奥多摩町、関西では京都・亀岡市、兵庫・宍粟市で継続した森林保全活動などを実施している。また、森林ボランティア活動のリーダーを担える人材として成長したメンバーもいる。

今年度は新たに32名が参加し、森林・林業・農山村につ

いて理解するとともに、森林保全活動に参加する若者を増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・若い人が多く、うらやましい。ボランティアで関わる若者が多くなってくれば、林業も変わってくると思う。もともと林学をやっていた人では絶対に出てこないような発想があるような気がして、期待したい。(関西講座の指導をお願いしているNPO関係者)

参加者の声

- ・自分自身が変わっていくこと、微力でも社会や環境に影響を与えていること、この変化が少しでも本質的な人々の豊かさに繋がることを願って、活動をしていきたい。(関西講座参加者)
- ・森林ボランティアを通して間伐、枝打ち、植栽に参加させていただきたい。森の大切さを後世に伝えることが大切だと感じた。(四国講座参加者)



道具の使い方の講習(東京都奥多摩町)



竹林整備(香川県丸亀市)



間伐作業(京都府亀岡市)



関西講座での振り返り

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
除伐面積：1.5ha
間伐面積：1.5ha

参加者数

県内：32人
計：32人

樹種

クヌギ

人工林の生物多様性保全活動のモデル化

千葉県山武市



事業概要

生産林としての価値が低下した放置人工林では、林内が暗く発育が良くない細い木々が密集地帯になっており、斜光のない森では植物が育ちにくく、生息する生物が乏しい人工林となっている。そのため健全な人工林の育成と人の手を加えることによる生物多様性に富んだ森づくりに着目し、環境改善の方法をモデル化することを目的とする。

事業成果

専門家を招き、林内の動植物の調査や調査に基づいた生物保護対策を実施した。昨年に引き続き、人工林管理や生物多様性保護を継続し、ボランティア参加者を増やした。新規参加者へは山武市のブランドであるサンプスギの紹介や人工林育成の意義、林内と溜池を観察し、生物多様性の尊さを伝え、次世代の環境保全を担う人材育成を行った。

専門家とボランティアが協力した溜池周辺の動植物調査では、数年前に発見されたトウキョウサンショウウオは発

見されず、在来種のシュレーゲルアオガエルやタガメなど水生昆虫が見つかったほか、外来種のアメリカザリガニが発見された。外来種による在来種の生息が脅かされている可能性が高く、このままでは生態系が変化してしまうため、次年度は専門家指導のもと在来種保護を実施したい。また、溜池の水位が下がっており湿地帯周辺の乾燥化が進んでいる可能性があり、土流の流出防止や葎植物草刈などを検討したい。

事業をよく知る関係者の声

- ・事前打ち合わせをもう少し早めに段取り、決めてほしい。活動目的や活動を行う姿勢はとても共感しているので、頑張ってもらいたい。(専門家)

参加者の声

- ・学校や日常では自然にふれあえない。貴重な経験ができた。(大学生)
- ・心地良い汗がかけて良い運動になった。(60代男性)



植樹活動



植樹会集合写真



湿地整備



伐採作業(チェーンソー使用)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：175本
 下刈面積：1.3ha
 除伐面積：0.1ha
 間伐面積：0.4ha

参加者数

県内：99人
 県外：145人
 計：244人

樹種

クヌギ、コナラなど

気候変動対策! 土地本来の森づくり体験教育

東京都大田区、品川区ほか



事業概要

次世代教育事業として森づくりの大切さを伝えるために様々なイベント・講座の開催を通して、森の大切さと森を大切にする照葉樹林文化をも継承することを目的とする。主な活動は次のとおり。①小学校での学校環境保全林再生プロジェクト、②小学校での森林の役割、土壌生物講座など、③企業に対する次世代教育として植樹祭など、④実働型次世代育成事業として森林再生の実践者を次世代へ継承する「森林再生指導員認定制度」の実施。

事業成果

前年度までに森林再生指導員の人数が格段に増員できたことにより、次世代育成事業の活動範囲を広げることが可能となった。小学校への関わり、企業の植樹祭の実施は、運営をサポートできる森林再生指導員の増員による。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後も森林再生指導員の人員拡充は引き続き行い、同時にスキルレベルの向上を図る。現状では、森林再生指導員はサポート役に留まっており、レベルを向上させることで、他地域への派生及びより多くの時間と人員を次世代育成事業へと結びつけることができると考える。

参加者の声

- ・第1回の授業「森への必要性への理解」では、木々が盾となって災害から人々を守っていること、その土地に合った木々を植えることが大切であること等、多くのことを子どもたちは学び取った。(小学校教諭)
- ・植樹リーダーとして事前研修を受け、実際に参加者に苗木の植え方をレクチャーしたのは初めてだった。多くの方々の事前準備を考えると、大切に苗木を植える気持ちが強くなり、当日は無我夢中でレクチャーしながら苗木を植えていた。(植樹リーダー)



小学校での植樹



小学校での森の講座



森林再生指導員研修の講義の様子



リーダートレーニングの風景

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：256㎡

植付本数：1,430本

森林資源活用

(枝で粗朶づくり)：60m

再資源化(マルチング用藁)：

680束

再資源化(使用済み活性炭)：

100kg

参加者数

県内：120人

県外：188人

計：308人

樹種

潜在自然植生種

都市の里山資源の活用推進事業

神奈川県横浜市



事業概要

都市の里山保全活動で産出する間伐材や伐木材を有効活用することで、持続的な里山保全及びその活動を推進することを目的とする。今年度は、間伐材の活用手段として一般の参加者を対象としたグリーンウッドワーク研修、研修参加者の自主活動となるワークショップ、また、ワークショップの指導や今後の研修会の担い手育成のための指導者養成講座を実施する。

このグリーンウッドワークで使用する材料は、当該団体の定例活動日（第2、第4日曜日）で樹林地保全の結果として産出する間伐材を活用する。

事業成果

過年度に、里山保全に関する技術講習会を実施し、団体として安全に里山保全活動を行う技術と体制を整えた。里山保全活動で産出する里山資源活用の検討を開始し、グリーンウッドワークによる生木の活用技術の取得した。今後

この技術を生かした講習会の開催に向けた準備を行うことができた（道具の整備、講習方法の習得）。今年度、ワークショップ参加者が自主活動を始めるとともに、団体内での指導者養成を行ったことで、次年度以降、自立的に活動を進める態勢を整えることができたと考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年度の活動を通して、グリーンウッドワークショップ運営の仕組みづくり、指導者の育成が行われたことで、資源活用の活動が確立するとともに、次年度以降の事業の自立化の基盤が整ったことは成果だったと考える。（理事）

参加者の声

- ・初めてグリーンウッドワークでヘラを作ったが楽しかった。（参加者）
- ・箸は作りやすかった。技術を向上させてスプーンを作れるようになりたい。（参加者）



間伐作業



グリーンウッドワーク指導者養成講座



グリーンウッドワークのワークショップ



グリーンウッドワークのワークショップで参加者が製作

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：5.4ha
除伐面積：5.4ha
間伐面積：5.4ha

参加者数

グリーンウッドワーク
指導者養成講座：34人
ワークショップ：49人
森林整備：335人
計：418人

次世代環境リーダー育成 森林ワークキャンプ

青森県鱒ヶ沢町、福島県いわき市、栃木県益子町、茂木町、東京都渋谷区、三重県名張市、大阪府富田林市、高知県大川村



事業概要

森林保全活動を通じて、学生と地域住民をつなぎ、森林保全への意識と行動をともに高め、交流や連携を生み出す。主な活動は以下の通り。①全国6カ所で10事業、7～6月に7～14日間(計77日間)、間伐・下刈り・歩道作り・植樹等の森林保全ワークキャンプ(合宿型ボランティア活動)の実施。②リーダー訓練合宿に合わせ、成果報告会や事業のプロモーションイベントを4回開催(東京3回、大阪1回)。③11月にこの事業の対象になった受入団体代表に呼びかけ、大阪府大阪市で「森林ボランティア開催地サミット」を実施。こうしたワークキャンプが新しい活動モデルとして全国各地に広がり、また、参加したボランティアや住民が保全活動の新たな担い手として活動を発展していくことも期待。

事業成果

大学のボランティアサークルや大学本体とのグループ事業は、まとまった人数で活動するため、地域側にとって作

業成果が期待でき好評だった。23年になり、コロナ以前に取り組んでいた国際ワークキャンプが復活。地域側にとってもハードな森林保全作業のため、海外からボランティアが参加することは、大きなモチベーションに繋がった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍の中、細心の注意をはらいながら実施した。たくさんの若者が来てくれると作業も進み、パワーをもらえる。ありがたい。(富田林の自然を守る会会員)
- ・外国人参加者と楽しく活動できた。交流できた地元の人たちも楽しんでいたので良かった。(白神山地を守る会)

参加者の声

- ・同じ年代のメンバーとの共同生活、森の重要性を学び活動できたことは、本当に楽しかった。コロナでなかったとしても学校では学べない。少しでも森林保全に貢献できたと思えたらうれしくなった。(栃木youth参加者)



白神山地の森林整備(青森県鱒ヶ沢町)



湯ノ岳の森林整備(福島県いわき市)



竹林整備(栃木県茂木町)



里山の保全活動に参加したみなさん(大阪府富田林市)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：150本
 下刈面積：1.1ha
 除伐面積：1.6ha
 間伐面積：1.5ha
 子ども自然体験キャンプ

参加者数

県内：50人
 県外：80人
 計：130人

樹種

ブナ、イタヤカエデ、ミズナラ

若者達が多世代を繋ぐ持続可能な里山再生事業

神奈川県二宮町、大井町



事業概要

風水害で崩落がみられる里山を再生、光と風が入り、土壌環境の良い植生の根が張れる健康な森を作り、若者が専門家に学びながら技術、知識を身に付けることで子どもたちを真ん中に据えた啓発事業を並行して行い、多世代参画の持続可能な仕組みづくりに寄与する。活動内容は、①川勾天山や吾妻山東西谷戸の山林について、若者を中心とした住民が林業専門家の指導を受けながら、竹林整備、間伐、高所伐採、下刈りを行い山林環境の改善を行った。②大地再生講座を行うことで土中の水の流れを学び、土砂崩れのリスクや対策を学んだ。

事業成果

本事業では500人の子どもから大人までが参加。地主、地域住民、行政の信頼を得て吾妻山山麓の名跡知足寺の理解を得て踏査にかかり、整備計画を策定し、事業化することができた。若者たちはすでに専門家の助手として町外の山

林地域で助手を務められるようになった。大井町の森林整備では林業専門家の指導受けながら、若者たちが主体的に作業を進めた。さらに、地域の若者が自然のレジリエンスを学び、防災、減災の実践的技術を身に着ける山林整備事業の価値を大きく確認できた。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちが入れる森が増えてうれしい。貴重な学びを幅広い家庭の子どもたちとニーズの強い親子支援の場にしていきたい。土に触れ土壌について分かる、知る動きをしっかりと進めたい。(教育委員)

参加者の声

- 吾妻山の本当の姿を知った。山林整備作業は自分にとって大きな学びだった。道具を使うこと、安全のための精密な段取り、チームワーク、生きることの学びに満ちていた。世界の学びに直結するSDGs教材といえる。学校教育と連動したい。(大学生)



高所伐採 (川勾地区 山林整備)



竹炭づくり (川勾地区 山林整備)



タケの間伐 (知足寺 モデルエリアづくり)



安全講習 (知足寺 森林整備)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.0ha
 除伐面積：1.8ha
 間伐面積：1.8ha
 森林資源活用：
 薪、竹炭、ホダ木

参加者数

計：500人

森と生きるキャリア研修 in 佐渡島

新潟県佐渡市



事業概要

中高生と、ひきこもり・障害を持つ社会的弱者や青少年たちが、厳しい社会・経済状況や災害時に「生き抜く力」を身につけながら、持続可能な社会をつくる重要なメンバーとして社会参加・社会貢献するSDGsモデルを構築する。活動は、①バイオマスを活用したエネルギー資源創り、地域循環共生圏の重要な担い手として活躍するための人材育成研修、少人数制研修の実施。②グリーンジョブ・ボランティアを創出のため、中高生・社会的弱者などの青少年を対象とした、エンパワーメント・環境教育の実施。

事業成果

研修には延べ308名が参加し、青少年が本格的な経験を積むことができる人材育成研修を実施できた。また、ツリーハウス骨組み部分とジップラインを作成できた。社会的弱者を理解しつつ指導できる林業・ツリーハウス専門家と障がい者支援に関わる専門家・職員のネットワークが、組織

を超えて横繫ぎに構築できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・障害を持つ青年たちは、大変楽しみにして参加しており、自尊心や自信、作業能力が高まった。ASDなどの障害を持つ青年の協調性も高まった。精神・体力面で大きな効果を感じたので、研修の日数を増やしていただきたい。(就労支援施設チャレンジド立野代表)
- ・他団体や、新潟など佐渡島島外の指導者との協働は、今までの視点や切り口とは異なる障がい者支援のあり方を考え、トライすることができた。林業などの専門家と自分たちのような障がい者支援が協働することの可能性は大きいと思う。(就労支援施設あんの家職員)

参加者の声

- ・特別支援学校の生徒たちが広々とした自然の中で遊び、イキイキした表情を見せてくれたのにはとても感動した。またぜひ実施してほしい。(佐渡特別支援学校教師)



森林整備



薪づくり



ツリーハウス用に木を伐倒後、皮むきを実施



ツリーハウスの骨組み(左)、完成したジップライン(右)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
 植付本数：30本
 樹勢回復：1本
 下刈面積：0.6ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：0.7ha
 森林資源活用：20日
 森と生きるキャリア研修：45日

参加者数

県内：238人
 県外：70人
 計：308人

樹種

ヤマザクラ

大学生による森林・竹林整備

京都府京都市、南丹市、京田辺市、宇治田原町



事業概要

森づくりから木工品、炭づくりまでの木質資源の循環利用を普及させ、当大学を日本一森林に関心を持つ学生が多い大学にすることを目指す。主な活動は以下のとおり。①大学が所有する大枝演習林において、主伐木の成長を阻害する樹木の下刈り・伐採、②三山木・宇治田原の竹林における健全な竹林維持のためのタケ刈、③伐採したタケが持続資源として有効活用できることを周知、また、実際に持続資源にするための炭焼き活動。

事業成果

大枝演習林における下刈りによって、ツタ類を除去した上、異常繁茂したソヨゴを除伐することによって稚樹の健全な育成に貢献をすることができた。三山木竹林活動なら

びに宇治田原竹林活動では竹林の整備を行った上で、伐採後のタケの有効的な利用法を考えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年度の活動を通して森林整備事業を学生の皆さんにはより身近に感じてもらえたと思う。一方で学生活動の弱点でもあるが、世代間での引継ぎが上手くいかないという長期的活動を見据えることができないので、次世代の育成により尽力してもらいたい。(演習林職員)

参加者の声

- ・下刈りの活動は成果が目に見えるので気持ちが良い。(3回生)
- ・活動場所は思っていたより急な斜面だったが、活動を経て比較的スムーズに登れるようになった。(1回生)



6名で下刈り作業を実施



急傾斜地で間伐作業



竹林整備



総勢16名でタケノコ掘り

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.8ha
 除伐面積：0.8ha
 間伐本数：38本
 森林資源活用：0.44ha
 炭焼き合宿、希少種観察

参加者数

県内：92人
 計：92人

次世代と共につくる里山と菊炭の未来2022

大阪府能勢町、池田市



事業概要

里山保全に重要な地域固有の製炭業(菊炭)が放置林や獣害で衰退している。この課題解決に次世代とともに取り組み、植樹を通じて次世代が継続的に関わる持続可能な里山を目指す。

次世代の森づくりを意識し、地元や近隣の高校生大学生の参加を積極的に働きかけ、菊炭窯の見学や里山見学会、里山管理作業体験等を実施。近隣市の小学校への里山出前講座や園芸高校の里山学習の受け入れは定着しつつある。今年度は安全な里山管理作業のために労基法に基づく機材の取扱講習会を実施。

事業成果

植樹会では植樹苗の半数を園芸高校の苗を用いることができた。地元高校生徒の提案で海外留学生の菊炭窯見学会を実施したことにより、留学生たちは自主的に植樹会にも参加された。日本の森林保全活動への関心が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林現場の事故を防ぐためにも刈払機の安全な利用は基本。グループ活動で1人が適正に使えばその周りの人間もおのずと注意するようになる。(安全講習会講師)
- ・森林保全の取り組みは実際の現場に行かなければ分からない。(高校教師)
- ・小学校の園庭に植えて育ったクヌギを里山に植樹する、という取り組みは子どもたちにとって大きな経験。今後も取り組んでいきたい。(小学校教師)

参加者の声

- ・刈払機講習で機材と安全な使い方を学べた。自分や他者の身を守るために講習会は絶対必要だ。(森林ボランティア)
- ・自然の中にいると気持ちが良くなる。(植樹会参加者)
- ・自然は言葉や国籍を超えて人々を結びつける力がある。植樹会で目を見張るような経験ができた。(留学生)



高校生を対象とした里山研修



ドングリのポット苗づくり(小学校出前講座)



刈払機についての安全講習(里山作業安全講習会)



クヌギを植樹(菊炭と里山を未来に繋ぐ植樹会)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.22ha
 植付本数：580本
 除伐面積：0.05ha
 製炭学習、里山見学、里山管理作業・安全講習会、木工クラフトほか

参加者数

県内：259人
 県外：21人
 計：280人

樹種

クヌギ

森づくりを目指す若きリーダー養成事業

鳥取県、徳島県、高知県高知市、室戸市、四万十市、香南市、香美市、馬路村、四万十町、三原村



事業概要

高知県の豊かな森林資源を適切に管理し、将来に引き継いでいくために若きリーダーの養成を目指す。主な活動は、大学生を中心とした若者を対象に、森づくりに関する基本的な知識の学習や、チェーンソー等を使った人工林・竹林整備の実践研修のほか、様々な森づくり、地域づくりに関する先進事例の視察研修、民間企業や行政の森づくり活動に関する取り組み等を学ぶための研修事業を実施した。

事業成果

森林整備や環境問題に関心を持つ大学生や地域づくり活動に携わる若者、林業家を目指す若者などが養成講座を受講し、森づくりへの関心がより高まり、各自の更なる取り組みに繋がっていった。また、コロナ禍で低迷していた、こうち森林救援隊の定例会活動の充実に繋がったほか、行政や民間企業、他のボランティア団体との新たな繋がりも構築できた。

事業をよく知る関係者の声

高知県の広大な森林資源を健全な形で管理し、後世に引き継いでいくためには、川上から川下までが連携した様々な取り組みが重要と感じた。今回の研修事業を通じて多くの若者が森づくりに関心を持ち、積極的に活動に参加してもらえたことは大変に意義がある。今後も引き続き1人でも多くの若者が森づくりの活動に参加する機会が確保されると同時に、こうした事業を応援する企業も増えていくことを期待している。(協賛企業四国銀行地域振興部部長)

参加者の声

- ・チェーンソーを使っの伐採作業は貴重な体験になった。
- ・林業だけでなく、森づくりや地域おこし等の様々な取り組みについて幅広く学習できたことが良かった。
- ・研修事業の継続実施を期待する。
- ・スケジュールが合わず、なかなか研修に参加できなかったのが残念。



森林の課題を学ぶ座学講座



除間伐体験



竹林整備



受講者と講師、応援の方々、事務局のみなさん

実績とりまとめ

作業内容

森づくりの若きリーダー養成講座：21回

参加者数

県内：336人
計：336人

スギ等森林の 有効活用支援事業



森の笠地蔵プロジェクト2022

岩手県遠野市



事業概要

間伐材の薪利用の普及拡大と、薪を自力で調達するのが困難となっている一人暮らしの高齢者の支援を目的とする。主な活動は以下のとおり。①森林ボランティアと間伐・造材・集材・搬出・薪づくり及び薪棚整備、②自力で薪調達困難な高齢者の調査（遠野市社会福祉協議会と協力して行う）、③自力で薪調達困難な高齢者の家に薪を無料で配達、④ひきこもり者を調査し薪づくりの活動へ参加を促す、⑤マスコミやインターネットで情報発信。

事業成果

本事業についての認知度も高まり、薪づくりに参加する市民も増えてきている。また、新たな試みとして、ひきこもり者や不登校中学生を対象に森林整備や薪づくりを体験させるために、社会福祉協議会や不登校の親の会などの関

係団体と協議を重ね、森林整備と資源利用について、福祉分野で更にネットワークが広がってきている。

事業をよく知る関係者の声

- ・遠野市内でも「ひきこもり」の人はかなりいるので、できれば就労に結びつけられるところまで、この活動が展開できるようになってほしい。(遠野市社会福祉協議会職員 40代)

参加者の声

- ・自分が間伐した木が人の役に立つので、やりがいを感じる。(森林ボランティア 50代男性)
- ・みんなで薪割りをするので、一人より楽しいです。(薪づくり参加者 40代男性)
- ・薪だけでなく、煙突掃除までしてもらって助かります。(80代男性)



間伐体験会(枝払い)



薪づくり(19名参加)



薪づくり会での集合写真



高齢者宅へ薪を配達

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：30ha
 森林資源活用(薪づくり)：12回
 森林資源活用(薪配達)：18回(軽トラ41台)

参加者数

県内：817人
 計：817人

わたしたちの里山保全活動

千葉県市原市



事業概要

森の様々な生き物を守る、地球温暖化を防ぐなど多様な機能維持に資するため、高齢化で手入れが行き届かず、荒廃した里山林の整備を行うことを目的とする。主な活動内容は以下のとおり。①ヒノキの間伐を行い優良木として育成。②間伐したヒノキは、伝統的手掘り井戸「上総掘り」のヤグラ材として提供し、また、子どもの居場所「プレーパーク」で使う縛材として利用。③2019年房総半島台風による倒木の伐採、玉切り等を行い、活動基地で使うマキを製作。④雑草木を刈払いし一般市民によるコナラの苗木を植栽。⑤野外教育団体の森林環境学習。

事業成果

- ・ヒノキの間伐したことで陽が入る林になり、また、間伐材が利活用され、森林所有者及び活用先から感謝の言葉があった。

- ・台風で被害を受けた倒木の片付けを行うことで、作業環境の改善、良好な景観になった。
- ・小中学生にとって里山維持の大切さを実感できた貴重な体験になった。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動地域の高齢化同様、私たち団体の高齢化も進んでおり、このままではいずれ活動が立ち行かなくなる。現在の平日活動に加えて、若い者の参加を促す週末活動を行う必要がある。(60代男性)

参加者の声

- ・間伐をしないと木は大きくなることが分かった。(小学6年生)
- ・自ら皮をむいたヒノキ丸太がヤグラ材として使われていてうれしかった。(小学5年生)



雑草木の刈払い作業



ヒノキ伐採作業



ヒノキの皮むき作業



薪づくり作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
 植付本数：10本
 下刈・除伐面積：0.6ha
 間伐面積：0.2ha

参加者数

県内：205人
 計：205人

樹種

コナラ

世田谷・川場上下流連携の森林活性化事業 第Ⅲ期

群馬県川場村



事業概要

放置されている群馬県川場村内の人工林（針葉樹林＝スギ・ヒノキ林）を下流域の世田谷区住民が地元の地権者等の村民と協力して整備することを目的とする。主な活動は次のとおり。①地元住民と協力したボサ刈り・枝打ち・間伐、②植林後の低木育成のための下刈り、③間伐材を燃料に、近くにある広葉樹や竹林・松林の整備で発生する竹と松を原料として炭焼き並びに地元で計画されているバイオマス利用への協力、④山間地散策路整備への材料提供・作業協力等による「循環型」の森づくりのサイクルの完成。

事業成果

新たな間伐材利用方策として保養施設（世田谷区民健康村なかのビレジ）近傍の林間散策路整備に間伐材を提供するとともに、道普請も実施した。

地元特産物のリンゴの植え替えに伴う伐採木を炭焼き材として活用する試みが本格化した。また、広葉樹林の更新時期にあたる林地の間伐も行い、炭焼き利用の量が増大した。

事業をよく知る関係者の声

- ・村で推進しているバイオプロジェクトへの理解・協力を得られて感謝している。今後も積極的な関与をお願いしたい。（川場村村長）
- ・散策路づくりへの材料提供だけでなく、炭焼き技術の継承にも力を貸していただいている。今後の活動継続にも期待している。（世田谷区民健康村なかのビレジ所長）

参加者の声

- ・交流会中止等により外部からの参加なし



リンゴ園での下刈り作業



伐倒した広葉樹の枝払い・玉切り作業



広葉樹林の更新。材は炭材や道普請に活用



リンゴの植え替えに伴う伐採木も炭材に活用

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.1ha
 除伐面積：1.0ha
 間伐面積：1.4ha
 森林資源活用：炭焼き

参加者数

県外：103人
 計：103人

みんなで集う多様で豊かな森づくり活動

東京都八王子市



事業概要

八王子市南浅川町梅ノ木平国有林、部分林、及び隣接民有林(約82ha)を対象に植樹等の森林整備を行うこと、作業フィールドや宿泊研修施設を活用して森林体験教育を行うことなどを活動目的とする。主な内容は、①過密になっているスギ・ヒノキ人工林の間伐と風倒被害木等の処理、②ツル切り、除伐、林床整理、植樹、歩道整備、③学校や企業、地域グループ、親子などを対象にした森林作業体験教育、④間伐材を利用した木製品の製作と福祉施設への寄贈などである。

事業成果

①天然林施業・刈出しや広葉樹の植樹を実施したことでスギ・ヒノキ人工林の混交林化が進んだ。②間伐・除伐等の作業を新規の森林で行ったことで、整備済み森林が拡大した。③親子などを対象に16回の森林作業体験を行い、森林

理解の増進を図った。④間伐材を活用して活動の拠点整備を実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・小学校5年生の授業として森林体験を行ったが、大自然を満喫でき、帰りのバスはみんな笑顔が絶えなかった。(小学校教諭)
- ・木材がどのように生産されるかを学ぶことができた。(高校教諭)

参加者の声

- ・山を良くするためには木を切ることも、その木を使うことも大事だ。(男性参加者)
- ・除伐した跡の林が見違えるように明るくなり気持ちが良かった。(女性参加者)
- ・植えた木の成長が楽しみだ、また会いに来たい。(小学5年生)



小学校の植樹体験



参加した子どもたちの集合写真



定例作業による除伐



間伐材を利用した木工体験

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：130本
間伐面積：0.8ha
ツル切り除伐：1.6ha
歩道整備：1.0km
体験活動：16回

参加者数

県内： 941人
県外： 115人
計：1,056人

樹種

オニグルミ、トチノキ、ヤマグリ、コナラなど

市民参加による森林づくり「山と緑の協力隊」

長野県上松町、滋賀県多賀町



事業概要

学生や一般市民が森林整備を通じて自然環境への理解を深め、森林の持つ機能を知る機会になるような森林ボランティア活動を企画する。長野県赤沢休養林で2回、滋賀県多賀町の高取山で1回の合計3回の活動を企画し実施する。

赤沢では主に間伐・除伐を行う。高取山ではスギ苗の植栽と間伐や枝打ちを行う。地元山林組合の職員による森林教室も開催し、森林の持つ機能を学び、水源涵養を理解する機会につなげる。

事業成果

赤沢自然休養林では令和4年10月と令和5年6月に木曾ヒノキの成長のため除伐・間伐を実施した。

滋賀県多賀町では令和4年11月に実施。少花粉スギ苗200本の植栽を行った。滋賀県多賀町での活動は、今回初めて

植栽活動を実施した。これまで間伐・枝打ちといった保育管理に関わるものが中心だったが、少花粉スギの苗を植えることができ、参加者も森林の果たす役割や木材の循環などを体感できる機会に繋がった。

事業をよく知る関係者の声

- ・植栽の活動を一緒にしてもらえて助かった。今後は維持管理などでもお手伝いいただけるとうれしく思う。(大滝山林組合・職員)

参加者の声

- ・ノコギリで木を伐る大変さとやりがいを感じた。木を伐ると空が開けて日光が入ってきた際にはとても達成感を感じることができた。
- ・実際に山の中で木を植えることで森林が循環する最初の部分を経験できて良かった。



間伐作業（長野県赤沢休養林）



間伐作業後の集合写真（長野県赤沢休養林）



植栽（滋賀県多賀町・高取山）



枝打ち（滋賀県多賀町・高取山）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.17ha
植付本数：200本
間伐面積：0.92ha

参加者数

県内：17人
県外：41人
計：58人

樹種

少花粉スギ

自伐型森林整備支援事業

愛知県豊橋市



事業概要

より安全な森林整備活動を実施するために、自伐型林業（山主自らが伐採し、出材する林業形態）を目指す小規模山林所有者や更に森林に関心のある一般市民を対象に高強度かつ軽量の牽引伐倒用具を展示・紹介し、併せてこれら用具を使用した間伐事業を実施する。また、伐倒木のできるだけ高い位置に牽引点を設置する必要があり、その方法の検証・実習を進める。

事業成果

高強度で軽量の牽引伐倒用具は、これまで使用してきたワイヤーウィンチと比べ大幅な軽量化に成功し、また、倍力システムを組むことで牽引作業の負担軽減につなげることができた。

牽引点設置についてはツリークライミング愛好家の発明品（アンコウフック）を利用することで、高さ10mまでなら

ば特段の技術習得等を要せずに容易に実施できることが検証された。この機材を導入することで、軽量の牽引伐倒用具とあわせ樹木伐採時の効率化と安全が図られた。

これらの成果により、高齢者や女性などにも森林整備に関わる可能性を大きく広げることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・豊橋市の森林整備・普及啓発活動、ボランティア活動の発展に協力いただいております。感謝しています。引き続き市との連携に期待しています。

参加者の声

- ・大変有意義な講習だった。もっと開催してほしい。（講習会参加者）
- ・このような装備品があることを知らなかった。安全な作業に繋がることを知った。（森林整備支援参加者）



間伐調査



間伐の実施



樹上作業用具の安全な使用方法研究会



器具を使って牽引点の設置を行う
（樹上作業用具の安全な使用方法研究会）

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：0.3ha
森林整備普及啓発活動、森林間伐作業講座、自伐森林整備支援ほか

参加者数

県内：84人
計：84人

間伐整備活動で取組む三河湾の生態系の保全

愛知県安城市内、岡崎市市内、岡崎市桜形町私有林、豊田市県有林



事業概要

愛知県三河湾の約41%の干潟が失われた。栄養分と良質な砂を持続的に供給する森づくりを目的に、間伐整備に取り組む。

事業成果

本年度は、愛知県岡崎市の私有林を48回、豊田市羽布町県有林の間伐整備活動を1回実施し、2020年度から間伐作業に取り組んできた山林が2023年3月で終了し、2023年4月より、小栗山山林において、新たな間伐作業に取り組んだ。事業を円滑に進めるため情報収集や間伐材出荷のため、額田木の駅プロジェクト月例会に12回出席。募金活動は、会の総会と地域の13イベントに出展し実施できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・猛暑日の中でも、会では年間（週1回）を通して間伐活動

を実施している。熱中症対策として一部会員は空調服を使用しているが、参加者全員の熱中症対策が必要だ。（会員）

- ・間伐体験者に貸し出す「安全装備（ヘルメット・防振手袋・チャップスなど）」や「チェーンソー」が3名分しかなく、3名以上の体験希望者を受け入れられないことがある。貸し出し用の装備の充実が必要。（会員）

参加者の声

- ・環境保全の重要性やSDGsに関する知識や興味があった。間伐整備作業の現場を親子で体験できたことは大変良かった。（間伐体験者、50代主婦）
- ・間伐作業体験者のSNS等に上げられた感想や画像・動画を見て活動を知り、間伐体験に参加させていただいた。初めての体験ばかりで全てが新鮮だった。（間伐体験者、40代主婦）



伐倒



搬出



集合写真



積み木贈呈式

実績とりまとめ

作業内容

下刈・除伐面積：0.78ha
 間伐面積：5ha
 森林資源活用：
 間伐材36.43㎡、間伐材を原料とした積み木作り5.0㎡

参加者数

県内：727人
 計：727人

地域性苗木による花粉の少ない森林づくり

滋賀県高島市安曇川町



事業概要

台風被害のスギ林倒木地を整備し、花粉の少ない広葉樹の森づくりを目指す目的で、県内外から参加者を募り、植樹地の保全管理、新たな植樹地を拡大する。

事業成果

苗木の成長に応じて下刈りの方法など育樹活動の内容に変化が出てくるのは興味深かった。初めて草刈り鎌を握る大学生、普段土に触れることがない社会人等、様々な世代や職業の参加者が集まり、ともに作業をすることで森づくりへの興味関心が深まり、良い交流の場ともなっていた。継続的に活動に関わる参加者も増え、育樹活動の重要性を改めて皆が認識するとともに、愛着のもてる森づくりを続けていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林に興味を持つきっかけとしてもボランティア作業と



様々な樹種を種まきして苗木をつくる



苗木の鉢上げ見学・体験の後。集合写真



植樹体験



植樹地の下刈り

いう入口はとても良いと思う。活動の趣旨を伝えるためには、参加者の目線に立って、基本的な森林の仕組みや樹木の生態について、簡潔に説明することが大事だ。(森林インストラクター会員)

- ・人工植林の跡地の活用については課題が多いが、もともとの植生に戻すという動きはもっとあっていいと思うし、このような森づくり活動が各地に広がっていくことを願う。(林業従事者)

参加者の声

- ・長いスパンで、タネから芽吹き、苗木となったものを植樹し、その後森になっていく様子を見守っていくことが、面白そうだと感じた。(30代女性)
- ・植樹することの意味や森林の現状について、現地で話を聞いて実感がわいた。植える樹木の特性など詳しい資料があればわかりやすかった。(60代男性)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
 植付本数：200本
 下刈面積：0.72ha
 植樹地等保全管理：10回
 イベント：3回

参加者数

県内：36人
 県外：40人
 計：76人

樹種

コナラ、クヌギ、カシ、トチ

災害に強く脱炭素社会に貢献する森林づくり

島根県大田市三瓶町



事業概要

国立公園内にある荒廃林(人工林)を少花粉スギ苗の植栽を通じて人と環境にやさしく、二酸化炭素吸収源としての森林へと再生することを目的とする。主な活動は以下のとおり。①2年に渡り、荒廃林を皆伐、②ボランティアによる下刈り、片付けの実施、③少花粉スギ苗の植栽、植栽は市民参加型で実施、④“森林と仲良く、そして未来に”をテーマに学習講演会の実施。

事業成果

ボランティアによる作業応援体制の継続が課題であったが、何とか定着化の目途がついた。ボランティアの方1名が、実行委員会に参加することとなった。また、植栽は市民や親子のイベントとして効果的で意義ある活動となった。少花粉スギ苗の植栽は大田市において初めてのことであった。

大田市域内で市民との協働でこのような活動を実施している団体は、極めて少ない。しかしながら、小さな当団体でも継続することで、確実に活動を広げることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ボランティアの方が、これだけ集まるのかとチョットびっくり。(林業従事者)
- ・皆伐から薪づくりまで、通して参加できる計画を考えてもらいたい。(林業従事者)

参加者の声

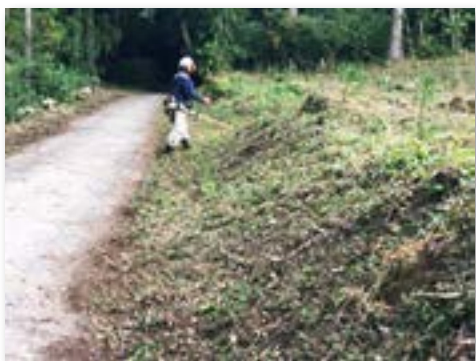
- ・チョット危険かなと思っていたが、安全だった。(50代男性)
- ・残材の薪割りイベントに参加したい。(40代男性)
- ・学習講演会が20名弱で寂しかった。島根県や大田市の森林の状況が聞け、大変勉強になった。(50代男性)



植栽イベント



植栽イベントの集合写真



進入路草刈中



前年度植栽エリアを下刈り中

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：1,000本
 皆伐・集材等面積：0.5ha
 地拵え面積：0.5ha
 下刈面積：0.5ha

参加者数

県内：98人
 計：98人

樹種

少花粉スギ

子どもたちの未来の 森づくり事業



緑の募金では、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」並びに㈱ファミリーマートの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「子どもたちの未来の森づくり事業」を実施しています。

こまおかの森 げんきづくり事業

北海道札幌市



事業概要

目的は、子どもたちに緑を愛する健全な心身を養い、社会のために役立つ自主的な活動を行わせることで、自然物への愛着が深まり、自然愛護の心情を養うこと、学校林の再生に関わることで、生涯にわたり森林を大切にしようとする心、限りある資源を持続可能な視点から活用しようとする態度を育てることである。主な活動は、学校裏に隣接する「学校林」で、樹木や植物、野鳥、虫の観察を行うこと、森の学習会、伐採・剪定・間伐作業、薪づくり体験活動、巣箱づくり、巣箱はずし、巣箱かけ、ネイチャーゲームなどの自然体験活動である。

事業成果

児童が学校林で伐採した樹木から薪を作り、「野焼き」に活用することで、エネルギーの循環や資源の有効利用について学ぶことができた。地域に住まわれる学校OBの方や地域企業の方が、ボランティアやゲストティーチャーとして

自然や資源の活用に対する思いを子どもたちに伝えるなど、学校林再生の教育活動に協力いただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校林の整備とエネルギー循環教育をつなげて実践していることが素晴らしい。学校林を生かした教育活動について北海道の他の学校へ伝えていきたい。(教育関係者)
- ・今後も学校林を通して自分たちで自然を生かし、守っていくという思いを育ててほしい。(森林活動に携わる方)

参加者の声

- ・学校林で伐採した木を薪として利用していることがエネルギーの循環を学ぶ教育になっている。燃えている薪を見て、学校林への愛情も育っていると思う。(保護者男性)
- ・子どもたちが薪づくりを楽しみ、自主的に活動しているところが素晴らしい。日常の活動として根付いてきている。(保護者女性)



薪になる学校林伐採



薪割り



薪を燃やす



学校林での巣箱かけ

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：3ha
間伐面積：3ha
冬の学校林観察

参加者数

道内：236人
計：236人

写万部山麓緑化事業～海とつながる木育基地

北海道長万部町



事業概要

写万部山登山口付近の北海道新幹線工事に伴うトンネル掘削残土埋立地において、植栽、地域材を活用した木製遊具や建造物等を通して、子どもたちの森林環境学習・木育の拠点を整備。主な活動は以下のとおり。①町木クロマツやサクラ、ハーブ等花苗の植栽、②地域材を活用した木製遊具や東屋の製作。

事業成果

写万部山登山口付近の北海道新幹線工事に伴うトンネル掘削残土埋立地を植栽するとともに、地域材を活用した木製遊具や東屋が完成し、子どもたちの森林環境学習・木育の拠点として、さらには見晴らしの良いビュースポットで、登山者だけではなく子どもから大人まで集まれる広場として整備された。

事業をよく知る関係者の声

- ・北海道新幹線工事に伴うトンネル残土埋立地の一部に、植樹による緑化や木製遊具の設置等、子どもから大人まで集える広場として意義のある土地の再活用は素晴らしい。(北海道新幹線工事関係者)

参加者の声

- ・何もない登山口でしたが、木育の基地として木製遊具や、いろいろな活動ができる広場として整備されており、そこに植栽を行い、植えた苗に愛着が持てるよう、切った板に文字や絵を描き手製の名札を製作するなど、子どもたちが楽しんで活動しているところが良かった。これから木育の基地としていろいろな活動を行って欲しい。(保護者女性)



木製遊具製作開始



ハスカップ、ブルーベリーを植樹



樹木の名前プレート製作



完成した木製遊具で遊ぶ子どもたち

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：83本

参加者数

道内：40人

計：40人

樹種

ハスカップ、ブルーベリー、エゾヤマザクラ、クリ、クロマツほか

「ふるさと復興の森づくり@厚真町」事業

北海道厚真町



事業概要

目的は、胆振東部地震で崩落した斜面の森を復元するために森づくり活動を行いながら、ふるさとの自然環境と防災について学び続けていくこと。主な活動は、厚真町民による、タネ採り～タネ播き～育苗～植栽の一連の以下の森づくり活動。①厚真町の林の樹木からタネを採る、②採取したタネ（球果、果実など）から種子以外の部分を取り除き、育苗箱やポットに植える、③生態学的混播混植法による植栽、④森林と地域の歴史についての学習。

事業成果

前年度までとは別の場所での活動となり、崩落場所の森林の回復を拡大できた。厚真町との連携により一般市民の参加公募を行うことができ、より住民の関心を広められた。

多くの人に地域の樹木を育てる重要性や森が果たす役割を理解してもらえた。

事業をよく知る関係者の声

- ・親子での参加が多く、家庭での学習の機会につなげることができたのではないかと。(厚真町)
- ・育苗の状態として、成長している苗木を活用したい。今後、菌根菌の効果も比較検討しながら、育苗体制を整えて、町民全体を巻き込んだ森林再生を進めたい。(厚真町担当者)

参加者の声

- ・厚真町の復興のお手伝いできた。(一般参加者)
- ・生態学的混播混植法の植栽による効果を聞き、地元（他の町）の活動にも取り入れたい。(一般参加者/地域活動者)



タネ採り



タネ播き



植樹



植樹に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：100本
 視察：1回
 タネ採り：3回
 タネ播き：1回
 勉強会：2回

参加者数

道内：64人
 計：64人

樹種

広葉樹

こどもたちとつなぐ未来の森プロジェクト

青森県むつ市



事業概要

青い森が県名の由来である緑豊かな地域に生まれ育った子どもたちと未来に向けた森を育て、森の大切さを伝えていく。主な活動は以下のとおり。①伐採後に再造林されていない森林の地拵え、②地元の木、青森県及びむつ市の指定木「ヒバ」の植栽、③SDGsの森と海の豊かさを守る落葉樹「ヤマザクラ」の植栽（県及び市との連携）、④子どもたちによる植樹体験（地元小学校及びクラブチームとの連携）、⑤子どもたちへ森の大切さを伝えるための森林教室、下刈り体験、木工体験、林業機械と丸太切り体験（森林組合及び県立むつ技術専門校との連携）

事業成果

新型コロナウイルス感染症の拡大により一般の子どもたちの募集はできなかったものの感染対策を徹底しながら、人数を限定し、2団体との植樹活動ができた。昨年度の活動から新たに、下刈り体験及び木工体験を加え、子どもた

ちへ植えて・育てて・使う大切さを伝えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・下刈りという言葉をはじめて聞き、雨天により体験はできなかったものの、下刈り鎌を実際に子どもたちに見せることができ、木を育てる大変さと大切さを伝えることができた。（参加クラブ担当者）
- ・ノコギリ、チェーンソー、林業機械を使った丸太切り体験は、林業の現場を実際に見る良い機会になった。サクラを植樹したことで、大人になったときにまた山に来たいと思うきっかけづくりになった。（小学校教諭30代）

参加者の声

- ・サクラの木を植えたので私が大人になったらきれいなサクラの木になってほしい。（小学生女）
- ・木はたくさんの働きをしているのがわかったので、森林を大切にしていきたい。水は無限ループして水道まで繋がっているのすごかった。（小学生男子）



森林教室



木工体験



丸太切り体験



ヒバ、ヤマザクラ、オオヤマザクラを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：300本
 下刈面積：0.2ha
 地拵え：0.2ha
 支柱設置：300本
 イベント：4回

参加者数

県内：140人
 計：140人

樹種

ヒバ、ヤマザクラ、オオヤマザクラ

学校林をずっと守ろうプロジェクト

岩手県雫石町



事業概要

学校林を健全に維持・管理し、児童の体験活動や植林、下刈り、枝打ち作業等の活動を今後もずっと続けられるようにする。主な活動は以下のとおり。①長年整備できなかつた林齢15～32年のスギ林の除伐・間伐。②学校林へ移動する際に使用する林道で大雨によって崩れた箇所を補修。③児童の森林や自然を愛護する心を育てる取り組みとしての森林学習会。

事業成果

長年見送っていた除伐・間伐を行えたことで、学校林の多くに陽の光が入るようになり、樹木の健全な成長が期待される。ヒューム管の再設置など林道補修により、沢水がスムーズに流れ、環境が維持され、学校林全体を管理する上での支障が少なくなった。「学校林をずっと守ろうプロジェクト森林学習会」では、学校林や森林管理について、盛岡広域森林組合西部事業所の所長が、イラストを交えて非

常に分かりやすくお話をしてくださり、参加した児童は更に理解を深めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回の助成によって、今まで手を加えられず先送りしていた補修や除伐・間伐が実現できて、とても良かった。森林学習会当日は、児童の参加が少なくなったことはとても残念だったが、学校林が更に整備されたことによって、体験活動などのフィールドワークが今まで以上に広がっていくものと思う。

参加者の声

- ・学校林は、学校・地域・町の貴重な財産。今回の助成によって、維持・管理を補ってもらったことは大変ありがたい。森林学習会に参加して、子どもたちが学校林・森林の役割や大切さを学び、今後も末永く守っていかれるだろうという期待がもてた。



下刈り体験学習



森林学習イラストで説明



森林学習に参加したみなさん



枝打ち作業後看板前にて

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.28ha
 除伐・間伐面積：2.06ha
 林道補修、道路刈払：
 1,100m

枝打ち：1回
 イベント：2回

参加者数

県内：104人
 計：104人

SDGs キッズ海岸防災未来の森づくり事業

宮城県仙台市、七ヶ浜町



事業概要

東日本大震災で失われた宮城県の広大な海岸防災林を継続的に再生していくため、未来を担う子どもたちに参加してもらい、海岸防災林を自分のものという意識を持ってもらうことを目的とした。また、新型コロナ禍で思い切り自然体験ができていない子どもたちに、海岸防災林や海岸の開放空間でのびのびと活動してもらう機会を創出した。小学生から高校生までの幅広い世代に、海岸防災林の植樹や保育活動、海岸でのビーチコーミングとマイクロプラスチックゴミ清掃活動、運河での釣り活動等を体験してもらい、楽しい思い出作りと海岸防災林を自分たちで育てる意識を芽生えさせた。

事業成果

新規の活動フィールド（七ヶ浜町表浜緑地）を得て、子どもたちの体験プログラムが一気に充実した。具体的には、地域行政や地区の方々の協力により、全く木が植えられてい

ないフィールドを一から再生し、広い空間と安全な海岸を生かした思い切り身体を動かすプログラムを実施できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちが海岸防災林で活動する機会を作っていただき素晴らしい事業となった。(宮城県水産林政部森林整備課保安林班)
- ・町の活性化とより良い環境づくりに尽力していただいた。(七ヶ浜町産業課、七ヶ浜町の町議会議員)

参加者の声

- ・普段とはまた違った子どもたちの一生懸命な表情が見られた。素晴らしい授業。(仙台市立六郷小学校教諭)
- ・大勢の慣れたスタッフが指導してくれるので、安心して参加できる。(親子参加、母親)
- ・管理の悪い植樹地が多く、もう少し行政主体に海岸防災林の管理体制を見直す必要がある。(地域ボランティア)



除草



植樹



親子で間伐・枝打ちイベント



七ヶ浜町表浜緑地イベントでの参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.23ha
 植付本数：710本
 樹勢回復：1万2,565本
 下刈面積：8.4ha
 除伐面積：1.76ha
 間伐面積：0.07ha
 森林資源活用：8本
 枝打ち：250本
 施肥：645本
 体験イベント：16回
 研修会：3回
 学校授業：1回

参加者数

県内：1,600人
 県外：1人
 計：1,601人

樹種

オオシマザクラ、カシワ、クロマツ、抵抗性クロマツ、シモツケ

「七ツ森里山環境学習林」子供たちの森づくり整備事業

宮城県大和町



事業概要

目的は、長期間放置され荒廃していた県所有の「里山環境学習林」を子どもたちが安心して集える森に整備することや遊歩道の充実を図ることである。主な活動は以下のとおり。①森への主要進入路の狭いあぜ道を外部委託で幅広の道路に改良した。②森を二分する川に、仮設の渡りや階段を整備した。仮設は通常は取り外して保管する。③全体がツルで覆われたヤナギの繁茂する水田跡の除伐を会員が先行して整備、仕上げを子どもたちと協働で実施した。④森の遊歩道の刈払いと案内看板を設置した。⑤最後に水田跡地に整備記念として、子どもたちとサクラ苗を植樹整備した。⑥森のめぐみとしての木工クラフトや丸太切りを子どもたちに提供した。

事業をよく知る関係者の声

- ・水田跡が荒廃し気に病んでいたが、今回の活動で見違えるようにきれいになった。子どもたちの歓声が聞こえるようになりうれしい。(旧水田所有者の関係者)

参加者の声

イベントに参加した親子からの感想は以下のとおり。

- ・きれいな森でびっくりした。
- ・森をもっと身近に利用したい。
- ・川を渡るのは楽しかった。
- ・もっと手入れをしたかった
- ・植えたサクラが丈夫に育ってほしい。



除伐、ツル切り



川に仮設の渡渉を整備



植樹



参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：12本
 下刈面積：0.87ha
 除伐面積：0.5ha
 進入路開設：60m
 遊歩道刈払い：500m
 イベント：2回

参加者数

県内：137人
 計：137人

樹種

サクラ

ふるさとの風景づくり植樹祭

福島県矢祭町



事業概要

子どもたちが自慢できるふるさとの風景をつくるとともに、東日本大震災の復興支援と地域振興を図る。主な活動は、耕作放棄地に原発事故で全町避難した富岡町の夜ノ森桜を増殖したサクラの苗木や森林総合研究所が開発した新しい八重桜の品種「はるか」、広葉樹を植栽した。

事業成果

今年度は最終年度として位置付けて実施した。今後の下

刈り等の管理について、土地所有者を含めて協力して整備していくことの理解が得れた。

事業をよく知る関係者の声

- ・よく継続したとの声が多い。さらにこれからサクラの名所になれば良い、などの声がある。

参加者の声

- ・良く続いた。
- ・自分で植えたサクラの花見がしたい、楽しみだ。



植栽して4年目のサクラ



植樹体験



親子で植樹



参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：50本
 樹勢回復：10本
 下刈面積：1.1ha

参加者数

県内：62人
 県外：11人
 計：73人

樹種

サクラ、アオダモ、カエデ

子ども達の未来の森づくり

茨城県笠間市



事業概要

目的は、所有者の高齢化等から手入れ不足となっている人工林の保全活動と地域の交流、子どもたちに学びの場の提供をすることである。主な活動は以下のとおり。①スギの成長を阻害する侵入木の伐採と下刈り、ツル切り。②倒木、形質不良木の伐採、間伐と材の利用（焚き火用の薪、木工に利用）。③整備した森で子どもたちに森林環境学習と、森仕事の体験の場を設ける。④自然環境講師による、市民や子どもたちへの森林環境学習指導。

事業成果

首都圏各県から定期的に体験に足を運ぶ人が増えた。子どもたちからの森の体験、学びへの評価が高く手紙をいただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・継続した整備活動や、市民や子どもたちへの環境学習や体験の場を設けることは大変な苦勞があったと思う。森林保全活動への参加意識の向上に繋がる意義のある活動である。引き続き継続してほしい。(70代環境活動家)

参加者の声

- ・森の植物のことを詳しく知ることができ、感謝している。ノコギリを使った丸太切り、斧を使った薪割り、ライターを使わない火起こしを生まれて初めて体験できたことは一生の思い出になる。(中学生)
- ・暗い森が明るくなり、安心して集い会える場ができ、他の近隣の森も広げて継続してほしい。(40代女性)
- ・とても感動したので今度は家族を誘って、家族全員で参加したい。(中学生男子)



森林整備活動



皮むき間伐



環境学習



薪割り

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.4ha
 除伐面積：0.05ha
 間伐面積：0.15ha
 イベント：18回

参加者数

県内：332人
 県外：71人
 計：403人

子ども参加の里山体験活動

茨城県古河市



事業概要

身近な里山にふれあうことにより、自然環境を維持することへの重要性の認識を高めるため、市民へ自然環境（里山）保全の啓発の機会となるよう、子どもたち参加の体験活動を実施する。

事業成果

茨城県内において大発生している「ナラ枯れ」による害虫被害（コナラ）が当里山にも大発生しており、子どもたちの里山体験活動において被害樹木の調査と伐採対象木としての目印表示活動を展開した。市民参加の観察会において、県内において大発生している「ナラ枯れ」の実態の観察と原因となる害虫についての参考書を増刷して配布した。この参考書は市民に大好評であった。

事業をよく知る関係者の声

- ・以前は「ごみ山」として、市民も里山にふれあうこともなく無関心な山林であった。都市部からの産業廃棄物の不法投棄場所になっており、県・市から度重なる注意・勧告がされ監視カメラまで設置された。いまだに不法投棄の根絶には至らないものの、里山保全整備活動（植林・子ども里山体験・観察会）等の事業展開により、市民の里山への関心が高まってきたことにより、不法投棄が少なくなってきた。

参加者の声

- ・身近な里山にふれあうことにより、自然環境保全の認識が高まった。
- ・里山にふれあう機会として、散歩コースに活用したい。



里山の恵み体験（山栗拾い）



里山の恵み体験（さつまいも掘り体験）



シイタケの植菌体験



スズメバチの捕獲器設置体験

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.5ha
 植付本数：140本
 下刈面積：10ha
 除伐面積：0.5ha
 森林資源活用：

シイタケ植菌、薪
 イベント：2回

参加者数

計：715人

樹種

ソメイヨシノ、タニウツギ

「キノコの森」の整備と活用

群馬県西久方町



事業概要

目的は、地球環境の保全が叫ばれている今、キノコの研究に生涯を捧げた故森喜作氏が起業した会社（森産業株式会社）を学区内にもつ本校において、森の再生におけるキノコ（菌類）の果たす役割について、体験を通して実感させること。主な活動は、校舎裏手の一角に「キノコの森」を整備（遮光シートや駒打ちされたシイタケの原木の設置、野外観察と収穫）し、5、6年生の理科の授業（植物の成長、生物どうしの関わり）で利用（栽培キットによるシイタケの室内観察、専門家による出張授業）。

事業成果

25℃以上の気温が続くと、菌糸の増殖が停止して、シイタケが育たない。地域の企業による具体的な協力が得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・キノコ栽培の活性化のため、貴校PTAの取り組みに協力できて大変うれしく思う。（森産業株式会社関東営業所）

参加者の声

- ・思っていた以上にたくさんのシイタケが採れたとって家に持って帰ってきた。遮光シートをかける手伝いをしたが、環境が良いとこんなにもシイタケが育つのに驚いた。原木シイタケも立派に育ってほしい。（6年保護者）
- ・森の再生に必要な養分を、枯れた植物を分解して作れるのはキノコ類だけだということが分かり、とても勉強になった。キノコのなかった頃の分解できなかった巨大シダ植物が現代の石炭や石油の元になっていることも分かった。キノコが分解してくれなければ、地球上、枯れた植物だらけになってしまうところだった。（5年児童）



PTAによる日よけネットの設置



栽培キットでシイタケを収穫



日本きのこ研究所による講演



原木の設置

実績とりまとめ

作業内容

シイタケ植菌：50本
シイタケ栽培キット：30個
ネット設置

参加者数

県内：81人
計：81人

「森のがっこう」里山再生と木の活用事業

千葉県千葉市



事業概要

小学生を対象にした森林環境教育を行う。子どもたちとともに里山の整備を行い、「伐る→使う→植える→育てる」の実践を通して森林循環への理解を深め、自分たちの手で森を豊かにできることを学ぶプログラムを提供。

事業成果

約3割の小学生が昨年より継続して参加した。各プログラムの中で、林業や樹苗園、製材所の方々と親交を深めることができ、多様な樹種の樹が手に入るようになったり、異なる樹種の樹々がより元気に育ち合う植え方を教えていただく新たな学びに繋がった。林業に携わる多くの方にプログラムに携わっていただくことで、子どもたちにとって林業が身近なものとなってきていることを実感する。

事業をよく知る関係者の声

・小学校低学年から参加していた子どもたちが高学年とな

り、自然や生きもの、森の状況を自分ごととして捉え、低学年の子どもたちを巻き込みながらリーダーシップを発揮して活動してくれている。(30代サポートスタッフ)

- ・活動の様子をブログやSNS等で配信することで、次回活動への参加、子育て世代が環境保全に関心を持つきっかけになったと思う。(30代プログラム企画スタッフ)
- ・どこにどのような樹が植えてあるのか、簡単なマップを作成できるとより良い。(40代サポートスタッフ)

参加者の声

- ・元気な木を育てるためには、元気な土が必要なことが分かった。(小3女子)
- ・将来は森や自然に関係する仕事や生活がしたい。自分が住む家を自分で木で建ててみたい。(小5男子)
- ・手入れ不足の森があることや木には伐り時があること、循環していくことの大切さを知った。(小学生保護者)
- ・植樹した木の話が自宅でも何度も話題に出る。植物を大切に思う気持ちが育っていてうれしい。(小学生保護者)



ツル切り



落ち葉掻き



落ち葉コンポスト



植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08ha
 植付本数：31本
 下刈面積：0.4ha
 除伐面積：0.05ha
 間伐面積：0.01ha
 イベント：9回

参加者数

県内：52人
 県外：6人
 計：58人

樹種

クヌギ、マテバシイ、ヤマボウシ、モミジ、サクラ、クロモジほか

森の中で、図太い人間になろう

千葉県袖ヶ浦市



事業概要

水源涵養や気温を緩和する等の森林の機能を親子に学んでもらう。主な活動は、森へ入りやすくするために倒木処理等の整備をするとともに、倒木は土木工事や燃料として利用した。

事業成果

地元の人々の散歩コースになった。特にコロナ禍で安全に活動できる場所として活用されるようになった。生態調査のデータが蓄積され、様々な研究者が集まるようになった。

た。

事業をよく知る関係者の声

- ・袖ヶ浦市郷土博物館、生態系を意識した整備は珍しく、モデルになる。地元の人、周りが散歩コースとして使うようになった。

参加者の声

- ・気持ちのいい場所。暑い日でも、木陰は涼しい。水が森林から出ている様子を初めて見た。



横井戸へのルートを整備



倒木の処理



薪づくり



田植えイベントで薪を使ってお風呂を沸かす

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha

植付本数：30本

下刈面積：10ha

イベント：2回

参加者数

県内：42人

計：42人

樹種

マツ、クヌギ

みんなで育てるキョロコの森

新潟県十日町



事業概要

里山の魅力や機能を体験的に学ぶことを通じてその保全を図るため、「キョロコの森」の整備と植林及び里山の保全作業体験を実施する。主な活動は以下のとおり。①対象エリア内のブナ林の育成と下刈り・ツル切り、②雑種地となっている箇所へのブナ等の植栽、③キョロコの森を活用するための散策路の整備（木道、階段工）、④木工クラフト（間伐材を使ったカトラリーづくりなど）、⑤利用者のための案内看板の設置。

事業成果

地域内の児童・生徒が全員参加して行われた広葉樹の間伐材によるカトラリーづくりは、手軽な森林作業体験とし

て有意義な活動であった。以前、植樹されたブナの苗木の管理が行き届いておらず、ツル等で生育が妨げられていた状態を改善することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・樹木が小さいうちは、ツル切りや下刈りを適切な時期に行わないと作業効果が半減する。（森林関係者）

参加者の声

- ・作業の後、参加者同士の簡単な交流会があれば楽しいし、参加者も増えていくのではないかな。（70代地元男性参加者）
- ・チェーンソーの講習会をやっていただきたい。（40代地元女性参加者）



間伐材活用カトラリーづくり



キョロコの森で低木除伐作業体験



木育体験スウェーデントーチづくり



木育体験に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.05ha
 植付本数：30本
 下刈面積：0.1ha
 除伐面積：0.1ha
 森林資源活用：4本
 イベント：3回
 作業道修理、生物調査

参加者数

県内：160人
 計：160人

樹種

ブナ

子どもたちの未来の森づくり事業

石川県小松市、輪島市



事業概要

第66回全国植樹祭は、2015年5月に石川県で開催され、式典参加者による記念植樹が小松市の「憩いの森」で行われた。植樹された樹木は順調に成長しているが、継続した保育が必要である。地域のシンボルとなる森に育て、学童の「森の学び」のフィールドとして整備する。

また、輪島市金蔵地区には、美しい里山や奥能登の原風景を留める棚田維持に不可欠な用水溜池周辺の山林保全活動が地域住民により行われているが、高齢化に伴い次第に困難となっている。この地区は歴史的資源が残されており、世界農業遺産「能登の里山里海」の一翼を担うべく地元住民並びに小中学校と連携し、未来に引き継ぐ地域の象徴的な森づくりを行う。主な活動は、以下のとおり。「憩いの森」①植樹区域の下刈り、②植樹区域に隣接する法面の雑木伐採により、ハイキングコースの景観改善。「金蔵の里山保全」①金蔵山の休憩用東屋周辺の下刈り、②集落に隣接する里山で学童による植樹体験区域の整備。

事業成果

金蔵の里山保全活動は、新型コロナウイルスの影響でやむなく日帰りでの活動となった。地元住民及び能登地区の会員の参加を得て、今後の活動実行のための確実な一歩を踏み出すことができた。また、新規入会メンバーに対してベテラン会員が安全指導等を行うことで、安全な作業につなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・憩いの森では、一昨年行った地域の学童による森林整備の見学会が好評だったので、継続しての実施が希望された。（憩いの森管理事務所員）

参加者の声

- ・金蔵について、地元住民の参加者が当会の活動を高く評価し、会に加入することとなった。（地元住民）



子どもたちと植樹（憩いの森）



玉切り（憩いの森）



下刈り（金蔵地区）



子どもたちが里山とふれあい（金蔵地区）

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：5.4ha
間伐面積：0.3ha

参加者数

県内：142人
計：142人

とうみ子どもがまんなかプロジェクト

長野県東御市



事業概要

地域住民との協働のもとで地域の子どもたちの元気な育ちを応援することを目的に、地域環境を活用した体験活動を実施した。今回の事業は、これまで対象として活動が展開できていなかった小学2年生以上の子どもたちを対象とした。主な内容は、「里山の散策・探検」、「森林整備や遊歩道整備」、「整備で出た材木を焚き木として活用した野外調理」等。子どもたちからの聞き取りを行い活動を実施した。

事業成果

地域の小学生の活動ニーズの高さを感じた。また、幼児を対象に実施してきた活動内容が小学生の子どもたちにとっても満足度の高い内容で実施できることが分かった。

活動に複数回参加の子どもたちも10名強おり、今後活動を支える「子どもスタッフ」の確保もできたと考えられる。

事業をよく知る関係者の声

- ・保育園で見ていた子どもたちと活動を通して関わることができうれしい。小学校の先生方も積極的にご参加いただき、幼保小の連携の場となると良い。(保育士30代)
- ・地域でこのような活動を展開されていて素晴らしい。小学校の教諭は忙しいと思うが、地域貢献の一環としても、また学校とは違った子どもたちの一面を見るという点でも、こうした活動に積極的に参加すべきだと思う。声掛けしていきたい。(小学校教諭50代)

参加者の声

- ・家ではできないことが体験できて楽しかった。普段は森に行かないので面白かった。(小学生)
- ・知っている先生がいてくれてうれしかった。友達ができた。次が楽しみ。(小学生)
- ・また遊びに行きたい。豚汁美味しかった。(小学生)
- ・お友達ができ、山の中で遊べて楽しかった。(小学生)



事前・事後はスタッフ会議実施



遊歩道整備



焚き木として活用した野外調理(豚汁)



シイタケの駒打ち

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.57ha
遊歩道整備：100m
イベント：7回

参加者数

県内：39人
計：39人

親子でできる～もりづくりワークキャンプ

長野県長野市



事業概要

目的は、所有林内に親子で入れる森林体験公園をつくること。主な活動は、都市部の親子が山仕事を体験し、木に触れ自然を知る機会を提供する。また、地元の小学生たちが地域を知る活動の一環として、地域の森林や木とふれあうキッカケをつくる。

事業成果

難しいと考えていた保育園の4歳児のノコギリ体験、小学生の三つ紐伐りなど手斧を使った作業は、大人の補助のもと取り組むことができた。体験活動において、子どもには危険、体力的に難しいなど、大人の判断で単純に制限を加えるのは慎むべきだと反省した。安全面に十分配慮した上で、我々大人がやる作業をそのまま体験してもらうことこそ真の体験活動だと考えるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域の人が地域の自然や受け継いだ知恵を生かしながら、次世代を担う子どもたちを楽しみながら森林体験の場を提供しているところに感銘を受けた。市街地と中山間地を繋ぐ活動として、もっと広く周知してこれからも活動を継続して欲しい。(50代女性市議会議員)

参加者の声

- ・保育園の周辺には子どもたちが本物の自然を体験できる場所がないため、森に入り、木を倒し、枝を切る体験ができ、子どもたちも大喜び。このような機会を設けてもらい感謝している。(30代女性保育士)
- ・斧で木を倒した(三つ紐伐り)のが、大変だったがおもしろかった。(小3男子)
- ・ノコギリをはじめて使った。自分で枝を切ることができて良かった。(保育園4歳児)



保育園児がヒノキの伐倒体験



小学生がロープで木登り体験



三つ紐伐りでカラマツ伐倒に挑む小学生



森林体験に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

森林資源活用：48本
作業道整備：400m
イベント：7回

参加者数

県内：126人
計：126人

名勝「金尾滝」周辺の「森の学び」整備事業

岐阜県大野町



事業概要

地域住民に親しまれ、子どもたちにとって安全な森林空間の創出を目指し、雑木などが生い茂った森から、広葉樹による景観林に変える。主な活動は以下のとおり。①雑木の伐採・ツルなどの撤去、②下刈り及び植樹場所の清掃、③伐採木を利用してベンチ・テーブル・ステップ工の製作・設置、④地域住民の見学会、⑤子どもたちといっしょに植樹会の実施。

事業成果

中部国際空港株式会社等と大野町・野区区民とが共働してSDGsに向けた森林づくりで山を整備することにより、下流域の水質の向上による魚等が育つ一環事業として、コナラやクヌギを150本植樹した。地元の小学生や本緑の募金事務局、NPO法人里山会等が参加した。今後の維持管理を含めモニタリング調査を実施することが決まった。昨年度に

植樹したミツマタの群生や本年に植樹したカンツバキが咲き誇る景色を今後とも見守って行きたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林整備にとどまらず、健康増進、森林環境教育、治水の面からも素晴らしい取り組みであり今後も協力をしていきたい。(県会議員、大野町長)
- ・雑木伐採とスギ葉撤去をしたことにより、ギフチョウの幼虫の餌となるカンアオイが自生してきている。ギフチョウの飛翔も数羽確認できた。このような環境を今後も維持していただきたい。(有識者)

参加者の声

- ・素晴らしい場所が創出され、今後もこの景観が維持できるよう励んでいただきたい。
- ・サルの出没も見られたため、対策を検討するなど、誰もが安心して利用できる憩いの場の創出を実現してほしい。



枝打ち



ステップを設置



中部国際空港関係者と大野町のSDGsの森の植樹会



子どもたちや区民による植樹会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：51本
 下刈面積：0.3ha
 間伐面積：0.3ha
 清掃作業：0.3ha
 枝打ち・集積：0.3ha
 鳥獣害保護袋補修：20本
 階段設置・補修：5カ所
 廃材集積・処理：3t
 見学会：1回
 植樹会：2回

参加者数

県内：400人
 県外：70人
 計：470人

樹種

コナラ、クヌギ、カンツバキ、カワツザクラ

「希望の森」環境整備で育む地域の絆事業

静岡県富士宮市



事業概要

井之頭中学校の学校林である「希望の森」は地域で組織する育てる会が中心となって整備され、教科横断的な総合学習の場として活用されてきた。近年「希望の森」でナラ枯れ被害が顕著となったため、被害木の伐採と林外への搬出を行い利用に当たっての安全確保を図った。また、この環境整備を契機として、改めて「希望の森」の樹木の多様性を学ぶための樹名板の設置と「ツリークライミング」体験を実施した。

事業成果

外部委託で実施したナラ枯れ被害木の除去作業は無事終了し、森の安全性が確保できた。伐採跡は開けた空間となり、樹木の再生や新しい植物の侵入が進めば、森林環境教育の新たなテーマとして活用されることが期待される。樹名板の設置については、講師の指導の下、生徒が事前に樹木の調査を行い樹名板を設置し、自然環境や生態系の多様

性について体感し学ぶことができた。ツリークライミング体験では、講師の指導により安全確保の方法やロープワークを学んだ上で自分一人の力でロープを登り、木とふれあう有効なアクティビティであることを痛感した。

事業をよく知る関係者の声

- ・地元でも懸案であったナラ枯れの被害について、事業の中で除去していただきありがたかった。安全に希望の森に入ることができ希望の森の活用が一層進むようになると思う。(地元住民60代)

参加者の声

- ・樹名板を貼ったり見たりして、樹木名の下に説明も書いてあったのでどういう木か分かった。(中学校生徒)
- ・まだ樹名板のない木は自分でも詳しく調べていきたい。(中学校生徒)
- ・ツリークライミングで木と一体になって良かった。(中学校生徒)



安全柵設置の様子



樹名板の設置



ツリークライミング



「希望の森」に看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

樹名板設置：43枚
ツリークライミング：1回
安全柵設置：10m
ナラ枯れ木除去：20本

参加者数

県内：44人
計：44人

あさくら里山の保全・活用事業

愛知県知多市



事業概要

地域で唯一残された里山を整備し、50年ほど前のにぎわいを取り戻し、地域住民の憩いの場とする。整備の過程で地域住民と子どもたちの積極的な参加を促し、子どもたちが自然の大切さや自分たちが守るという意識向上を図っていく。主な活動は以下のとおり。里山内の竹林整備、草刈り整備、サクラ・クリほかの植樹、散歩道を整備しベンチなどを設置した。

事業成果

以前の状況で「ふるさと探求ウォークラリー」と「桜を見る会」が実施できた。春には多くの人がサクラ花見に訪れるようになった。近くの園児が定期的に来るようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・散歩道が整備されてきて散歩に来るのが楽しくなる。
- ・真夏の草刈は熱中症に十分注意しなければいけない。
- ・大雨が多くなり崖崩れの心配がある。

参加者の声

- ・地元の人に会えてうれしい。(参加者)
- ・安心して園外実習ができることはうれしい。(保育士)
- ・坂道は登るのに大変だが、階段状になって歩きやすくなった。(利用者)
- ・春のイベント「桜を見る会」が雨により会館で実施されたため参加者が少なかった。



雨天のため室内で実施された「桜を見る会」



歩道の整備



植樹したサクラ



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
下刈面積：1ha
イベント：2回

参加者数

県内：280人
計：280人

樹種

サクラ

六栗西山ふれあいの森整備事業 その2

愛知県幸田町



事業概要

昭和中期まであった六栗西山の薪採りの森を復活させ、子どもたちに里山の魅力を伝え、地域の新旧住民が子どもたちとの憩いの場にするために、放置竹林を除去し活動拠点エリアを整備する。小中学校、大学等と連携活動を行うとともに、里山に残されたヤマザクラを見る会も開催し、コミュニケーションを図ることができた。

事業成果

新旧住民参加者が、至学館大学演習を受け入れ、学生との里山交流にて整備エリアの景色が改善された。豊坂小学校総合学習の受け入れほか、野外活動受け入れの案内などにより、多くの保護者に活動への理解を得ることができた。活動状況は、毎月六栗西山森の道だよりを発行し、六栗区民全世帯に周知することができた。藤田医科大学医学部に

よる里山健康社会実験を行い、人間環境大学の協力にて六栗西山森の道整備隊活動報告書の作成ができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・町議会の一般質問でも取り上げられ、地元企業からも評価・賛同をいただいている。今後、いただいた評価を継続するため、一般参加者が参加しやすいように、毎月第二土曜日の午後から活動を行うことを周知し、新たに参加される方々が増加するよう活動現場での安全確保に留意したい。

参加者の声

- ・治山のためには日頃の里山整備が必要であることを学んだ。(南部中学校1年男子)
- ・里山健康において更にデータ蓄積をしたい。(大学4年男子)



保育園児へ里生セミナー



環境整備セミナーに中学生62名が参加



大学生による里山健康調査



六栗西山森の道整備隊活動「山桜を見る会」

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha

下刈面積：1ha

除伐面積：1ha

里山広場整備：19回

参加者数

県内：400人

計：400人

樹種

アジサイ

どんぐり交流会の山づくり その3

愛知県新城市



事業概要

平成8年度より、ボーイスカウト、ガールスカウト、みどりの少年団が、相互の交流と親睦を図るために「どんぐり交流会」を実施してきた。主な活動として、交流会ではどんぐりの苗木の植栽とシイタケの菌打ち体験など、山の整備として以前植栽した箇所を除間伐を実施した。どんぐり山を将来にわたり利活用できる山づくりを目指している。

事業成果

昨年に比べ参加者も増え、どんぐり交流会、どんぐり山の整備を順調に実施することができた。コロナ禍の中であ

ったが、制限された活動の中で効率良く活動することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・除間伐を実施してきた結果、山が見違えるほど明るくなり、整然とした感じが見られる。維持管理も大切だが、まず除間伐の実施により、どんぐり山全体を整備したい。

参加者の声

- ・一人での作業では限界がある。大勢の力を実感した。子どもたちは、自分が植えたどんぐりの成長を楽しみにしている。



どんぐり苗木の植栽



シイタケの菌打ち体験



どんぐり山の整備



薪割り

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.05ha
 植付本数：300本
 除伐面積：0.41ha
 シイタケ植菌：250本

参加者数

県内：201人
 計：201人

廃校のシンボルツリー再生と校庭緑化活動

三重県大台町



事業概要

廃校の枯れかけたシンボルツリーの再生活動を通し、樹木の生命力の素晴らしさに触れ健全な森林の育成を支える次世代の育成を行う。また、樹木とこの施設に愛着を持ってもらう。主な活動は以下のとおり。①アーボリスト(認定樹護士)による枯死木や枯れ枝の剪定及び伐採。②樹木医を招いた勉強会及び樹勢回復作業を実施。③シンボルツリーの樹勢回復作業完成お披露目、記念植樹、シンボルツリーのケヤキの葉っぱを活用した焼き芋。旧大杉小学校の設立100周年を記念した特別展も併せて行った。

事業成果

新聞社4社とテレビ局1社に取材及び広報で取り上げられたことにより、多くの方に地域と樹木に関心を持ってもらえた。報道を見た方から、あの木がそんな状態になっていたとは知らなかった等の驚き声も届いた。実際にこの活動に関わってくださった方々も樹木に対して高い関心を持

ってもらえたように感じる。また、樹木医やアーボリストといった専門家との繋がりができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・枯れ枝剪定及び枯死木伐採、樹勢回復作業を実施したことによる樹勢回復を期待している。シンボルツリーとして地域に認識されている樹木であるため、参加者の反応があったことも良い反応だったと思う。公共施設内のため、敷地内にある樹木の状況次第で、事故やトラブルを未然に防止する点から、樹勢回復が見込めない樹木は、事前伐採等の検討も必要だと思う。

参加者の声

- ・最近枯れ枝が目立っていたので元気になってほしい。(80代男性)
- ・今回植樹した木は子どもたちと同じぐらいの背丈だったので、来年はどうなっているのか楽しみ。(親子)



シンボルツリーの枯れ枝の剪定



記念植樹



落ち葉で焼き芋



シンボルツリーと参加者のみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
樹勢回復：2本
樹木の伐採、剪定：8本

参加者数

県内：28人
計：28人

樹種

カワヅザクラ

比叡平生き物観察拠点整備事業

滋賀県大津市



事業概要

生き物とふれあうことは自然を大切に、心を豊かにすることに繋がる。大津市比叡平地域の通称「青い鳥の谷」エリアは比叡山と琵琶湖に近く、周囲が森林に囲まれており、60種を超える野鳥が飛来し、貴重な爬虫類や昆虫が多く生息し自然豊かな里山を形成している。子どもたちの自由な遊びの場として、また、自然の大切さや生き物の生態を理解してもらうため、比叡平南麓各所に生き物観察拠点を整備する。

事業成果

「青い鳥の谷子ども広場」とその周辺に生き物観察拠点づくりの整備を行った。具体的には、①ビオトープの改修、増設。②日本ミツバチ生態観察養蜂箱の設置。③フジバカマ庭園の維持管理、増設。④野鳥の餌場と水場の増設。⑤沢登りルート・散策道の整備。⑥防獣ネットや散策路の崩壊箇所への復旧。⑦里山会員と子どもたちが観察・撮影した野

鳥や昆虫を「比叡平の野鳥」、「比叡平の昆虫」として小冊子にまとめ、地域の小中学生に配布。⑧伐採木を利用し、本箱、テーブルなどを製作後、図書館に寄贈。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 獣害で里山も危機にあるが、青い鳥の谷は周囲を柵で囲っているため、生物多様性の保持のための貴重なフィールドになっており、人工池も両生類にも貴重な産卵場所を提供している。里山倶楽部の活動により、青い鳥の谷は地域のオアシスとして認知され、多くの人に利用、小中学生の環境教育の場としても活用されている。若い人にいかに活動が引き継がれていくかが課題。(元大学教授)

参加者の声

- ・ 自然の現象と授業での取り組みが繋がってより良い学習が身に付いた。
- ・ 森の中にゴミが落ちていて驚いた。日頃から森を大切にすることを養っていかなければならない。(70歳代男性)



薪割り体験



ビオトープ周辺整備



小学校4年生里山体験



植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：90本
下刈面積：2.2ha
間伐面積：1.0ha
森林資源活用：
薪200束、ほだ木50本
里山体験活動：7回

参加者数

県内：375人
県外：154人
計：529人

樹種

トチノキ、イチヨウ、クヌギ、ウメ、ミカンほか

みんなでつくるドングリの森

鳥取県鳥取市



事業概要

「森の教室」に参加した園児達が育てた苗木を自分たちで植え付け、成長を見守ることで森林への関心の醸成を図り、森のともだちを増やしていく。主な活動は、森のともだち応援し隊の植樹指導の下、「森の教室」に参加した県内の2保育園の49人が、自分たちがドングリから育てたコナラの苗木を森林公園に植樹した。

事業成果

事業初年度に植樹したコナラの樹高が2mを超え、ドングリの森ができつつあることを実感した。

事業をよく知る関係者の声

- ・私たちを取り巻く環境は急速に変化してきている。この環境の変化を抑えるためにも環境保全意識の高揚を発信できる事業として、また、「未来を植え育てる事業」として今後もこの活動の輪を広げていただきたい。(森林公園指定管理責任者)

参加者の声

- ・「森の教室」でまいたドングリが芽を出し、苗木になるという一連の流れを子どもたちは知ることができた。育てた苗木を山に植えるという貴重な体験もできた。今日植えた苗木が、高校生になる頃には大きな木になりドングリが実ると話すと、子どもたちは驚いていた。(保育園園長)



苗木贈呈式



コナラを植樹



参加した子どもたち



植栽木を獣害から守る侵入防止柵を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：49本

参加者数

県内：64人

計：64人

樹種

コナラ

柿木地域にみんなの集う森を作ろう！

島根県吉賀町



事業概要

森林や樹木に触れることにより、楽しみや癒しを感じ愛着を持つ人を増やすために、柿木の森を地域の子どもと大人がともに体験し整備する。主な活動は以下のとおり。①植樹活動。②子どもたちが森に触れるエリアの危険木等を除去。③森林、野鳥、地元の生物の専門家を講師に招き学びの場を提供する研修を実施。

事業成果

活動に参加した方々には、森や樹木、森林が作り出す環境に愛着を持ち、癒しや興味を感じてもらえた。一連の活動を通して講師をはじめ、地域の森に関わる方々との繋がりを深めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・児童や生徒はどの活動もいきいきと活動していた。私たちが学ぶことが多く今後も活動を継続させていきたい。地域の行事情報を共有できるようにしたい。(公民館主事)
- ・子どもの活動が多かった。大人が気軽に参加できる活動も今後楽しみにしている。(自治組織役員)

参加者の声

- ・小刀を使うのが面白かった。また小刀を使っていろいろなことをしてみたい。また来てください。(小学2年生)
- ・植林活動は初めてだった。大きくなるのが楽しみ。また見に行きたい。(小学5年生)
- ・森でハンモックすることは想像以上に癒しになった。再度体験したい。(50代女性)



そうめん流しのタケを搬出



植樹活動



森と川の繋がりを学ぶ講座



ハンモックで森林セラピー

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
植付本数：66本
森林資源活用：3回
森の遊び：2回

参加者数

県内：140人
計：140人

樹種

イロハモミジ、ヤマザクラ

みんなで育てよう伊部つながりの森の整備事業

岡山県備前市



事業概要

「伊部つながりの森」は岡山市の(株)ティシーシーが森林所有者である伊部区有林管理会和協定を締結し、同社が社会貢献活動として森づくりを行うため設定した。この場所を活動の基地として平成25年に片上、伊部自治会及び(株)ティシーシーによる実行委員会を設立し森林作業だけでなく、森林を活用した体験学習に取り組み本年で10年目である。備前市内4小学校5年生児童がともに森林体験(マツの植栽、シイタケ菌の植菌)、森の役目について学び交流を通じて親睦を高めた。伊部小学校5年生より森の出前授業の要請があり授業を行った。また、伊部つながりの森ではおかやま森づくり県民基金イベントを開催した。また、地区行事の利用もあった。

事業成果

備前市が当会の成果を評価し、つながりの森内の歩行困難な約60mをコンクリート舗装できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・つながりの森での植栽行事は10年継続されて小学校行事として定着したが植栽場所の確保が課題である。あと3年分の用地は確保されているが、例えば周辺の民有地の借上げも必要ではないか。資金についても市に働きかけてみても良いのではないか。

参加者の声

- ・山での作業は校内で得られない体験で感謝している。



アカマツ(桃太郎松)を植樹



シイタケ植菌



出前事業



おかやま森づくり県民基金事業の参加者

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：200本
 シイタケ植菌：3,000駒
 イベントの実施

参加者数

県内：約590人
 計：約590人

樹種

アカマツ(桃太郎松)

里山の遊び場のフィールド整備

広島県北広島町



事業概要

目的は、次代を担う子どもたちに里山や森林の魅力を伝え環境保全意識を醸成することである。主な活動は、①里山を子どもが活用できるフィールドとして主にツリークライミングができる環境を整備すること。今年、ナラ枯れ被害の木を伐倒した。②整備した里山で子どもの自然体験活動を4回実施すること。

事業成果

年4回実施した子どもの体験活動に延べ50名近い参加者を新たに迎えることができた。その参加者が他の里山保全活動や里山を活用したイベントなどにリピートして参加するケースが多く見られ、里山のファンを増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回の整備対象となったフィールド周辺においては、松枯れに加え、ナラ枯れが急速に進行している。この傾向は今後もしばらく継続すると考えられるため、整備の視点を特定樹種の利活用ではなく、里山全体の生物多様性の担保とそれを広く周知するための環境教育活動にシフトすることが望ましいのではないか。(現地周辺の生態系に詳しい自然観察指導員の声)

参加者の声

- ・今回初めて里山クラブに参加した。毎回子どもが楽しみにしていて、特に午前中は自然についてのテーマ学習があり、午後は子どもたちが発案する里山遊びの時間もあり、自ら発案して行動することがとても楽しかったようです。(小学校4年生男子保護者)



虫探し



植物の植替え



野鳥観察



火起こし体験

実績とりまとめ

作業内容

伐採（ナラ枯れ）
ツリークライミング剪定木調査と整備
里山クラブ：4回

みんなでつくる森の秘密基地

広島県庄原市



事業概要

里山保全や将来を担う子どもたちへ環境教育体験ができる場の確保及び持続可能な資源循環型エネルギー供給による自給自足ができる森作りを行う。主な活動は、里山保全や自然環境整備に興味のある親子や大人へ広く参加募集を行い、里山の保全・整備、地域住民が憩える空間（森の秘密基地）の環境整備、作業道整備、支障木などの伐木・間伐・製材、資源の有効活用として伐り出した材でツリーテラスづくりを行う。

事業成果

未整備地の新たな整備による「憩える空間」や伐木・間伐

で出た材を製材し、ツリーテラスのデッキへ使用することで資源を有効に活用ができた。また、一般に募集を行い活動の広報に繋がったが、コロナ禍でもあり急遽参加できなくなるなど活動人数は思い通りとはいかなかった。

事業をよく知る関係者の声

- ・実際に何をされているのか、もう少し広報されてはどうでしょうか。(女性60代)

参加者の声

- ・天候が悪かったが、森の中で木に囲まれ癒された。ぜひ次も利用したい。(40代主婦、小学校3・6年女子)



間伐の実施



間伐材を製材しデッキに使用



デッキの組み立て



完成したデッキ

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.4ha
 間伐面積：0.4ha
 作業道：20m
 イベント：5回
 整地、デッキ製作：40時間

参加者数

県内：42人
 計：42人

みんなで遊ぶ森作り

熊本県高森町



事業概要

目的は、親子を対象とし親が思い切り楽しむ姿を子どもたちに見せ、家族で体験することで今後家庭でも実践しやすくすること。また、小屋づくりをプログラムに入れ、家族だけではできない大きなものをいろいろな人と一緒に協力して作るという貴重な経験をする。さらに、自然の中で遊び慣れていない子や障がいのある子が今後これらを活用することで活動しやすくすること。主な活動内容は、鶏捌き、小屋(トラス)づくり、登山。

事業成果

自然体験教室を親子対象にしたことで多くのメリットがあった。例えば、低年齢の子の参加がいつもより多く、参加者同士の中でも子どもと大人の交流が増えたり、大人のいろいろなやり方を見ることで子どもたちの上達が早かったり、参加後に家庭でも家族みんなで実践するなど、多くのうれしい声をいただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ナイフや火など危険なものは先に大人がお手本を見せるべきと考えていた。しかし、子どもは「まずは自分でやってみる」と決めたことに対しては、自分で考え諦めずに取り組み、できないと悔しがり、できるとこの上なく喜ぶ姿を目の当たりにし、今後も多くの子もたちがここでかけがえのない経験をしてほしいと感じた。(講師70代男性)

参加者の声

- ・親が夢中になった。子どもは親が活動する様子を見るのが新鮮だったようだ。(保護者)
- ・休みの日の家族での活動にアウトドア要素が加わるようになった。(保護者)
- ・子どもが他の大人との接し方を学べた。(保護者)
- ・トラスづくりでは、木工や絵を描く工程が面白く、完成したトラスの美しさに感動した。(保護者)



木材を切る



トラスの組み立て



トラスの中



自然体験教室登山に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

親子自然体験教室：6回
安全管理講習：1回

参加者数

県内：156人
計：156人

炭作りを通じた循環型環境学習

熊本県芦北町



事業概要

九州豪雨水害からの復興に向け、参加者が地域環境の保全に関心を持ち、理解を深め、そして、地域の環境問題を認識し、地域復興に向けた取り組みを学ぶことを目的とする。主な活動は、炭作りと植樹。

事業成果

炭作りでは、子どもたちが木から炭への変化過程を体験することで、自然とエネルギーの関係を学ぶことができた。植樹祭では、自分たちの手で植樹を行い、森林の大切さを実感することができ、子どもたちに環境保全に対する意識を高めることができた。水害によって荒廃した山林など、目に映る風景も一変した。住民自らの手で植樹したサクラの木がこれから花を咲かせていくことはこの地域にとって時間をかけた心の復興に繋がっていくものと考えられる。

事業をよく知る関係者の声

- 炭作りや植樹を行うことで、環境に対する考え方も変わったと感想が寄せられた。以前は生業として行われていた炭焼きが、環境学習として、小学生や高校生たちへ生きた教材として提供されることは、この地域だからこそその価値ある取り組みである。災害により荒れた山林に、住民が希望の光として植樹したサクラの木が今後10年20年先に花をつけた時、地域にとって大きな希望の光になるのではないか。(大学教授)

参加者の声

- 活動に参加し、前を向き自然と向き合いどう関わっていくのかを考える機会になった。炭焼き体験では、いろいろなものが炭になるか実験を行ったが、子どもたちは目を輝かせながら取り組んでおり良かった。今後もこのような機会を地域の方々とともに子どもたちのために作っていきたい。(小学校教諭)



里山の役割について学ぶ



炭焼きの実験で様々なものを缶箱に入れる



炭窯に木を入れる



ソメイヨシノを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：120本
 除伐面積：0.1ha
 間伐面積：0.2ha
 体験学習、植樹ほか

参加者数

県内：170人
 県外：10人
 計：180人

樹種

ソメイヨシノ

鬼神野神社の杜づくり植樹体験イベント

宮崎県美郷町



事業概要

目的は、子どもたちが神社の杜づくり体験を通じ、将来の地球環境を守り、最善策を講じることができる人材となること。主な活動は以下のとおり。①絵本「どうぞのいす」の読み聞かせ。②絵本に登場する椅子をSGEC 認証材で製作。③植樹体験。

これらのコンテンツを通じて子どもたちに自然環境に共存する人類、その他の生き物に対する思いやりの気持ちを理解してもらい、実際の植樹体験から現在起きている環境問題（森林減少、温暖化、自然災害増加）を保護者と一緒に考えるきっかけづくりをする。併せて、地域住民及び出身者の参加を促し、地域の活性化へ役立てる。

事業成果

植樹は小学校及び林業大学研修生の課外授業で実施し、未来を担う二世帯と町民とが共同作業を行うことで、日本屈指の森林地帯である美郷町での参加者の森林づくりへの

意識付けができた。急勾配地であったが、地域森林組合の施業により安全に植樹イベントを開催できた。また、本事業はデジタル記事（新聞を含む）28社、地域誌2社、地方テレビ局2社、当団体SNS 1万人のリーチがあり、広く活動を告知することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちにとって、森林保全が多くの町民や事業者が行う重要な事業であることを伝えることができた。また、今後子どもたちにとって自分たちで何が出来るかの問題提起をすることができた大変有意義なイベントであった。（学園教師）

参加者の声

- ・森林の大切さ、木を育てることの大切さが分かった。（小学生男子）
- ・町が一体となって行う森林プロジェクトであり、いろいろな地域でこのような活動が増えると良い。（40代女性）



計11種類の樹木を植樹



植樹体験に参加したみなさん



絵本の読み聞かせ



工作

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
植付本数：800本
イベント：2回

参加者数

県内：210人
計：210人

樹種

サザンカ、コブシ、ヤマツバキ、イチヨウ、ヤマザクラほか

馬事公苑子どもの森づくり活動

鹿児島県南九州市



事業概要

子どもたちに森林に親んでもらい森林・林業への理解を深めてもらう。主な活動は以下のとおり。①県産のスギ材を利用して、林内に「丸太のぼり」、「三角ハウス」の遊具を製作した。②長期間放置された林分を地拵えして、子どもたちが親しめる花木類を植栽した。③子どもたちに実践活動として植栽に参加いただくとともに、これまでに整備した丸太遊具等で遊ぶ活動及び木工教室を行った。④これまでに植栽した林分の下刈り等の保育活動を行った。

事業成果

子どもたちに森林に親んでもらうため、ヤマザクラなど花木類150本の植栽と保育作業及び木製遊具整備を行う

とともに、子どもをはじめとする家族が森林に親しむ活動を行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・当法人が馬事公苑子どもの森の整備を進めてきたことに呼応して、南九州市当局でも子どもの森に隣接する森林に森林を利用したアドベンチャー施設を整備することとなった。当該施設が完成すると、今後、子どもの森とのシナジー効果が期待される。(南九州市都市計画課)

参加者の声

- ・家族連れで参加。親世代においても森林とふれあう機会はなく、新鮮な体験であった。(保護者)



過去事業で製作した丸太遊具遊び



植樹



木工教室で椅子作り



下刈り

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：150本
 下刈面積：2ha
 除伐面積：0.2ha
 地拵え：0.2ha
 遊具整備：2基
 イベント：1回

参加者数

県内：73人
 計：73人

樹種

ヤマザクラ、ユリノキ、エゴノキ、クマノミズキほか

学校環境緑化 モデル事業



緑の募金では、「ローソン緑の募金」並びに㈱ローソンの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「学校環境緑化モデル事業」を実施しています。

学校環境緑化モデル事業

学校法人 フレンド恵学園 浦河フレンド森のようちえん



事業概要

本事業では、自然環境保全の意識を高めること、子どもたちが夏の暑さから自然に身を守れるように園舎環境を整備すること、地域の方も自由に利用できる園舎のため、景観の向上等を目的に、以下活動を行う。①職員、園児、保護者、地域の方で、園舎裏山より、若木を掘り起こし園舎まで運ぶ。②園庭や園舎の周りに穴を掘り若木を移植し、支柱で固定する。必要な場所にはネットや鹿よけの柵を設置する。

事業成果

園の子どもたちや保護者のみではなく、他園に通う子どもたちや地域の方々が大勢参加し、自然環境に興味を持てただけだ。また、子どもたちは、自らが植えた木々の成長を楽しみに過ごすことができている。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域の方々と伐根、植樹をすることにより森林保全活動への意識の向上に繋がると感じた。植樹した木の成長を確認することで、参加者の意識の向上に繋がる意義のある活動であると感じた。(50代林業関係者)

参加者の声

- ・家族で参加。小1の息子にとって、スコップで土を掘るという体験は初めてのことで、周りを見ながら自分の胸の高さまであるスコップを工夫し、作業をしている姿が印象的だった。(30代女性)
- ・木の根を切り、森から木を運び、植え替え、水をあげる、この大変な作業をした分、子どもたちは作業後、充実した表情だった。(40代保育士)
- ・皆で協力して木を探し、掘って植え替えて、良い機会だった。自分で植えた木の成長が楽しみ。(40代女性)



造園業者から伐根作業の説明を受ける



「かしわの森」で若木の伐根作業



園舎周辺に若木を移植



子どもたちも一緒に作業

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：31本
(移植木含む)

参加者数

道内：約45人
計：約45人

緑化植物

ミズナラ、ヤマモミジ、クリ、サクランボほか

五感を通して自然体験できるグラウンド散策道の環境整備

青森県立七戸養護学校



事業概要

児童生徒が、五感を使って身近な自然を感じ、観察できるように自然環境を整備する。主な活動は以下のとおり。①色鮮やかな花を咲かせる木や香りがする木、実のなる木などを植樹。②教室内の採光や窓から見える景観を良くするために、中庭の大きくなった木を伐採。

事業成果

季節によって色鮮やかな花を咲かせる木や香りがする木、実がなる木があることを知らない児童生徒が多かったが、朝のマラソンや散歩時に植樹の看板や木を見て、興味を示していた。また、校内2カ所の中庭の木を伐採することで、中庭の景観が良くなり、明るくなった。教室にも外からの光が差し込むようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹した木が数年後に大きくなり、自然観察の実施効果



代表児童・教職員など18人が参加



看板を設置



記念植樹



中庭の大木を伐採

が期待される。しかし、植樹を行ったグラウンドは数年後に校舎増築で整備されるため、今後、植樹した木の数本を別の場所に移植しなければならない。そのほか、中庭の大木を伐採したことで、校舎外の景色が見えるようになり、明るくなった。

参加者の声

- ・完成式典に参加されたローソン関係者や青森県緑化推進委員会の方々に、中庭の木を伐採したことで、景観が良くなっただけでなく、教室に外からの光が入りやすくなったことを伝えると、伐採の効果に驚いていた。完成式典では、七戸養護学校の児童代表が、「季節ごとに花や実がなる様子を観察して、大切に育てていきます」とお礼の言葉を述べていた。また、植えられた木をじっくり観察していた。

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.003ha
 植付本数：21本
 除伐面積：0.2ha
 イベント：1回

参加者数

学内：12人
 学外：6人
 計：18人

緑化植物

ジンチョウゲ、クチナシ、ロウバイ、ヤマブキ、ドウダンツツジ、ヤマボウシ、ヒメリンゴ

滝沢中央小 環境緑化モデル事業

岩手県滝沢市立滝沢中央小学校



事業概要

目的は、令和元年度に開校したばかりの新設校の敷地内に、児童が集い、心安らぐような美しい木々を植えることで、学校緑化の推進を図ること。そして、児童が自然に親しみ、ともに成長しようとする気持ちを育てることである。主な活動は、植樹活動。

事業成果

児童が自分たちで学校の敷地内に植樹をしたことにより、その活動が思い出として残ることや愛校心を育むことができた。

事業をよく知る関係者の声

・式典、植樹ともに6年児童を対象にしたため、全校児童

に植樹を行ったことを知らせる活動を計画すれば良かった。

・植樹した木々に名称を書いた名札を付け、児童が木の名前を分かるようにしたい。

参加者の声

- ・大きく成長してほしい。(小学生男子)
- ・何年か後に、見に来たい。(小学生女子)
- ・植樹のために穴を掘った際、大きな石だらけで苦勞した。(40代用務員)
- ・今回の事業が行われることになった経緯について、児童に早い段階で説明をし、理解や興味をもっと持たせられたら良いと思った。(40代教諭)



シダレザクラを植樹



完成式典の様子



代表児童・教職員など116人が参加



児童らの手で植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.06ha
植付本数：28本
イベント：1回

参加者数

学内：114人
学外：2人
計：116人

緑化植物

ソメイヨシノ、シダレザクラ、スグリ、レッドロビン

学校環境緑化モデル事業

岩手県宮古市立千徳小学校



事業概要

学校のプール北側に植えてある成長したトウヒ・ヒバの枝の位置が高く、目隠しの役割を果たしていない。また、枝葉等がプールに入り水質環境の問題になっている。プールおよびその周辺環境を改善するために、トウヒ・ヒバの伐採、枝払い、シラカシを植樹した。

事業成果

トウヒ・ヒバの伐採によって、落葉・鳥の巣・虫等の落下物が減少し、プールの水質環境の改善が図られ、児童の精神面も含めた安心感に繋がった。校舎北側は団地のため住宅が多く、水泳授業へ抵抗感を感じていた児童もいたが、新たな植樹と今後設置するシートの活用により、改善が図られた。

事業をよく知る関係者の声

・プール北側西半分のトウヒ・ヒバを伐倒したが、東半分

も今後複数年にわたって整備が必要である。教育委員会と連携して計画的に整備を進めたい。

・数十年後にどのような作業や手入れが必要になるのか、伐採後に残っている地中の根を除去するまでの期間など、業者や専門家からの助言を受けながらできる範囲で対応していきたい。

参加者の声

- ・木が大きくて、上から落ち葉などいろいろ落ちていたけど、無くなったので少し安心する。(小学生)
- ・ノートもらった。木や環境のことが書かれていて勉強になった。(小学生)
- ・木の枝の位置が高く、住宅地から授業の様子が見えていたため、整備されて良かった。安心して学習できる。(20代小学校教諭、40代保護者)
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた対外行事であったが、式典で児童が合唱発表でき、練習の励みになり良かった。(40代学校関係者)



代表児童・教職員など約20人が参加



枝払い・伐採対象のトウヒ・ヒバ



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：7本
伐採本数：3本
枝払い本数：10本
完成式典：1回
表示板設置：1基

参加者数

学内・学外：約20人
計：約20人

緑化植物

植付：シラカシ
伐採・枝払い：トウヒ、ヒバ

創立150周年記念 佐倉河小学校 緑の森事業

岩手県奥州市立佐倉河小学校



事業概要

学校敷地内の緑化や、校庭の樹木の整備をととして、学校環境緑化に努め、児童に潤いのある学びの環境を提供できるようにする。また、本校創立150周年記念事業の一環として記念植樹を行うことで、植樹した樹木、そして母校に対する愛着心を深めるようにする。主な活動は以下のとおり。①老木の伐採、②枝の剪定、③創立150周年記念植樹。

事業成果

老木を伐採したことで、児童の安全が確保され、さらに日当たりが良くなり、学校環境の改善につながることができた。また、剪定を行ったことで近隣民家への落葉を減らすことができた。本校創立150周年記念事業の一環として2本のアメリカハナミズキを植樹したことで、校庭の景観が良くなり、また植樹した樹木への愛着心を醸成することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹したアメリカハナミズキが元気よく生長できるよう、今後の剪定作業等について計画的に対応していきたい。今回の事業で伐採・剪定した樹木のほかに、生育が十分でないものがあることから、これらの対応については、外部と連携しながら整備を進めていきたい。

参加者の声

- ・木に土をかぶせる時は、木を傷つけないようにと少し緊張した。これからも、私たちが植えた木を大事にしたい。(6年女子)
- ・10年後創立160周年を迎えたとき、この木がどれくらい大きくなっているのか見てみたい。これからは楽しみだ。(6年男子)
- ・これまで課題となっていた老木の伐採や、枝の剪定を行ったことで学校内の敷地がすっきりしたように見える。(50代用務員)



看板を設置



代表児童・教職員など66人が参加



アメリカハナミズキの記念植樹



児童も交代しながら植樹作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.005ha
 植付本数：2本
 伐採本数：6本
 看板設置：1基

参加者数

学内：64人
 学外：2人
 計：66人

緑化植物

植付：アメリカハナミズキ
 伐採：サクラ、クロマツ、スギ

「くろしお学習園」緑化事業

宮城県南三陸町立志津川小学校



事業概要

校地内にある老朽化が進んでいる学年園(畑)を生活科や理解等の学習で効果的に活用するために整備を行う。また、樹木の様子の変化から成長や四季の移り変わりを実感できるような樹木の植栽を行う。

事業成果

理科、生活科、総合等で活用していた学年園(「くろしお学習園」と改名)が整備、改修されたことで、栽培活動や自然観察への活用幅が飛躍的に上がる。さらに、植樹した木も含めた木々や自然の移り変わりの観察をとおして豊かな心が育つ。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然に囲まれた学校であったが、維持・管理がとても厳しい状況であった。このような機会をいただき、とてもありがたいと思う。(渉外担当、事業推進学校担当)
- ・完成が11月末だったことで、今年度の学習に生かせなかったが、次年度の学習園の割り振りや計画が今年度中に立てられることは何よりである。(学校緑化担当職員)

参加者の声

- ・事業に携わっていただいた多くの関係者の皆さんに感謝。使いやすい学習園になったと思う。(PTA関係者)
- ・「くろしお学習園」をこれからも大切にしていきたい。(児童代表)



記念植樹



完成式典の様子



代表児童・教職員など67人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：28㎡
植付本数：3本
改修面積：176㎡
イベント：1回

参加者数

学内：60人
学外：7人
計：67人

緑化植物

ハナミズキ、ヤマボウシ

桜華の宝石箱ゆめファーム

宮城県東松島市立鳴瀬桜華小学校



事業概要

目的は、新校舎移転に伴い、校地内及び周辺の緑化環境整備を行うことである。主な活動は以下のとおり。①学校北側の空地に畑と果樹園を整備し、実のなる木を植える。②校地に隣接する三角山から滝山公園に至るまでの山地に遊歩道を整備して児童が安全に散策できるようにする。③校地周辺に桜等を植樹する。

事業成果

農園は児童により「桜華の宝石箱ゆめファーム」と命名。今後、生活科総合的な学習における季節の野菜の栽培と果樹の収穫に活用し、児童の豊かな心情を養うことができる。遊歩道は学校から滝山公園まで自然の中だけを通して安全に行くことができ、自然に親しみ、郷土を愛する気持ちを伸ばすことができる。桜は本校校名にちなんだ校木で多種類の桜があることは児童の誇りとなっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・野菜や果樹の栽培・収穫などの農業体験活動を通して自分たちの食べ物について考えるきっかけになる重要な教育活動だ。(学校運営協議会委員)
- ・果樹の収穫は将来に繋がる活動でまだ成果は見えないが、子どもたちの伝統として引き継ぎながら活動を継続してほしい。(学校運営協議会委員)

参加者の声

- ・新校舎に、前の校舎にあった畑や梅の木があったら良いと思っていたので実現してうれしい。(6年児童)
- ・早く実がなってほしい。(6年児童)
- ・果樹が収穫できるようになるにはまだ時間がかかるので伝統として引き継いでいきたい。実がなるようになったら、ぜひ遊びに来たい。(6年児童)



完成式典では約50人が参加



実のなる木を植栽



校地周辺には桜等を植栽



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.06ha
植付本数：62本
下刈面積：0.15ha
除伐面積：0.1ha
イベント：3回

参加者数

学内：24人
学外：192人
計：216人

緑化植物

イチジク、ブルーベリー、ユズ、スダチ、カキ、リンゴ、サクランボ、ブルーベリー、ピワ、クリ、クルミ、ウメ、アーモンド、ピカンナッツ、サクラ、クヌギ、アケビ、ラベンダー

「南の園」緑化整備事業

秋田県立大曲支援学校



事業概要

校地南側の校庭（通称「南の園」）の緑化整備を行うことで、児童生徒が自然に親しむ機会を増やし、果樹の植樹や育成管理、収穫等の体験とおした木育及び食育の促進を図ることを目的としている。主な活動は以下のとおり。①児童生徒の手による、実がなる木の植樹、②地域の方との植樹を通じた交流、③植樹完成式典での記念植樹、④授業での果樹の成長観察。

事業成果

中学部生から、果樹園の散策をとおして「果樹名の看板を作成したい」との提案があった。植樹の活動により、これまで感じる事のなかった植物への興味・関心が高まってきている。小学部生はなかなか足が向かなかった校庭への散策機会も増えている。高等部農園芸班では、維持管理への関わり方を模索している。

事業をよく知る関係者の声

- ・小学部から高等部生まで、全員が植樹に関わったことで、果樹への愛着が湧くだろう。実のなる頃には卒業している生徒が、「後輩のみなさんに大切に育ててほしい」と言った言葉が印象的であった。果樹園管理の維持を徹底し、子どもたちが本物の体験できる学習教材の場にしてほしい。

参加者の声

- ・いちじくを植えた。葉っぱが増えてきてうれしい。(小学部児童)
- ・植えたレッドカーラントが少し元気がなくなってきたので、がんばって世話をする。(中学部生徒)
- ・僕たちが卒業してから実がなると思うので、後輩のみんなには、大切にして、調理実習などの授業でたくさん使ってほしい。(高等部生徒)
- ・自分も時々木の成長を見に来て、一緒に大切にしていきたい。(地域の方)



代表児童生徒が完成式典にて植樹



完成式典の様子



植樹の様子



小学部高学年がいちじくを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.0675ha
植付本数：37本
イベント：2回

参加者数

学内：177人
学外：5人
計：182人

緑化植物

イチヂク、レッドカーラント、カシス、キウイ、アンズ、ウメ、クリ、カキ、ブルーベリー、ジュンベリー

学校環境緑化モデル事業

山形県西川町立西川小学校



事業概要

町の豊かな自然を生かした環境教育や自然体験学習を、地域と連携しながら積極的に教育活動へ取り入れられるように、そして、生き物が生息しやすい環境にするため、ビオトープを整備した。活動は以下のとおり。①池の除草作業と植物の整理、②水辺の植物の植栽、③植樹。

事業成果

ビオトープを整備したことで、生き物が生息しやすい環境になり、体験的学習の場として活用が広がった。また、地域住民へのPRとなった。完成式典では、水を管理している区の関係者、学校運営協議会委員の方々に参列していただき、ビオトープの良さを見ていただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・水の抜け方で防水シートの点検も行いたかったが、これまでできてきた環境を壊さないように最低限の作業に留めた。学びの意欲向上に繋がる景観の良い場所となった。今後、水の管理をしっかり行い、常に適切な水の量を確保していく。また、整理した水辺の植物も増えすぎないようにして、生き物が住みやすい環境を維持していく。

参加者の声

- ・学習がしやすくなって良かった。(小学生)
- ・生き物も植物も大事にしていきたい。(小学生)



代表児童・教職員など77人が参加



記念植樹



整備されたビオトープ



ビオトープへ流れる水環境の整備

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
 植付株数：220株
 ビオトープ整備面積：0.02ha
 イベント：1回

参加者数

学内：65人
 学外：12人
 計：77人

緑化植物

コナラ、ミズナラ、ナナカマド、水生植物（アヤメ、カキツバタ、ハナショウブ、クサソテツ、ハス）

シンボルツリーけやき元気緑化事業

福島県喜多方市立松山小学校



事業概要

本校が設置されてから生き続けている「けやきの木」が、年数とともに弱り始めている。この木は、本校のシンボルツリーであり、これからもずっと学校を見守り続けてほしいという願いを受け、けやきの木の樹勢回復を目的に、表土置き換えや土壌改良などの工事と児童による施肥を実施した。

事業成果

けやきの木が元気に育っていくための工事をしていただいたことを、子どもや保護者、地域の方へ報告することができた。子どもたちからは、これからも一緒に大切にしていきたいという声を聞くことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業を実施するにあたり、樹木医の鈴木俊行氏（福島空港公園事務所勤務）に工事の計画のため、けやきの木を見ていただいた。鈴木氏によると、立派な樹木であり、手入れさえしっかり行えばいつまでも元気に生きられるとのことであった。

参加者の声

- ・けやきの木が元気に育っていくための工事をしていただき、たいへんありがたかった。これからも、子どもたちと一緒に大切にしていきたい。
- ・ずっと私たちを見守ってくれているけやきの木がこれからも元気でいられるようにしていただき感謝している。（児童）



6年生による施肥



樹勢回復のため酸素管設置



看板を設置



代表児童・教職員など43人が参加

実績とりまとめ

作業内容

土置き換え面積：10m²

酸素管設置：

4本（15cm、1m）

看板設置：1基

完成式典：1回

参加者数

学内：37人

学外：6人

計：43人

緑化植物

ケヤキ

七郷グリーン大作戦

茨城県坂東市立七郷小学校



事業概要

児童の花や樹木を愛する心を育めるように、そして、自然や四季を五感で感じられる緑環境の下で集い、交流し、校内や地域の緑化への関心を高められるように、憩いの場・学習の場として整備する。活動は以下のとおり。①校庭に桜の木を植樹、コウライシバやクローバー等を植え付け。②樹木の枝払い、剪定、自生植物撤去。③外構工事等。

事業成果

整備された場所は児童の応募で決定した「七郷小にこにこスポット」と名付けられた。子どもたちは集う場所が増えたので喜んでおり、休み時間には交流の場として親しまれ、憩いの場となっている。また、緑豊かになった場所で過ごすことで、子どもたちが季節を五感で味わい、自然に親しむことで、緑化への関心が高まり、野外での学習の場として活用することにも繋がっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・桜を育てることにより、花を愛で、芝生の上を裸足で歩くなど、自然を五感で感じられる環境が整い、ますます、校内や地域の緑化への関心が高まることを期待している。(緑化推進委員会)
- ・子どもたちが自然とふれあう機会が増えて、喜ばしいことである。これからも子どもたちのために自然豊かな学校を目指してほしい。(学校評議員)

参加者の声

- ・「七郷小にこにこスポット」として、休み時間には必ず芝生のベンチに座ってお手紙を書いたり、さくらの木の周りで鬼ごっこをしたりして楽しんでいる。(児童の声)
- ・卒業式には桜の花が咲き、とてもきれいで卒業生が集まり写真を撮った。うれしかった。芝生も青くなり、季節を感じる場所が増えて良かった。(教職員の声)



代表児童・教職員など約40人が参加



ソメイヨシノ



看板を設置



記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本
 植付株数：60株
 緑化面積：220.6㎡
 樹木の手入れ：30本
 記念樹銘板設置
 緑地整備に関する外構工事

参加者数

学内・学外：約40人
 計：約40人

緑化植物

ソメイヨシノ、クローバー、
 コウライシバ、タマリユウ

村松小ビオトープ活性化事業

茨城県東海村立村松小学校



事業概要

児童や地域住民が自然体験や学習を行える学校ビオトープの維持のため、学校・地域コミュニティ・専門の事業者と連携して、整備作業を実施した。長年にわたり、地域コミュニティの協力で除草作業、枝打ち等を行っているが、今回の事業では、水生植物の植栽、階段や橋の設置を行った。

事業成果

今回整備された、水路の橋や階段により、観察会での人の流れがスムーズになった。看板の設置により、学校ビオトープの存在をより周知することができた。植栽により、より多くの植物について児童が観察することができるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然の地形を活かした貴重な学校ビオトープであり、今後も長く維持できるように努めていきたい。(専門家)
- ・長年、地域や子供たちに親しまれてきたビオトープだが、コロナ禍により、子供たちの活動がやや停滞してしまった。今回の整備をきっかけに、再びビオトープに子供たちが戻ってくることを期待している。(教員)

参加者の声

- ・歩きやすくなって、ビオトープでの観察がしやすくなった。(地域ボランティア)
- ・新たに植えた草花の花が咲くのを楽しみにしている。(児童)
- ・これからもビオトープを大切にしていきたい。(児童)



完成式典



ビオトープ活性化事業のPR



整備されたふれあい広場



ビオトープの様子がわかる掲示板

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：60本
下刈面積：28ha
除草作業：3回
擬木橋：4カ所
擬木階段：1カ所
観察会：3回

参加者数

地域：500人
計：500人

緑化植物

ミカン、ヤマアジサイ、コムラサキ、ヒガンバナ、セリ、ミソハギほか

学校環境緑化モデル事業

栃木県鹿沼市立榆木小学校



事業概要

手入れがされず機能しなくなった池や築山を再生し、子どもたちの学習教材として活用するとともに、子どもたちが学校生活の中で自然に親しめる環境を作り、命や自然を五感で感じ感性を高めることを目的とする。主な活動は、①バードガーデン、バタフライガーデンとしての植栽。②メダカ池・水生生物池としての再生。③自然観察会との連携による自然環境学習。

事業成果

子どもたちは、興味関心を持って木の実を見たり、触ったり、池をのぞいたりし、まだ確認できていない小鳥や蝶が訪れる日を楽しみにしている。今後、池は理科や生活科の観察等で使用し、プール掃除時のヤゴ救出作戦で救ったヤゴを放流する予定である。また、地域の方から「池ができたんですね」と声をかけられるようになり関心を持っていただけました。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 榆木小学校の周りが市街地化で徐々に自然が失われている中、学校では水生生物のための水辺ビオトープとチョウの食草を中心とした野原ビオトープを造成した。水辺ビオトープでは造成中からカゲロウが飛び交い、植樹したエノキの葉ではアカボシゴマダラの幼虫が育っている。子どもたちが大好きな命あふれる校庭になるだろう。(鹿沼自然観察会会長)

参加者の声

- ・ この事業にたくさんの人たちが私たちのために協力してくださったことが、すごいなと思い、うれしかった。
- ・ これから築山や池に生き物が来るのが楽しみ。生き物に会えたらたくさんふれあいたい。
- ・ 「もっと自分たちの周りの環境を大切にしよう」「自分たちも自然を守りたい」と思った。(児童・栽培委員会)



完成式典



記念植樹



代表児童・教職員など97人が参加



水辺ビオトープ

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：11本
ビオトープの造成

参加者数

学内：7人
学外：90人
計：97人

緑化植物

クヌギ、コナラほか

学校環境緑化モデル事業

栃木県上三川町立明治小学校



事業概要

目的は、隣接するコミュニティセンターの方々との交流の場として、花壇の造成を行うことである。主な活動は、クチナシの植栽、花壇の整備等。

事業成果

とても立派な花壇が完成した。今後はコミュニティセンターの方々との交流の機会も増えると思われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・明治コミュニティセンターを利用する地域の方々との交流の場として、樹木等を整備したり、花壇を設置したり

していただき感謝している。ともに憩える環境を整えていただいたことにより、地域社会に開かれた教育課程を実現していきたいと考えている。(小学校)

参加者の声

- ・明治小学校に樹木を植えてくださってありがとうございました。樹木が大きくなるのがとても楽しみ。
- ・自分の募金が明治小の緑化に繋がってとてもうれしい。これからも募金を積極的に行いたい。
- ・明治コミュニティセンターの方と一緒にパンジーの苗を植えることができたので、これからも大切に育てていきたい。(栽培委員会)



記念植樹



代表児童・教職員など26人が参加



花壇にパンジーの苗を植える



明治コミュニティセンターの方と花壇の造成

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：5本
花壇の整備
低木刈込

参加者数

学内：14人
学外：12人
計：26人

緑化植物

クチナシ

平井小グリーン大作戦

群馬県藤岡市立平井小学校



事業概要

本校のシンボルとなっているサクラが成長とともに敷地外にも大きく枝を伸ばしたため、樹形を整えるための剪定を行う。また、新たに緑地花壇を設置し、児童が花木や草花と親しみ、環境問題や自然環境への関心を高められるよう整備する。具体的な事業内容は以下のとおり。①サクラ7本を対象に剪定及び養生。②キンモクセイ3本を植栽。③木製花壇を7.5㎡造成。

事業成果

この事業により、サクラがきれいな形になり、新たな緑

地花壇で花づくりを楽しめるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・剪定したサクラを大切に育てるとともに、緑豊かな平井小学校を築いてほしい。
- ・新たに設置した木製花壇で、周辺住民にも喜ばれる四季折々の花を咲かせてほしい。

参加者の声

- ・緑を大切にしたいと思った。
- ・立派な花壇にしたいと思った。



看板を設置



キンモクセイを植樹



完成式典



代表児童・教職員など19人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08a
 植付本数：3本
 剪定本数：7本
 花壇の造成：7.5㎡

参加者数

学内：13人
 学外：6人
 計：19人

緑化植物

植付：キンモクセイ
 剪定：サクラ

今宿小学校 わたしたちの森事業

埼玉県鳩山町立今宿小学校



事業概要

児童の緑を大切にしたいという気持ちを育み、自然について考える場を作ることを目的に本事業に取り組んだ。栽培委員会の児童が話し合い、植樹する木を次の理由で選定した。シダレザクラ：本校の緑化運動のシンボルとなるように。キンモクセイ：季節を感じるため。柑橘類を中心とした果樹：植物を育て、その恵みを頂くことを学ぶため。合計20本の木を植樹し、緑化を進めた。

事業成果

今回の学校環境緑化モデル事業は、予算面等で困難な学校緑化を進めていく最良の機会となった。児童は、自分たちでどの木を植えるかについて話し合って決め、植えたことで「責任をもって大切に育てていきたい」「伝統として残したい」という自然愛護の気持ちが育まれた。また、果樹を植えたことで、どのような恵みが得られるのかと、児童が興味を持ち、成長を温かく見守っている様子が見られる。

事業をよく知る関係者の声

- ・本校は、郊外に位置する学校で、比較的里山と呼ばれる林や森が多くある。しかし、児童には、それらは少し遠い存在であった。この緑化運動に取り組み、木を育て、木を守る活動を行うことで、今回の植樹を行った場所を起点として、本校の緑化運動をさらに進めていきたい。さらには、自分たちの地域の里山の環境にも目が向き、行動を起こせるようになればと思う。

参加者の声

- ・植樹に携わった児童は「早くこのシダレザクラに花がつかないかな」「いつになれば、この実は食べられるようになるの?」と関心を寄せていた。植樹に携わった栽培委員長は記念植樹の際に「今はまだ、小さな木ですが、この木を私たち今宿小の児童が大切に育て続け、丹精こめて手入れをし、緑豊かな場所に変えていきたい!」と思います。」と、この緑化事業に対する思いを述べていた。



植樹



看板設置



記念植樹



記念式典

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2a
植付本数：30本
環境整備面積：2a
イベント：1回

参加者数

学内：197人
学外：18人
計：205人

緑化植物

シダレザクラ、クヌギ、ミカンやレモンなどの柑橘類の果樹、キンモクセイ

ビオトープの整備

千葉県市原市立国府小学校



事業概要

本校には、昭和62年に湧き出た井戸水を利用した、児童・教職員手作りの「ビオトープ」があり、児童の憩いの場として親しまれていた。しかし、令和元年度の台風によりビオトープは荒廃してしまったため、復旧整備が課題であった。本事業では、自然環境の保持及び児童たちの学習フィールドとして再び活用できるようにビオトープの整備に取り組んだ。

事業成果

ビオトープ完成式典を通し、多くの方々の支えでビオトープが完成したことを児童たちは再確認することができ、感謝の気持ちを持つことができた。また、ビオトープをきれいに保つためにはどうしたら良いかと、水をきれいにする生き物や水草を自主的に調べる児童たちが増え、完成したビオトープが環境教育の一環としての役割を担うように

なりつつある。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校環境緑化を推進するこの事業は、学校の環境をより良くするだけでなく、環境教育の一環にも繋がり、大変ありがたい事業であったと感じる。完成した本校のビオトープは構造上どうしても水深が浅くなってしまっているので、どうしたら生物をうまく生息させていけるか、今後児童・教職員で考えていきたい。(学校長)

参加者の声

- ・自分の出身小学校にはこのような湧き水等はなかったので、とてもうらやましいと思った。児童たちにもこのビオトープを誇りに思ってもらいたい。(PTA 会長)
- ・今はまだ生き物はいないが、これからいろいろな生物や植物が生息するとうれしい。生き物を見に、もっと多くの子どもたちが集まってくると思う。(児童会長)



ビオトープと看板



代表児童・教職員など105人が参加



植樹



ビオトープを観察する児童たち

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：5㎡
植付本数：27本

参加者数

学内： 91人
学外： 14人
計：105人

緑化植物

サツキ、キンシバイ、サルスベリ、スイレンほか

ビオトープ池整備工事

東京都墨田区立第三寺島小学校



事業概要

本事業では、児童が主体となって、地域の生き物を守るために考えた持続持続可能なビオトープの造成を目指す。その過程において、児童が地域の生き物やビオトープについて調べ、多様な生物が地域の環境と関わって生きていることを学ぶとともに、地域の環境や生物について意識しながら生活できるようにする。

事業成果

本校の敷地内にビオトープがあることで、児童が地域の自然に対して意識するようになり、これまでビオトープを訪れることがなかった児童が、ビオトープの様子を見たり虫を探したりするようになった。ゲストティーチャーを招きビオトープや地域の自然について教えていただいた後、前年度考えたビオトープ案を考え直すことで、児童は、地域の自然を守りたいという気持ちを高めていた。

事業をよく知る関係者の声

- ・旅の途中に立ち寄る生き物たちが、次の場所に元気に旅立っていくまでの、居心地の良い休憩場所が出来上がった。この場所を生き物がもっと気に入るように、更に改良を加える努力も続けてほしい。(ビオトープについて教えてくれたゲストティーチャー)

参加者の声

- ・最初は生き物が暮らせれば良いと思ってビオトープを考えていた。でも、話を聞いたり調べたりして自然を大切にしてビオトープを作ろうと考え直した。このビオトープが三寺小の伝統になるようにしていきたい。(4年生児童)
- ・ビオトープを作る中、みんなで意見を交換したり出し合ったりして、相談する力が付いた。これからは積極的に活動に参加しようと思う。(4年生児童)



ビオトープの池まわり



ビオトープ全体像



授業「ビオトープ再生物語」4年生



完成式典

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：9㎡
植付本数：2本
総合的な学習：15時間

参加者数

学内・学外：60人
計：60人

緑化植物

サザンカ、ミカンほか

「ホテルの森・ウォーターパーク」事業

神奈川県平塚市立富士見小学校



事業概要

本校の教育活動、特に総合的な学習の時間、理科、生活科の学習を展開する上で必要な環境を整え、児童の環境教育に関わる活動が効果的に展開できるようにする。主な活動は以下のとおり。①ホテルの森の歩道整備。②ウォーターパークの橋の新設。③ポンプ小屋の新設。④ウォーターパークの整備。⑤水生植物の植え替え。⑥ふじみ水族館の水槽設置。

事業成果

本校の中庭にあるビオトープ「ホテルの森・ウォーターパーク」を中心に生き物とふれあう学習活動を展開することができた。そのために橋やポンプ小屋の新設、水生植物の植え替え、ふじみ水族館の水槽設置など教育の場を充実させることができた。

事業をよく知る関係者の声

・児童の学習活動の幅が広がり、充実した活動をするこ



完成式典



上から見たホテルの森・ウォーターパーク



夏にホテルが飛翔する水辺



ホテルの森・ウォーターパークの約束の看板等

ができた。

- ・今までできなかったことができるなど、思い切った活動を行うことができた。
- ・水生植物を植え替えたり、橋やポンプ小屋を新設したりすることで、持続可能な長く富士見小学校の大切な学習活動の場として整備することができた。

(校長・4年生担任・ビオトープ委員会担当教諭)

参加者の声

- ・ホテルの飛翔や自生を目指して友達と協力して取り組むことができた。
- ・ビオトープ委員として、富士見小学校の自慢であるビオトープで活動することができて良かった。
- ・みんなが気持ち良く「ホテルの森・ウォーターパーク」を使うために約束を考えたり、全校に放送したりすることで、小さな命について考えることができた。

(4年生児童・ビオトープ委員会児童)

実績とりまとめ

作業内容

植付株数：44株
 ホテルの森の歩道整備
 ウォーターパークの整備
 ウォーターパークの橋の新設
 ポンプ小屋の新設：2棟
 ポンプケース制作：2セット
 ふじみ水族館の水槽設置：
 6セット
 水槽台・ベンチ制作：3台

参加者数

学内・学外：約140人
 計：約140人

緑化植物

ショウブ、ウォーターポピー
 ほか（主に水生植物）

南小三浦メダカのビオトープ

神奈川県三浦市立南下浦小学校



事業概要

地区の自然環境再生を目的に新規ビオトープの設置を行った。6学年児童が自分たちで生物環境を整備することを目標として、年間の学習の折々に時間を設け計画的に設置を行った。理科や総合学習ともリンクし、生物環境や食物連鎖、SDG'sの観点に着目しながらも、環境再生だけでなく、各学年の理科や生活科などでも利用できる学校ビオトープを目指した。

事業成果

今回の事業をきっかけに、身近な虫や鳥などの生物の環境について関心をもつ児童が増えた。なかには数が減っていく生物を守る必要性などについて語る児童も現れ、自ら三浦半島に生息していた生物や、本ビオトープに生物を呼ぶ方法について調べる様子もみられた。長期的に見て三浦半島における生物環境保護の一助になったのではないかと考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・児童が主体的に環境活動へ取り組む学習ができる良い機会となった。限られた校地内だが、各学年が観察できる位置に設置ができた。今後、ビオトープの管理体制の維持や設置時の思想を継承する等の課題については、管理者が複数代変わっても必要な情報は看板等に記載するといった対策が必要だと感じた。

参加者の声

- ・このビオトープを作る学習をするまで、私たちが住んでいる地域で、昔は住んでいたはずの虫や鳥たちが、次々と姿を消していることは全然知らなかった。昔と同じような自然を再現しなければ、これからも生物は減っていくということを知って、クラスみんなで協力して、自然な水辺を作った。私たちは卒業するが、南小を中心に三浦半島からいなくなってしまった生物が帰ってきてくれることを楽しみにしている。



児童によるビオトープ作り



木で自然な水辺を再現



出来上がったビオトープ

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
植付株数：25株
ビオトープ設置：12㎡
イベント：1回

参加者数

学内：20人
学外：4人
計：24人

緑化植物

クワ、水生植物

花いっぱい、笑顔いっぱい運動

神奈川県大和市立桜丘小学校



事業概要

児童が植物に関心を持ち、自然に対する敬愛の念が抱けるように、学校花壇の整備、植栽の充実を図る。また、児童も一緒に活動し、華やかな花壇を学校の特徴の一つとすることで、母校への想いや地域への意識を向上させていく。主な活動は、花壇の土壌改良と各季節に咲く花の植栽。

事業成果

登校する児童が、花の開花を教えに来てくれたり、手入れをしているボランティアの方に種類の名前を聞いたり、作業を手伝ったりするなど、植物への関心が高まっている。また、図工や理科などでスケッチや観察の対象として活用している。卒業式や運動会、授業参観で訪れた保護者が、花壇で児童と一緒に写真を撮る姿も見られた。卒業式では児童の育てた花が飾られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・以前の卒業式の時、花壇の前で写真を撮る姿は見られなかった。せっかく立派な花壇があるので、写真を撮りたくなるような花壇をつくろうと思い、整備、植栽を行った。手入れを行っている時、児童が手伝ってくれたり、花の名前を聞いてきたり、関心が高まっていることを実感した。卒業式の時、花壇の前で笑顔で写真を撮っている姿を見て、事業の成果を感じることができた。

参加者の声

- ・チューリップの球根の植え付けを行った。1年生の時に鉢で育てたことがあったので、懐かしかった。植える深さ、土の被せ方など、1年生の時はその意味がよくわからなかったけれど、説明を受けて、「そうだったのか。」と納得した。春にきれいな花が咲いてくれることを願って、丁寧に土を被せた。みんなで水をあげ、様子を見ていきたいと思う。



花いっぱいの花壇



花の植付指導



児童による作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：400㎡
植付本数：300本
イベント：5回

参加者数

学内：100人
学外：30人
計：130人

緑化植物

スイセン、チューリップほか

中央小学校みんなの森事業

富山県黒部市立中央小学校



事業概要

目的は、ビオトープ環境の再整備及び整備を兼ねた危険木の伐採である。主な活動は以下のとおり。①高木（危険木）の伐採・剪定作業、②ビオトープ池の堆積物除去・清掃作業、③中低木の剪定作業。

事業成果

高木（危険木3本）等の伐採・剪定により、樹林内の日照環境が改善され、ビオトープとしての機能回復が期待できる。また、隣接する歩道や電線類への影響を排除・低減でき、安全面等からみても良かった。

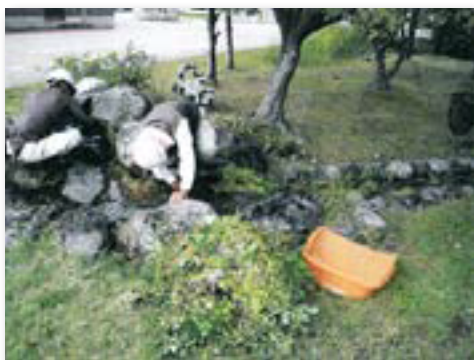
事業をよく知る関係者の声

・高木の伐採作業等、安全に配慮して行うことができた。

- ・今回の事業によってビオトープがより安全で楽しく過ごす場所となった。今後も引き続き維持管理に努め、児童の学習の場等として活用していきたい。
- ・伐倒木の再利用を含めた有効活用について、児童と一緒に検討したい。

参加者の声

- ・今回の環境整備で東側の大きな木を3本伐採していただいた。ぼくは木が伐られる様子を写真で見て、これまであった木が伐採されて少し寂しい気がしたけれど、この環境整備のおかげで、より安全で楽しく過ごすことのできるビオトープになってうれしい。（小学生男子）
- ・今回はありがとうございました。これからも中央小学校の自慢のビオトープを全校で大切にしていきたいと思う。（小学生女子）



ビオトープ池の堆積物除去・清掃



クレーンを使用した高木の伐採作業



高木伐採で明るくなった「みんなの森」



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

伐採本数：3本
樹木剪定
ビオトープ池の堆積物除去・清掃

参加者数

学内・学外：約15人
計：約15人

学習の森整備事業

富山県射水市立新湊小学校



事業概要

目的は、本校の創校150周年を記念し、学習の森の既存樹木群の環境再整備を行うことである。主な活動は以下のとおり。①樹木の伐採・剪定作業、②本校のシンボル赤門からグラウンドに抜ける遊歩道の線引き、③遊歩道を囲むブロックへのペイント作業（全校児童による）、④遊歩道の踏み板にするための伐採樹木の輪切り作業、⑤丸太の踏み板と、伐採樹木の破材をウッドチップにし遊歩道に敷き詰める作業。

事業成果

手入れが行き届かず伸び放題となっていた樹木を大胆に伐採・剪定したことにより、鬱蒼として薄暗く物騒な雰囲気があった学習の森が、明るく開放的な空間になった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回の事業により、本校のシンボル赤門や、旧校舍時代からあったモニュメントが改めて多くの人の目にふれるようになった。創校150周年を記念して、児童や地域の方が本校の歴史を振り返る機会となったことはうれしい。
- ・伐採した樹木の一部を遊歩道の踏み板やウッドチップにして敷き活用したことは、子供たちにSDGsの視点を広げるきっかけとなり教育的にも意義深かった。
- ・学習の森という名前にふさわしく、春みつけや秋みつけ、昆虫採集等、様々な学習の場として活用したい。

参加者の声

- ・遊歩道で遊ぶことを考えるとわくわくする。150年の歴史を残すことができたので、新湊小が統合しても、新湊小の思い出として大切に守っていききたい。（児童）
- ・この新たな新湊小学校のシンボルを大切に守ってほしい（PTA副会長）



テープカット



学習の森 遊歩道



アジザイを記念植樹



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2㎡
 植付株数：1株
 伐採本数：12本
 剪定本数：11本
 歩道整備：35m

参加者数

学内：246人
 学外：6人
 計：252人

緑化植物

植付：アジザイ
 剪定：クロマツ、スギほか
 伐採：クロマツ、ツツジほか

南郷小学校前庭緑化整備事業

石川県加賀市立南郷小学校



事業概要

校門付近の樹木が10m以上に大きく成長し、公道にはみ出た部分が折れるなどして登校時の安全性に問題があるため、校門・前庭整備と景観を良くするための緑化整備を行った。主な活動は以下のとおり。①学校正門付近の10m以上ある樹木の枝落とし、②正門前の花壇に低木のサツキツツジを植樹。

事業成果

令和6年度に創立150周年を迎えるにあたり、懸案であった校門付近の公道にはみ出していた樹木の整備ができ良かった。サツキツツジの植樹により前庭も整えられた。地域の方にも喜んでいただき、また、校門前が明るくなることで防犯にも繋がるため、本事業に大変感謝している。

事業をよく知る関係者の声

- ・完成式典の様子から当該事業の実施を通じて子どもたち



代表児童・教職員など58人が参加



サツキツツジを植樹



完成式典の様子



学校付近の公道に面した樹木整備

の緑や花への関心の高まりがうかがわれ、自然を慈愛する豊かで和やかな心の成長が期待される。(県緑化推進委員会の方より)

- ・樹木を植えて数十年経つと大きくなり、安全面や防犯上など手入れの必要性を感じるが、整備には多額の費用がかかりどの学校でも課題となっている。このような事業は大変助かる。(教員)

参加者の声

- ・前庭付近の木を切ったり植えたりしてくださってありがとうございました。前庭が明るくすっきりし、不審者対策にも役立つと思う。ローソンの募金のお金で工事が行われたと聞いてとても感謝している。私たちも今年、緑の募金に参加したので、そのお金が石川県の自然を守ることに使われるとうれしい。これからも、自然いっぱいの石川県になるよう協力していきたい。(6年代表児童)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：20㎡
植付本数：20本
除伐面積：0.1ha
イベント：1回

参加者数

学内：57人
学外：1人
計：58人

緑化植物

サツキツツジ

あらやっこの森事業

石川県小松市立荒屋小学校



事業概要

あらやっこの森（児童の遊び場・学習の場）周辺の樹木が大きく成長したことで、大量の落ち葉で児童が滑り、排水溝が詰まる問題や、樹木の影で薄暗くなった環境は防犯面で課題となっていた。以上を改善する目的から、樹木の伐採やヒイラギの木を植樹して、あらやっこの森の環境整備を行った。

事業成果

あらやっこの森の整備により、落ち葉が減少し、森が明るくなった。これまで以上に、学習時には、低学年・生活科で「虫探し」「秋見つけ」等の活動を積極的に行えた。また、休み時間には、築山周辺で遊ぶ児童も多くなった。あらやっこの森が明るく、安全な場となり、本事業に感謝している。

事業をよく知る関係者の声

- ・完成式典の様子から、子どもたちに「ローソン緑の募金」事業の主旨が理解され、子どもたちの緑や花への関心の高まりがうかがわれ、自然を慈愛する和の心の成長が期待される。（県緑化推進委員会）
- ・長年の間、あらやっこの森の活用や防犯上の手入れが課題だったが、整備費用面で学校単体では実現できなかった。この事業のおかげで実現できて良かった。（教員）

参加者の声

- ・あらやっこの森周辺の木を伐っていただき、ありがとうございました。とてもスッキリとして、鬼ごっこや、虫探しなどを楽しく行えるようになった。また落ち葉が少なくなったおかげで、滑ることもなくなり安全に遊ぶこともできる。荒屋小学校の児童が、このあらやっこの森で、楽しく遊べるようになったことを感謝している。（6年児童）



あらやっこの森で秋見つけ



あらやっこの森で虫探し



完成式典



ヒイラギを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：40㎡
植付本数：1本
除伐面積：5㎡
イベント：1回

参加者数

学内：16人
学外：3人
計：19人

緑化植物

ヒイラギ

鳴鹿小環境美化推進事業

福井県坂井市立鳴鹿小学校



事業概要

校舎周辺の多種多様な樹木が大きく茂り、隣り合う樹木同士がぶつかり合うようになった。また、ビオトープ周辺については、混み合った樹木により日光が遮られるなど、生き物が住みにくい環境になりつつあった。本事業では、生き物が住みやすい環境を整えることを目的に、樹木の剪定・伐採、実がなる樹木の植栽を行った。

事業成果

この春から6年生を中心として、以前は鳴鹿地区に生息していたホタルを呼び戻す活動に取り組んでいる。今回、ビオトープ周辺の樹木を剪定や伐採したことで、生き物が住みやすい環境が整備され、樹木自体も枝葉が整えられたことで、生き生きとしている。学校全体の雰囲気が明るくさわやかになったように感じられる。

事業をよく知る関係者の声

- ・多種多様な樹木が植わっている豊かな環境は児童にとって望ましい。しかし、校舎の高さを超える樹木や、枝葉が敷地外の歩道にまで伸びていたため、児童の学習活動や通学の安全が気がかりであった。本事業により樹木が整備され、景観や環境が良くなったと感じている。今後の課題は、樹木の維持管理上、継続的な支援が必要だと考えられる。

参加者の声

- ・緑が多い学校であることは、魅力の一つであると考えていたが、なかなか手入れが難しい状況だということも感じていた。そのような中、今回の事業により校舎周辺の樹木全般にわたって整備されたことで、非常に景観がよくなり、喜ばしいと感じている。今後も、是非こうした事業を活用して、維持管理をしてほしい。(保護者)



校舎付近の樹木の手入れ後の様子



完成式典(活動発表)



記念植樹



代表児童・教職員など28人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10㎡
植付本数：4本
除伐面積：0.72ha

参加者数

学内：22人
学外：6人
計：28人

緑化植物

植付：ブルーベリー、レモン
伐採：クヌギ、サクラ、ケヤキ、イチョウ、コナラ、プラタナス、マツ、ツゲ、サザンカ、キンモクセイ、イチイ、ヒマラヤスギ、モミジ、ナンテン、イチジク、ホオノキ、トベラほか

敷島小グリーンいっぱいプロジェクト

山梨県甲斐市立敷島小学校



事業概要

目的は、緑を育て守る活動を通して自然を愛する精神を醸成し、環境教育の推進を図ることである。主な活動は以下のとおり。①枯損木の撤去及び抜根と処理、②植栽工事と整地、③児童による完成記念行事の実施。

事業成果

枯損木の撤去及び抜根と処理を行ったことで倒木の危険がなくなり児童の安全が図られた。また、新たに植樹をしたことで景観が良くなり、樹木の生育も良くなった。花の美しい姿や、鮮やかな緑の様子を見て、心が動かされたという児童が多く、植物の持つ良さを実感する機会となった。

事業をよく知る関係者の声

・本校の樹木は、どれも年数が経っている。特に校庭の東

側には老木が多かったので、若木を植えていただいてこれから伸びていく木の生命力を感じることができた。児童にも樹木の持つ力を感じてほしい。(学校職員)

・環境は人をつくる。自然環境は人の心知らず知らずに豊かに育んでくれる。この「緑の効果」が、今後、敷島小の財産になっていくことを信じている。(校長)

参加者の声

・全国で緑の募金活動に3億円ものお金が集まっていることを知った。環境問題に関心が高い人が多いことが分かり、改めて環境は大切だと思った。(6年児童)

・敷島小学校は今年度150周年を迎える歴史のある学校だ。校庭にエノキの大木があるが、植樹した若い木と比べることで、その大きさや生きてきた年数を実感することができ、植物の生命力を感じた。植樹した木も大切にしていきたい。(6年児童)



看板を設置



校庭に植栽



完成式典にて看板の除幕式を実施



代表児童・教職員など60人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：30㎡
 植付本数：3本
 伐採本数：1本
 剪定本数：2本
 幹・枝処理：1式
 伐根処理本数：2株

参加者数

学内：58人
 学外：5人
 計：63人

緑化植物

ハナミズキ

やちだも150周年プロジェクト

長野県白馬村立白馬南小学校



事業概要

児童が自然に親しむ場を作りたいという願いと、令和5年度の学校創立150周年の記念事業の一環として、学校の教育環境整備・緑化推進や、児童の思い出に残る築山の造成、植樹を実施した。

事業成果

草の上に寝転んだり、築山の斜面を滑ったり、転がったりしながら友達と遊ぶ姿が見られた。今後は植樹したサクラが成長して子どもたちの楽しい遊び場となるだろうことを予感させる。また、冬季にはクロススキーの良い練習場にもなりそうである。

事業をよく知る関係者の声

- ・築山については、低学年の児童でも上り下りでき、安全に遊べる場所ができた。記念植樹で植えたオオヤマザクラも、これから子どもたちとともに育ち、良い思い出になってくれると思われる。

参加者の声

- ・思ったより小さいなと感じたが、実際に上ってみると高さがあり、気持ち良かった。(児童)
- ・草の上を転がって遊ぶのがおもしろかった。(児童)



築山の造成



完成式典



児童・教職員など122人が参加



記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：約4㎡
植付本数：1本
築山面積：約64㎡

参加者数

学内：102人
学外：20人
計：122人

緑化植物

オオヤマザクラ

創立 150 周年緑化事業

長野県須坂市立須坂小学校



事業概要

令和5年度に創立150周年を迎える本校は、13年前に同じ敷地内に須坂支援学校が開校し、共生社会を生きる子どもを育てる学校として運営をしている。様々な人と関わりながら、150周年を記念した庭を造成したいという児童の願いのもと、校門前の敷地に人々の憩いの場となる庭園づくりを実施した。

事業成果

地域の学校を地域で盛り上げた活動にしたいこと、造園の専門知識を持った方に支援をしていただきたいことから、児童らと相談し、須坂創成高等学校農業科の生徒さんと協働で実施する庭づくりが実現した。高校生が学校で学んだ知識を本校児童に教授・支援するやりとりは、暖かい交流を育むことに繋がった。児童と生徒のアイデアで造り、思いのこもった庭となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 高校生の先輩を信頼し、頼って植樹する様子や、高校生も小学生にわかるよう身振り手振りを交えて教えている様子から、交流する良さを感じた。創立150周年記念の事業として、校内の活動に収まらず、高校生と関わることで活動が広がり良かった。創成高校の生徒さんとは今後も交流を続けると聞き、これからの活動が楽しみになった。

参加者の声

- ・ 高校生のおかげで植え方がわかった。交流でき良かった。高校生は頼もしい。(小学6年生)
- ・ きれいな花壇をつくりたいと思っていたのでアドバイスをもらえて良かった。(小学6年生)
- ・ 自分たちが植えた芝生の上に寝転がったらとても気持ち良かった。(小学6年生)
- ・ 小学生だった自分の頃を思い出した。学んでいる造園を通して交流できたのは良い機会。(高校生)



看板を設置



児童らが植栽



6年生全員による活動発表



完成した園庭にて

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
植付本数：272本
イベント：5回

参加者数

学内：250人
学外：50人
計：300人

緑化植物

ヤマボウシ、キンモクセイ、
ジュンベリー、ツゲ、モミ、
ライラック、アジサイ、コウ
ライシバ、シバザクラ

開校150周年記念「かしの木よ永遠に」事業

岐阜県垂井町立府中小学校



事業概要

20年前の開校130周年を記念して植栽した三代目かしの木を子どもたちの目の触れる場所へ移設するとともに、そこに集うことのできるベンチも設置した。併せて、かしの木のどんぐりから育てた四代目かしの木の苗木を植えた。

事業成果

子どもたちにとって、シンボルツリーの存在が身近になり、かしの木の元を集って学んできた府中小学校の歴史や未来を感じることができた。また、開校150周年を迎える前に、地域の人たちの注目も集まり、ふるさとを見つめなおし、発展させていこうという機運が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・かしの木の移設だけでなく、かしの木のどんぐりから芽吹いた苗木をさらに植樹する「つながり」を感じる事業ができた。今後も大切にしていきたい気持ちが育めた。(校長)

参加者の声

- ・自分たちの成長をかしの木に見守ってほしいと思った。(児童代表)
- ・かしの木にかかわる思い出が子どもたちの中にもたくさんあることがわかった。また、防災に関わり、かまどになるベンチを備える取り組みも、地域の役に立つことに繋がった。(学校運営協議委員)



移植した三代目のかしの木



看板を設置



児童・教職員など約230人が参加



四代目のかしの木を記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
 移設本数：1本
 ベンチ設置：2基
 イベント：1回
 憩いの場設置

参加者数

学内：223人
 学外： 8人
 計：231人

緑化植物

シラカシ

東明小学校敷地内樹木剪定事業

岐阜県可児市立東明小学校



事業概要

東明学校の校庭環境や子どもたちの学習環境の向上を図るため、以下の活動を行った。①小学校の校庭周辺に植えられているサクラ、カイヅカイブキ、メタセコイア等、約60本の剪定、②事業を記念して、ハナミズキ2本を植樹。

事業成果

東明小学校は、校庭が広く、その周囲に多くの樹木が植えられている。3年前に開校50周年を迎えており、樹齢50年を超える木々があるが、学校敷地外へ多くの枝葉が伸び、近隣の住宅や農地に枝葉が落ちている状態であった。今回の事業で木々の枝葉が剪定されたことにより、校庭が美しい環境となっただけでなく、近隣への落ち葉を減らすことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・校庭が大変すっきりとし、美しい環境となった。整った環境の中で学べることは、小学生にとって大変貴重なことである。また、剪定されたことで、樹木の枝葉が、近隣の住宅や農地(田んぼ)に落ちて迷惑をかけることがなくなり、大変ありがたい。

参加者の声

- ・緑に囲まれた広い運動場は、私たちの誇りだ。そんな私たちの運動場の木を、とてもきれいにしていただき、ありがとうございました。きれいな緑の中で、運動会を行うことができ、みんな一生懸命に頑張った。これからも、この運動場で、みんなと仲良く元気に遊んだり、勉強をしたりしたい。(児童代表 環境委員長の声)



樹木の枝を剪定



田んぼに面している樹木の枝を剪定



植樹したハナミズキ横に看板を設置



ハナミズキを記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：40㎡
 植付本数：2本
 剪定面積：1200㎡
 剪定本数：60本
 イベント：1回

参加者数

学内：4人
 学外：7人
 計：11人

緑化植物

ハナミズキ

北小創立50周年記念プロジェクト

静岡県長泉町立北小学校



事業概要

目的は、令和3年度に創立50周年を迎えたことを機に、ポストコロナの時代を見据え、子ども達が緑に囲まれた中で友だちと集い、憩うことのできる中庭を創り出すことである。主な活動は、中庭に植樹し、その周りにベンチとテーブルのセットを設置した。

事業成果

50周年を記念して、自分たちの願いがこもった記念樹を中心とした憩いの広場で過ごすことにより、自然とのふれあいを深め、自然環境に興味を高めるなど、環境学習が推

進される。また、50周年を記念した憩いの場を完成させた大切な思い出として記憶される。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林を大切にしていける学びの場として大いに活用していく。また、環境教育に関心を高めていきたい。

参加者の声

- ・きれいになった中庭に負けないよう勉強して、自然や地球環境を守り、明るい未来を築きたい。(完成式典代表児童)



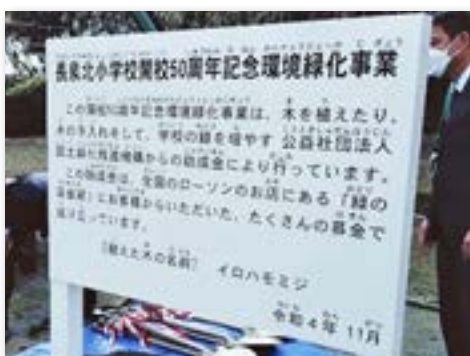
整備された中庭



記念植樹



完成式典



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
 剪定本数：8本
 中庭整備：
 テーブルベンチ、芝張り

参加者数

学内：163人
 学外：4人
 計：167人

緑化植物

イロハモミジ

わくわくの森 ドキドキの池 保全プロジェクト

静岡県静岡市立松野小学校



事業概要

目的は、「なりたい自分を目指し、続けて挑戦する松野っ子」という重点目標達成のために取り組んでいる「松野ふるさと郷育」の舞台となる学校林・ビオトープの整備。活動は以下のとおり。①学校林のコナラ伐採、サクラ枯枝の処理、②ビオトープの水辺及び周辺の緑化等。

事業成果

安全面からこれまで懸念されていた学校林奥の古木を林業家の方々に伐採していただき、安全な学校林になった。台風で甚大な被害を受けたビオトープが復旧し、さらに整備作業でメダカ・ホタル・チョウなどの生物や植物が生息す

る環境をつくっていただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・台風被害からボランティアのご協力を得て復旧した「新しいビオトープ」をこれから子どもたちの手でつくり、学びの場としてさらに発展させていただきたい。

参加者の声

- ・台風の被害の時は気持ちが沈んでしまったが、復旧・整備作業で新しいビオトープをつくることができるのとてもうれしい。
- ・学校林がさらに安全になり、探検しやすくなったので、調べたいことをたくさん見つけたい。



学校林整備



ハナミズキを記念植樹



復旧したビオトープ



完成式典

実績とりまとめ

作業内容

- 【ビオトープ整備】
植付本数：6本
植付株数：160株
- 【完成式典記念樹】
植付本数：2本
- 【学校林の手入れ】
伐採本数：2本
枯枝処理：3本

参加者数

- 学内：60人
- 学外：20人
- 計：80人

緑化植物

- 植付：ハナミズキ、ミカン類、エノキ、カラスザンショウ、水際植物（スゲ類ほか）、ブツトレア、フジバカマ、ショウブ・アヤメほか
- 伐採：コナラ
- 枯枝処理：サクラ

どんぐりの森改造計画

静岡県掛川市立横須賀小学校



事業概要

6年生がみんなで遊べるような中庭にしたい、との思いからスタートした中庭改造計画。遊べて、1・2年生が身近な自然に親しみながら学ぶことができる「どんぐりの森」に改造することにした。活動内容は、①日当たりを良くするために、元々植えられている樹木の伐採、②どんぐりの木を4本植樹。

事業成果

中庭に植えられていた樹木の伐採で、日当たりが良くなり、広いスペースが確保できた。これにより、植栽したどんぐりの木が生育できる環境に加え、中庭での活動の幅が広がった。また、どんぐりの木をマテバシイ(1本)、コナラ(1本)、クヌギ(2本)の3種類を選定したことにより、バラエティーに富んだどんぐりを採取できるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナの関係で、完成式典を児童代表という形で実施した。ぜひ、全校児童にお披露目したい事業であった。
- ・広いスペースの活用については、今後、アイデアを子どもたちから募る予定である。
- ・どんぐりの木が大きくなり、どんぐり採取できるようになったら、1・2年生の生活科で活用できる。

参加者の声

- ・子どもたちとふれあえる貴重な経験をした。
- ・子どもたちは寄付をしてくれたおかげで、中庭が整備されことに感謝している。
- ・10年後くらいに、本事業の成果が表れることから、未来に向かって語り継いでいきたい。



完成式典



クヌギ・コナラ・マテバシイを植樹



中庭の整備



看板設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：100㎡
植付本数：4本
除伐面積：100㎡

参加者数

学内：16人
学外：6人
計：22人

緑化植物

クヌギ、コナラ、マテバシイ

スマイル花壇をつくろう

静岡県森町立飯田小学校



事業概要

学校の花壇(学級用以外)ができてから年月が経ち、老朽化している。花壇の世話は、スマイル委員会の児童が毎日水やりを行ったり、草取りをしたりしているが、児童数も昔の半分以下になってしまい手が回らない。そこで、老朽化した花壇を直しつつ、児童数に見合った大きさに作り直すことにした。また、学校内にある樹木の剪定をし、樹木を安全に健康な状態にする。

事業成果

花壇の手入れは児童だけでは手が回らないため、花壇ボランティアが、月1回花壇の手入れ(育てた苗の植栽、植え替え、草取りなど)をして頂いている。しかし、ボランティアの高齢化に伴い、花壇のリニューアルの希望が出ていた。今回の事業で、花壇をリニューアルして、とても世話が楽になるとともに、見た目もすっきりと美しくよみがえった。

また、運動場から道路に出ていた大きな樹木の枝が剪定され、形が整い、安全になった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回の事業で花壇をリニューアルしたことで、本当にきれいにスリム化できた。この事業がきっかけで、花壇を囲む道もきれいにしなくなり、追加で職員によって防草を兼ねた道に作り直した。

参加者の声

- ・花壇がきれいになり、草取りもしやすくなってうれしい。水やりも花壇全体にかかるようになって良かった。(委員会児童)
- ・通路がきれいになったので、草取りがしやすくなった。花壇がきれいになってうれしい。(委員会児童)
- ・花壇がきれいになってやりがいがある。(花壇ボランティア)



花壇の手入れ



児童らも一緒に花壇の整備



きれいにスリム化された花壇が完成



完成式典

実績とりまとめ

作業内容

剪定本数：10本
花壇の再整備面積：31.2㎡
通路の設置：防草シート貼り、
玉砂利敷

参加者数

学内：17人
学外：3人
計：20人

十四山西部小学校みんなのおま森事業

愛知県弥富市立十四山西部小学校



事業概要

目的は、学校環境の緑化を通じて、青少年環境教育を推進することである。主な活動は以下のとおり。①運動場東側の伐採作業、②運動場東側の剪定作業、③運動場の周囲の植栽作業。

事業成果

幹の内部からクビアカツヤカミキリが大量発生し、腐食した木や及び枯れ木の伐採を行った。また、密集している部分の枝や強風にあおられ折れそうになっている枝の剪定を行った。植樹に向けて、切り株を掘り起こし、薬剤を注入して整地を行った。その後、柑橘系の木やサクラなどの植樹を行い、緑化教育を推進することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・老朽化したサクラの木や害虫による被害を受けた木、手入れがされていない老木を伐採や剪定をすることにより、明るい環境ができあがった。
- ・子どもたちが希望した木を植えることにより、木に愛着がもてる。

参加者の声

- ・学校の中の緑が少ないと感じていたので、木をたくさん植えていただけてうれしい。植樹は初めて行った。このような機会をいただいて、たくさんの方々に協力していただき、木を植えることができたので良かった。このままずっと、木が枯れずに大きく育ってほしい。(小学6年)



代表児童・教職員など98人が参加



記念植樹



伐採・剪定前



伐採・剪定後

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
植付本数：15本
剪定本数：10本
伐採本数：10本
イベント：1回

参加者数

学内：91人
学外：7人
計：98人

緑化植物

サクラ、シイノキ、スタジイ、ココスヤシ、モミジ、キンモクセイ、サクランボ、ミカン、レモン、アマナツ

フナビオの森再生プロジェクト

愛知県東海市立船島小学校



事業概要

船島小学校のシンボルであるビオトープは16年前に完成し、2010年には国土交通大臣賞を受賞。しかし、近年は老朽化が進み、ビオトープでの学習活動が減り、児童の関心も低下していた。本事業では、ビオトープで利用している井戸周辺の整備を行い、生き物の観察活動が行いやすいスポットを作るとともに、児童のビオトープへの関心を取り戻そうとした。主な活動は以下のとおり。①井戸水がたまる池の泥を取り除く。②池周辺に敷石・碎石を整備する。③井戸水を受ける舟形石を設置する。④完成式典を行い、ビオトープの整備を周知する。

事業成果

委員会の児童と地域のシルバーさんが協力してビオトープの泥を取り除く作業を行うことで、児童はビオトープが地域からも愛されるものだと感じる事ができた。また、

整備された井戸周辺に児童が来て遊ぶようになり、生き物の観察など今後の学習活動への積極的な活動が期待される。

事業をよく知る関係者の声

- ・自分たちの力でビオトープがきれいになったと感じた児童が多かったと思う。積極的にビオトープに関わる活動ができたおかげで、ビオトープへの関心がこれからも継続されると良い。(緑化園芸委員顧問)
- ・きれいになった井戸周辺を、今後の生き物観察などの学習活動につなげていきたい。(校務主任)

参加者の声

- ・古くなったビオトープがきれいに生まれ変わった。これまでは井戸の周りに来ることはあまりなかったけれど、また来なくなる井戸になった。これからもビオトープがみんなにとって大切な場所になるように、大切にしていきたい。(緑化園芸委員長)



川の整備・清掃



整備されたビオトープで完成式典を実施



記念植樹



代表児童・教職員など55人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
池回り整備：1回
泥さらい：1回
完成式典：1回

参加者数

学内：40人
学外：15人
計：55人

緑化植物

ヒメコブシ

緑に親しめる学校づくり事業

愛知県豊橋市立くすのき特別支援学校



事業概要

本校は平成27年度に開校した。開校時「季節を感じ、花の香りに包まれ、いつでも緑と親しめる学校」をコンセプトに植栽された。しかし、開校から8年が経過し、生育状況が良くなかったり、枯れてしまったりした樹木があったので、樹木の植え替えを行った。

事業成果

今回の事業を実施するにあたり、改めて開校時のコンセプトを再認識した。このことにより、校地内緑化を整え、より良い学校環境を作っていくことを確認した。また、正門付近に市花のツツジを植えることで、市としてのお出迎え

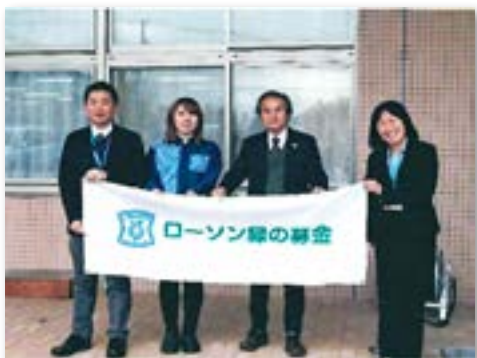
の気持ちを表現できると考えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・生育状況が良くないあるいは枯死した樹木の植え替えを行った。樹木が育たないのは土壌や植える場所の日照条件がその樹木にあっていないのではないかな。今後の生育状況をよく観察する必要がある。

参加者の声

- ・春になりサクラが咲き、ツツジが咲くと新しい年度が始まると感じられる。たくさんの花に出迎えられると気分がワクワクする。元気な樹木を見ると心穏やかになる。



学校関係者・県関係者など9人が参加



記念植樹



正門近くに植えられたヒラドツツジ



記念樹近くに看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：41本

参加者数

学内：4人

学外：5人

計：9人

緑化植物

ソメイヨシノ、ロドレイヤ、常緑ヤマボウシ、ヒラドツツジ

川崎小学校フレンドリー緑化事業

三重県亀山市立川崎小学校



事業概要

4年前に新校舎が建築され校舎周りも整備されたが、2年前の猛暑で中庭や農園周りの植木が枯れてしまい修復できない状況が続いていた。本事業により、枯れてしまった植木の補植、校内の環境整備を進める。

事業成果

中庭や農園周りに補植し、校内の緑化を進めることができた。完成式典には6年生児童と、地域の方も参加。学校だけでなく本事業のことを掲載、学校の児童はもちろん、保護者、地域の方にも校内の緑化が進められたことを周知できた。

事業をよく知る関係者の声

- この事業で植樹してもらったことで、中庭や農園に緑が戻り、うれしく思っている。緑豊かな環境が、子どもたちはもちろん学校を訪れる人たちにも、安心や安らぎを与えてくれるだろう。

参加者の声

- 卒業の記念として、緑化事業の植樹を行うことができ、小学校での思い出が1つ増えた。小学校を卒業してからも、遊びに来た時、僕たちが植えた木を見ると、小学校のことを思い出すことができると思う。在校生のみんなに、きれいになった中庭やフレンドリー農園の周りの緑をこれからも大切にしてほしい。(記念式典スピーチより)



事業前の農園周り



植樹作業の様子



事業後の中庭



完成式典

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4ha
植付本数：431本

参加者数

学内：82人
学外：7人
計：89人

緑化植物

ヒラドツツジ、サツキ、ドウダンツツジ、ハナミズキ

塩浜小学校みーつけたの森事業

三重県四日市市立塩浜小学校



事業概要

春～秋にかけて、学習林「みーつけたの森」を中心に雑草が生い茂り、子どもたちが立ち入ることができなくなる。そのため、木々の剪定、雑草の草刈りを行い、防草シートを敷き、その上にウッドチップを撒く作業を行った。また、子どもたちの憩いの場となるよう、植樹を行い、より豊かで魅力的な森に整備した。

事業成果

樹木剪定を実施したことで、森全体に差し込む光が増え、森が明るくなった。また、森全体に防草シートを敷き詰め、その上からウッドチップを撒いたことで、地面がふかふかとして子どもたちの遊び場として最適である。木々にストラックラインを設置したことで、たくさん子どもたちが森へ足を運ぶようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・森全体の整備により、子どもたちの運動量が増えたことは喜ばしい。今後の可能性として、異学年のペアで本の読み聞かせを森の中で実施するなど、森に親しむ機会を意図的に増やすことで、子どもたちにとって「お気に入りの場所」になると思われる。体力向上を促進する場としての活用も考えたい。

参加者の声

- ・植樹した木が実をつけるのが楽しみ。
- ・友達と森の中でいっぱい遊びたい。
- ・春になったら、生き物探しをしてみたい。
- ・私たちが大人になったとき、今回植樹した木が大きくなって、「みーつけたの森」がよりステキな場所になっていることを楽しみにしている。



代表児童・教職員など208人が参加



塩浜小学校キッズボランティア
会員証



看板を設置



子どもたちもスコップや鍬で土をならす

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
植付本数：22本
下刈面積：0.3ha
除伐面積：0.3ha
イベント：1回

参加者数

学内：203人
学外：5人
計：208人

緑化植物

ヤマザクラ、レモン、ウメ、
ミカン、クヌギ、マテバシイ、
ザクロ

学校正門前の緑化による環境整備

京都府立八幡支援学校



事業概要

学校の顔となるべき学校正門前の植栽スペースについて、既存の樹木が経年により枯れたり折れたりしており、景観上だけでなく施設管理上の課題となっていた。今回、当該スペースにサツキツツジを植栽するとともに、散水用パイプを整備し、学校緑化の推進を図ることとした。

事業成果

これまでに枯れたり折れたりし、貧弱になっていた植栽スペースが緑で埋め尽くされたことで、学校の顔である正門前の景観が飛躍的に向上した。また、散水用パイプを併せて整備したことで、灌水が容易かつ確実にするなど、管理面でも大きく向上した。

事業をよく知る関係者の声

- ・見える形で大きな変化があったことにより、今回の整備を環境や緑化について学習するきっかけとした。とりわけ、徒歩や自転車に登下校する生徒にとっては毎日目にする場所であるため、自然や環境に対する意識の高まりが見られる。将来的には、生徒達自身が管理していくようなことも考えたい。

参加者の声

- ・正門の雰囲気が変わって良くなった。(児童)
- ・緑がいっぱい。きれい。(生徒)
- ・門柱の煉瓦と植栽のコントラストが良い。(保護者)
- ・サツキの花が咲くのが楽しみ。(保護者)
- ・環境学習の教材としたい。(教職員)
- ・水やりなどサツキツツジの管理を生徒に任せてみる良い機会ではないだろうか。(教職員)



植栽スペースにサツキツツジを植栽



代表児童・教職員など11人が参加



看板を設置



花咲くサツキツツジ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：34.3㎡
植付本数：170本
イベント：1回

参加者数

学内：8人
学外：3人
計：11人

緑化植物

サツキツツジ

孔舎衛東小学校 ビオトープ「光の里」改修事業

大阪府東大阪市立孔舎衛東小学校



事業概要

10年以上前に完成した本校のビオトープ「光の里」では、ホタルの幼虫を放流し、成虫になる6月末に「ホタルの夕べ」を開催していた。このイベントには本校児童や地域の方も見に来られていた。しかし、ビオトープの老朽化が進み、児童は危険防止のため、立ち入ることができない状況であった。本事業では再び児童が立ち入りできるビオトープの復活を目的に、老朽化したビオトープおよび周辺の整備を実施した。

事業成果

地元の「ホタルの会」の支援もあり、児童が水辺の動植物を観察できる、みんなの憩いの空間が完成した。

事業をよく知る関係者の声

- ・ビオトープの歴史が明らかになり、児童に伝える機会となった。

参加者の声

- ・整備されたビオトープを見て児童が喜んでいました。
- ・ホタルの学習で育てた幼虫やえさとなる貝を実際に放流できる。



完成式典



記念のホタルの幼虫を放流



よみがえったビオトープ「光の里」



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：15㎡

下刈面積：15㎡

イベント：1回

参加者数

学内：124人

学外： 8人

計：132人

みどりっこトープ事業

大阪府池田市立緑丘小学校



事業概要

校内にある老朽化したビオトープの再生について児童が主体となって考え、また、親しみが持てる場となるようビオトープ整備を行った。なお、本事業を実施した児童が3年生の時にビオトープの手入れをしたが、整備した状態が保てなかった。この結果を問題提起とし、どのような手立てが必要かを考え「みどりっこトープ大作戦」と題し、1年間携わった。

事業成果

児童が、ビオトープの生態系を調べ、どのような環境が適しているのかを考え、時には外部講師からのアドバイスをもらうことで、より学びを深めることができた。そして、本事業をきっかけにビオトープだけではなく、身近な環境問題に繋げて考えている児童も多くおり、次の課題を設定することができるようになっていた。

事業をよく知る関係者の声

- ・児童が考えたビオトープの完成図や計画に基づいて、活動の支援やアドバイスを行った。地元で育った動植物を提供し、池田市で活躍している講師の方やお店を紹介することで、地元で根付いたビオトープをつくることができた。今後も学校と地域とで協力しながら、より良い自然環境づくりに努めていきたい。

参加者の声

- ・生物や植物をただ加えるだけでなく、それらが生息しやすい環境づくりの大切さを学んだ。また、誰もが心地よく自然を感じられる場所にするため、ルールを決め、それらを下級生に知らせる報告会などを開催し、学校全体で自然を守ろうとする意識がもてた。これからも、自分たちができる活動を考えながら、社会の環境問題について考えていきたい。



代表児童・教職員など約80人が参加



5年生の代表がみどりっこトープの紹介

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：9本
 看板設置：1基
 草花の植付
 ウッドデッキ設置
 ビオトープ内の整備
 ビオトープの見学：1回
 生態調査

参加者数

学内：77人
 学外：3人
 計：80人

緑化植物

イヌツゲ、レイランディー

美園小学校 みんなの森事業

大阪府八尾市立美園小学校



事業概要

子どもたちにきれいなものを感じる豊かな心を育てるための環境教育の一環として、また、創立50周年記念事業のため、校内緑化に向けた取り組みを実施した。主な活動は、記念樹木の植樹、年2回の花の植え替え、植木の剪定。さらに、次年度以降も継続的な環境緑化整備に向け、プランター、土、電動耕運機、高圧洗浄機、ベンチ、整理棚等を購入した。

事業成果

本事業に取り組み、子どもたちは、緑や花などきれいなものを感じ取り、植え替えをしている校務員やPTAの役員等に「ありがとう」の声掛けを行っている。豊かな人間性の向上に大きく貢献でき、環境の整備や感動する心の育成に役立った。また、学級菜園の耕地に際しても職員が少数数でも電動耕運機の使用により時間の短縮が図られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・校務員さんや地域のボランティアの方が花を植えている様子を見て、子どもたちはいい笑顔で話しかけてくれる。また、花の名前を聞いたりしている。季節を感じ、心を育てられていると思う。(教職員)
- ・みその小学校にはきれいな花がたくさんさいていて気持ちがいい。こうむいんのひら山さんがあつい日もさむい日も水やりしてくれている。ありがとう。(児童)

参加者の声

- ・創立50周年の年に庭の整地ができて、ありがたい。PTA役員として節目の時期に記念に残るものができうれしく思う。美園小学校はいつもカラフルなのですが、いつもにも増して花が多く、その分子どもたちの気持ちが優しく育ってくれることを願っている。また、校長先生はじめ、学校の先生方、地域のボランティアの方々が子どもたちのためにいつも動いてくださっていることに感謝している。(PTA緑化推進委員)



代表児童・教職員など14人が参加



記念植樹



花の植替え(年2回)



植木の剪定

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：15㎡
植付本数：51本
下刈面積：15㎡
イベント：1回

参加者数

学内：8人
学外：6人
計：14人

緑化植物

カイノキ、サツキツツジ、ヒラドツツジ、オタフクナンテン、アベリアコンフェッティ

学校環境緑化モデル事業

兵庫県養父市立養父小学校



事業概要

目的は、児童の環境緑化への意識を高めるため、学校と地域のシンボルである桜並木の保全措置に取り組み、次代に引き継ぐ桜苗木の植栽を行うことである。主な活動は以下のとおり。①4年生の児童が植栽。桜の特徴や性質、土づくり等について学習・体験する。②既存樹木の保全。樹木医による診断、枯枝除去、土壌改良等を実施する。③植樹した桜の管理を4年生の児童が卒業まで担う。

事業成果

今回の事業に取り組んだ4年生の児童は、学校生活の思い出や卒業後に自分たちの手で植え、育てた桜の成長を想うことにより、ふるさと意識が涵養されていくことが期待できる。また、桜並木の桜(21本)についても樹勢回復のために処置を行ったことで、今後も地域の象徴として愛され続けることができる。

事業をよく知る関係者の声

- ・児童にとって森や木は身近だが、樹木医から改めて木について教わり、土づくり、栄養剤注入など、児童たちがこれまでに経験したことがない取り組みができた。自分たちが植えた桜がこれから大きく育ち、桜並木の1本となることから、ふるさと意識の向上と森林、環境について関心を持つ契機となる良い機会が得られた。(50代、小学校教諭)

参加者の声

- ・この細い苗木が、ほかの木のように大きく成長できるように、大切に見守っていきたい。(小学生女子)
- ・近隣の住民の多くが同小学校の卒業生のため、小学校の桜並木は身近でふるさとを感じるものである。樹齢が90年を超えるものもあり、樹木医を頼んで処置してもらい良かった。児童が植樹を通して森林、環境について理解でき、事業に取り組んで良かった。(50代男性)



代表児童・教職員など23人が参加



桜や植樹の仕方を学習



サポートを受けながら児童が植樹



植樹後に保護柵を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1㎡
植付本数：1本
除伐面積：1㎡
イベント：1回

参加者数

学内：15人
学外：8人
計：23人

緑化植物

サクラ(ジンダイアケボノ)

緑いっぱい笑顔いっぱい金橋ガーデン

奈良県橿原市立金橋小学校



事業概要

目的は、本校の広い中庭を木や花に癒やされ四季を感じることができる空間にすることで、子どもたちが休みに時間に廊下から中庭を見下ろしたり、中庭を散歩したり自然とふれあい、憩いの場となるよう整備することである。主な活動は、①中庭の整備、②木の植樹、③木々の間を子どもたちが歩ける歩道の製作。

事業成果

本校は、旧金橋村を歴史にのどかな田園風景が広がる中にあり、今年で131年目を迎える伝統校である。近年は、宅地開発が進み、大型ショッピングモール、新興住宅などが急激に増え、自然がなくなっている状況であった。今回、中庭を整備していただくことにより、子どもたちは休み時間のたびに中庭を見下ろしたり、散歩したりすることで、自然

に触れる機会、自然への関心を増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもの成長とともに、木々の成長や春に草木の花がたくさん咲くのが楽しみ。(保護者、来校者)
- ・今までも、この中庭をなんとかできればと考えていたので、学校のため、子どもたちのために、とてもやりがいのある仕事をさせていただいた。(事業の施工者)

参加者の声

- ・私たちは、この春卒業するが、この「金橋ガーデン」というネーミング募集に関わったことや、この式典に参加させていただいたことを光栄に思う。(6年生児童)
- ・卒業しても、また学校を訪れたとき、たとえ先生方が転勤しても、この木や花が私たちを迎えてくれるので母校訪問がとても楽しみ。(6年生児童)



学校の中庭「金橋ガーデン」



看板を設置



緑豊かになった花壇



代表児童・教職員など110人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.0157ha

植付本数：132本

参加者数

学内：90人

学外：20人

計：110人

緑化植物

ハナミズキ、モミジ、ロウバイほか

木の实いっぱい蝶々たくさん、みんな大好き和歌浦小学校

和歌山県和歌山市立和歌浦小学校



事業概要

目的は、運動場の一角にある有効利用されていない花壇を、子どもたちが親しみを持ち、常に様子を見に行きたくなるように作り替えることである。活動は、花壇の解体・設置、実のなる樹木の植栽。

事業成果

新しくなった花壇に興味をもち、様子を見に行く児童が増えた。また、実のなる樹木としてブルーベリーやジュンベリーを植樹したため、「青くなってきた、食べたらおいしいかな」と成長を楽しみにする児童もたくさん見られた。式典に参加した6年生児童は、「僕たちが卒業してもきれいにしていきたい」という思いをもち、責任をもって手入れをしていく意欲をもたせることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちのために美しい花壇の設置計画をしてもらえて大変ありがたい。工事中から完成予想図等を大きく掲示するなどしてもっと早い段階から子どもたちに周知しておくとともに良かったのではないかな。今後、児童と職員で力を合わせて丁寧に花壇の手入れを行い、魅力を損なわず、魅力をさらに向上できるようにしてほしい。

参加者の声

- ・記念式典で子どもたちが元気に踊ったブルーベリーの歌が大変良かった。
- ・花壇が見違えるほどきれいになったのでまた子どもたちと観察の時間を設けたい。
- ・「花壇がきれいになってうれしいです。」「はやくブルーベリーが食べたいです。」「毎日みています。」(児童)



整備された花壇



完成式典にてブルーベリーの歌とダンスを披露



子どもたちも記念植栽して花壇を完成



代表児童・教職員など89人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：15.36㎡
植付本数：126本
イベント：1回

参加者数

学内：80人
学外：9人
計：89人

緑化植物

ブルーベリー、ジュンベリー、ハナミズキ、ガザニア、ブッドレア、ツツジ、シモツケ、アベリア、ユキヤナギ、ウエストリンギア、クチナシ

太田っ子の森のプロジェクト

和歌山県和歌山市立太田小学校



事業概要

目的は、校庭にある小山（太田山脈）を児童たちが自然学習・環境学習時などに安全に立ち入って使用できるよう改善することである。主な活動は以下のとおり。①植樹、歩道や階段の設置。②児童たちが安全に立ち入りできるように危険箇所の整備。

事業成果

この太田っ子の森を造る経験を通して、自分たちの手で創り上げる喜びや、人との関わりの大切さを学ぶことができた。また、それを見ていたその他の児童たちが、今度は自分たちの手で何かに挑戦してみたいという意欲を持たせ

ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちを立ち入れるようにするために、古い切り株や大きい石などを撤去し、坂をなだらかにし、芝生を生えるようにした。今後この太田っ子の森で、多くの子どもたちが楽しめ学べるようになってほしい。

参加者の声

- ・記念式典での植樹の際、子どもたちの元気な姿を見ることができた。今後、この太田っ子の森が子どもたちの憩いの場となってくれることを祈っている。



施工前の太田っ子の森



階段の設置



記念植樹



整備後の太田っ子の森の前に看板設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.03ha

植付本数：15本

除伐面積：0.03ha

イベント：1回

参加者数

学内：59人

学外：7人

計：66人

緑化植物

シラカシ、ウバメガシ、ハナミズキ、アジサイ

岩美西小学校子どもの森整備事業

鳥取県岩美町立岩美西小学校



事業概要

開校31周年目になる本校には、開校当時に整備をした子どもの森がある。子どもたちの大好きな森であるが、木々の成長とともに見通しが悪くなり、枝も張り出している。また、遊具等も遊びにくくなっており、思い切り走り回ることができない。そこで、子どもたちにとって、より親しみやすく、遊びやすい森にするため、枝の剪定、除伐、下刈りを行い再整備する。

事業成果

子どもの森を整備したことにより、子どもたちが思い切り走り回ることができるようになった。遊具でも遊びやすくなり、休憩時間に遊ぶ児童が増えている。また、見通しがよくなり、全体的に明るくなったことから、防犯上の効果も見られる。

事業をよく知る関係者の声

- ・この状態を保つことが大切。
- ・保護者・地域等の方の協力を得て、維持作業をしていく必要がある。
- ・防犯の上でも安心できるようになった。
- ・けがの心配が少なくなった。
- ・遊具で遊ぶ子どもたちの様子がよくわかって良い。(保護者の声)

参加者の声

- ・思い切り走れるようになった。
- ・広がって遊びやすい。
- ・遊具が使いやすくなった。
- ・ドングリ拾いができるようになって、うれしい。
- ・前より明るくて、遊んでいると楽しい。(子どもたちの声)



整備前の子どもの森



枝の剪定、除伐等の整備



森の中を走り回る子どもたち



代表児童・教職員など約30人が参加

実績とりまとめ

作業内容

除伐本数：18本

剪定本数：62本

下刈り

参加者数

学内：27人

学外：3人

計：30人

緑化植物

除伐：クヌギ、ヒサカキほか

剪定：アカマツ、クスノキ、

マテバシイほか

社小学校みんなの森事業

鳥取県倉吉市立社小学校



事業概要

歴史ある本校は、前庭・校庭にたくさんの木が植えられ緑豊かな学校である。しかし、木々の背が高くなり枝も伸びすぎていて、日当たりや風通しが悪くなっている。本事業では、前庭・校庭の緑環境を明るく気持ちの良い環境にすることを目的に、木々の伐採・剪定を実施した。

事業成果

木の伐採剪定を行っていただいたことで、学校が明るくなり、気持ち良く生活できる環境が整った。また、緑を守るための大人の活動を知り、子どもたちも緑化や環境保全について考えるきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちの学び舎が、明るくきれいになりうれしい。
- ・木々があまりに高くなりすぎたため、PTA作業ではなかなか整備できなかった。専門の方に整備していただき、とてもありがたい。(保護者の声)

参加者の声

- ・学校が明るくきれいになった。
- ・校舎が良く見えるようになり、広く感じる。
- ・ローソンの募金で緑化事業が行われていることを初めて知った。
- ・私たちの学校のようにきれいになる学校が増えると良い。募金に協力したい。(子どもたちの声)



施工前の前庭



剪定の様子



施工後の前庭



代表児童・教職員など18人が参加

実績とりまとめ

作業内容

剪定本数：75本

参加者数

学内：11人

学外：7人

計：18人

緑化植物

剪定：サクラ、モミジ、キンモクセイ、コウヤマキ、モッコク、ツツジほか

吉田小ビオトープ整備事業

島根県雲南市立吉田小学校



事業概要

目的は、池（なかよしの池）に生息している水生生物（モリアオガエル）や植物が生息・生育しやすいように、そして、児童が生き物の観察等ができるように水辺環境を整備することである。活動は以下のとおり。①池の水を給水する水源地を整備し、安定した水の供給を行う。②池周辺の樹木の剪定や池に生えている不要な水生植物の除去を行う。

事業成果

モリアオガエルが住みやすい環境が整い、総合的な学習の時間を中心に継続して、モリアオガエルの観察や飼育を行っている。また、池や水源地の環境が整い、生物の観察や生き物探し等をする機会や児童が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- モリアオガエルは「島根県の絶滅のおそれのある野生動物」の準絶滅危惧（NT）に指定されており、全国的に見て

も減少傾向にある。このカエルが学校の池に毎年、産卵にやってくる吉田小学校は稀有な事例と言える。今回の学習を通してカエルに関する知識やそれらを取り巻く自然環境に興味・関心を持っていくことは、地域への誇りや愛着へと繋がることと思う。児童にとっての身近な存在であるモリアオガエルが、今後も変わらずにいられる環境が続くことを願ってやまない。（エピオネネイチャーガイドオフィス 池田友紀）

参加者の声

- こわれたところを工事してもらって、水がたくさんなかよしの池にいくようになって、池がきれいになった。きれいになった池にいくと、カエルがうれしそうにピョンピョンとんでいた。
- モリアオガエルがたくさん卵を産んだ。卵からオタマジャクシ、カエルになるまで育てた。モリアオガエルについて、もっと知りたいし、なかよしの池にたくさんカエルがくるとうれしい。



なかよしの池で遊ぶ児童たち



整備された「なかよしの池」水源地



なかよしの池にきたモリアオガエル



高学年 理科 微生物の観察

実績とりまとめ

作業内容

水源地環整備面積：35㎡
なかよしの池環境整備面積：50㎡

参加者数

学内・学外：約50人

ふれあいの森再生事業

島根県飯南町立赤来中学校



事業概要

校舎裏にある「ふれあいの森」は、約10年前から整備がされなくなり、笹と灌木が覆い尽くし、人が立ち入れない場所となってしまった。本事業では、生徒が再び活動できる森へと再生するため、以下を実施。①森で成長の良い樹木を選別して残す。②効果的に草の繁茂を防止する。③ヤマザクラの植樹。

事業成果

危険枯損木や支障木の伐採、除伐、枝払いの整備により、かつて部活の体力作りに活用していた道が復活し、学習活動だけでなく部活動でも「ふれあいの森」を活用していく。生徒がネイチャーゲームを実施する事により植物に興味をもってくれた。また、植樹をする事により桜の花が咲くの

が楽しみになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 今後は「ふれあいの森」を生徒たちの環境教育の場として活用し、森を継続して維持していきたい。
- ・ 生徒に自然との関わりを持つことの大切さや、植樹をする事により、ふるさとを思う情操教育に繋がることを期待する。

参加者の声

- ・ 裏山に、東屋があったなんて思いもしなかった。東屋も活用できるように整備をしていきたい。
- ・ 草ぼうぼうで険しかったが、とてもきれいに整備していただき、うれしかった。



完成式典の様子



ヤマザクラを植樹



ネイチャーゲーム



生徒・教職員など58人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：8本
 下刈面積：0.8ha
 除伐面積：0.8ha
 イベント：1回

参加者数

学内：50人
 学外：8人
 計：58人

緑化植物

ヤマザクラ

創立50周年記念事業なかまの森修繕事業

岡山県倉敷市立万寿東小学校



事業概要

万寿東小学校創立50周年を記念して、記念植樹をするともに、「なかまの森」の整備・修繕、及び学校のシンボルであるけやき並木の植え込み・修繕を行った。

事業成果

本校のシンボルであるけやき並木や児童がよく遊んでいる「なかまの森」が整備され、学校の緑化環境が改善される。それにより、児童の心身の成長に寄与すると考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・12本のケヤキの横を通って登下校している児童も多い。学校の玄関前のけやき並木が整備されたことで、毎日児童が目にする景色が美しくなった。また、「なかまの森」が整備され、大変遊びやすくなったので、児童は大変喜んでいる。

参加者の声

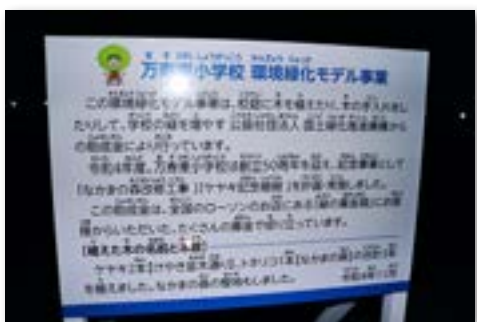
- ・学校の緑化環境が改善され、児童の情操面にも好影響を与えているので、良い事業となっている。



完成式典の様子



代表児童・教職員など24人が参加



看板を設置



記念植樹の様子

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：30㎡
植付本数：3本
イベント：1回

参加者数

学内：21人
学外：3人
計：24人

緑化植物

トネリコ、ケヤキ

学校環境緑化モデル事業

岡山県立岡山盲学校



事業概要

目的は、学校周辺の緑景観の改善や校内のソメイヨシノの樹勢回復である。活動は以下のとおり。①長年手入れできていなかった学校道路沿いのカイヅカイブキ18本の剪定。②加齢に伴い腐朽した部分が多くなったソメイヨシノ5本の枯れ枝や幹の不朽部の除去、薬剤を充填、幹巻テープを巻き養生。

事業成果

学校道路沿いのカイヅカイブキについて、長年手入れができず樹高が高くなり、教職員では危険で剪定できなかつた樹木を剪定し、学校周辺の景観向上に役立った。また、樹幹の腐朽が進行したソメイヨシノを養生することで樹勢を

回復させることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・校内の環境緑化整備とともに児童生徒の安全な学校生活が確保できて良かった。

参加者の声

- ・盲学校のカイヅカイブキ18本とソメイヨシノ5本の木の手入れをしてくださり、ありがとうございます。手入れをされた木を見て、カイヅカイブキのてっぺんが切り揃えられていて驚いた。ソメイヨシノの太い枝を切るのも大変だったと思う。僕は包帯のようなこも巻きをはじめて見た。プロの仕事だと思った。3月に、花が咲いたソメイヨシノを見たい。みんなで花見がしたい。



代表児童・教職員など14人が参加



ソメイヨシノの樹幹を養生



生徒も枝剪定で活動に参加

実績とりまとめ

作業内容

剪定本数：18本
剪定及び養生本数：5本
イベント：1回

参加者数

学内：10人
学外：4人
計：14人

緑化植物

剪定：カイヅカイブキ
剪定・養生：ソメイヨシノ

「常石ガーデン」緑化事業

広島県福山市立常石ともに学園



事業概要

目的は、地域の高齢化等から近隣の果実の栽培、収穫が難しくなっている状況の中、地域の拠点である小学校に果樹園をつくることにより、地域の活性化を図ることである。主な活動は以下のとおり。①学校敷地内への果樹園の造成。②児童と地域の方々がともに行う果実の栽培、収穫、土壌の改良等。

事業成果

果樹園を造成したことにより、多くの地域の方々が興味を持ち、様子を見るために集まってこられる。時には、児童が果樹園で水やりなどをしていると、ブルーベリーやピワなど、それぞれの果実を栽培されていた方や詳しい方が、育てるうえでのポイントや気をつけることなどを話して下さり、自然と交流する機会が生まれている。

事業をよく知る関係者の声

- ・果樹園をつくることができたことは、児童の今後の学びに大きな好影響を与えるものとなる。果実の栽培の難しさを知ることで、さらに自然に興味関心を持ち、より主体的に緑化活動に取り組むことが期待できる。(40代、教員)
- ・今後は、栽培方法や手入れの仕方など、具体的な知識を得るために専門家の招聘も必要ではないか。(60代男性)

参加者の声

- ・子どもたちのうれしそうな表情を見て、今後この果樹園が学校だけでなく、地域の方々が集う場となるよう、子どもたちと一緒に大切にしていきたい。(30代男性)
- ・みんなでしっかりと水やりをして、たくさんの実をつけたい。(小学生男子)
- ・常石ガーデン(果樹園)が学校や地域のシンボルになるように、みんなで大切にしていきたい。(小学生女子)



完成式典の様子



植栽木に水やり



記念植樹



果樹園に看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：20本
果樹園造成：0.02ha

参加者数

学内：60人
学外：4人
計：64人

緑化植物

ブルーベリー、ピルベリー、
キウイ、ピワ

藤の花いきいき再生プロジェクト

山口県下関市立養治小学校



事業概要

下関市立養治小学校のシンボルでもある藤棚をこれからも学校と地域全体で受け継いでいくとともに、学校と地域を結び付け、より良い学校、地域を作り上げる地域連携活動を推進していくことを目的とする。活動は以下のとおり。
①藤棚円柱の塗装等の藤棚の補強、②イロハモミジやドウダンツツジの植栽、③丸太ベンチの製作、設置、④本校の温室の基礎ブロック補修。

事業成果

「大切な藤棚を受け継いでいこう」という気持ちを育むことができ、藤棚に対する素晴らしさや本校の誇りを再認識できた。未来の養治小学校に入学する子どもたちに向けて本校のシンボルを素晴らしい形として残す良い機会となった。イロハモミジやドウダンツツジ等の植栽で、藤棚をより華やかに彩ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・小学校のシンボルである藤棚をより華やかなものとし、後世に受け継いでいこうとする本事業は、とても素晴らしい事業である。教職員だけでなく、地域の方も参加する学校運営協議会で、どのようなベンチがあったらいいだろうか熟議も行い、より良いものを作ろうという姿も良かった。今後は子供たちの声をもっと取り入れ、藤棚を受け継いでいってほしい。(50代 本校前小学校教頭)

参加者の声

- ・今回は、国土緑化推進機構、やまぐち農林振興公社、ローソンの方々のご協力で、藤棚やベンチを整備していただき、ありがとうございます。普通にあった藤棚がとても貴重なものと知ることができた。今後、藤棚、温室、丸太のベンチを大切に使いしていきたい。自分たちが藤棚の素晴らしさ、ありがたさを伝えていき、今後、入学してくる人たちにも受け継いでいきたい。(小学6年男子)



植栽工事後



藤棚鉄骨丸柱工事後



木製丸太ベンチ設置



藤棚パネル木製看板設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.25㎡
植付本数：16本
イベント：1回

参加者数

学内：121人
学外：6人
計：127人

緑化植物

常緑ヤマボウシ、イロハモミジ、ドウダンツツジ、ハナミズキ

学校環境緑化モデル事業

山口県下関市立宇賀小学校



事業概要

宇賀小学校創立150周年を記念して、記念植樹・校地内の樹木への銘板設置、枯れ木の伐採等の環境整備事業を行う。事業をとおして、本校への誇り・ふるさとを愛する心を醸成するとともに、自然や樹木をより身近に感じ親しむことで、豊かな心を育む。また、SDGsとのかかわりを学び、地球規模で考え行動する心と態度を育む。

事業成果

校庭に植樹した四季折々の花を愛でることを楽しみしつづつ灌水をするなど、児童の優しい気持ちも育っている。樹木銘板は校地内の全30種類に設置した。樹木がそれぞれ違った特徴を持っていることに気づきはじめ、葉の臭いを嗅ぎ、木を触り感触を確かめるなど、五感を通して学ぶ契機となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・創立150周年に環境整備作業が実施でき、ローソン事業ならびに店頭で緑の募金に協力して下さったすべての皆様方に感謝している。樹木の銘板設置で、校庭が素敵な公園のようになり、家族や地域の皆さんにも散策してもらいたい。強風時に枝が折れ飛散していた枯木を伐採できたことは、安全面においても大きな成果である。

参加者の声

- ・2年前まで校庭には藤棚があり、きれいな花が咲いていたが、いつの間になくなってしまい残念に思っていた。150周年記念の年に、地域の皆さんと一緒に桜や紫陽花を植樹でき、とてもうれしかった。いつか、みんなでお花見をするのが楽しみだ。(6年児童)
- ・植樹をすることは、SDGsの13・15の具体的な行動でもある。自分たちにできることをこれからも児童と学び行動につなげたい。(教員)



代表児童・教職員など60人が参加



記念植樹



児童の手で樹木等の整備



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：16㎡
 植付本数：14本
 下刈面積：20㎡
 除伐面積：20㎡
 イベント：1回

参加者数

学内：40人
 学外：20人
 計：60人

緑化植物

ヨウコウザクラ・カワヅザクラ
 ラ・アジサイ・ローズマリー

蝶の舞う道を作ろう

徳島県三好市立王地小学校



事業概要

学校内で、理科や総合的な学習時間に、植物の観察や手入れ、飛んでくる虫たちの観察等を行えるよう、体育館南側に樹木を植栽し、腐葉土を利用した畑の整備を実施する。また、愛校作業では管理が困難であった高木の手入れを実施する。

事業成果

学校内に、緑化木・植物などの手入れや観察をする場ができ、理科や総合的な学習の時間の教材として活用できる。そして、校外へ観察に行く回数を減すことができることで、児童の安全面の確保や授業時間を有意義に使うことができる。また、校内の高木の手入れをしていただき、校庭で安心して児童を遊ばすことができる。

事業をよく知る関係者の声

- ・校内で樹木や植物の観察、栽培ができることは、安全面や時短に繋がり、教師の負担も削減できる。機会があればいつでも観察できることがありがたい。桜の木の剪定や病虫害の被害部の除去などの愛校作業等は、安全面や時間的に行えなく、以前からの懸案事項であった。今回、剪定が実施できて良かった。定期的に行っていただければ非常にありがたい。

参加者の声

- ・植樹は機会がないと行わない活動であり、畑作りも人手と時間がかかるため実施しにくい。高木の手入れもできなかったため、今回の事業は学校にとって非常に良かった。植樹した苗木や芋の観察、栽培は、理科や総合的な学習に役立つとともに、子どもたちの情操教育や王地小学校への親しみを深めることに繋がる。



看板を設置



植栽されたレモンとすだちの木



整地した畑



樹木の枝の剪定

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5a
 植付本数：5本
 剪定本数：19本
 畑整地面積：0.5a
 イベント：1回

参加者数

学内：54人
 学外：5人
 計：59人

緑化植物

レモン、スダチ

環境教育フィールド整備(学校ビオトープ作り)

香川県丸亀市立城北小学校



事業概要

学校の周りに豊かな自然環境がないため、児童に少しでも自然に触れてもらい、自然を愛し、大切にすることを願い、校舎2階に「ビオトープ明倫の里」を整備した。8m×6mのわずかな空間だが、池の中の魚や水生昆虫、ミニ里山のチョウやバッタなどの昆虫、たくさんの花や木が自然な形で共存している。

事業成果

多くの子どもがビオトープに関心を持った。魚、昆虫など、関心の対象も様々である。高学年の子どもには、水の流れる音に癒されるという子もいて、植物、生き物、水が一体になったこのビオトープ全体が、心を落ち着ける場としての役割を早くも担っていることを感じた。地域のコミュニティだよりでも取り上げられた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ゼロから自然環境をつくる仕事に携わる中で、ビオトープが出来上がっていくことの喜びを感じつつも、それ以上にそこで生きていく魚や昆虫たちへの愛おしさが増していった。また、工事の様子に関心を持って見守る子どもたちの多さにも驚いた。大人でもこのような感情を抱くものだから、子どもたちはそれ以上に、自然に関心を持ち、自然を愛し大切にすることを態度が養われるものと信じている。

参加者の声

- ・立派なビオトープができたが、これで完成ではない。城北小学校の子どもたちが代々引き継ぎ、「ビオトープ明倫の里」を完成させてほしい。
- ・ビオトープの魚や昆虫をじっくり観察してみたい。水の流れる音を聴きながら、のんびり過ごしたい。
- ・子どもたちの環境に対する意識や思いがさらに深まり、情操面でも良い影響を与えらると思う。



完成したビオトープ



池の生き物に興味津々の子どもたち



記念植樹



記念撮影

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：2本

植付株数：6株

ビオトープ整備工事面積：
48㎡

参加者数

学内：30人

学外：4人

計：34人

緑化植物

ウンシュウミカン、ツワブキ、
パセリ、ニオイスマレ、フジ
バカマ、ローズマリー、チェ
リーセージ

学校環境緑化モデル事業(ビオトープの整備)

香川県高松市 香川大学教育学部附属高松小学校



事業概要

敷地内には、様々な樹木やビオトープ等の豊かな自然があり、生命を愛護する豊かな心を児童に育む環境が整備されているが、ここ数年は、整備および改修ができていなかった。本事業では、子どもたちが身近に自然の良さを実感できる環境を整えるため、「ひょうたん池」周辺の樹木の剪定や池の清掃活動等を行い、池周辺の環境を改善する活動を行った。

事業成果

池周辺の環境が改善し、池の中の水生植物や生き物を身近に感じることができる環境が整うことで、子どもたちが水辺の生き物とふれあう機会が増えた。また、木の剪定により、広場全体が明るくなり、周辺の環境も改善され、子どもたちだけでなく、生態系にとっても住みやすい環境となった。

事業をよく知る関係者の声

- 汚れていた池がきれいになり、子どもたちの憩いの場となった。また、水生生物の放流や水生植物の植栽により、「ひょうたん池」が生き物のすみかとなり、子どもたちの学びや発見に寄与され、子どもたちの笑顔あふれる場所となることを期待したい。

参加者の声

- 池にたまった汚れをとって捨てたり、こすって落としたりするのは、大変な作業だったが、きれいになった池の様子を見ていると、ここで過ごす、生き物たちにとっては、とても過ごしやすい池になったと感じる。これからは、このひょうたん池が、附属高松小学校のみんなにとって、自然や生き物とふれあえる、特別な場所になればいいと思う。そして、わたしたちの手でこれからも、このひょうたん池を、大切に受け継いでいきたい。



樹木の手入れ



子どもたちの手で池の清掃



整備されたひょうたん池と看板



代表児童・教職員など約120人が参加

実績とりまとめ

作業内容

伐採本数：2本
 剪定本数：22本
 池の一本橋の撤去
 飛び石及び石橋の設置

参加者数

学内・学外：約120人
 計：約120人

緑化植物

伐採：ホルトノキ、コデマリ
 剪定：オリーブ、ザクロ、トベラ、クヌギ、カイノキ、エンジュ、ウメ、アンズ、アメリカフウ、クスノキ

ふるさと緑化事業

愛媛県久万高原町立父二峰小学校



事業概要

目的は、倒木の危険性のある大きくなりすぎたメタセコイアを伐採して、日当たりを良くし、サクラ等を植樹して、子どもたちの遊びの場をつくることである。主な活動は、以下のとおり。①メタセコイア3本の伐採、②サクラ、コナラ各2本を植樹。

事業成果

メタセコイアを伐採でき、倒木の危険がなくなった。日当たりも良くなり、周辺の樹木の成長も期待できる。植樹の経験がない児童は、植樹により樹木に対する愛情が深まった。地域産業である林業に対する関心が高まった。自分たちが植樹した樹木を大切にしようとする気持ちが芽生え、成長を楽しみにしている。

事業をよく知る関係者の声

- ・第一に倒木の危険がなくなったことが良い。大きくなりすぎていたメタセコイアが、日光を遮り、場所を暗くしていたが、伐採により場所が明るくなったため、子どもたちもこの場所によく来るようになるだろう。周辺のサクラも苔がついて樹が弱ってきている。そちらの世話も合わせて、植樹した樹木を大切に育てたい。

参加者の声

- ・父の仕事は林業であるが、伐採する現場を見たことがなかったので、作業に驚いた。木の成長には日光も必要と聞き、明るくなって良かった。春にはサクラの花を見て、秋にはコナラのドングリを拾って、季節ごとに楽しみたい。
- ・樹木を植えたり、世話をしたりするという意識は子どもたちになかったので、良い経験である。



メタセコイア伐採の見学



完成記念式典の様子



代表児童・教職員など30人が参加



記念植樹(児童)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
植付本数：4本
伐採面積：0.1ha
イベント：1回

参加者数

学内：24人
学外：6人
計：30人

緑化植物

植付：サクラ、コナラ
伐採：メタセコイア

翠校開校 150 周年記念緑化事業

愛媛県伊予市立翠小学校



事業概要

目的は、開校150周年を迎えるに当たり、学校敷地内にある樹齢150年のギンモクセイと100年のクスノキを手入れすることである。主な活動は以下のとおり。①ギンモクセイの剪定及び土壌改良、クスノキの剪定。②ギンモクセイの囲いの修繕。

事業成果

ギンモクセイとクスノキが健康に育ち、良好な樹形を保つことができるように剪定した。また、大樹でありながら日光を浴びることができるようになった。土壌改良や柵の工事を合わせて施工したことで今後も長く健康に育つことが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・「翠校開校150周年記念緑化事業」として本事業を活用し、学校と保護者と地域住民が一体となって、式典で盛大に祝うことができた。式典では、愛媛の森林基金様から、山と海の両方を持つ双海町で、「森は海の恋人」が紹介され、畠山重篤の著書が学校に寄贈された。児童が関心を持ち、今後の学習に生かしていくことを願う。

参加者の声

- ・学校にあるギンモクセイとクスノキは、地域のシンボルツリーとして、これまで代々大切に育ててきた。前回の樹勢回復工事から12年が経過しており、このたび必要な手入れができ、大変良かった。



ギンモクセイ樹勢回復



クスノキ剪定



ギンモクセイ囲いの修繕



代表児童・教職員など58人が参加

実績とりまとめ

作業内容

剪定本数：2本
整備面積：50㎡
囲い修繕工事

参加者数

学内：27人
学外：31人
計：58人

緑化植物

ギンモクセイ、クスノキ

木に親しむ事業

高知県大月町立大月小学校



事業概要

大月小学校の児童らが木を身近に感じ、親しむを持つことを目的に、敷地内の環境整備を行った。主な活動は以下のとおり。①支障木の伐採や桜の苗木の植樹、②木製ベンチ等の設置。

事業成果

大月小学校は周囲を山林に囲まれており、危険な支障木が散見されていた。本事業により適正な管理を行うことによって、安全で身近に自然にふれあうことができるようになった。また、桜の苗木の植樹を行うことにより、児童の草木を愛する心を育むきっかけとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹を自ら行うことにより、植樹したサクラの様子を毎日見に行く児童がいる。植物だけでなく命を大切にする心の育成にとっても寄与していると考えられる。今後は花木の選定や企画の段階から児童(生徒会等)に関わりを持たすことも視野に入れても良いかもしれない。

参加者の声

- ・木製カレンダー(木製ベンチを制作してくれた幡多農業高校より寄贈)の日付を変えるのが毎日楽しみ。
- ・私も植樹したかった。
- ・サクラが咲くのが楽しみ。



代表児童・教職員など60人が参加



完成式典の様子



記念植樹



児童からお礼のあいさつ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2㎡
植付本数：2本
イベント：1回

参加者数

学内：52人
学外：8人
計：60人

緑化植物

ヤエザクラ

大津小学校中庭整備事業

高知県高知市立大津小学校



事業概要

大津小学校の中庭は、総合的な学習や生活科の学習で利用しているが、近年は、樹木が大きくなったことで薄暗く、蚊や蜂が多くなっていた。そこで、樹木を剪定し、間引きすることで、入り込む日光の量を増やし、児童が活動しやすい場所へと改善する。

事業成果

樹木の剪定、間引き、低木を植樹することで、中庭全体が明るくなり、児童が活動しやすい場所へと改善された。剪定した樹木からも少しずつ新しい芽が芽吹いてきており、樹勢が回復する木が多くあることも期待される。また、一日陰になっていた畑に日が差すようになり、今後は作物を栽培することが可能となった。

事業をよく知る関係者の声

・児童は、中庭が明るくなり活動しやすくなったことや、教

室から外を見た際に見渡しが良くなったと喜んでいる。教職員や保護者からも、景観が良くなり、蜂や蚊等の危険な虫が減ったと喜びの声が上がっている。今後は、学習や児童の憩いの場として、更に活用していきたいという声や、明るくなった理科室前で学習用のメダカやプランクトンを飼育することを試みたいという声が上がっている。

参加者の声

- ・ローソンのレジ横の募金箱のお金が、小中学校の木を植えることに繋がっていることを知り、ローソンに行った時は、1円でもいいから募金に協力したい。
- ・地球温暖化が問題になっているので、二酸化炭素をたくさん吸収してくれる木を増やしていくためにも大切な取り組みだと思った。
- ・伸びすぎていた木を伐ってくださり、こどもの森も明るい雰囲気になった。植樹した苗を責任もって育てていきたい。



樹木の剪定・伐採作業



看板を設置



記念植樹



代表児童・教職員など33人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：10㎡
植付本数：4本
剪定本数：20本
伐採本数：5本
草刈り面積：0.5a

参加者数

学内：23人
学外：10人
計：33人

緑化植物

植付：サツキ
剪定・伐採：クスノキ、ヤマモモほか

ふれあい花壇緑化事業

福岡県遠賀町立広渡小学校



事業概要

50年ほど前に学校とともに設置された花壇が、長い年月を経て雑草で埋まっていた。本事業では、花壇を創立当初の状態に復活させ、環境美化を図り、児童が虫・鳥・花の観察をしたり、野菜を育てたり、遊び場として活用できるように整備を行った。

事業成果

環境美化が大きな成果のひとつである。職員室前の廊下からすぐ正面に見える「ふれあい花壇」に花が常時あることで、職員や来客、児童にとっても心が癒やされる空間を生み出すことができた。また、子どもたちが野菜や花の生育に年間を通じて携わることで、命や優しい心の大切さを育んでいくことができると考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・年に一度、西川沿いの花壇に4年生が花植え活動をしている。今回、このような立派な広い花壇が復活したので、ぜひ、花が咲く前後(土作り・草抜き・水やり等)にも関わって欲しい。この体験により子どもたちに育つ感性があるはずだ。「ふれあい花壇」がそのような学びの場になることを期待する。

参加者の声

- ・すっかり様子が変わった学校の裏庭を見て、もっとはやくこんな花壇を見たかったなと思った。この花壇が全校のみんなや地域の人たちの心をいやす「いこいの場」になればと思う。(児童)
- ・「花や緑」には、人の心を豊かにする力があると感じている。この場所を通じて、本校の子どもたちに優しい気持ちで育まれていくことを願う。(保護者)



着工前の花壇



作業完了



花壇の全景



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：9本
旧花壇の補修
古土の撤去と新土の入れ替え
(土壌改良)
防草シートの設置
バラス敷き

参加者数

学内・学外：約20人
計：約20人

緑化植物

ジンチョウゲ、キンモクセイ、
クチナシ、ヤマブキ、ユキヤ
ナギ、モッコウバラ

水源の森事業

福岡県福岡市立堤小学校



事業概要

本校には、運動場の一角に「ビオトープ」がある。植物を観察したり、虫を捕まえたりと子どもたちの憩いの場となっていた。近年は草木が生い茂り、土の状態も悪く、子どもたちが楽しく安全に観察できる状態ではなかったため、再びビオトープが憩いの場所になるよう整備をした。

事業成果

環境美化が大きな成果のひとつである。児童や保護者にも植栽作業や除草作業に関わってもらったことで、地域と学校がともに作り上げたビオトープとして生まれ変わった。これから様々な学習で活用したり、行事のたびに地域の人に見ていただいたりして、愛される場所になってもらいたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・堤小学校のビオトープが、今回の事業を受けて、きれいに整備されたことは、PTA会長としても感謝の気持ちで一杯である。また、この整備には、児童や先生方のほかに、たくさんの保護者の皆様や地域の皆様にもボランティアで参加していただいた。ありがとうございます。今後も、緑豊かな堤小学校で子どもたちが健やかに育ってほしい。

参加者の声

- ・本年度、僕たち堤小学校のためにビオトープを整備するために頑張ってくださったとうかがった。おかげさまで、より、自然豊かな場所になった。ありがとうございました。生き物や季節ごとの植物を観察したり、調べ学習にいかしたりして、明るく楽しい学校生活をつくっていきたい。



記念植樹



完成式典の様子



代表児童・教職員など約80人が参加



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植栽
看板設置
防水シート張替
ポンプ取替

参加者数

学内・学外：約80人
計：約80人

緑化植物

アジサイ、ハナショウブ、ハンゲショウ、アガパンサス、ツワブキ、ヤブラン、オオカヤツリグサ、芝生

みんなの森事業

福岡県朝倉市立甘木小学校



事業概要

来年度で創立150周年を迎える本校の運動場には、創立時から子どもたちの憩いの場となっている「くすの木」がある。本事業では、校舎北側の手入れが行き届いていない「森」が、子どもたちの憩いの場となるよう、森の名前を募集するとともに、森の整備、植樹を行った。

事業成果

環境美化が大きな成果のひとつである。森の名前は、「きずなの森」に決定。高木の剪定等で、日が差し込む森になった。子どもたちが集う時間や場が整地され、賑やかな声が森から聞こえるようになった。今後も、「きずなの森」を子どもたちの活動の場に意図的に行うことで、緑の中で豊かな心が育まれる教育活動を展開していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・校庭のくすの木をはじめ、たくさんの緑に囲まれた中で、子どもたちがのびのびと生活できていることをうれしく思う。自分の母校でもある甘木小学校が、今回の事業を受けて、緑が整備されたことを聞き、PTA会長としても感謝の気持ちで一杯だ。今後も、緑豊かな甘木小学校で子どもたちが健やかに育ってほしい。

参加者の声

- ・本年度、僕たち甘木小学校のために森を整備したり、木を植えたりするためにご尽力くださったとうかがった。おかげさまで、学校がより自然豊かで、過ごしやす場所になった。ありがとうございます。ぼくは、大きなくすの木や緑いっぱいの甘木小学校が大好きだ。もうすぐ卒業するが、これからも自然を大切に、明るく楽しい学校生活をつくっていくことを約束する。(児童代表)



記念植樹



「きずなの森」看板設置



完成式典記念写真



事業看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：25本
看板設置：1基
校舎内高所木の整備（枝伐採等）

参加者数

学内・学外：約100人
計：約100人

緑化植物

ヤエザクラ、ラカンマキ

学校環境緑化モデル事業

佐賀県太良町立多良小学校



事業概要

子どもたちに、森林の大切さ、緑化活動への興味・関心を高めてもらうことを目的に、樹木の手入れや森林内での植樹体験を実施。主な活動は以下のとおり。①多良小学校内校庭樹木の剪定や枝払い・伐採、②町有林「多良岳200年の森」での広葉樹とスギの植樹体験、③記念看板設置、④小学校校庭への記念樹植樹。

事業成果

校庭の倒木の危険があった枯木伐採や、繁茂しすぎたイチョウやソメイヨシノ等の枝払いや剪定を行ったことで、子どもたちの安全確保だけでなく学校内美化の推進を図ることができた。また、町有林「多良岳200年の森」での広葉樹・スギの植樹体験では、多良小学校6年生45名が参加し、1本ずつ子どもたち自らの手で植樹することで、森林が持つ公益的機能についての学びを深めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・例年1～2月に5年生を対象に植樹体験を行っているが、新型コロナウイルス等の感染症拡大により、例年どおり実施できず、この学年は体験ができないまま卒業してしまうのかと思っていた。時期は遅れたが、植樹体験してもらい、森林の持つ大切さや地域資源の素晴らしさを知ってもらえる機会になり、本当に良かった。(森林組合職員)

参加者の声

- ・子どもたちにとって貴重な体験になったのではないと思う。事前学習をしていた200年の森に行く機会をいただきありがたかった。(小学校教員)
- ・実際に植樹体験を行うことができ、楽しさとともに、大変さも感じる事ができた。(小学生)
- ・200年の木はずっと保ってほしい。この経験をとおり、自然や木を大切にしていきたい。(小学生)



斜面で植付作業



代表児童・教職員など64人が参加



剪定前後のイチョウの木



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
植付本数：100本
除伐面積：0.3ha
樹木剪定伐採：7本
イベント：1回

参加者数

学内：48人
学外：16人
計：64人

緑化植物

ケヤキ、ヤマザクラ、モミジ、カエデ、キハダ、スギ

観察林「とんとん山」遊歩道整備

長崎県平戸市立田平南小学校



事業概要

子どもたちの学校観察林の活用と森林環境教育を図るため、子どもたちが入りやすいように林内遊歩道の腐朽した丸太階段の整備を行い、ヤマボウシ2本を記念植樹した。

事業成果

学校観察林への階段を整備したので、子どもたちが安全に登ることが出来るようになった。緑の少年団活動として自然とのふれあいや森林学習の機会が増える。

事業をよく知る関係者の声

- 子どもたちが学校林に入りやすいよう遊歩道が整備され、以前のように、林の中で自然とふれあいながら命の大切さや環境を守ることの大切さを学べるようになった。また、友だちとともに活動することをとおして絆を深められ、学校教育に大変役立つと思われる。

参加者の声

- 四季折々の樹木を観察して楽しみたい。
- 植樹したヤマボウシを大切に育てて、これからの成長を見守っていききたい。



遊歩道完成状況



看板を設置



ヤマボウシを記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：50㎡
植付本数：2本
遊歩道：30m
イベント：1回

参加者数

学内：37人
学外：6人
計：43人

緑化植物

ヤマボウシ

「緑と水と生き物広場」の緑化事業

熊本県熊本市立武蔵小学校



事業概要

樹木や花の変化で四季の移り変わりや様々な生き物が集まる水辺環境で観察学習ができるように中庭の整備をする。主な活動は以下のとおり。①樹木の手入れ、②ビオトープの整備、③植樹。

事業成果

児童、または地域の方々が安らぎ、憩いとなる場所がさらにパワーアップしたように思う。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校の予算では対応できなかったビオトープの整備や植樹等ができた。この憩いの場で皆が仲良く勉強や遊びができるよう環境を持続していきたい。

参加者の声

- ・自然ふれあい広場に季節を感じさせるたくさんの樹木、ビオトープの魚、流れる滝に触れることで、喜びを感じる。武蔵小にしかない最高の憩いの場所ができた。



記念植樹



整備したビオトープ



ビオトープ周辺の木々と流れる滝



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：64本

参加者数

学内・学外：約100人
計：約100人

緑化植物

カエデ、ユキヤナギ、コデマリ、アカシア、モッコウバラ、トキワマンサク、ブルーベリー、サルスベリー、アガパンサス、ヒイラギナンテン、ドウダンツツジ、モミジ、タマリユウ、ツワブキ

校庭の樹木となかよしプロジェクト

熊本県熊本市立出水南小学校



事業概要

子どもたちが樹木に興味・関心を持てるように、森林インストラクターに依頼し、樹名板を設置した。

事業成果

樹木についての理解が深まり、樹木について興味関心が高まった。下級生についても伝えたいという気持ちが高まり、樹木について下級生に向けて発表した。また、子どもたち自身で作成した樹木図鑑を自校のホームページに掲載した。

事業をよく知る関係者の声

- ・めずらしい取り組みであると評価していただいた。子どもたちが樹木に関心を持ち、緑や自然を大切にする取り組みが広がると良いと言われた。

参加者の声

- ・樹木に樹名板が付き、保護者や地域の方も、樹木について関心を持つようになった。地域の方からも大変好評であった。また、子どもたちが作成したデジタル樹木図鑑についても、感心されていた。



樹木図鑑の発表



ハナミズキを記念植樹



ユリノキの樹名板



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本

校庭の樹木の樹名板設置：
128枚

参加者数

学内：815人

学外： 5人

計：820人

緑化植物

ハナミズキ

東っ子学びの森づくり活動

大分県由布市立東庄内小学校



事業概要

学校環境の緑化を通して子どもの環境教育の推進を図ることを目的に、以下の活動を行う。①竹林整備。②「東っ子学びの森」として、校門前と多々良坂通学路にカワヅザクラ等の樹木を、児童・保護者・地域の方と一緒に植栽。③植栽する木々について、緑の教室等をとおして学習。④植栽後、完成式典を関係者出席のもと挙行。

事業成果

学校周辺の景観が豊かになるほか、子どもが樹木に対し興味・関心を持ち、自然を愛し尊重する心情や態度が養われる。また、児童や保護者、教職員そして地域の方々の学校への愛着がさらに高まる。

事業をよく知る関係者の声

- ・「東っ子学びの森」はこれで完成ではなく、今後も子どもたちが学べるように手入れをしていくことが地域の役目と感じた。
- ・フジバカマをさらに増やし、いずれはアサギマダラが来てくれる学びの森にしたい。
- ・子どもたちの学びの場としてだけでなく、地域住民の交流・集いの場になることを願う。

参加者の声

- ・植樹活動をとおして、植物の特徴等を知ることができて、自然を大切にしようと思った。
- ・地域の方がたくさんの準備をしてくれて、地域の方々に感謝することができた。
- ・小学校の樹木が受け継がれていって欲しい。



正門前で親子による植樹作業



通学路脇にも植樹



記念植樹



「東っ子学びの森」完成式典

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：320㎡
植付本数：132本
イベント：4回

参加者数

学内：62人
学外：42人
計：104人

緑化植物

カワヅザクラ、ヤエザクラ、ヨウコウザクラ、キンモクセイ、イロハモミジ、サルスベリ、アオキ、クチナシ、フジバカマ

岡富小学校「きぼうの森」事業

宮崎県延岡市立岡富小学校



事業概要

心豊かな児童を育成するために、学校内にある樹木の剪定を行い緑環境を整える。また、葉っぱ観察や木の実採集等の体験活動ができる森林を整備する。主な活動は以下のとおり。①植樹、剪定。②「きぼうの森」の整備。

事業成果

校内の樹木の剪定を行ったことで、見通しが良くなり、景観が良くなった。また、木の実の採集等を目的として、クヌギを初めとするブナ科の樹木を植樹し「きぼうの森」を整備した。今後、学習等で活用していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちの喜ぶ姿を想像しながら計画を進めた。子どもたちには「きぼうの森」でたくさん遊んで、自然とふれあってほしい。学校環境の緑化が進むように、今後も協力していきたい。(学校運営協議会会長の声)

参加者の声

- ・「きぼうの森」で、他学年とも交流したい。ずっと大切にしていきたい。(記念式典に参加した児童)
- ・四季折々に表情を変える校内の樹木とふれあい、心豊かに育ってほしい。(PTA会長)



代表児童・教職員など75人が参加



記念看板の除幕式



記念植樹



剪定後のマテバシイ

実績とりまとめ

作業内容

植付本数： 4本
剪定本数： 10本
記念式典： 1回

参加者数

学内：63人
学外：12人
計：75人

緑化植物

植付：イロハカエデ、ヤマボウシ、クヌギ、カシワ、ウバメガシ
剪定：アラカシ、フジ、マテバシイ、クロガネモチ、ヤマモモ、カイズカイブキ、ヤエザクラ

加納小たんけんの森再生事業

宮崎県宮崎市立加納小学校



事業概要

昭和60年の開校当時に設置された「たんけんの森」を再生し、豊かな心を育む体験活動の場としての整備を行う。主な活動は以下のとおり。①倒木の伐採、撤去。②遊歩道の補修。③看板設置。

事業成果

遊歩道を整備したことで、児童が安心して森に入り学習を行う環境が整った。今後、計画的に活用していきたい。宮崎日日新聞に取り上げてもらったことで、地域の方々や卒業生から、「入ってみたい」という声が寄せられた。

事業をよく知る関係者の声

- ・予算内に収まるよう、作業内容について学校側と何度も相談しながら進めた。これから、森から聞こえる子どもたちの喜ぶ声を期待しながら、可能な限り関わっていきたい。(宮崎中央森林組合 担当者の声)

参加者の声

- ・坂道や下り道があって楽しい。みんなで大切に使いたい。(記念式典に参加した児童)
- ・整備が終わった「たんけんの森」で、たくさん遊び、しっかり勉強してほしい。(記念式典に参加した保護者)



代表児童・教職員など35人が参加



記念植樹



補修した遊歩道



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
整備面積：0.24ha
伐採本数：7本
ロープを張った距離：210m
使用した杭：110本

参加者数

学内：25人
学外：10人
計：35人

緑化植物

ヒガンザクラ

「友情の森」再生プロジェクト事業

鹿児島県鹿児島市立谷山小学校



事業概要

本校は、宮崎市立大淀小学校と昭和30年から66年間にわたり、交流事業を行っている。今回、計画した「友情の森」再生プロジェクトは、本校と大淀小学校の友情の証として設置された「友情の森」を子どもたちが集い、交流する場へと再生させるために計画されたものである。本事業をとおして、友情の森全体の整備・改修を行うことで、設置された当時のように子どもたちが自然とふれあい、体験活動ができる場へと再生する。

事業成果

鬱蒼としていた「友情の森」が整備され、子どもたちの集う憩いの森に生まれ変わった。3年ぶりに実施された宮崎県の大淀小学校との交歓会においても、両校の児童がお互いの交流を深め、友情を確かめ合う交歓の場となっていた。

今後もこの友情の森が、子どもたちの学びと交流の場となるよう、大切に守り育てていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・木漏れ日のきれいな森になった。
- ・きれいになった森や池を学習活動にも有効活用してほしい。

参加者の声

- ・きれいになった森で読書をして楽しみたい。
- ・大淀小学校との友情の証として、この「友情の森」をこれからも大切に守っていきたい。
- ・観察池の生き物の観察がしやすくなった。
- ・観察池の田んぼで稲を育てるのを楽しみにしている。
- ・春になって桜が咲く頃の森の様子が楽しみだ。



完成式典



看板を設置



記念碑と子どもたち



記念植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：32本
 田植え作業：1回
 稲刈り作業：1回
 観察活動：4回
 イベント：2回

参加者数

学内：409人
 学外：145人
 計：554人

緑化植物

アジサイ

羽月小学校児童会緑化事業

鹿児島県伊佐市立羽月小学校



事業概要

児童が学校の木々や花々へ関心をもち、自然を愛する気持ちを育てることを目的に、シンボルツリーの周りに木製のベンチを設置し、学級園の花を守るための木柵を設置した。また、樹木札の設置やイヌマキの植樹など多様な活動を高学年中心としながら、多くの児童に経験させるようにした。

事業成果

シンボルツリーの周りに木製のベンチを設置したことにより、昼休み等に子どもたちが腰を掛ける姿が見られ、樹木とふれあう機会が増えた。また、学校開放で校庭を使用する地域住民などが使用することも多くあった。児童会を中心にイヌマキの植樹や樹木札、木柵等の設置を行ったことにより、緑化活動に対する意識が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・多くの児童や教員、保護者がこの事業の成果や良さを感じることができるように、多様な整備を実施。結果、多くの方が知る機会となった。反省点としては、活動の種類が多いため、広く浅い活動になってしまった。しかし、周知するという点ではメリットも大きかったので、今回の事業が今後の活動に繋がっていくことを期待したい。

参加者の声

- ・木製のベンチがあると、シンボルツリーの木陰で休むことができ、涼しくて気持ちが良い。(児童)
- ・記念式典に参加して、たくさんの事業をしていただいたことを知ることができた。自分がしたことは多くはなかったが、学校の自然を守ることに繋がりがうれしくなった。
- ・正門の入口付近の樹木の剪定がされて、すごく学校が明るくなったと思う。(保護者)



完成式典



イヌマキを植樹



大木カヤノキと子どもたち



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：15㎡
 植付本数：10本
 除伐面積：0.04ha
 イベント：3回

参加者数

学内：89人
 学外：18人
 計：107人

緑化植物

イヌマキ

学校環境の緑化を通じて環境教育を推進する

沖縄県豊見城市立とよみ小学校



事業概要

県内有数の緑あふれるとよみ小学校の緑化をさらに推進していくために、土置き場を整備し、樹木の手入れをしながら児童の豊かな心を育成していく。活動内容は、植樹（サルスベリ1本、フクギ1本、サガリバナ1本）、土置き場設置、プランター用ひな壇の設置。

事業成果

栽培委員会の児童が土置き場で腐葉土を作り、様々な植物を栽培することができている。また、植物の世話をしていくことで、情操豊かな児童へと成長できる事業となった。さらに、3本の植樹を加え、より緑豊かなとよみ小学校となった。

事業をよく知る関係者の声

樹木や草花の多いとよみ小学校ではあるが、土置き場がなく困っていた。また、季節の花々を栽培するプランター用ひな壇の老朽化も進んでいた。そのため、土置き場とプランター用ひな壇を設置していただいたことで、樹木や草花の栽培がしやすくなってとても良い。

参加者の声

- ・土置き場が設置され、プランターや鉢に入れる土が入れやすくなった。
- ・古くなったプランター用ひな壇を新しく設置したことで、プランターの管理がしやすくなった。
- ・樹木が増えたのでとてもうれしい。

(参加者…栽培委員会)



完成式典



土置き場とプランター用ひな壇



代表児童・教職員など19人が参加



サルスベリ、フクギ、サガリバナを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
 イベント：1回
 土置き場設置
 プランター用ひな壇設置

参加者数

学内：15人
 学外：4人
 計：19人

緑化植物

サルスベリ、フクギ、
 サガリバナ

令和2・3年度事業



砂漠緑化&肺炎症状を緩和する漢方薬栽培

中国・内モンゴル自治区阿拉善盟（市）



事業概要

砂漠化防止に効果のあるソウソウ等を植林する。また、新型コロナウイルス感染症（肺炎）に効果のある薬草の種子（複数種）採取用の畑も造成し、青蒿（沙蒿）、麻黄、射干、甘草の栽培を行う。

事業成果

事務所周辺の植林は補植なども行い、ほぼ活着している。遠方地についても7割以上活着している。薬草は青蒿（沙蒿）、麻黄、射干、甘草のうち、射干以外の薬草については、上手く育てることができた。

なお、募金者対象のツアーは、期間中コロナ禍等で日本からの渡航制限があったため実施できなかった。代わりに中国内モンゴル自治区阿拉善盟の一般市民や学生の参加による植林活動を実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・新たな薬草栽培の活動は、これからのアラシャンにとっても必要である。引き続き栽培研究と普及を進めてもらいたい。（阿拉善左旗科学技術和林業草原局副局长）
- ・20年も地道な植林活動を行い、牧民の生活向上に努めてきているが、より良い技術があれば、取り入れて欲しい。（阿拉善左旗環境保護研究所所長）

参加者の声

- ・コロナでなかなか外に出る機会がなかったので、とても楽しい。砂漠化を止める植林をこれからもしていきたい。（参加者・現地高校生女子）
- ・日本のNGOが遠くから、私たちのアラシャンに来て砂漠化防止活動に協力してくれて、とても感謝している。（参加者・現地30代女性）
- ・私たちの世代で緑の大地と美しい青空にしたい。（現地小学生女子）



植林用 梭梭（ソウソウ）の苗



砂漠化防止のためのソウソウの植林



植栽後の水管理風景



薬草栽培：麻黄（現地オイスカ事務所周辺）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：42ha
植付本数：10万5,000本

参加者数

中国：127人

樹種

ソウソウ（薬草：青蒿（沙蒿）、麻黄、射干、甘草）

「わくわくの森」復興支援活動

千葉県木更津市



事業概要

令和元年9月の台風により波岡小学校の学習フィールド「わくわくの森」が大きな被害を受けたことから、森に安全に立ち入ることができ、再び学習フィールドとして活用できるように整備活動を行う。主な活動は、①児童が集まることができるような場を整備するための草刈り、②児童による記念植樹、③進入路の整備、④ボランティアやPTAによる竹林整備・倒木処理等。

事業成果

コロナ禍により、計画した人数・回数を実施することは困難であったが、PTAや児童、地域の方々の協力を得て、再び学習フィールドとして活用できるまでに整備を進めることができた。また、県内の森林ボランティアが研修で同フィールドを作業したことにより整備状況が進展し、これを機にネットワークの広がりに期待をもつことができた。「わくわくの森」での学習再開記念として6年生が中心となっ

て行った植樹は、児童にとって貴重な体験・思い出深い活動となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・6年生が植樹した苗木の成長を確認する機会を設定したい。(40代男性)
- ・実物の地層は、子どもにとって格好の観察材料となり、生きた教材としての価値がある。大人も多様な生物の生息状況を知り、森・川の繋がりや生態系を実感する良い機会となる。(小学校教員50代男性)

参加者の声

- ・子どもたちがタケノコ掘りなどの体験学習を楽しみにしているこの森を、地域や保護者で協力して守っていかなければいけないと感じた。(PTA40代男性)
- ・森で活動する子どもたちのために草刈り作業をはじめとする整備活動を今後とも計画的に行うことができればいい。(PTA40代女性)



竹林整備



ソメイヨシノの植樹



タケの運搬作業



PR看板設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：10本
 下刈面積：2.03ha
 除伐面積：0.14ha
 支障木伐採：13本
 通路・階段整備：25m
 PR看板設置：1回

参加者数

県内：175人
 計：175人

樹種

ソメイヨシノ

企業との協働による「高梁美しい森」森林整備事業

岡山県高梁市松山



事業概要

本事業は、高梁市の定める市有林の一部「高梁美しい森」内において、ENEOS(株)、高梁市、(特非) フォレストフォーピープル岡山との協働による、森づくり・森林体験活動を通じたSDGsの実践に取り組むとともに、自然災害の増加や自然環境・生物多様性の保全という問題に対しても、流域思考に基づき複合的に取り組むことで、持続可能な自然共生型地域社会の構築に寄与することが目的である。8期目となる今期は、①下刈り、雑木林整備(間伐を含む)、マツ林整備、憩いの場の整備等)、②自然体験学習を実施し、自然史に親しみ自然を育む心の醸成に通ずる活動を実施。

事業成果

天候不順で中止した回があったが、一定の森林整備を行うことはできた。また、コロナ禍のため、この2年間は活動休止状態であったが、新型コロナウイルスに関する新たな知見、生活様式の見直しなどを踏まえて計画することにより、企業

が参加する活動が実施できた。このような状況での事業実施は、今後、様々な状況下での活動にも役立つと考えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍後、人数を絞り込んだこともあり、森林整備作業は、安全管理を含め良く実施できていた。課題としては、団体の人的不足のため、実施体制に加え、財政的な負担も厳しい。また、企業との森づくりであるが、企業側の目指す森づくりのビジョンの共有などが不十分。会員の中には、グリーンウォッシュを懸念する声もあり、企業、会員ともに活動日以外でも日常的に森の活用が意識できる環境づくりが必要。(ENEOS及びFFPO担当者会議)

参加者の声

- ・久しぶりの野外での作業は、体力的にきつい部分もあるが、気持ち良い汗を流すことができた。可能なら、以前のようにもっと大人数(150名超)で活動したい。(ENEOS未来の森担当者)



下刈り



雑木林整備



作業前の事前準備



集合写真

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：0.3ha
間伐面積：0.1ha
ENEOSみらいの森森林整備活動

参加者数

県外：120人
計：120人

和木町協働の森づくり事業

山口県和木町



事業概要

本事業は、「豊かで美しい森林づくり」と「地球環境の保全」を目的とし、和木町里山研究会が主体となって地元企業のENEOS株式会社麻里布製油所の社員や家族、OB及び和木町、山口県の職員ボランティアと協働で和木町有林約1.3haの整備を平成23年12月から継続している。

事業成果

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定していたENEOSの森事業での下刈り等の作業は、和木町里山研究会の会員のみでの実施となった。栗拾いのみでも体験してもらうことはできないかと計画していたが、それも実現がかなわず、里山研究会会員のみ栗拾いを行った。作業後はENEOSに岸根栗を提供して、今年の山の恵みを感じ

ていただけるようにした。5月に再びENEOS社員に協働で下刈り活動を実施するよう提案したが、実現が難しく、会員のみで栗園の下刈り作業を行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により実施できなかった事業があったが、ENEOSに栗を提供することなどで、少しでも活動ができるように努めていた。令和5年度の事業では、ENEOSと協働で活動できるように調整できたらなお良い。(50代町職員)

参加者の声

- ・栗の贈呈が大変ありがたい、令和5年度の事業では、協働で事業ができればうれしい。(40代女性)



下刈り開始



徐々にクリの木が見えてくる



下刈り前



下刈り後

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：1.3ha

参加者数

県内：4人

計：4人

住民参加の山水回復とレジリエンスの向上

神奈川県二宮町



事業概要

気候変動と森、海の環境と森には密接な関係がある。私たちは崩落と倒木だらけの暗い森に入ったとき、根を張れない植生、沢の流れが止まった山の状況を見て、気候変動や海の環境にとって、山林や沢の再生がいかに必要かを知る。ここでは、この再生の技術を地域の若者から保護者世代が身に付け、さらに子どもたちにも伝えていくために、多様な連携を生かした持続可能な仕組みを整える。主な活動は以下のとおり。①地域の山水の涵養と山林・竹林整備、②竹林整備で出たタケを使った子どもたちへの山仕事の紹介とタケのいかだ作り、いかだ乗り体験イベント、③森のようちえん発祥地デンマークに学ぶ「幸せな子ども時代とは？」講演会、④ぼくたちわたしたちの地球会議シンポジウム「海から見た地球」、⑤原木シイタケ栽培研修と実践、⑥東京大学宮下教授と院生によるワークショップ「棚田の生物多様性観察会と学習会」。

事業成果

二宮町の名刹知足寺の山林整備後、森に作ったベンチや遊具で楽しく遊ぶ保育園の園児たちの様子について報告があった。

事業をよく知る関係者の声

- ・若者たちが積極的に地域住民に説明したことにより、地域、行政からの信頼を得られた。原木シイタケ栽培や有機農業者をつなげてオーガニック給食推進の立役者となる保護者チームとの連携は素晴らしい。(PTA役員)

参加者の声

- ・ワークショップが素晴らしかった。先生の研究は草刈りの在り方や生物多様性と農との共存、さらに子どもたちの成長環境を考える上で貴重な気づきを与えてくれた。今後のかかわりの中で、さらに多くの学びを得られることを楽しみにしている。(教育委員)



手作りのタケいかだ体験



「幸せな子ども時代とは？」講演会の開催



ぼくたちわたしたちの地球会議シンポジウム



棚田の生物多様性調査

実績とりまとめ

作業内容

樹勢回復：30本
 下刈面積：0.8ha
 除伐面積：0.5ha
 間伐面積：0.1ha
 森林資源活用(シイタケ原木、タケのいかだ、タケチップ)

参加者数

県内：280人
 県外：15人
 計：295人

“豊かな里山” 松沢湿原周辺の保全と回復

新潟県村上市



事業概要

目的は、村上市松沢地区にある灌漑用ため池と集水域にある山林の植物・水棲動物・野鳥について専門家の知見を取り入れた多角的な調査を行い、成果を踏まえた整備を実施することで、ため池・山林・集落が一体となった豊かな農山村を創出させることである。主な活動は以下のとおり。
①動植物の有識者ととも調査。②障がい者や健常者が散策し学べる場であることを周知。③前記に関わること。

事業成果

これまでは松沢地区でのイベント時に有識者から松沢湿原についてのお話だけだったが、本事業に取り組むことができたことで、湿原及び周辺の植物調査、野鳥調査を夏・秋・冬・春の1年間にわたり実施できた。水棲動物も冬季以外、調査を行い、取りまとめることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・用途廃止された農業用ため池周辺を、子どもから高齢者まで散策できる学びの場として整備するには並大抵の苦労ではなかったと思うが、地域住民の理解と協力があり地域づくりの意識が全体に浸透する意義のある活動である。今回、里山や湿原に棲む水棲動物、野鳥、植物の調査や勉強会によって、この地域に多くの動植物が生息・生育し絶滅危惧種もあることを知り、このような取り組みの必要性と事業の継続により、里山の保全と回復に繋がっていくことを確信した。(村上市神林地区関係人口創出事業実行委員会)

参加者の声

- ・身近な野鳥や植物の活用、水棲動物などの生き物が知れて勉強ってとても楽しい。(新潟市内からの参加者)
- ・カエルやドジョウを捕まえ、ダイサギやサシバなど名前の知らない鳥も教えてもらい楽しかった。(小学生)



散策道整備



植物調査



水棲動物勉強会



イベントの集合写真

実績とりまとめ

作業内容

調査・勉強会：2回
植物調査：15回
野鳥調査：11回
水棲動物調査：5回
湿原等の整備：5回

参加者数

県内：252人
計：252人

キャンプ場再生プロジェクト

奈良県天理市



事業概要

持続可能な森づくりを目指す大人たちとともに、環境や資源について学び考え、一人ひとりが主体的に行動できる心を育む。そして、環境再生の視点からの森の整備を学びながら、日頃子どもたちが過ごすキャンプ場の森を復活させる。主な活動は、大地の再生プロジェクトにおいて、草刈り、水脈整備、坂道整備、点穴補修、柵補修などを実施。

事業成果

泥詰まりしにくい環境や水の流れを緩やかにコントロールでき、土砂流出を改善。たくさんの生き物を見かけるようになり、生態系の保全にも寄与していることが確認できた。課題の作業者間の整備知識のばらつきは、整備手法のマニュアルの活用のほか、当日に作業内容の共有時間を設け対策を行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者も森が元気になっていくことを実感することができ、継続的な活動や専門家からの助言の意義を感じている。今後も活動を通じて森の木々に元気を取り戻してほしい。(奈良県小学校教諭40代男性)
- ・天理市と協働し、森林環境教育の体験活動のフィールドとして、この森について学習する機会を作り出すことを期待する。(国立曽爾青少年自然の家職員40代男性)

参加者の声

- ・大地の再生では根本となる部分を見つめ、自然の自らの再生していく力をサポートしながらの森の再生を学ばせてもらっている。(40歳男性)
- ・水の流れが良くなると、とんぼが飛んできた。(小学2年生)
- ・森が元気になっていくのがうれしい。(小学5年生)



穴を開け、炭や藁、小枝などを入れる



水脈整備



朽ちた柵の補修



参加者のみなさんと集合写真

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：3.5ha
水脈整備：4回
点穴補修：3回
坂道整備：2回

参加者数

県内：110人
県外：1人
計：111人

炭焼き体験を通した里山の資源循環を学ぶ場づくり

千葉県南房総市



事業概要

目的は台風被害、ナラ枯れ病などで傷んだ伐採木や土壌改善の資材として木炭を作り、資源循環や自然環境の保全について学ぶ場とするためである。主な活動は以下のとおり。①半兵衛炭焼き塾で窯の作成について学び、ワークショップ型で炭焼き窯を作成。②炭窯の作成と同時進行で炭焼き窯作成地点周辺の枯れてしまった樹木の伐採と、次世代の木が育つ環境づくり。伐採木を木炭にする過程も参加型ワークショップとして実施。③炭焼き窯や伐採地点周辺にて、伐採木を使った森の遊び場づくりを子ども向けのワークショップとして実施。

事業成果

炭焼きを通して、日本の里山について学ぶ学習プログラムを開発した。前年度森の整備活動を行ってくれた方々が、炭焼き窯の作成にも携わってもらえた。地域の小学生向けのプログラムを行うことで、地域の自然環境に愛着を持っ

てもらえた。炭焼き窯作成地点を中心に伐採を行ったことで、安全に森の中で体験活動できる場所が増えた。土壌改善作業をする際の材料となる炭を、作れるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・木々や森から受ける恩恵について身をもって知ることができた。炭窯は、まだまだ改善できる点があるので、今後も皆さんとより良い炭窯にしていきたい。炭窯も1基だけではなく2基、3基と作成に携わっていきたい。また、今後炭窯を作る場合は地元の子もたちとも一緒に行えれば、次世代の環境意識が高まると感じた。(ボランティア)

参加者の声

- ・荒れている場所をみんなで整備して、森の中で遊べる秘密基地を作ることができた。伐った木も、捨てるのではなく秘密基地を作る材料にすることで、自然の中には無駄なものがないということが分かった。(小学6年生)



炭窯づくり



炭焼き体験



森の整備活動



森の遊び場づくりに参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：2ha
 森の整備活動：9回
 炭窯作り：6回
 森の遊び場作り：2回
 炭焼き：2回

参加者数

県内：257人
 県外：6人
 計：263人

ナラ枯れを越える! 都会の荒れ森一掃事業

東京都町田市



事業概要

目的は、東京でも被害が出始めたナラ枯れに対し、対症療法だけでなく、被害木の伐採・活用、対策・予防を通し、新たな森林価値の創出に挑む。主な活動は以下のとおり。①ナラ枯れを拡大させないよう、防虫剤の注入や噴射、ビニール敷設などの対策を実施。②被害木を自分たちで処理・活用するため、講習の受講、機材を購入。遊具やターザンロープ場、虫の住処に通じる通路を開拓。③ナラ枯れが始まった大径木の実験的対処（被害の多い一部を伐採するだけで延命ができないか、実験に成功）と実践を通じた伐採作業の習得。④コロナ禍で、定期的な活動ができず、参加者が集めにくい中、地域のイベントで「森の生き物作り」活動を実施。

事業成果

本事業の実施により、チェーンソーや草刈機の購入、講習を受け、資格も得ることができた。チェーンソーを使っ

た伐採も、行政に依頼するのではなく、自分たちで実施することができるようになり、活用できるエリアや今後の「遊び活動」の可能性が広がった。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちが遊んでいる森がきれいになって感謝している。(最寄り小学校関係者)
- ・ナラ枯れの被害で落下した枝が片付けられ、散策がしやすくなった。(公園利用者)
- ・子どもたちも参加できる機会をもっと設けてほしい。今後に期待したい。(地区の子ども会関係者)

参加者の声

- ・しっかりと作業ができる取り組みは良かった。(中学生の息子と作業に参加した50代男性)
- ・小さい時から遊んでいる近所の森を、自分が整備できるようになり驚いているが、大学の専門が活かせるのでやりがいを感じている。(近隣在住・東京農大3年生)



薬剤注入時の看板



コナラの伐採



コナラの伐採木活用



「森の生き物作り」活動での子どもたちの作品

実績とりまとめ

作業内容

樹勢回復：1本
下刈面積：0.3ha
森林資源活用：4本
森遊び：13回
作業：15回
アートイベント：1回
大径木伐採：1回

参加者数

県内：175人
県外：18人
計：193人

樹種

コナラ

ふるさとの森を取り戻せ! 松毛川「千年の森」再生プロジェクト

静岡県三島市、沼津市



事業概要

狩野川の旧河川敷であり全国的にみても貴重な水辺自然環境である「松毛川」(静岡県三島市と沼津市の市境に位置する)において、自然環境の再生・復活のための保全活動を行うことを目的として、地域住民や学生、専門家等との連携のもと、下刈りや竹林伐採・チップ化、植樹などの全20回の実践的な保全活動を実施。

事業成果

本会では、2003年以来、「松毛川千年の森づくり」として、地域協働による森づくり・自然環境再生活動に取り組んできているが、今年度、静岡県による「県営地域用水環境整備事業」による松毛川の川底に堆積したヘドロ等を除去する工事が決定した。県営整備事業の環境アドバイザーとして

行政と連携することで、親水景観・自然度・治水機能の大きな改善が今後期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・本事業は、狩野川原風景が残り、将来にわたって保全していくべき松毛川の環境を、行政依存ではなく住民主導により整備するだけでなく、「生き物たちの楽園・サンクチュアリー・環境教育園」として整備することを目指した事業であり、この貴重な環境を市民の手で守るためのモデルケースとなることを期待する。

参加者の声

- ・放置竹林の問題点が理解できた。作業後の景観の変化に達成感を感じた。(参加者20代女性)
- ・協働作業による楽しさを感じた。(参加者10代男性)



放置竹林伐採活動



植林活動



大学生ボランティアと記念写真



伐採したタケのチップ化

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：300本
 下刈面積：0.8ha
 放置竹林伐採：0.4ha
 植樹地整備：0.3ha

参加者数

県内：217人
 県外：275人
 計：492人

樹種

エノキ、ムクノキなど

三田高平ふるさとの森づくり

兵庫県三田市



事業概要

目的は、三田市酒井奥所の里山の常緑樹除伐と夏緑林の育成及び散策道作りを通して参加する人の交流の場づくりを行うことである。主な活動は以下のとおり。①チェーンソーや刈払い機の構造及び取扱い安全講習会の実施、②密集した森の間伐、除伐作業、③デポを作り、枯れ木や間伐、除伐した残材の整理、④遊歩道や階段づくり、⑤クヌギやナラの間伐材を活用してシタケ栽培、⑥里山の楽しさを伝えるイベント実施、⑦間伐材の有効利用で薪づくり(循環の暮らし体験)。

事業成果

前年度も実施した三田市のイベント「さんだ町博」に加えて、高平郷づくり協議会と一緒に「三田高平里山の暮らし体験 in 里野山家」を新たに開催し、阪神間の親子連れ50名の参加があった。広報はInstagram、FacebookなどのSNSにも注力した。また、チェーンソー並びに刈払い機取扱い

安全講習会も今年度は5回開催できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・まち博の三田市全体の報告会において、里野山家の体験企画が非常に好評をいただいた。参加の応募数が多く、キャンセル待ちが出た。現在、里山での体験が街の子育て世代の家族に望まれている体験であることがよく分かった。(三田市まち博担当者)

参加者の声

- ・子どもたちに里山の暮らし体験をさせることができ、1日親子共々ゆったりとした時間を過ごせて最高でした。(30代男性)
- ・スタッフがとても親切で、薪割り、鋸などたくさんの体験ができて子どもたちも大満足でした。(40代女性)
- ・子どものいきいきした姿を見ることができて親としてうれしかった。(30代女性)



チェーンソー取扱い安全講習会



初心者向け里山整備指導



「三田高平里山の暮らし体験」シタケ菌打ち



里山整備に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

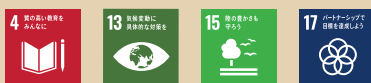
下刈面積：4ha
除伐面積：4ha
間伐面積：5.3ha
森林資源活用：1,500本

参加者数

県内：670人
計：670人

国境を越えたSDGs 六甲の森・里山づくり

大阪府大阪市、兵庫県神戸市、尼崎市、西宮市、三田市



事業概要

多国籍の児童・学生・若者を対象に、日本人と外国人が一緒になった新たなSDGsプログラムとして、植樹や間伐、間伐材の有効活用等の体験コースを整備し、若者を育みながら地域の里山や森林の復元に取り組む。主な活動は以下のとおり。①植樹、苗木の手入れ、下刈り、②中低木の間伐と薪作り、③竹林の整備、間伐材の有効活用、④環境教育を含む現場でのSDGs教育、⑤SDGsオンライン座談会、⑥チェーンソー、刈払機・薪割り機・電ノコ・ドリル・無煙炭化器等の取扱い研修とその活用。

事業成果

1万本植樹のプロジェクトでは、18カ国の多くの方が参加。コロナの影響で活動が難しい時期はオンライン座談会を開催し、環境やSDGsの啓発を行いながら新たな仲間が増えた。在籍外国人が多い団体の特徴を活かしながら、海外留学生・大学生インターンシップの継続的な受入れを通し

て、植樹・森林・里山保全の新たな体制ができている。

事業をよく知る関係者の声

- ・ワークショップなどに若手社員が参加することで、食と環境、SDGs、社会課題等において新たな気づきや学びのきっかけをいただいた。取り組みを更に広げ深めてほしい。(協賛企業担当者)
- ・Peace & Natureは、現場で実践することを大切にし、参加者は技術・知識を得ながら森林・里山保全に取り組める。国際的で多様性に富んだ活動と交流を推進され、様々な可能性の広がりを実感している。(協賛企業担当者)

参加者の声

- ・木づちで支柱を打ち込む体験で、掛け声に合わせて叩く音が天に広がっていくようで気持ち良かった。(中学生)
- ・タケを有効活用してお手洗いの壁を作り上げ、達成感を感じた。私たちの世代がPeace & Natureからの学びや気づきを通して成長していかなければならない。(大学生)



植樹



下刈り作業中



竹林整備



里山整備

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.12ha
 植付本数：83本
 樹勢回復：1.2ha
 下刈面積：2.4ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：1.0ha
 森林資源活用：154本
 SDGs環境教育：23回

参加者数

県内：770人
 県外：84人
 計：854人

樹種

ソメイヨシノ

わくわくの森大作戦

広島県三原市



事業概要

荒廃した森の手入れや人々が集える森林空間にするため、春夏に皮むき間伐のワークショップを開催し、森づくりについて普及啓発活動を行った。また、森と暮らしを繋ぐため、森の間伐材を活用しカッティングボードづくりのワークショップを開催した。秋冬は、明るく健全な森林空間を保つよう、伐採など森林整備を実施した。

事業成果

以前に皮むき間伐ワークショップに参加した方が、自分たちで間伐した木を使った木工がしてみたいということで、カッティングボードづくりのワークショップも開催することができた。森と暮らしが繋がる機会になり大変有意義で

あった。

事業をよく知る関係者の声

- ・皮むきワークショップのときは人が集っても、継続的に伐採などの整備に来られるメンバーが少ない。課題として今後はもう少しメンバーが増えてほしい。(60代男性メンバー)

参加者の声

- ・森の大切さを知った。これから森のお手入れを私たち若い世代もやっていく必要があると思った。(皮むき間伐ワークショップに参加した高校生)
- ・森は気持ち良く元気になるため、また参加したい。(50代男性)



伐倒の様子



参加者のみなさん



皮むき



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.8ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：0.8ha
 森林資源活用：76本

参加者数

県内：122人
 県外：14人
 計：136人

みんなのいこいの森づくり

沖縄県南城市



事業概要

ストレス社会の中、繋がりのある社会が必要とされている現状に対して、荒廃した森の整備を通して市民の集う「憩いの森づくり」を目指す。これにより、森を真ん中にした繋がりある社会や人が入り森を整備することによって森と人が共生する社会を作る。主な活動は以下のとおり。①除伐や木道作り等の森林整備、②間伐材で物作り、遊び場作り、③環境学習。

事業成果

整備した山道を中心に人が入ることによって、光が入りやすくなり、親しみやすい心地良い森となった。イベント以外の日にも、森に遊びにくる市民も増え、森と人との関係が近くなった。

事業をよく知る関係者の声

・人が入れるのかが分からないくらいの森だったが、森林

整備や山道を作ることで見違えるように森が変り驚いた。(ボランティアスタッフ30代)

- ・市民とともに整備したことでたくさんの人に愛着をもってもらえたと思う。(ボランティアスタッフ20代)
- ・森の整備を通じて、森の木々の生育や森の年齢やその生態など、様々な勉強ができたことが良かった。(ボランティアスタッフ40代)

参加者の声

- ・子どもたちと木道作りから参加して、初めてドライバーを持ったり、森の観察をしたり、森で過ごす楽しみを教えてもらった。(20代主婦)
- ・子どもたちが作った遊び場にとても感動。伐木などがこんなふうに生かせること、それで遊んでいる子どもたちもイキイキしていて心地良い時間だった。(30代自営業)
- ・森の観察会に参加して、森の木々の種類や生え方で様々なことが分かることに驚いた。木々の匂いや植生を知ることでもでき、本当に楽しい時間だった。(40代市役所職員)



木道作り



あそび場作り



ツリークライミング



南城市民の森の前で記念写真

実績とりまとめ

作業内容
 木道作り：3回
 あそび場作り：2回
 自然体験：2回

参加者数
 県内：241人
 計：241人

地域における園庭・裏山整備等モデル事業

長野県上田市、須坂市



事業概要

園庭緑化・裏山整備等に詳しい指導者等がおらず、具体的な実践に着手できていない園が、新たに保護者や地域住民等の参加を得た取り組みを開始できるような支援モデルの構築を目的とする。本事業では、上田地域においてこれまで幼児期を対象にした森林環境教育や森林整備活動の実績を有する森林NPO団体（やまぼうし自然学校）と、保育・幼児教育の専門性を有する保育者養成校（上田女子短期大学）が連携した支援体制を構築した上で、①園庭・裏山等の整備計画策定、②園庭緑化・裏山等整備活動、③安全研修等をパッケージで支援するスキームを構築する。

事業成果

森づくり・保育等に詳しい森林NPOが組織的・継続的に指導できる体制を整え、参加型の活動を企画することで、園児や卒園児、園・大学の教職員や学生、保護者・地域住民等の多様な主体が参加した裏山整備活動を開始できた。ま

た、参加者の森林への興味・愛着がより一層育まれ、森と人の共生のための参加・協働の意識が醸成できた。節目の活動には多くのメディアの取材も得られ、広く社会への普及啓発にも寄与するなど、波及効果も生むことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・人間が自然を活用するのではなく、「自然とともに在る」という視点を持ち、動植物も人間も集まる森をつくるという新たな自然保育の可能性がある。今後、森の専門家から園・大学教職員へ知識や技術を引き継ぐ際に、森に対する見方・考え方も伝えていくことが課題である。（学識者）

参加者の声

- ・普段子どもたちに親しみがある裏山に親も主体的にかかわることができ、良い経験になった。（保護者）
- ・同じ目的をもって、整備を行うことで、保護者同士、卒園児と園児、様々な繋がりが生まれ、保護者も主体的に関わってくれたことが大変うれしかった。（教職員）



森づくり活動（散策路づくり）



森づくり活動（除伐）



国際森林デー植樹祭（植樹風景）



国際森林デー植樹祭（集合写真）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
植付本数：23本
遊歩道作り：160m

など

参加者数

県内：875人
県外： 9人
計：884人

樹種

オオヤマザクラ、ナナカマド、ヤマアジサイ、ダンコウバイ、ヤマボウシ、エノキ、ナツハゼ

長野県令和元年東日本台風被害の復興支援事業

長野県上田市



事業概要

令和元年台風19号は千曲川流域を中心に長野県内に甚大な被害をもたらした。被災地域の学校、幼稚園、保育園や地域の方々に木のぬくもりを感じてもらうために、校庭、園庭等の植樹、木製製品の贈呈、植樹を行った。

事業成果

木製の椅子を被災した保育園に贈呈したところ、大変好評で他の保育園からも木製に代えたいと要請をいただいている。

事業をよく知る関係者の声

- 被災地において、地域の木材を活用したベンチや植樹活動により、水源涵養機能などの森林の持つ多面的な機能について普及啓発が図れた。このような活動を通じて下流部の住民が上流部で植樹活動を行うなど、上下流の交流に繋がることを期待する。(長野県林務部森林づくり推進課 課長補佐)

参加者の声

- 木製のベンチの匂いに癒された。
- 植樹した木を大切に育てたい。
- 数年後に見に来たい。(園児、児童、教員)



木製積み木の贈呈



サクラ植樹、木製ベンチ贈呈



アジサイを植樹



カラマツを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：500本
 幼稚園、保育園、小中学校記念植樹イベントほか：9回

参加者数

県内：324人
 計：324人

樹種

カラマツ、ヤマボウシ、ハナミズキ、クヌギ、アズノほか

森・子どもたちの元気づくり・再生プロジェクト

北海道白糠町、標茶町、当別町、札幌市



事業概要

第44回全国育樹祭の開催を契機に、植樹活動や森・木とふれあう体験の機会を提供し、森づくり活動などへの参加促進並びに森づくりの意義等の普及啓発に取り組む。期間中は、コロナ禍があり、人数制限や日程を延期するなどして事業を実施した。主な活動は次のとおり。①子どもたちや地域住民などととも、ダム上流の「水源の森」や河川周辺、市街地等で植樹し、自然環境の造成や地域の緑化を進める。また、活動前に子どもたちに植樹の役割等について学習する機会を提供する。②木育ひろばを開催、森や木とふれあう体験の機会を提供、一般住民に緑の募金や木育等について普及啓発を図る。

事業成果

コロナ禍を経て、参加者は久しぶりの植樹を貴重な機会として捉え、真摯に植樹活動に取り組んでいた。また、参

加者には身近な自然への探求心も芽生えてきた。実施後、活動継続を希望する声も多かった。

事業をよく知る関係者の声

- ・事前学習で植栽木や森づくりの意義を学んだ後、植樹に取り組み、参加園児は植栽木だけでなく、近隣の自然にも興味を持つようになった。(保育園指導者)
- ・コロナ禍で参加者数が減ったことから、一人当たりの植栽本数は増えて活動は大変だったが、久しぶりの植樹に活動は充実し、満足する声が多く聞かれた。(植樹指導者)

参加者の声

- ・自然の中で木を植え、とても気持ち良く、身近な木や葉に興味があった。(参加者)
- ・これ以上、自然が減ることがないように、森や木を大切に思うようになった。(参加者)
- ・大変な作業だったが、また来年もやりたい。(参加者)



植樹(標茶町)



植樹後の集合写真(当別町)



模型で森林の水源涵養機能を説明(札幌市)



木育イベントを実施(札幌市)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.44ha
植付本数：890本

参加者数

道内：279人
計：279人

樹種

エゾヤマザクラ、ツツジ、イタヤカエデ、ドロノキ、ミズナラ、ヤチダモ、ケヤマハンノキ、シラカバ、トドマツ、ミズナラ

馬と歩く瞑想と森林浴を行う新しい森づくり

岩手県遠野市



事業概要

手入れをしていない広葉樹林を森林浴などに適した心地良い森林空間にし、馬と人の通う森をつくる。また、林内の一部にメンバー死後の埋葬エリアも整備し、心の故郷となるような里山景観を作る。主な活動は、①一昨年度伐採したカラマツを土留として活用し、人力で小さな展望台をつくる。②馬と過ごせる森林浴フィールドづくり。③外来種や繁殖力の強い草本を選択的に刈り取ることで在来希少種を保全する。④枯死していた樹木など危険木を除去し、柵を編んで法面の保湿に活用する(バイオネスト)。

事業成果

活動が知られるようになり、参加者は、関東や陸前高田市のNPO法人、武蔵野美術大学のランドスケープ講義を受講している20～30代世代、海外からも受け入れることができた。交流人口の多様化に努めながら、遠野らしい馬と森の里山景観を取り戻すべく、参加者と放牧馬とのトレーニ

ングのプログラムも開始できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・重機も釘一本も使わず、人力と植物の力だけで、森の中から早池峰山を望む小さな展望台ができたことが素晴らしい。(財団法人・評議員)
- ・ワークショップに大学生の参加を促すには、参加費を安くすることが必須。教育目的の開催なので助成金などの支援をさがしてぜひ継続してほしい。(大学教員)

参加者の声

- ・展望台での作業は瞑想に近い感覚。土木メディテーションだった。(米カリフォルニア・30代男性)
- ・山野草が自生していて美しい森だった。馬との対話も含めて、とても深い自然体験ができた。(50代女性)
- ・里山の景観は人と自然の営みがつくる、ということが作業を通して実感できた。(20代男性)
- ・森に馬が放牧されていることに感動。(40代女性)



森の植物素材と人の手だけでつくる、展望台



森林医学医と歩く、馬と瞑想の森林浴



森の道づくり+枯れ笹刈り+野芝の移植



林床の枯れ笹整理とバイオネストづくり

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.6ha

除伐面積：0.2ha

参加者数

県内：59人

県外：81人

計：140人

未来へつなぐ「悠久の森」

京都市京都市



事業概要

北桑田高校がある地域には、豊かな自然が残るが人々が生活する地域周辺は針葉樹の人工林となっている。針葉樹のみの森の中に広葉樹を植えることで、自然災害に強く、訪れた人が四季の変化を感じられるような森づくりに取り組む。主に以下の活動について高校生が主体となり、地域の小学生に向けて実施した。①事前学習として小学生への森の授業、②木材の利用について学ぶ木工教室、③悠久の森づくりとしてトチノキの植樹。

事業成果

小学生との交流を実施することで、高校生自身が地域の自然や環境を見つめ直す機会となった。間伐材を活用した木工キーホルダーの作成により、木材の有効利用、トチノ

キの植樹により自分たちの手で地域の森づくりを行うことで自然を大切に思う気持ちを育ませることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域の高校生から森林や林業について話を聞き、小学生自身も地元地域の自然環境について興味を持って学習することができた。植樹体験ができたことは、子どもたち自身が成長した時に、木の成長を見ることができるので、地域の森への関心がより高まった。(小学校教員)

参加者の声

- ・高校生のお兄さん、お姉さんに木の伐り方を丁寧に説明していただき、ありがとうございました。みんなと木を倒せてうれしかった。また、何年か後に自分たちが植えたトチノキを見るのが楽しみ。(小学生)



下刈り作業中



先進地研修



木工体験



トチノキを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.1ha
 植付本数：155本
 下刈面積：1.6ha
 除伐面積：1.6ha
 植樹準備、研修：11回
 交流会、木工体験：4回

参加者数

県内：265人
 計：265人

樹種

トチノキ

「つなげよう!どんぐりの森2021」プロジェクト

秋田県男鹿市



事業概要

自然の大切さや素晴らしさに気づききっかけづくりとして、「どんぐりの森づくり」を位置付け、持続可能な自然環境を将来に繋げることをねらいとし、どんぐりの森の育成や「どんぐり観察会」、自然体験活動「どんぐりがっこう」を開催した。

事業成果

どんぐりの植樹や補植を行い6年目にして、自然の営みでどんぐりの芽が出た。「どんぐりがっこう」は、令和2年1月から定期的に開催を継続することができた。継続して参加した子どもたちは、季節ごとの自然の営みや生き物たちを観察し、楽しむことを自主的に行うようになり、持続可能な自然環境を将来に引き継ぐことができている。

事業をよく知る関係者の声

・「どんぐりがっこう」は年間を通して楽しむプログラムで、

四季折々の自然も感じながら参加する子どもたちの、新鮮な驚きや反応、挑戦する気持ちや好奇心など成長していく姿が多くあった。充実した自然体験を提供できており、エコツーリズム的な観光プログラムに繋がる可能性もある。参加者はリピーターが多く、新たな参加者を募る工夫が必要と感じた。(どんぐりがっこうスタッフ)

参加者の声

・「どんぐりがっこう」のどんぐりの森には、カシワの木がたくさんある。カシワの葉っぱで柏餅を作った。おいしかった。カシワの葉っぱは枯れるけど冬でも木から落ちないことが分かった。それからフキノトウをたくさん見つけてお好み焼きを作って食べたり、クワの実を教してもらって初めて食べた。高いところのクワの実を抱っこしてもらって手を伸ばしてたくさん食べられて楽しかった。(小学生)



どんぐり観察会



どんぐりから出た芽



森の恵みを試食



自然体験活動が楽しめる「どんぐりがっこう」

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.53ha
 どんぐり観察会：4回
 どんぐりがっこう：19回

参加者数

県内：262人
 計：262人

田人林業体験フィールド活動事業

福島県いわき市



事業概要

心豊かな人間形成と社会全体の利益の増進に寄与するため、荒廃した山林を整備して森林とふれあう機会や、安全に楽しめるフィールドを提供するため、次の活動を行った。

- ①侵入竹の除伐と不要木の伐採、②重機による遊歩道の粗造り、③遊歩道の安全杭設置と整備、④植樹場所の地拵え、⑤植樹体験活動。

事業成果

遊歩道の粗造りと伐採・除伐は危険が多いので、慣れた人によって行われたが、仕上げ段階は、一般会員の参加によって行われ、自然とふれあい、植樹体験も行われた。その植樹の大切さを、肌で感じ・学び・喜び、参加者の広がりの可能性を確認した。

事業をよく知る関係者の声

地域の方々には、明るく景観が良くなり、過疎化が進む地域に人が集まり、活性化されると喜ばれている。同時に、森林の整備の大切さを感じている。今後は、活動の全てにおいて、研修が必要だと思われるので、各方面の協力を得て進めていきたい。

参加者の声

- ・山に来て気持ち良かった。(小学生)
- ・植樹して地球温暖化の抑制につなげる学びをした。(小学5年生)
- ・植えた苗木が早く、花がキレイに咲いてくれることを願った。(60代)



重機による遊歩道粗造り



遊歩道に安全杭を設置



フィールドのササの刈取り



ハナモモを植樹

実績とりまとめ

作業内容

- 遊歩道づくり：9回
- 伐採・除伐：5回
- 遊歩道整備：6回
- フィールド整備：12回
- 植樹体験：1回

参加者数

- 県内：122人
- 計：122人

樹種

オオヤマザクラ、ヤマザクラ、ヒガンザクラ、ハナモモ、クヌギほか

未来の子どもと森×SDGs×FSCを学ぶ

東京都檜原村



事業概要

目的は、コロナ禍の緊急事態宣言で山での体験の機会をなくした子どもたちに、森の整備の体験、木や枝を使ったクラフト体験の機会を提供して、SDGsへの理解を深めることである。主な活動は以下のとおり。①森のツアー、森の手入れ（支障木の伐採、作業道の整備等）、森×SDGs×FSCのワークショップ、森の枝で鉛筆作り、②クラフト体験、③落ち葉プール体験。

事業成果

薪炭林は、日常的に手を入れること、作業道も手を入れながら使っていないと荒れてしまうこと、道沿いの藪や灌木も枝を切ることで、安心・安全な道・森ができることを伝えられた。コロナ禍のため事業の催行が危ぶまれたが、期間を延長して、森と木を知る機会を設けることができた。参加者も待ち望んだ自然体験ができたと喜んでいて、里山の手入れを知り、資源の活用を親子で体験できたことは

今後の継続的な森の手入れに参加する良い契機になる。

事業をよく知る関係者の声

- ・枝を身近に使えるものにできないかと中学生が考え、切った枝に芯を入れナイフで削ることで、枝の鉛筆が完成。緑の募金を促すために、作った鉛筆をお店で募金箱の側に並べて「FSCの森のえんぴつ時価（お気持ち）」と書いたら、すぐに完売。提供してくれた生徒たち、買ってくださったお客さんに、感謝している。とても有意義な活動になった。（40代教員）

参加者の声

- ・木材や自然の素材を使って、クラフトができたので、子どもたちは大喜びだった。（40代女性）
- ・FSCの森の木、森の枝で鉛筆を作り、持ち帰ることができ、FSCの森がとても身近なものになった。（15歳女子）
- ・森の維持管理のために安全な作業道があることが前提と聞き、今度は道づくりに参加してみたい。（14歳男子）



枝切り



森の鉛筆づくり



完成した森の鉛筆



木工クラフト

実績とりまとめ

作業内容

森林資源活用：0.5ha
ワークショップ：2回
落ち葉掃き・落葉プール：

1回

木工クラフト

参加者数

県内：126人
計：126人

糸島・未来の森づくり事業

福岡県糸島市



事業概要

目的は子どもに森の現状や課題を知り、森への関心、環境保全の意識を高めること、また、課題解決のために自分にできることがあると考えられる自己効力感をもつことで次世代の課題解決への主体性を育むこと。そして、森を再生する活動を行うことで、未来に豊かな森を残し、森を大事にする心と文化を継承する。主な活動は、①森の現状と間伐の必要性の説明、②放置された人工林の皮むき間伐の体験、③皮むき間伐材の伐採ワークショップ、④間伐材を利用した木工のワークショップ。

事業成果

小学校からの送迎バスを手配することで子どもたちが参加できるようになった。昨年までに皮を剥いた木を伐採して、重機やトラックがなくても自力で運び出せること、木の水分量の変化などを体感することができた。新たに木工のワークショップを企画し、森に行くよりも気軽に楽しく

森への関心を持ってもらう機会ができた。皮むき間伐ワークショップに参加した子どもが木工ワークショップにも参加することで木材利活用の流れを感じてもらえた。

事業をよく知る関係者の声

- ・伐倒ワークショップでは前年自分たちで皮むき間伐した森の変化を体感として理解することができた。活用方法を念頭に切り出す材を吟味選別することで子どもたちが考察した意見を交わす良い時間となった。今後は伐り出した後の森や、間伐した先にある森の環境変化などを含めて観察したり、意見を出し合える機会があるのも面白いと思う。(フリースクールスタッフ)

参加者の声

- ・楽しい。皮がきれいにむけた。皮の下の木がツルツルしててきれいでびっくりした。(小学生)
- ・森の現状と課題を知れた。木工は楽しくできた。皮むき間伐にも参加してみたい(保護者)



森の現状と課題を説明



皮むき



木材の運び出し



木工ワークショップ

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：0.35ha
木工ワークショップ：2回
伐採ワークショップ：2回

参加者数

県内：150人
県外：5人
計：155人

みんなで遊ぶ森作り

熊本県高森町



事業概要

子どもたちが地域との関りを学ぶため、この地の自然をよく知る地域の方々に講師を依頼し、自然体験教室を実施した。主な活動は、火起こし、命の授業（鶏捌き）、森遊び、ブッシュクラフト、登山。また、子どもたちが遊びやすく親しめる森にするため森林整備を実施した。主な活動は、下刈り、スラックラインの設置、子どもたちが木への理解を深められるように果物の苗木を植樹した。

事業成果

コロナ感染対策をしながら自然体験教室を5回実施。小学校高学年以上の子の参加が多く、これまでに比べ難易度の高い活動ができた。その後保護者からは、家庭でも自然体験教室で学んだことを実践しているという声を多くいただいたことが一番の成果である。森の下刈りは2年目になると手伝ってくれる人が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者の満足度が高い分リピーターが多いため、新たに参加できる子どもの人数が限られてしまうのがもったいない。阿蘇や高森の雄大な自然、子どもが持つ力を信じ温かく接してくれるスタッフ、障がいのある子もない子も一緒に参加できるこの貴重な自然体験活動をもっといろいろな子にぜひ体験して欲しい。今後開催数を増やしたり広報に力を入れたりできればと思う。(30代事務)

参加者の声

- ・新しい場に行く時や新しいことをする時、これまでは「できない」と言っていたのが参加後は「やってみる」と言うようになった。(保護者)
- ・人と接するのも外で体を動かすことも好きになり、自分からチャレンジすることが増えた。(保護者)
- ・学校では忘れ物をしがちだが、自然体験教室の準備は自分から考えてやっていた。(保護者)



火起こし



子どもたちが木の枝で作った隠れ家



下刈り作業中



スラックラインの設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：23本
下刈面積：0.18ha
子ども自然体験教室：6日

参加者数

県内：133人
計：133人

樹種

ミカン、ビワ、レモン、サクランボ、ブルーベリー

こどものための森づくりと自然観察会事業

宮崎県都城市



事業概要

目的は、コロナ禍で人との関わりや体験不足の子どもたちのSDGsに繋がる自然への探求心や創造力を育むことである。主な活動は森や自然を活かす活動で、①昆虫写真家新開孝氏による自然観察会とワークショップ（生き物写真の撮影会、昆虫の生態の観察飼育方法）、②森の整地後子どもたちによる植樹会、③看板作成及び設置。

事業成果

専門性が高い講師による自然観察会の写真撮影の指導で、参加した子どもたちが写真を撮影するために、より丁寧に細部にわたる昆虫や植物に対する観察をすることができた。同時に、生物への興味関心を一層深められ、甲虫の幼虫の生態についても学ぶことができた。子どもたちの森づくり

のための植樹では、共同作業の達成感があり、40人余の子どもたちがどうやって森ができるのかを知る貴重な体験をすることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちが、森で食や遊び、自然観察会等の体験活動をするための環境が整ってきている。看板が設置されたことで、たくさんの人達に発信することができるようになった。(会員70代女性)

参加者の声

- ・クリの実がなるのが楽しみ。(小学生男子)
- ・森づくりに関わって楽しかった。子どもたちも生き生きとしていた。(40代女性)
- ・将来、植樹した樹木がどうなるのか楽しみ。(20代女性)



専門家による昆虫観察、写真撮影の指導



植樹



設置した看板



森の整地

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha
 植付本数：30本
 下刈面積：0.5ha
 自然観察会：2回
 看板設置：1基

参加者数

県内：29人
 計：29人

樹種

ツバキ、アオダモほか

ひとりひとりが守り、つなげる緑の里山

鹿児島県霧島市



事業概要

霧島市の国分重久地区にある手付かずの林と人の手が入った竹林がある。自然と人の暮らしの境目にあるフィールドで、竹林の資源を利用しながら、1年間の活動を通し、里山を守っていくことについて、子どもたちと一緒に考える。主な活動は、縄文時代や弥生時代の人々に学ぶ持続可能な暮らしについて体験し、タケを使ったおもちゃ、飾り作りなどを実施した。

事業成果

新しい里山倶楽部の登録者が増えたり、定期的に講師の先生をお呼びすることができて、活動に広がりを持たせることができた。定期的に活動を行うことで、たくさんの方に継続して参加していただくことになり四季折々の里山の自然体験を味わっていただけた。

事業をよく知る関係者の声

- ・里山の環境とその成り立ちに目を向け、その場所ならではの活動を考え、安全性にも配慮しながら実施されている。今後は地域住民との積極的な交流に繋がる要素を増やし、具体的な保全や整備といった、里山を未来へ繋ぐ取り組みへの努力を期待したい。(講師)
- ・より多くの人たちにこの里山を訪れてもらい、里山にある資源について目を向けることができ、これから、どのようにして資源をさらに有効利用していくのかに意識を向けることができた。(土地の所有者)

参加者の声

- ・毎回、いろいろな里山でいろいろな活動をするのができて楽しかった。(小学2年生)
- ・タケでお皿とスプーンが作れてうれしかった。(小学4年生)



弥生時代に学ぶ持続可能な里山暮らしを体験



タケでバンブードーム作り



タケでおもちゃ作り



里山の野草を使って染め物

実績とりまとめ

作業内容

自然体験：9回

令和4年度 中央事業実施状況一覧

【森林の整備】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04SC-01	木下沢渓谷冒険の森保全活動と環境教育	東京	木下沢渓谷冒険の森の会	東京	1,000			●	●		●	●				●		●	●	●		●	10
04SC-02	富士山緑の募金の森造成事業	静岡	富士山緑の募金の森委員会	静岡	2,000						●					●		●	●	●		●	11
04SC-03	「大阪府ENEOS友好の森」森林整備事業	大阪	大阪府森林組合南河内支店	大阪	1,000			●	●		●	●				●	●	●	●	●		●	12
04SC-04	湯河原で進める企業の森づくり体験活動事業	神奈川	(公財)かながわトラストみどり財団	神奈川	1,100															●			13
04SC-05	南足柄で進める企業の森づくり体験活動事業	神奈川	(公財)かながわトラストみどり財団	神奈川	2,850			●										●		●		●	14
04SC-06	トトロの森と狭山丘陵周辺緑地での里山保全事業	埼玉・東京	(公財)トトロのふるさと基金	埼玉	1,800			●	●							●		●		●			15
04SC-07	玖珠町ふれあいの森づくり事業	大分	玖珠郡森林組合	大分	2,401			●										●					16
04SC-08	さいたまの森林づくり支援事業	埼玉	(特非)埼玉森林サポータークラブ	埼玉	1,000			●	●			●						●	●	●			17
04SC-09	多様性を高めるモデルフォレストづくり 「フォレスト21さがみの森」	神奈川	フォレスト21さがみの森連絡協議会	東京	1,500			●	●									●	●	●		●	18
04SC-10	協働によるSDGsの森づくり事業	宮城	(特非)宮城県森林インストラクター協会	宮城	863			●	●							●		●	●	●		●	19
04SC-11	「キリン千歳水源の森」整備の森づくり	北海道	北海道林業技士会	北海道	260						●					●				●			20
04SC-12	「安曇野エア・ウォーターの森」森林整備事業	長野	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	1,700															●		●	21
04SC-13	「赤西渓谷・水源の森」保全事業	兵庫	(特非)ひょうご森の倶楽部	兵庫	400			●										●		●		●	22
04SC-14	日本曹達グループの森づくり事業	新潟	日本曹達グループの森づくり推進協議会	新潟	2,300						●					●			●	●		●	23
04SC-15	企業との協働による「高梁美しい森」森林整備事業	岡山	(特非)フォレスト フォー ビーブル岡山	岡山	523																		未掲載
04SC-16	木曾川・やおつ水源の森づくり活動	岐阜	やおつ水源の森づくり実行委員会	岐阜	800																●	●	24
04東震災SC-01	松川浦海岸防災林(相馬市大洲国有林)の再生に向けた活動	福島	(特非)DO55	東京	444											●					●	●	25
04東震災SC-02	山武市蓮沼殿下海岸線の植栽事業	千葉	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	4,000													●	●	●		●	26
04東震災SC-03	「岩沼・荒浜潮除須賀松の森」保育事業	宮城	(公社)宮城県緑化推進委員会	宮城	2,200			●	●							●		●	●	●		●	27
04東震災SC-04	3.11復活の森づくり～千葉県山武市蓮沼殿下海岸線再生事業 (下草刈り)	千葉	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	2,385													●	●	●		●	28
04東震災SC-05	3.11復活の森づくり～千葉県一宮町東浪見海岸線再生事業 (下草刈り)	千葉	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	2,850													●	●	●		●	29
04SDGs-01	佐渡いやしの杜づくり	新潟	南佐渡移住者お世話本部	新潟	1,600	●		●	●			●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	30
04SDGs-02	世界文化遺産プレアピヒア寺院地域の森創り	カンボジア	(特非)アジアの誇り・ プレアピヒア日本協会	東京	1,200					●						●		●		●		●	31
04SDGs-03	実践!災害に強い森づくり～がんばろう!人吉球磨～	熊本	球磨林業奨学会	熊本	1,068																		未掲載
04S-01	北上川の上下流を結ぶ緑の再生活動	岩手	(特非)環境生態工学研究所	宮城	827						●							●	●	●			32
04S-02	行者の滝周辺「癒しの森」創造植樹	宮城	(特非)森林との共生を考える会	宮城	1,000															●		●	33
04S-03	被災地若者と地元里山の未来を創る	宮城	(一社)ボランティア東北ファミリア	宮城	1,061			●	●			●				●		●		●		●	34
04S-04	くりこま絆の森植樹プロジェクト	宮城	くりこま絆の森植樹プロジェクト	宮城	1,665			●				●				●		●				●	35
04S-05	ナラ枯れ被害により荒廃した旧薪炭林の再生整備	福島	(特非)いわきの森に親しむ会	福島	1,048			●	●		●	●				●		●	●			●	36
04S-06	里山保全整備事業	茨城	(特非)こが里山を守る会	茨城	430			●				●				●							37
04S-07	市民による里山の共生と持続保全の実践	茨城	(認特非)穴塚の自然と歴史の会	茨城	1,142											●				●			38
04S-08	ちば里山 都市近郊の集える憩いの森づくり	千葉	(特非)地球守	千葉	330			●	●	●						●				●		●	39
04S-09	高田松原再生整備事業	岩手	(特非)地球緑化センター	東京	488													●					40
04S-10	秩父市久那上ノ山及びその周辺山林の整備と保全事業	埼玉	ちちぶ里山の会	東京	643			●	●	●	●					●		●		●		●	41
04S-11	千葉県山武市蓮沼殿下海岸防災林の再生事業	千葉	(特非)森のライフスタイル研究所	東京	1,387											●		●	●	●		●	42
04S-12	富士山麓の森林復元と環境教育活動	静岡	(特非)山の自然学クラブ	東京	553			●	●	●	●					●		●	●	●	●	●	43
04S-13	広葉樹の植樹及びシカの食害防止柵設置事業	東京	日本山岳会 高尾の森づくりの会	東京	430			●	●		●							●	●	●			44
04S-14	都市近郊の新しい里山づくり	東京	(特非)ドングリの会	東京	890			●	●						●		●		●		●	●	45
04S-15	北浅川上流地区の森にホテルを飛ばそう!	東京	枯れ沢復活&ホテルを飛ばす会	東京	618	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	46
04S-16	「山の学校」～水が繋ぐ地域と世代～促進事業	山梨	(一社)全国森の循環推進協議会	神奈川	1,150				●							●	●						47

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04S-17	相模湖若者の森づくり、知足の森整備活動	神奈川	(特非)緑のダム北相模	神奈川	740				●			●					●		●		●	48	
04S-18	親子が安心して遊べる「フーのきの森」整備事業	新潟	絵本の家 ゆきぼうし	新潟	706				●								●		●			49	
04S-19	丹波山みんなの森づくり・防災事業	山梨	(特非)木netやまなし	山梨	1,097			●									●				●	50	
04S-20	森林整備・森林間伐材使用・緑化イベント	愛知	ゆうびの里	愛知	1,314																	未掲載	
04S-21	里山林保全及び自然に親しむ活動	三重	(特非)竜の森林	三重	285			●				●									●	51	
04S-22	都市と山村の交流による森林整備と薪作り活動	三重	(一社)Landing in HAKUSAN	三重	820							●					●				●	52	
04S-23	地域性苗木の育苗	滋賀	タネカラプロジェクト	滋賀	760				●								●					53	
04S-24	里山整備事業	兵庫	任意団体 清水寺の森	兵庫	140			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	54	
04S-26	わくわく再生!冒険の森	奈良	(特非)森づくり奈良クラブ	奈良	668			●	●	●	●	●					●		●		●	55	
04S-27	景観と防災に考慮した「えがおの森」づくり	福岡	(特非)山村塾	福岡	452												●			●		56	
04S-28	養蜂から見える癒しの森里山再生活動	熊本	鶴里ぶんぶん夢クラブ	熊本	990			●				●					●					57	
04S-29	番所鼻海岸防災林保全活動	鹿児島	(特非)森と木の研究所	鹿児島	1,086			●	●			●					●	●	●	●	●	58	

【緑化の推進】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04RC-01	活樹祭～里山から学ぼう!～	大阪	(特非)樹木・環境ネットワーク協会	東京	100																	未掲載	
04RC-02	倶知安町げんきの森 森づくり実践・教養講座	北海道	百年の森ファンクラブ	北海道	400			●	●			●					●		●		●	60	
04RC-03	緑のまなび事業 (備前市立香登(かがと)小学校校緑化環境整備事業)	岡山	(公社)岡山県緑化推進協会	岡山	1,000				●			●							●			61	
04東震災RC-01	「森と海を結ぶ・絆の森林づくりプロジェクト」事業	宮城	(公社)宮城県緑化推進委員会	宮城	960			●	●								●	●	●	●	●	62	
04東震災RC-02	「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業	宮城	(公社)宮城県緑化推進委員会	宮城	1,220			●	●		●						●	●	●	●	●	63	
04令2豪災RC-01	小支流流域を単位とする災害に強い森づくり	熊本	(特非)環境園研究所	熊本	1,240				●			●					●			●	●	64	
04令2豪災RC-02	令和2年7月熊本豪雨復興支援事業	熊本	(公社)熊本県緑化推進委員会	熊本	421			●	●										●		●	65	
04R-01	間伐材の有効活用と森づくり調査報告事業	北海道	(特非)C・C・C富良野自然塾	北海道	670			●	●		●						●	●	●			66	
04R-02	持続可能な(カーボンニュートラル)地域づくりプロジェクト	北海道	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ ルート運営代表者会議	北海道	520												●			●		67	
04R-03	第51回市民植樹祭	北海道	苫小牧市まちを緑にする会	北海道	760												●		●			68	
04R-04	植林地と白神自然学校遊々の森の間伐材の伐採・再利用事業	青森	(特非)白神山地を守る会	青森	500												●	●	●			69	
04R-05	ソメイヨシノ枯れ枝及びテング巣病の枝除去。 歩きにくい探勝路等の整備	福島	雄国山麓ゆめクラブ	福島	1,000			●			●	●					●		●		●	70	
04R-06	「全国緑化行事発祥の地」の整備とフォーラム開催	茨城	(特非)地球の緑を育てる会	茨城	328													●	●		●	71	
04R-07	渡良瀬川源流の荒地緑化事業	栃木	(特非)足尾に緑を育てる会	栃木	1,820				●		●						●		●			72	
04R-08	ヤマアジサイの森の清掃活動とボランティア育成講座	群馬	倉淵ヤマアジサイの会	群馬	584			●	●	●	●		●		●		●		●	●	●	73	
04R-09	みんなの森づくりプロジェクト	山梨	(特非)野外遊び喜び総合研究所 あばれんぼキャンプ	東京	460				●								●				●	74	
04R-10	屋久島のいのちの森づくり植樹祭	鹿児島	森を育て伝える会 ひとふで	東京	439	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	75	
04R-11	国民参加による災害に強いめぐりの森づくり	神奈川	(一社)Silva	神奈川	2,000		●			●	●		●				●	●	●	●	●	76	
04R-12	猿投山北西山麓の環境林整備	愛知	猿投の森づくりの会	愛知	850			●	●		●	●					●	●	●		●	77	
04R-13	グリーンベイOSAKA海岸防災森を創る活動	大阪	(特非)グリーンベイOSAKA	大阪	1,800			●									●		●			78	
04R-14	丹波平松の森づくり	兵庫	兵庫ドングリ千年の森をつくる会	兵庫	1,090												●	●	●			79	
04R-15	おおつか里山桜並木回廊事業	島根	大塚寿会	島根	900			●			●						●		●		●	80	
04R-16	荒廃竹林を伐採整備し緑豊かな森の再生事業	香川	川西地区地域づくり推進協議会	香川	1,367			●									●			●		81	
04R-17	創造と想像の森づくりプロジェクト	福岡	古賀市立古賀東小学校 校区コミュニティ協議会	福岡	588				●								●					82	
04R-18	こども達につなぐ阿蘇の緑と森環境整備事業	熊本	阿蘇地域資源利活用事業推進協議会	熊本	835			●	●		●						●	●	●		●	83	
04R-19	花の咲く上浦づくり事業	大分	上浦地域創生支援協議会	大分	1,800			●									●					84	

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04R-20	片ヶ瀬さくらの杜公園づくり	大分	片ヶ瀬白百合うつくし推進隊	大分	651			●	●				●			●		●	●			●	85
04R-21	森林に学ぶ! ~森林と人の深いつながり~	鹿児島	(特非)四季の会	鹿児島	1,200			●	●			●				●	●	●	●	●		●	86
04R-22	西表島グリーン作戦を通じた緑化促進事業	沖縄	西表植林クラブ	沖縄	1,138																		未掲載

【国際協力】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04KC-01	島嶼国フィジーにおける防災に向けた緑化と環境教育	フィジー	(公財)オイスカ	東京	1,900				●							●		●	●	●			88
04KC-02	地域住民によるアフリカの里山の再生と保護事業(マリ)	マリ	(特非)サヘルの森	東京	1,200		●				●									●		●	89
04KC-03	カンボジア国コンボンチャム州における持続可能な森林管理を目指した植林事業(フェーズ4)	カンボジア	(特非)環境修復保全機構	東京	2,000					●						●	●	●		●			90
04KC-04	2022年度緑の国際ボランティア研修(カンボジア国)	カンボジア	(特非)環境修復保全機構	東京	2,400				●	●						●	●	●		●			91
04KC-05	インドネシア・マドゥラ島水保全に向けた緑化と環境教育の推進	インドネシア	(公財)オイスカ	東京	2,000				●		●						●	●	●	●			92
04KC-06	地球温暖化防止と日中友好の森づくり	中国	(特非)地球緑化センター	東京	800												●		●				93
04K-01	エチオピア・ラリベラでの養蜂業拡大を目指した市民参加型緑化事業	エチオピア	(特非)フー太郎の森基金	福島	412	●	●				●					●		●		●			94
04K-02	アンデスの学校菜園を守る植林と緑の交流	エクアドル	(特非)エクアドルの子どものための友人の会	埼玉	507		●	●	●							●				●		●	95
04K-03	モンゴル南部のゴビ砂漠緑化と環境保全事業	モンゴル	(公財)オイスカ	東京	1,742				●							●		●				●	96
04K-04	カンボジア国東部の里山再生を目指した緑化推進事業(フェーズ2)	カンボジア	(特非)環境修復保全機構	東京	1,077					●						●	●	●		●			97
04K-05	ラオス国における「村民の森」保全促進事業	ラオス	高尾グリーン倶楽部	東京	2,015				●							●				●			98
04K-06	キリマンジャロ山麓緑化及び社会生活林形成事業	タンザニア	タンザニア・ボレボレクラブ	東京	1,255												●		●		●		99
04K-07	正藍旗における地域密着型生態林再生事業	中国	(一社)地球緑化クラブ	東京	846				●					●		●			●				100
04K-08	ジャカルタ湾岸 マングローブ林再生プロジェクト	インドネシア	(公社)日本環境教育フォーラム	東京	2,236	●							●			●			●	●		●	101
04K-09	アマゾン森林火災先住民族消防団事業	ブラジル	(特非)熱帯森林保護団体	東京	1,308																		未掲載
04K-10	パレスチナ・ラマッラー県農村の公共地への植樹事業	パレスチナ	(特非)バルシク	東京	2,197											●				●			102
04K-11	バングラデシュ国テクナフ半島の住民による森林再生	バングラデシュ	ラムサールセンター	東京	2,306	●	●	●	●	●					●	●	●	●	●	●		●	103
04K-12	中央カリマンタン国立公園周辺地域の環境保全事業	インドネシア	(一社)マニスファンクラブ	神奈川	1,511	●			●							●		●		●			104
04K-13	パンチカール市 地域住民とともに森づくり	ネパール	(特非)ラブグリーンジャパン	神奈川	1,865						●					●		●		●		●	105
04K-14	中国内モン古・ホルチン砂漠の砂漠化防止活動	中国	(特非)緑化ネットワーク	神奈川	1,783												●		●		●		106
04K-15	ミャンマーの持続可能な森づくり事業	ミャンマー	(特非)アジアクラフトリンク	新潟	1,340												●			●			107
04K-16	温泉水の利用による燃材木の温室育苗と植林	タジキスタン	(特非)中央アジア森林草地保全研究所	静岡	2,126	●	●	●		●		●	●	●		●		●			●	●	108
04K-17	フィリピン沿岸部の自然再生のための植林事業	フィリピン	(特非)イカオ・アコ	愛知	1,407	●			●													●	109
04K-18	ボリビア森林火災撲滅のための人材養成強化	ボリビア	(特非)DIFAR	三重	1,658	●											●	●		●			110
04K-19	ベンゲット州におけるアグロフォレストリー推進事業	フィリピン	マナラボ 環境と平和の学びデザイン	京都	2,074	●										●		●					111
04K-20	マダガスカルでの土砂流失防止の植林事業	マダガスカル	(特非)アイユーゴ	大阪	1,252											●				●		●	112
04K-21	ネパール・シンドゥバルチョーク郡におけるコーヒー育苗と栽培による環境保全	ネパール	(公社)アジア協会アジア友の会	大阪	1,828	●		●	●	●			●	●		●				●	●	●	113
04K-22	持続的なコーヒー生産のための水・森林保全	東ティモール	(特非)ピースウィンズ・ジャパン	広島	1,023	●	●	●	●			●					●	●	●		●		114
04K-23	ミャンマーにおける若者主導の森づくり事業	ミャンマー	(認特非)地球市民の会	佐賀	1,232		●				●								●				115

【次世代の森づくりを担う人材育成事業】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04Z-01	「里山の四季」育成体験事業	福島	(特非)小野自然倶楽部	福島	1,650			●			●	●					●	●	●		●	118	
04Z-02	「創」美しいもり!!プロジェクト	群馬、東京	群馬県林業研究グループ連絡協議会	群馬	1,510	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	119
04Z-03	森林ボランティア青年リーダー養成講座 (森林・里山ボランティア入門講座)	東京、京都、 兵庫、香川、 徳島	(認特非)JUON NETWORK	東京	1,000			●		●	●						●	●	●		●	120	
04Z-04	人工林の生物多様性保全活動のモデル化	千葉	(公財)Save Earth Foundation	東京	1,000				●								●	●				121	
04Z-05	気候変動対策!土地本来の森づくり体験教育	東京	(一社)Silva	神奈川	2,000		●		●	●			●		●	●	●	●	●	●	●	122	
04Z-06	都市の里山資源の活用推進事業	神奈川	(特非)よこはま里山研究所	神奈川	850			●	●		●					●	●			●		123	
04Z-07	次世代環境リーダー育成 森林ワークキャンプ	青森、福島、 栃木、東京、 三重、大阪、 高知	(特非)NICE 日本国際ワークキャンプセンター	神奈川	1,603			●			●	●					●			●		124	
04Z-08	若者達が多世代を繋ぐ持続可能な里山再生事業	神奈川	(特非)農ある暮らしを広める会	神奈川	1,350	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	125	
04Z-09	森と生きるキャリア研修 in 佐渡島	新潟	(特非)サードフィールドさど	新潟	1,768	●		●	●	●		●	●		●	●	●	●		●		126	
04Z-10	大学生による森林・竹林整備	京都府	京都府立大学 森林ボランティアサークル 森なかま	京都	644						●	●			●	●	●		●			127	
04Z-11	森の収穫祭 記念植樹事業	京都府	京都京北木こり技能大会実行委員会	京都	1,825																	未掲載	
04Z-12	次世代と共につくる里山と菊炭の未来2022	大阪府	大阪能勢田尻菊炭振興協議会	大阪	2,000			●	●		●	●			●		●	●	●		●	128	
04Z-13	森づくりを目指す若きリーダー養成事業	鳥取、徳島、 高知	こうち森林救援隊	高知	2,000			●	●	●		●			●	●	●	●				129	

【スギ等森林の有効活用支援事業】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04T-01	森の笠地蔵プロジェクト2022	岩手	(特非)遠野エコネット	岩手	1,322	●		●			●	●				●	●	●	●	●	●	132	
04T-02	わたしたちの里山保全活動	千葉	(特非)東いちほらエコミュージアム	千葉	328			●				●				●						133	
04T-03	世田谷・川場上下流連携の森林活性化事業Ⅲ期	群馬	やまづくりくらぶ	東京	350			●				●					●					134	
04T-04	みんなで集う多様で豊かな森づくり活動	東京	高尾グリーン倶楽部	東京	900			●	●		●	●				●		●	●	●		135	
04T-05	市民参加による森林づくり「山と緑の協力隊」	長野、滋賀	(特非)地球緑化センター	東京	692															●		136	
04T-06	自伐型森林整備支援事業	愛知	とよはしきこり隊	愛知	642			●				●	●		●		●	●	●	●		137	
04T-07	間伐整備活動で取組む三河湾の生態系の保全	愛知	間伐こもれび会	愛知	659						●					●	●	●	●			138	
04T-08	地域性苗木による花粉の少ない森林づくり	滋賀	(特非)結びめ	滋賀	1,761				●								●		●			139	
04T-09	災害に強く脱炭素社会に貢献する森林づくり	島根	銀林の恵み森活プロジェクト実行委員会	島根	1,146				●											●		140	

【子どもたちの未来の森づくり事業】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04子R-01	こまおかの森 げんきづくり事業	北海道	札幌市立駒岡小学校 緑の少年団	北海道	500				●			●				●						142	
04子R-02	写万部山麓緑化事業～海とつながる木育基地	北海道	(特非)長万部町緑と樹を愛する会	北海道	1,000			●	●							●		●	●	●		143	
04子R-03	「ふるさと復興の森づくり@厚真町」事業	北海道	(特非)北海道市民環境ネットワーク	北海道	1,000				●							●			●			144	
04子R-04	こどもたちとつなぐ未来の森プロジェクト	青森	(特非)green design	青森	818			●	●							●		●	●		●	145	
04子R-05	学校林をずっと守ろうプロジェクト	岩手	御明神地区学校林管理会	岩手	1,000											●			●		●	146	
04子R-06	SDGsキッズ海岸防災未来の森づくり事業	宮城	(特非)宮城県森林インストラクター協会	宮城	850			●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	147	
04子R-07	「七ツ森里山環境学習林」子供たちの森づくり整備事業	宮城	みやぎ里山整備クラブ	宮城	827				●							●			●			148	
04子R-08	ふるさとの風景づくり植樹祭	福島	ふるさとの風景づくり実行委員会	福島	294											●		●		●		149	
04子R-09	子ども達の未来の森づくり	茨城	森の守り人	茨城	1,000			●	●									●	●	●	●	150	

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04学R-17	ピオトープの整備	千葉	市原市立国府小学校	千葉	500											●	●		●				192
04学R-18	ピオトープ池整備工事	東京	墨田区立第三寺島小学校	東京	500				●										●				193
04学R-19	「ホテルの森・ウォーターパーク」事業	神奈川	平塚市立富士見小学校	神奈川	500											●		●	●		●		194
04学R-20	南小三浦メダカのピオトープ	神奈川	三浦市立南下浦小学校	神奈川	500												●		●				195
04学R-21	花いっぱい、笑顔いっぱい運動	神奈川	大和市立桜丘小学校	神奈川	500				●										●		●		196
04学R-22	中央小学校みんなの森事業	富山	黒部市立中央小学校	富山	500												●		●				197
04学R-23	学習の森整備事業	富山	射水市立新湊小学校	富山	500				●							●		●		●			198
04学R-24	南郷小学校前庭緑化整備事業	石川	加賀市立南郷小学校	石川	500											●	●	●					199
04学R-25	あはやっこの森事業	石川	小松市立荒屋小学校	石川	500											●	●	●					200
04学R-26	鳴鹿小環境美化推進事業	福井	坂井市立鳴鹿小学校	福井	500											●	●					●	201
04学R-27	敷島小グリーンいっぱいプロジェクト	山梨	甲斐市立敷島小学校	山梨	500												●		●				202
04学R-28	やちだも150周年プロジェクト	長野	白馬村立白馬南小学校	長野	500												●		●				203
04学R-29	創立150周年緑化事業	長野	須坂市立須坂小学校	長野	500											●		●					204
04学R-30	開校150周年記念「かしの木よ永遠に」事業	岐阜	垂井町立府中小学校	岐阜	500				●							●		●		●			205
04学R-31	東明小学校敷地内樹木剪定事業	岐阜	可児市立東明小学校	岐阜	500				●							●		●		●			206
04学R-32	北小創立50周年記念プロジェクト	静岡	長泉町立北小学校	静岡	500												●		●				207
04学R-33	わくわくの森 ドキドキの池 保全プロジェクト	静岡	静岡市立松野小学校	静岡	500												●		●				208
04学R-34	どんぐりの森改造計画	静岡	掛川市立横須賀小学校	静岡	500												●		●				209
04学R-35	スマイル花壇をつくろう	静岡	森町立飯田小学校	静岡	500												●		●				210
04学R-36	十四山西部小学校みんなのおま森事業	愛知	弥富市立十四山西部小学校	愛知	500												●		●				211
04学R-37	フナビオの森再生プロジェクト	愛知	東海市立船島小学校	愛知	500				●		●					●	●	●	●		●		212
04学R-38	緑に親しめる学校づくり事業	愛知	豊橋市立くすのき特別支援学校	愛知	500				●														213
04学R-39	川崎小学校フレンドリー緑化事業	三重	亀山市立川崎小学校	三重	500												●		●				214
04学R-40	塩浜小学校み一つけたの森事業	三重	四日市市立塩浜小学校	三重	500												●		●				215
04学R-41	学校正門前の緑化による環境整備	京都	京都府立八幡支援学校	京都	500														●				216
04学R-42	孔舎衛東小学校 ピオトープ「光の里」改修事業	大阪	東大阪市立孔舎衛東小学校	大阪	500											●		●					217
04学R-43	みどりっこトープ事業	大阪	池田市立緑丘小学校	大阪	500											●		●		●		●	218
04学R-44	美園小学校 みんなの森事業	大阪	八尾市立美園小学校	大阪	500											●		●		●			219
04学R-45	学校環境緑化モデル事業	兵庫	養父市立養父小学校	兵庫	500												●		●		●		220
04学R-46	緑いっぱい笑顔いっぱい金橋ガーデン	奈良	橿原市立金橋小学校	奈良	500												●		●				221
04学R-47	木の美いっぱい蝶々たくさん、みんな大好き和歌浦小学校	和歌山	和歌山市立和歌浦小学校	和歌山	500				●							●	●	●					222
04学R-48	太田っ子の森のプロジェクト	和歌山	和歌山市立太田小学校	和歌山	500				●							●	●	●					223
04学R-49	岩美西小学校子どもの森整備事業	鳥取	岩美町立岩美西小学校	鳥取	500				●										●				224
04学R-50	社小学校みんなの森事業	鳥取	倉吉市立社小学校	鳥取	500				●										●				225
04学R-51	吉田小ピオトープ整備事業	島根	雲南市立吉田小学校	島根	500												●		●				226
04学R-52	ふれあいの森再生事業	島根	飯南町立赤来中学校	島根	500												●		●				227
04学R-53	創立50周年記念事業なかまの森修繕事業	岡山	倉敷市立万寿東小学校	岡山	500												●		●				228
04学R-54	学校環境緑化モデル事業	岡山	岡山県立岡山盲学校	岡山	500												●		●				229
04学R-55	「常石ガーデン」緑化事業	広島	福山市立常石ともに学園	広島	500											●		●					230
04学R-56	藤の花いきいき再生プロジェクト	山口	下関市立養治小学校	山口	500											●	●	●					231
04学R-57	学校環境緑化モデル事業	山口	下関市立宇賀小学校	山口	500												●		●				232
04学R-58	蝶の舞う道を作ろう	徳島	三好市立王地小学校	徳島	500												●		●				233
04学R-59	環境教育フィールド整備（学校ピオトープ作り）	香川	丸亀市立城北小学校	香川	500												●		●				234
04学R-60	学校環境緑化モデル事業（ピオトープの整備）	香川	香川大学教育学部付属高松小学校	香川	500												●		●				235
04学R-61	ふるさと緑化事業	愛媛	久万高原町立父二峰小学校	愛媛	500														●				236

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
04学R-62	翠校開校150周年記念緑化事業	愛媛	伊予市立翠小学校	愛媛	500				●							●			●	●		●	237
04学R-63	木に親しむ事業	高知	大月町立大月小学校	高知	500				●											●			238
04学R-64	大津小学校中庭整備事業	高知	高知市立大津小学校	高知	500															●			239
04学R-65	ふれあい花壇緑化事業	福岡	遠賀町立広渡小学校	福岡	500														●		●		240
04学R-66	水源の森事業	福岡	福岡市立堤小学校	福岡	500														●		●		241
04学R-67	みんなの森事業	福岡	朝倉市立甘木小学校	福岡	500														●		●		242
04学R-68	学校環境緑化モデル事業	佐賀	太良町立多良小学校	佐賀	500				●		●								●	●	●		243
04学R-69	観察林「とんとん山」遊歩道整備	長崎	平戸市立田平南小学校	長崎	500				●										●				244
04学R-70	「緑と水と生き物広場」の緑化事業	熊本	熊本市立武蔵小学校	熊本	500																●		245
04学R-71	校庭の樹木となかよしプロジェクト	熊本	熊本市立出水南小学校	熊本	500																●		246
04学R-72	東っ子学びの森づくり活動	大分	由布市立東庄内小学校	大分	500																●		247
04学R-73	岡富小学校「きぼうの森」事業	宮崎	延岡市立岡富小学校	宮崎	500				●												●		248
04学R-74	加納小たんけんの森再生事業	宮崎	宮崎市立加納小学校	宮崎	500				●												●		249
04学R-75	「友情の森」再生プロジェクト事業	鹿児島	鹿児島市立谷山小学校	鹿児島	500				●												●		250
04学R-76	羽月小学校児童会緑化事業	鹿児島	伊佐市立羽月小学校	鹿児島	500				●										●		●		251
04学R-77	学校環境の緑化を通じて環境教育を推進する	沖縄	豊見城市立とよみ小学校	沖縄	500														●		●		252

区分	最終交付件数	交付額(千円)
森林整備	72	73,514
緑化推進	140	65,080
国際協力	30	46,500
直接・公募計	242	185,094

【令和2・3年度 中央事業実施状況一覧】

交付決定番号	事業名	事業地	交付先	所在地	交付額 (千円)	SDGsの目標との関連																	掲載頁	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
02SDGs-02	砂漠緑化&肺炎症状を緩和する漢方薬栽培	中国	(公財)オイスカ	東京	3,200	●		●					●					●		●		●	254	
02台風災RC-03	「わくわくの森」復興支援活動	千葉	木更津市立波岡小学校PTA	千葉	400				●			●						●		●		●	255	
03SC-10	企業との協働による「高梁美しい森」森林整備事業	岡山	(特非)フォレストフォーピープル岡山	岡山	1,000						●									●			256	
03SC-13	和木町協働の森づくり事業	山口	和木町里山研究会	山口	180			●	●								●	●			●		●	257
03SDGs-03	住民参加の山水回復とレジリエンスの向上	神奈川	(特非)農ある暮らしを広める会	神奈川	426		●	●	●	●	●		●			●	●	●	●	●		●	●	258
03SDGs-04	“豊かな里山”松沢湿原周辺の保全と回復	新潟	松沢みどりを守り隊(地縁団体 松沢区)	新潟	2,000				●		●									●			259	
03SDGs-05	キャンプ場再生プロジェクト	奈良	サステナu	奈良	349			●	●		●						●			●			260	
03SDGs-06	炭焼き体験を通じた里山の資源循環を学ぶ場づくり	千葉	(特非)千葉自然学校	千葉	1,430												●	●	●	●	●		261	
03S-19	ナラ枯れを越える!都会の荒れ森一掃事業	東京	鶴二おやじたちの会	東京	584												●			●		●	262	
03S-25	ふるさとの森を取り戻せ!松毛川「千年の森」再生プロジェクト	静岡	(特非)グラウンドワーク三島	静岡	1,080			●	●				●				●	●		●		●	263	
03S-29	三田高平ふるさとの森づくり	兵庫	(特非)里野山家	兵庫	610			●	●			●					●			●		●	264	
03S-31	国境を越えたSDGs 六甲の森・里山づくり	大阪、兵庫	(特非)Peace & Nature (ピースアンドネイチャー)	兵庫	970				●								●			●		●	265	
03R-35	わくわくの森大作戦	広島	森とともにあるくらし	広島	550			●	●	●				●		●	●	●	●	●	●	●	●	266
03S-37	みんなのいこいの森づくり	沖縄	NECOツーリズム	沖縄	710			●	●		●	●				●	●	●	●	●			267	
03RC-04	地域における園庭・裏山整備等モデル事業	長野	信州こどもの森づくり推進協議会	長野	2,000			●	●							●		●		●		●	268	
03元台災RC-01	長野県令和元年東日本台風被害の復興支援事業	長野	(公財)長野県緑の基金	長野	1,500			●	●			●				●	●	●		●		●	269	
03R-01	森・子どもたちの元気づくり・再生プロジェクト	北海道	(公社)北海道森と緑の会	北海道	1,630	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	270
03R-06	馬と歩く瞑想と森林浴を行う新しい森づくり	岩手	(一財)ハヤチネンダ	岩手	1,200			●	●			●	●			●		●	●	●		●	271	
03Z-10	未来へつなぐ「悠久の森」	京都	京都府立北桑田高等学校	京都	2,000				●			●				●	●	●		●		●	272	
03子R-07	「つなげよう!どんぐりの森2021」プロジェクト	秋田	男鹿ツーリズムプラットフォーム	秋田	500			●	●			●				●	●	●	●	●		●	273	
03子R-11	田人林業体験フィールド活動事業	福島	林業倶楽部	福島	664			●		●							●			●		●	274	
03子R-20	未来の子どもと森×SDGs×FSCを学ぶ	東京	(特非)フジの森	東京	645				●								●			●			275	
03子R-44	糸島・未来の森づくり事業	福岡	(特非)いとなみ	福岡	510			●	●		●					●	●	●	●	●			276	
03子R-45	みんなで遊ぶ森作り	熊本	(一社)sol	熊本	600				●					●	●		●	●	●	●	●	●	277	
03子R-47	こどものための森づくりと自然観察会	宮崎	(特非)こじいの森・こどもの時間	宮崎	400	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	278
03子R-49	ひとりひとりが守り、つなげる緑の里山	鹿児島	里山倶楽部	鹿児島	793			●	●		●	●			●	●	●			●		●	279	

(注1) 本表は、緑の募金法第14条に基づき森林整備等のために交付した交付先等である。
(注2) 交付額は、交付先への交付決定額である。

「緑の募金」事業報告集 ー令和5年度版ー

発行所 公益社団法人 国土緑化推進機構
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4
砂防会館別館
TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974
URL <https://www.green.or.jp>
E-mail bokin@green.or.jp

編集 一般社団法人 全国林業改良普及協会